



JP0250161

JAERI-Tech
2002-031



TRACYの運転記録

2002年3月

會澤 栄寿・小川 和彦・櫻庭 耕一・塙本 導雄
菅原 進・竹内 真樹・宮内 正勝・柳澤 宏司・大野 秋男

日本原子力研究所
Japan Atomic Energy Research Institute

本レポートは、日本原子力研究所が不定期に公刊している研究報告書です。
入手の問合わせは、日本原子力研究所研究情報部研究情報課（〒319-1195 茨城県那珂郡東海村）あて、お申し越しください。なお、このほかに財団法人原子力弘済会資料センター（〒319-1195 茨城県那珂郡東海村日本原子力研究所内）で複写による実費頒布をおこなっております。

This report is issued irregularly.

Inquiries about availability of the reports should be addressed to Research Information Division, Department of Intellectual Resources, Japan Atomic Energy Research Institute, Tokai-mura, Naka-gun, Ibaraki-ken, 319-1195, Japan.

© Japan Atomic Energy Research Institute, 2002

編集兼発行 日本原子力研究所

TRACYの運転記録

日本原子力研究所東海研究所安全性試験研究センター安全試験部

會澤 栄寿・小川 和彦・櫻庭 耕一・塙本 導雄

菅原 進・竹内 真樹・宮内 正勝・柳澤 宏司・大野 秋男

(2002年1月30日受理)

燃料サイクル安全工学施設（NUCEF）の過渡臨界実験装置（TRACY）は、硝酸ウラニル水溶液体系において添加反応度 3\$までの臨界事故を模擬した実験を行うことができる装置である。TRACY は 1995 年 12 月 20 日に初臨界を達成し、1996 年からは過渡臨界実験を中心に反応度測定や熱出力測定などの特性試験を実施してきた。本報告書は、初臨界から 2000 年度末までに実施された 176 回の運転記録についてまとめたものである。

Report of TRACY Operation

Eiju AIZAWA, Kazuhiko OGAWA, Khouichi SAKURABA, Michio TSUKAMOTO
Susumu SUGAWARA, Masaki TAKEUCHI, Masakatsu MIYAUCHI, Hiroshi YANAGISAWA
and Akio OHNO

Department of Safety Research Technical Support
Nuclear Safety Research Center
Tokai Research Establishment
Japan Atomic Energy Research Institute
Tokai-mura, Naka-gun, Ibaraki-ken

(Received January 30, 2002)

TRACY (Transient Experiment Critical Facility) in NUCEF (Nuclear Fuel Cycle Safety Engineering Research Facility) is a pulse-type critical facility using uranyl nitrate solution which can carry out various supercritical experiments changing reactivity addition up to 3\$. TRACY achieved its first criticality on 20th December 1995, and transient operations have been conducted since 1996. This report summarizes the operation data of 176 experiments from the first criticality to FY2000.

Keywords: NUCEF, TRACY, Uranyl Nitrate Solution, Transient Operation, Operation Data

目次

1. はじめに	1
2. 炉心構成及び計測機器	2
2.1 主要機器の仕様	2
2.2 過渡運転時の計測機器	8
3. 燃料管理	13
4. 運転データ	16
4.1 臨界液位	25
4.2 Tr棒の反応度価値	25
4.3 核計装の出力較正	27
4.4 過渡運転時の出力波形	30
4.5 パルス引抜時における安定逆炉周期 ω の測定	31
4.6 ピーク出力及び積算出力の評価	33
4.7 反応度添加率と出力	34
5. まとめ	36
謝辞	36
参考文献	37
付録	38

Contents

1. Introduction	1
2. Core Configuration and Measurement Equipments	2
2.1 Main Equipments	2
2.2 Measurement Equipment at Transient Operation	8
3. Fuel Management	13
4. Operation Data	16
4.1 Critical Height	25
4.2 Reactivity Worth of Transient Rod	25
4.3 Power Calibration of Neutron Instrumentation	27
4.4 Power Profile at Transient Operation	30
4.5 Measurement of Inverse Period ω at Pulse Withdrawal Operation	31
4.6 Evaluation of Peak Power and Integrated Power	33
4.7 Reactivity Addition Rate and Power	34
5. Summary	36
Acknowledgments	36
References	37
Appendix	38

1. はじめに

日本原子力研究所の燃料サイクル安全工学研究施設（NUCEF）に設置されている過渡臨界実験装置（TRACY）は、再処理施設などの溶液燃料体系で臨界事故が起こった場合の出力や温度、圧力などの挙動を評価して過渡臨界事象を支配する様々な因子を明らかにするとともに、放射性物質を系統内に安全に閉じ込められることを実証するための装置である^{[1], [2]}。TRACY では濃縮度約 10%の硝酸ウラニル水溶液を用いて添加反応度 3\$までの臨界事故を模擬した実験を行うことができる。

TRACY の運転形態は基本的な炉特性を測定する「定出力運転」（添加反応度を 0.2\$以下）と過渡特性を測定する「過渡出力運転」（添加反応度 3\$以下）に大別される。さらに過渡出力運転には反応度の添加方法により、①Tr 棒を圧縮空気で急速に引抜く「パルス引抜き」、②Tr 棒を電動駆動で連続的に引抜く「ランプ引抜き」、③炉心に燃料を連続的に供給する「ランプ給液」、の 3 つのモードがある。パルス引抜及びランプ引抜は非安全形状の貯槽に設置された中性子吸収材の脱落などによる反応度添加を想定しており、ランプ給液は非安全形状の貯槽に溶液燃料が臨界量を超えて供給された場合の臨界事故を想定したものである。

TRACY は 1995 年 12 月に初臨界を達成したのち、定出力運転において臨界量や核的制限値の測定などの性能試験を行った。1996 年 6 月から 12 月にかけては添加反応度を段階的に大きくして 1.8\$までの過渡臨界実験を行い、出力や圧力、温度などの測定を行うとともに装置の健全性が損なわれることなく安全に実験できることを確認した。このときの調整トランジエント棒はいかなる場合においても 3\$を超えることのないように大きな裕度を持った設計がなされていたため、実験で添加できる反応度は 1.8\$までにとどまっていたが、1997 年 4 月からはより大きな反応度を添加するために、それまでに得られた実験データを基に製作された 3\$の反応度価値を持つ調整トランジエント棒（以下 Tr 棒）を用いた実験を行ってきた。以後、2000 年末までに反射体無しの体系において定出力運転 95 回、パルス引抜き 41 回、ランプ引抜き 25 回、ランプ給液 15 回、計 176 回の運転を行った。本報告書はこれまでに TRACY を用いて実施した運転のうち、過渡出力運転を中心とした運転記録をまとめたものである。

2. 炉心構成及び計測機器

ここでは TRACY の炉心を構成する主要な機器と計測機器について述べる。TRACY の炉心は炉心タンクとその上部に設置されている触針式液位計、安全棒、Tr 棒などから構成されている。炉心タンク内には主に過渡出力運転時に使用する圧力計や温度計などが設置されており、核計装は炉心タンクの周囲や炉室の天井部に設置されている。燃料を貯槽から炉心タンクに供給する際には給液ポンプを用いる。

2.1 主要機器の仕様

2.1.1 炉心タンク

TRACY の炉心タンクは中心に Tr 棒の案内管が設置されているため円環円筒形状となっている。タンク下部には溶液燃料給排液配管、タンク上部には触針式液位計、安全棒装置、Tr 棒装置、ベントガス配管などが接続されている。図 2.1 に炉心タンク外形図を示す。

形状	: 円環円筒形状
主要構造材材質	: SUS304L
高さ	: 2000 mm
内径	: 500 mm
タンク側面厚さ	: 10 mm
タンク底面厚さ	: 80 mm
Tr 棒挿入管外径	: 76.3 mm
Tr 棒挿入管厚さ	: 3.5 mm

2.1.2 触針式液位計

燃料液位の測定は、触針式液位計で行う。電動モーターにより触針が上下に駆動して、溶液燃料に接触することによる電導度の変化を検知して液位を測定する。触針式液位計は過渡出力運転時には使用しない。

主要構造材材質	: SUS304L
触針材質	: チタン合金（プラチナコーティング）
測定範囲	: 0~1000 mm
測定精度	: ±0.2 mm

2.1.3 Tr 棒（調整トランジェント棒）

炉心タンクの中心に挿入されている制御棒で、圧縮空気による駆動若しくは電動モーターによる駆動が可能である。外管と内管の 2 重被覆材の中に中性子吸収材である円柱ペレット状のボロンカーバイト (B_4C) が封入されている。Tr 棒は炉心タンク中心にある案内管の中に設置されることから、溶液燃料には直接接触しない。

1996 年度の運転 (RunNo.38) まで反応度価値 1.8\$ の Tr 棒を使用した後、1997 年度 (RunNo.39) からは 3\$ の反応度価値を持つ Tr 棒を製作して使用している。図 2.2 に Tr 棒の構造図を示す。

(1) 中性子吸收材

材質 : B₄C
B10 濃縮度 : 19.9 atom%
密度 : 2.4 g/cm³
有効長 : 1200 mm
外径 (3\$用) : 31.0 mm
外径 (1.8\$用) : 18.7 mm

(2) 被覆材 (外管/内管)

材質 : SUS304L
外管外径 : 61.9 mm
外管厚さ : 3.5 mm
内管外径 (3\$用) : 36.0 mm
内管厚さ (3\$用) : 2.0 mm
内管外径 (1.8\$用) : 26.8 mm
内管厚さ (1.8\$用) : 3.5 mm

(3) 駆動速度

圧縮空気による駆動 : 0~1100 mm の範囲を約 0.18 s
電動モーターによる駆動 : 1~900 cm/min (1cm/min 単位で任意設定)

2.1.4 安全棒

原子炉の緊急停止用として安全棒が 3 基設置されている。Tr 棒と同様にボロンカーバイトペレットがステンレスの被覆材に封入されている。

(1) 中性子吸收材

材質 : B₄C
B10 濃縮度 : 19.9 atom%
密度 : 2.4 g/cm³
外径 : 54.6 mm
有効長 : 1136 mm

(2) 被覆材

材質 : SUS304L
外径 : 61.9 mm
厚さ : 3.5 mm

2.1.5 給液ポンプ

溶液燃料を燃料貯槽であるダンプ槽から炉心タンクへ給液するためのポンプである。流量を任意に設定することが可能であり、流量設定範囲の異なるポンプを2基使用している。

(1) 高速給液ポンプ

型式	: 3連無脈動ダブルダイヤフラム定量型
本体材質	: SUS304L
ダイアフラム材質	: テフロン
吐出量	: 5~65ℓ/min

(2) 低速給液ポンプ

型式	: 3連無脈動ダブルダイヤフラム定量型
本体材質	: SUS304L
ダイアフラム材質	: テフロン
吐出量	: 0.7~10ℓ/min

2.1.5 核計装

定出力運転用として4系統、過渡出力運転用として2系統の核計装が設置されている。これらのうち、炉心タンクの周囲に設置されている検出器には中性子を減速させるためのポリエチレンシートを巻いており、ポリエチレンの厚さは起動系が10mm、運転系対数出力系が20mm、運転系線型出力系が5mmである。

核計装の仕様を表2.1に、検出器の配置を図2.3に示す。

表2.1 核計装の仕様

系統	系統数	検出器	計測範囲	ループ誤差	熱中性子感度
起動系 (定出力用)	2	B-10比例計数管	計数率: $1\sim 2 \times 10^5 \text{ s}^{-1}$	$\pm 0.1 \text{ デカト}$	3.7 (cps/nv)
		WL-22792	炉周期: $-30\sim\infty\sim 2 \text{ s}$	$\pm 1.5 \% \text{ FS}$	
運転系対数出力系 (定出力用)	2	γ 線補償型電離箱	出力: $10^{-5}\sim 200 \%$	$\pm 0.1 \text{ デカト}$	$7.6 \times 10^{-14} \text{ (A/nv)}$
		WL-23084	炉周期: $-30\sim\infty\sim 2 \text{ s}$	$\pm 1.5 \% \text{ FS}$	
運転系線型出力系 (定出力用)	2	γ 線補償型電離箱	出力: $0\sim 100 \%$	$\pm 3\sim 1 \% \text{ FS}$	$7.6 \times 10^{-14} \text{ (A/nv)}$
		WL-23084			
安全出力系 (定出力用)	2	γ 線補償型電離箱	出力: $0\sim 20 \text{ kW}$	$\pm 3 \% \text{ FS}$	$7.6 \times 10^{-14} \text{ (A/nv)}$
		WL-23084	積分出力: $0\sim 40 \text{ MWs}$	$\pm 3 \% \text{ FS}$	
過渡線型出力系 (過渡出力用)	2	核分裂電離箱	出力: $0\sim 100 \%$	$\pm 3 \% \text{ FS}$	$1.80 \times 10^{-17} \text{ (A/nv)}$
		RS-C6-0201-231	積分出力: $0\sim 40 \text{ MWs}$	$\pm 3 \% \text{ FS}$	
過渡対数出力系 (過渡出力用)	1	核分裂電離箱	出力: $10\text{k}\sim 10 \text{ GW}$	$\pm 0.1 \text{ デカト}$	$1.28 \times 10^{-17} \text{ (A/nv)}$
		WL-23621	炉周期: $-1\sim 1 \text{ ms}$	$\pm 1.5 \% \text{ FS}$	

各検出器は、Westinghouse社製（過渡線型出力系を除く）。

過渡線型出力系は、Reuter-Stokes社製。

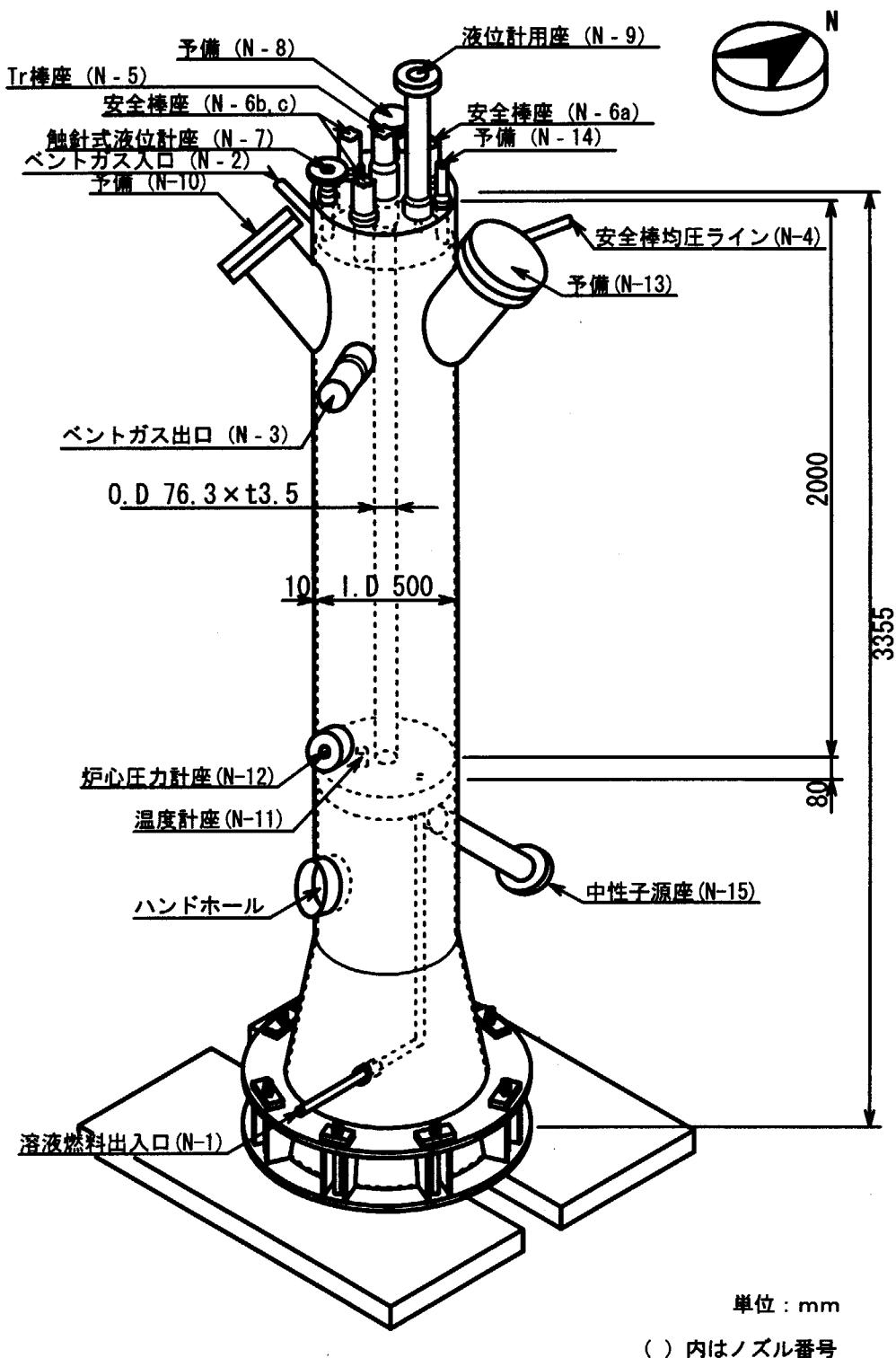


図 2.1 炉心タンク外形図

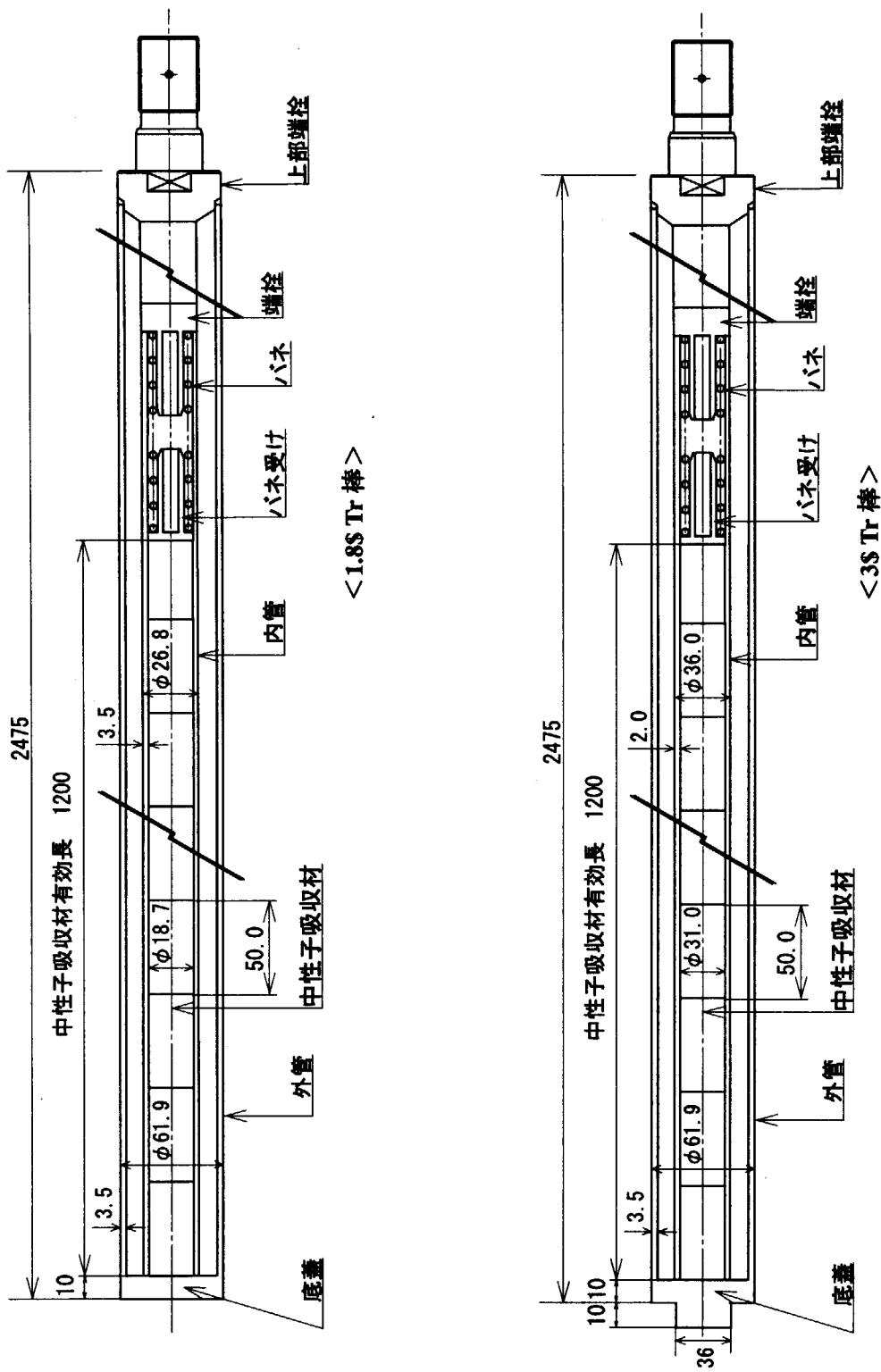


図 2.2 Tr 棒の構造図

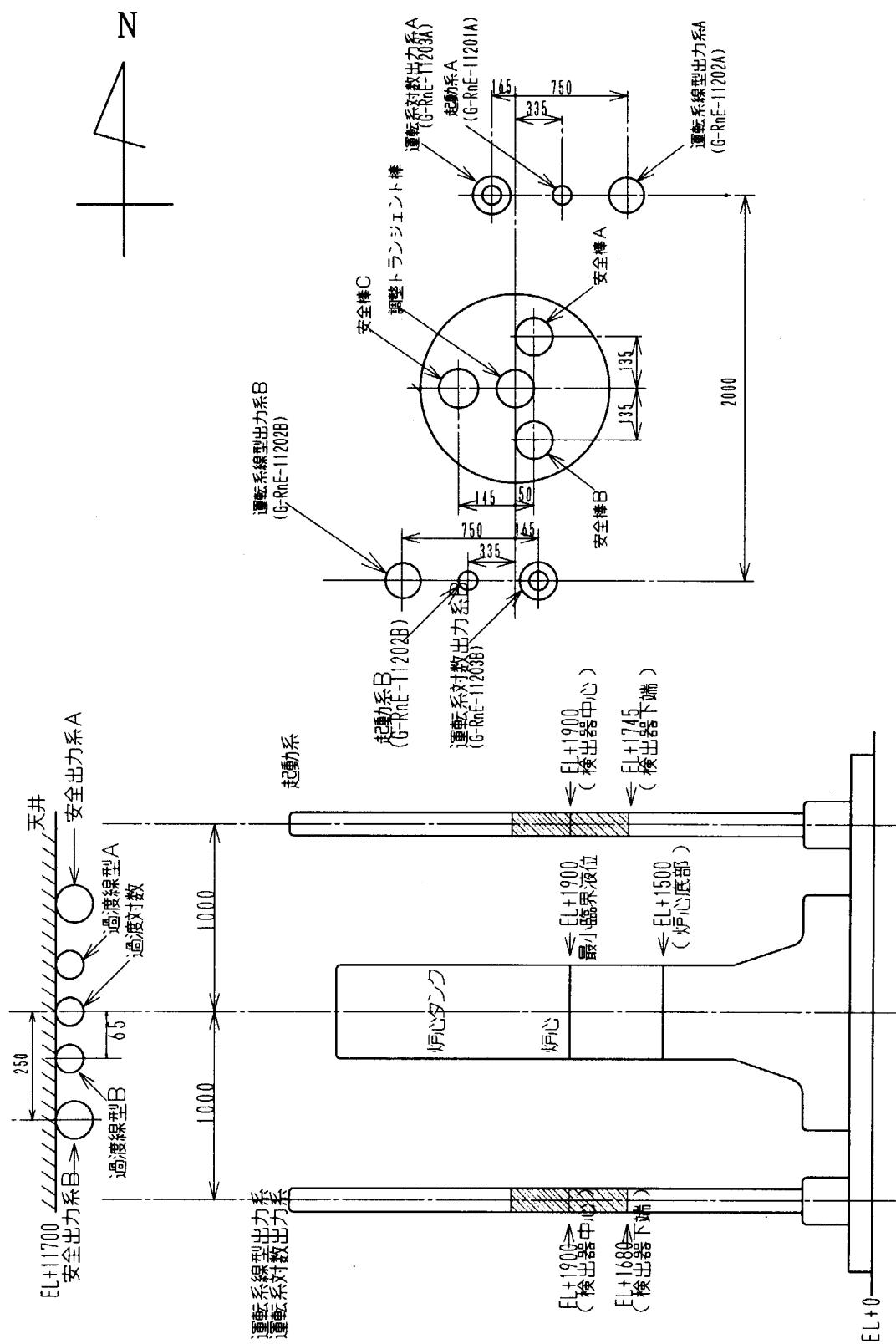


図 2.3 核計装検出器の配置図

2.2 過渡運転時の計測機器

過渡出力運転時には急激な出力の増大が起こり、温度が上昇する。また、放射線分解ガスの生成により圧力が発生する。ここではこれらを測定する機器について述べる。

2.2.1 測定項目

主な測定項目を以下に示す。アルファベット記載の信号名は付録の過渡出力運転データ履歴に対応するものである。

ベント圧力計及び実験系温度計の配置図を図 2.4 に、炉心タンク圧力計及び本体系温度計の配置図を図 2.5 に示す。

(1)過渡対数出力系対数出力 : ELogE (信号名)

炉心タンク中心から約 10m 離れた炉室天井部に設置されている核分裂電離箱で測定。

前置増幅器、主増幅器は制御室に設置されている。

計測範囲 : 10kW~10GW

測定精度 : ±0.1 デカード

応答速度 : 約 50 μs (10GW 相当電流入力時)

(2)炉心タンク圧力 : TPres

炉心タンク壁面に設置されたダイアフラム式圧力計で測定。

計測範囲 : 0~15kg/cm²

測定精度 : ±1.5%FS

応答周波数範囲 : 0~10kHz

(3)炉心タンクベント圧力 : VPres

ベント系配管に設置されたダイアフラム式圧力計で測定。

計測範囲 : 0~15kg/cm²

測定精度 : ±1.5%FS

応答周波数範囲 : 0~10kHz

(4)本体系温度計 : Temp

炉心タンク底面に設置された熱電対で測定。

計測範囲 : 0~150°C

測定精度 : ±1.5°C

応答周波数範囲 : 1Hz

(5)実験系温度計 : TempA~J (軸方向)

炉心タンク上部ノズルより挿入された熱電対 (10 系統) で測定。

計測範囲 : 0~130°C

測定精度 : ±1.5°C

応答周波数範囲 : 1Hz

(6) 実験系温度計 : Temp1~10 (径方向)

炉心タンク上部ノズルより挿入された熱電対 (10 系統) で測定。

計測範囲 : 0~130 °C

測定精度 : ±1.5 °C

応答周波数範囲 : 0.1 Hz

(7) Tr 棒電動部位置

Tr 棒電動部位置 : Tr-P

Tr 棒の電動駆動部の位置を測定する。

Tr 棒の電動駆動部位置は実際の Tr 棒の下端位置より 90mm 上にある。

計測範囲 : 0~1500 mm

測定精度 : ±0.4mm

(8) 給液流量

給液流量 : Flow

ランプ給液時における給液流量を示す。給液系配管に設置された流量計で測定。

計測範囲 : 0~75 ℥/min

測定精度 : ±0.4 ℥/min

(9) その他

リミットスイッチによる Tr 棒の位置検出信号

給液ポンプの起動・停止

2.2.2 データロガー

過渡運転時のデータは 3 台のデータロガーで収集している。第 1 出力パルスの半値幅は非常に短く、最も早い出力パルスでは約 5ms である。また、各データの相関関係を調べる必要があるため、多数のデータを同期させて収集している。

サンプリングレートについては、運転条件や検出器の応答速度に応じた設定をしている。これまで、温度については 100S/s (1s あたり 100 回サンプリング、10ms 間隔) を上限、その他の項目は 10kS/s (1s あたり 10000 回サンプリング、0.1ms 間隔) を上限として測定を行った。

データロガーの主な仕様を以下に示す。

(1) データロガー No.1、No.2

本体 : AR4800 702423 (横河電機(株)製)

入力ユニット : ユニバーサルユニット 702611 (横河電機(株)製)

入力チャンネル数：最大 32ch
入力抵抗 : 1MΩ
最大入力範囲 : DC60V
サンプルレート : 最大 100kS/s (S/s=sample/sec)
精度 : ±(0.25%FS+50 μ V) (200mV～50V レンジ時)

(2)データロガーNo.3

本体 : WE7000 707002 (横河電機製)
入力チャンネル数：最大 32ch
入力ユニット : アイソレーションデイジタルモジュール 707271 (横河電機製)
入力抵抗 : 1MΩ
最大入力範囲 : DC50V
サンプルレート : 最大 100kS/s
精度 : ±(0.04%rdg+1.3mV) (5V レンジ時)

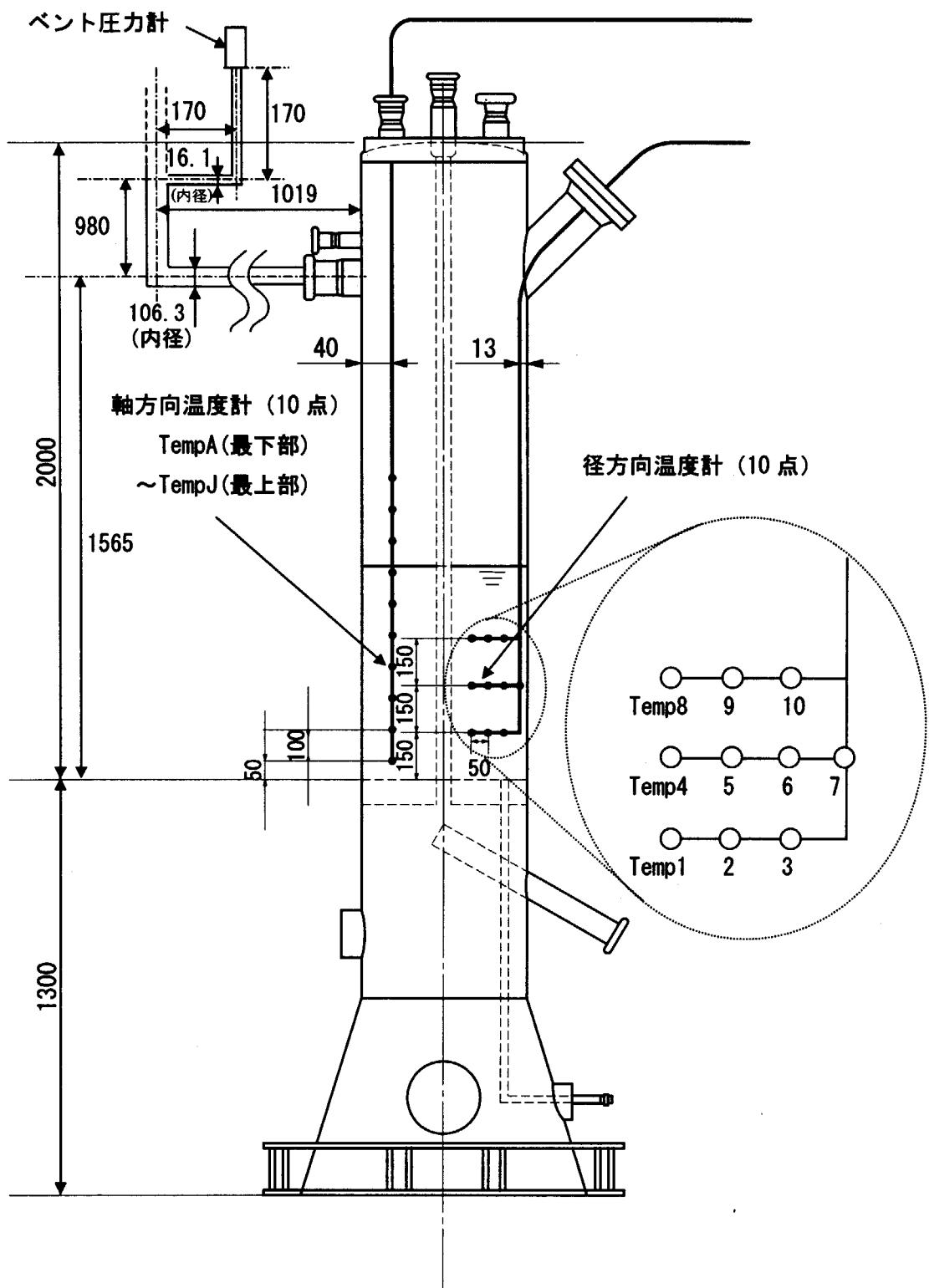
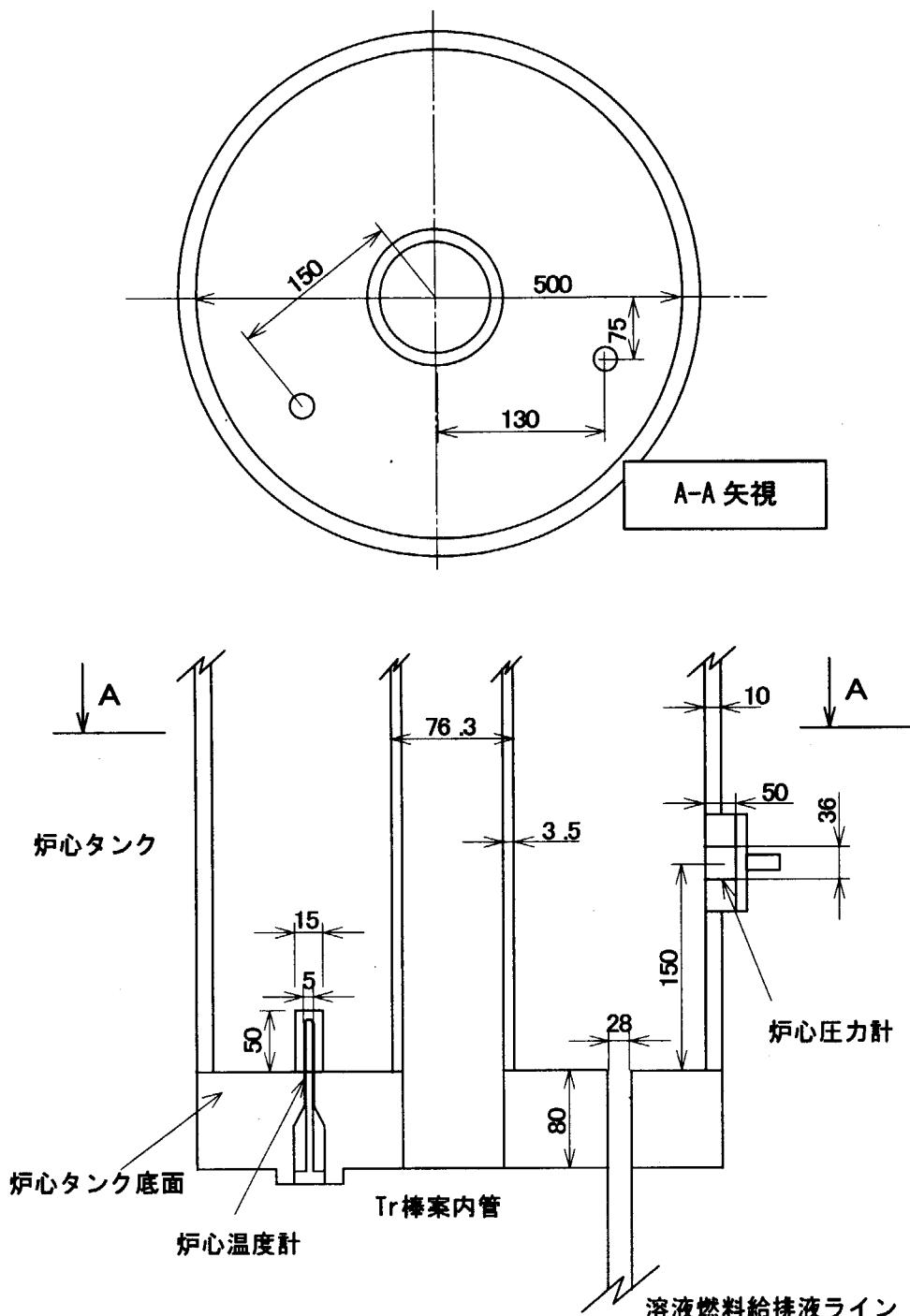


図 2.4 ベント圧力計・実験系温度計配置図

単位 : mm



単位 : mm

図 2.5 炉心タンク圧力計・本体系温度計配置図

3. 燃料管理

TRACY で用いる燃料は U-235 濃縮度が 9.98% の硝酸ウラニル水溶液である。運転中以外、燃料はダンプ槽に貯蔵されており、運転の前後に燃料のサンプルを採取して燃料組成を分析する。分析項目はウラン濃度、硝酸濃度、密度、FP の放射能強度である。定期検査時には被ばくや汚染の拡大を最小限に止めるために系統内を硝酸水で洗浄する。また、PIT/PIV（核物質の実在庫調査及び実在庫検認）時の作業においても、系統内のウランを集めるために洗浄を行う。洗浄を実施した場合、系統内に残留した硝酸水によって燃料が希釈される傾向にある。図 3.1 から図 3.3 にダンプ槽液位とウラン濃度、ウラン量、硝酸濃度の推移を示す。運転開始当初にウラン濃度が減少しているのはダンプ槽の燃料液位の管理に用いる差圧式液位計の湿り空気がダンプ槽に流入して水分を与えていたためと考えられる。また、運転を重ねるごとにダンプ槽の液位が低下してウラン濃度が上昇する傾向がある。これは過渡出力運転や高出力運転を行った際の燃料温度の上昇による水分の蒸発及び放射線分解ガスの発生によるものである。ダンプ槽液位が低下する理由としてはこの他にダンプ槽内のウラン量が減少していることから、過渡運転時に溶液燃料がミストやエアロゾルとして気相に移行することが考えられる。硝酸濃度は減少傾向にあるが、NUCEF で同様の燃料管理を行っている定常臨界実験装置 STACY ではこのような傾向は見られないことが確認されている^[3]。TRACY では STACY と比較して出力が大きいため燃料が強い放射線に曝され、さらに燃料の温度が上昇するために硝酸の分解が起り、NOx ガスが発生しているものと思われるが詳細については調査中である。

ウラン濃度は臨界液位を決定する要素の 1 つであり、臨界液位の変化は Tr 棒の反応度価値の変化に繋がる。図 3.4 にウラン濃度と Tr 棒反応度価値の関係を示す。近似曲線の傾きから、ウラン濃度 1gU/lあたりの反応度効果は 1.8\$ の Tr 棒で 0.26¢、3\$ の Tr 棒では 0.35¢ となる。現在の体系において測定されたこれまでのデータを外挿して 3\$ のウラン濃度を求めるとき、370.4 gU/l となり、ウラン濃度の調整を行う際にはこの濃度を下回ることが無いように留意する必要がある。

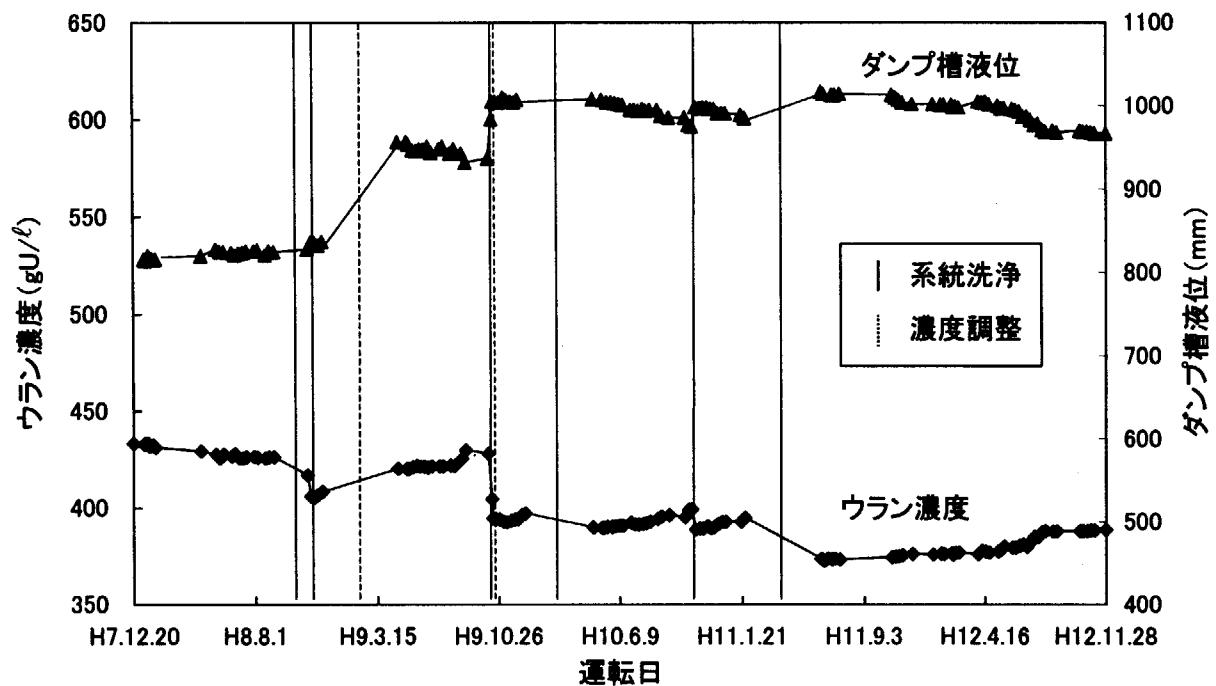


図 3.1 ウラン濃度とダンプ槽液位の変化

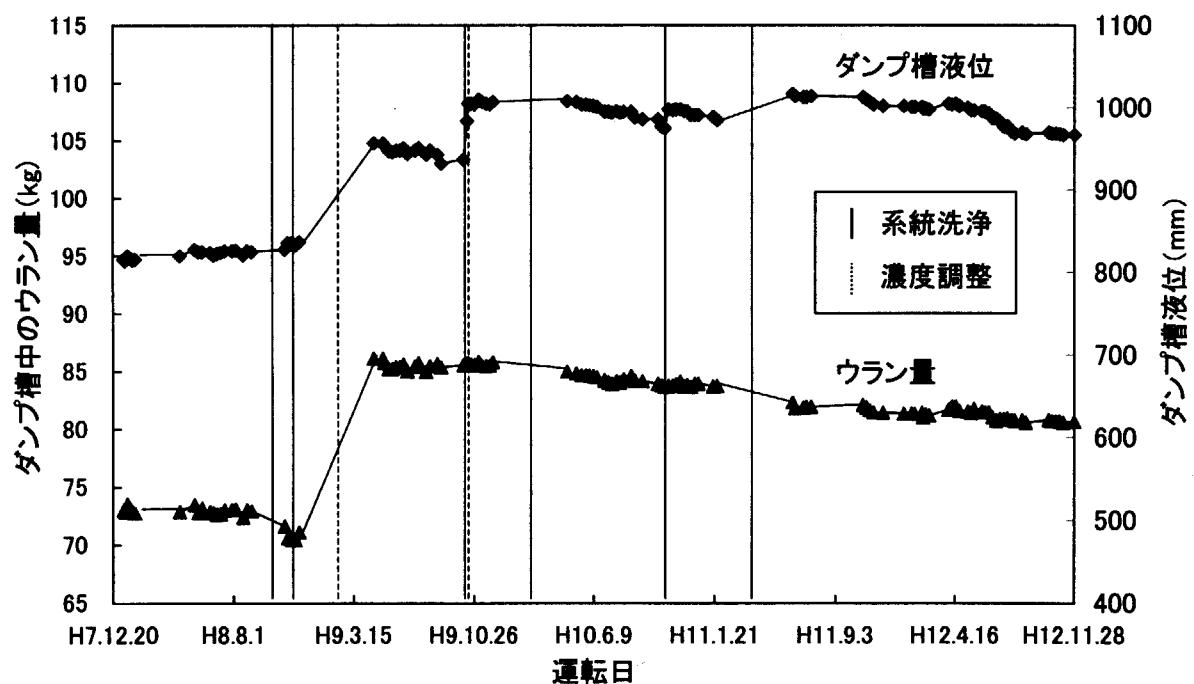


図 3.2 ウラン量とダンプ槽液位の変化

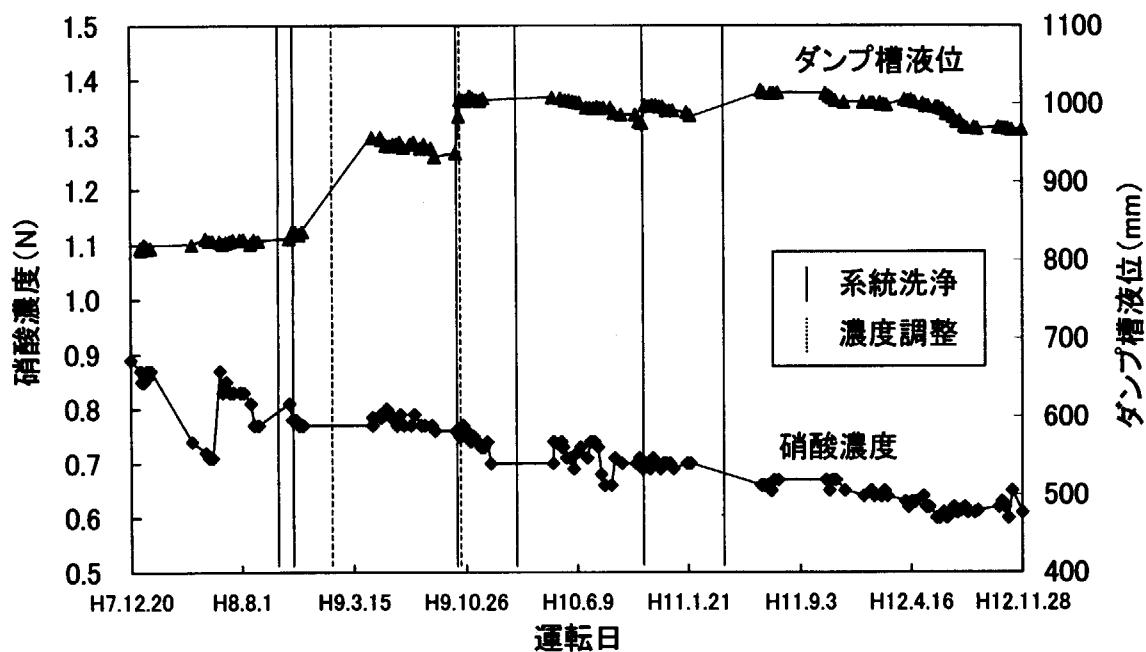


図 3.3 硝酸濃度とダンプ槽液位の変化

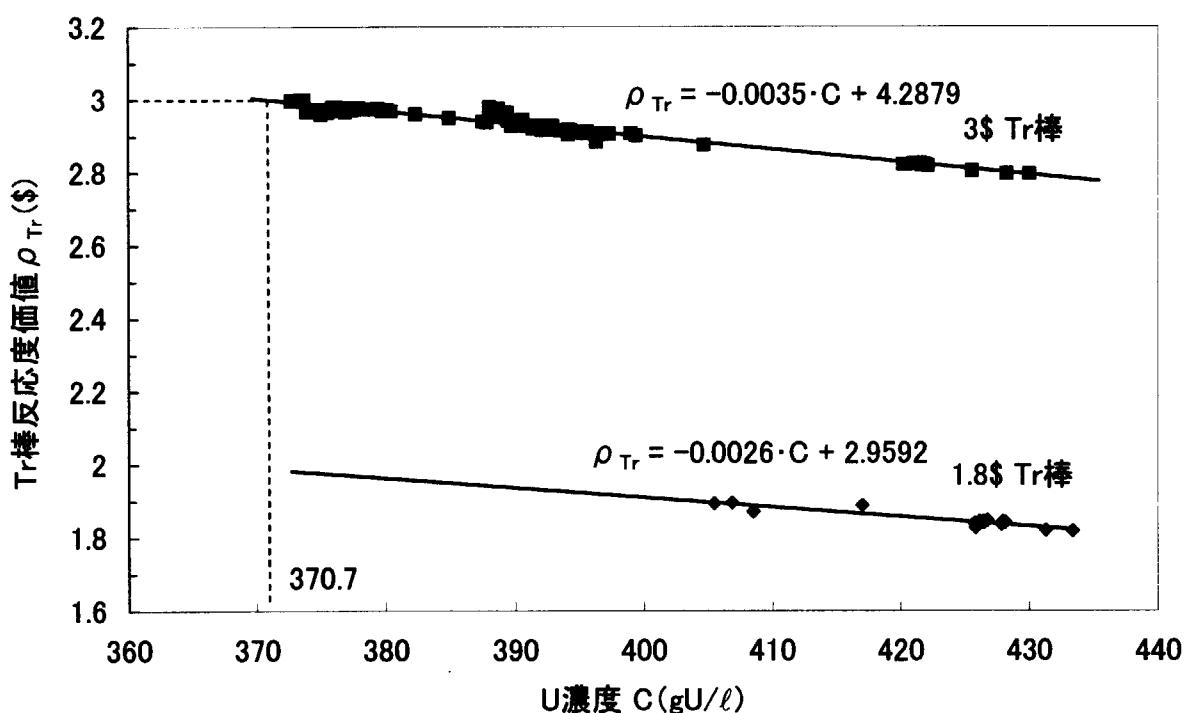


図 3.4 ウラン濃度と Tr 棒反応度価値

4. 運転データ

TRACY 運転手順の概要を以下に示す。

- ①Tr 棒が無い状態で臨界近接を行い、臨界液位 H_{CO} を測定したのち、Tr 棒を挿入する。
- ②Tr 棒が挿入された状態で臨界近接を行い、臨界液位 H_{Cl} を測定する。
- ③ H_{CO} と H_{Cl} の液位差から Tr 棒の反応度価値を算出する。

(パルス引抜・ランプ引抜の場合)

- ④ $H_{CO} \sim H_{Cl}$ の範囲で液位調整を行う。この液位が反応度添加液位となる。
- ⑤Tr 棒を圧縮空気もしくは電動モーターで引抜くことにより過渡出力運転を開始する。
- ⑥Tr 棒を挿入して過渡出力運転を終了させる。
- ⑦燃料を排液する。

(ランプ給液の場合)

- ④ H_{CO} の測定結果より反応度添加液位を決定する。
- ⑤ H_{CO} 以下まで燃料を排液したのち、Tr 棒を引抜く。
- ⑥給液ポンプにより燃料の給液を行い、過渡出力運転を開始する。
- ⑦反応度添加液位まで給液したのち、給液を停止する。
- ⑧Tr 棒を挿入して過渡出力運転を終了させる。
- ⑨燃料を排液する。

ここで、反応度添加液位とは過渡運転の設定液位であり、パルス引抜及びランプ引抜においては Tr 棒引抜直前の液位、ランプ給液では給液が終了した時の液位（温度上昇による体積膨張分は除く）となる。いずれの場合も添加する反応度はこの反応度添加液位と Tr 棒未挿入時の臨界液位の液位差から決定される。

表 4.1 に年度毎の運転時間、出力等を示す。また、表 4.2 に運転時の主要なデータを示す。

表 4.1 ウラン濃度と臨界液位

項目	運転回数 (回)	過渡運転 回数(回)	年間運転時間 (hr:min)	時間利用率 (%)	年間最大 出力(W)	年間積算 出力(MW·s)
1995年度	18	0	36:41	0.017%	9.60E+00	0
1996年度	20	11	66:12	0.031%	3.25E+08	73.4
1997年度	39	15	134:35	0.064%	1.10E+09	247.4
1998年度	41	25	128:17	0.061%	1.58E+09	369.2
1999年度	33	11	95:16	0.045%	1.70E+09	195.3
2000年度	25	19	110:37	0.053%	1.59E+09	274.4
1995～ 2000年度総計	176	81	571:43	0.045%	1.70E+09	1159.6

表4.2 運転データ (1/8)

RUNNo.	運転日	運転モード	定出力運転データ				過渡運転データ				出力	
			ウラン濃度(gU/L)	硝酸濃度(mol/L)	密度(g/cc) ^{*1}	臨界液位(mm)	Tr棒未挿入時(燃料温度) ^{*2}	Tr棒挿入時(燃料温度) ^{*2}	反応度液位(mm) ^{*3}	初期出力(W)	添加反応度(\$)	
R0001	H7.12.20	定出力	433.4 ± 0.1	0.89 ± 0.02	1.60440	450.03 (23.4 °C)						1.00E-02 0.0
R0002	H8.1.9	定出力	433.1 ± 0.2	0.87 ± 0.02	1.60420	451.15 (23.7 °C)						4.36E+00 0.0
R0003	H8.1.9	定出力	433.1 ± 0.2	0.87 ± 0.02	1.60420	451.31 (24.0 °C)						3.22E-02 0.0
R0004	H8.1.11	定出力	433.4 ± 0.9	0.85 ± 0.02	1.60300	451.54 (23.8 °C)						3.55E-02 0.0
R0005	H8.1.11	定出力	433.4 ± 0.9	0.85 ± 0.02	1.60300	451.62 (24.0 °C)						3.22E-02 0.0
R0006	H8.1.11	定出力	433.4 ± 0.9	0.85 ± 0.02	1.60300	451.66 (24.0 °C)						3.55E-02 0.0
R0007	H8.1.11	定出力	433.4 ± 0.9	0.85 ± 0.02	1.60300	451.58 (24.1 °C)						3.69E-02 0.0
R0008	H8.1.16	定出力	433.4 ± 0.9	0.85 ± 0.02	1.60300	451.71 (23.5 °C)						3.69E-02 0.0
R0009	H8.1.16	定出力	433.4 ± 0.9	0.85 ± 0.02	1.60300	451.85 (23.9 °C)						4.02E-02 0.0
R0010	H8.1.16	定出力	433.4 ± 0.9	0.85 ± 0.02	1.60300	451.88 (23.9 °C)	497.22 (23.8 °C)	1.82				3.82E-02 0.0
R0011	H8.1.18	定出力	432.1 ± 0.5	0.86 ± 0.01	1.60270		497.76 (23.6 °C)					3.69E-02 0.0
R0012	H8.1.18	定出力	432.1 ± 0.5	0.86 ± 0.01	1.60270		497.99 (23.9 °C)					4.09E-02 0.0
R0013	H8.1.18	定出力	432.1 ± 0.5	0.86 ± 0.01	1.60270		497.93 (23.9 °C)					4.69E-02 0.0
R0014	H8.1.22	定出力	432.3 ± 0.3	0.87 ± 0.01	1.60200	452.31 (23.6 °C)						9.60E+00 0.0
R0015	H8.1.25	定出力	432.5 ± 0.6	0.86 ± 0.01	1.60160	452.91 (23.7 °C)						4.02E-02 0.0
R0016	H8.1.25	定出力	432.5 ± 0.6	0.86 ± 0.01	1.60160	452.99 (23.9 °C)						4.02E+00 0.0
R0017	H8.1.30	定出力	431.3 ± 0.2	0.87 ± 0.01	1.60110	453.18 (23.5 °C)	498.92 (23.5 °C)	1.82				4.20E-02 0.0
R0018	H8.1.30	定出力	431.3 ± 0.2	0.87 ± 0.01	1.60110		499.45 (23.9 °C)					4.09E-02 0.0
R0019	H8.4.23	定出力	429.4 ± 0.4	0.74 ± 0.02	1.59863	457.35 (24.9 °C)						8.00E+02 1.0
R0020	H8.5.21	定出力	427.8 ± 0.4	0.72 ± 0.04	1.59714	458.10 (25.9 °C)	505.65 (25.7 °C)	1.84				5.00E+03 4.2
R0021	H8.5.28	定出力	425.8 ± 0.6	0.71 ± 0.01	1.59664	457.43 (24.9 °C)	504.53 (24.8 °C)	1.83				3.89E+00 0.0
R0022	H8.6.4	定出力	427.9 ± 0.4	0.71 ± 0.01	1.59605	458.80 (26.0 °C)	506.76 (26.0 °C)	1.84				1.00E+04 2.8
R0023	H8.6.19	定出力	426.7 ± 0.2	0.87 ± 0.01	1.59501	459.33 (25.6 °C)	507.54 (25.6 °C)	1.85				1.00E+04 3.1

*1:密度分析時の温度は25°C

*2:燃料温度は本体系温度計の値

*3:suo-未臨界状態を表す

*4:ランプ給液における反応度添加液位は給液終了時の液位

表4.2 運転データ (2/8)

RUNNo.	運転日	運転モード	定出力運転データ				過渡運転データ				出力						
			ウラン濃度(gJ/l)	硝酸濃度(mol/l)	密度(g/cc) ^{*1}	臨界液位(mm)	Tr棒未挿入時(燃料温度) ^{*2}	Tr棒挿入時(燃料温度) ^{*2}	Tr棒反応堆活性値(s)	反応度添加液位(mm) ^{*3}	初期出力(W) ^{*4}	添加反応度(\$)	Tr棒駆動速度(cm/min)	給液流量(l/min)	最大出力(W)	積算出力(MW·s)	
R0024	H8.6.25	ハルス引抜	428.1 ± 0.6	0.83 ± 0.01	1.59550	459.14 (25.2 °C)	507.15 (25.2 °C)	1.84	478.53 (25.3 °C)	sub	0.80				4.20E+05	2.0	
R0025	H8.7.2	ハルス引抜	426.1 ± 0.2	0.85 ± 0.01	1.59393	459.90 (25.5 °C)	508.18 (25.5 °C)	1.84	489.91 (25.5 °C)	sub	1.20				2.52E+07	4.5	
R0026	H8.7.9	ハルス引抜	425.7 ± 0.1	0.83 ± 0.01	1.59363	460.23 (25.6 °C)	508.43 (25.5 °C)	1.84	508.43 (25.5 °C)	0.99	1.84				3.00E+08	7.0	
R0027	H8.7.16	定出力	426.4 ± 0.5	0.83 ± 0.01	1.59285	460.24 (26.0 °C)									5.00E+02	0.3	
R0028	H8.7.30	ハルス引抜	426.5 ± 0.3	0.83 ± 0.01	1.59500	459.69 (25.5 °C)	507.87 (25.4 °C)	1.84	507.87 (25.4 °C)	1.04	1.84				3.00E+08	7.0	
R0029	H8.8.6	ランプ引抜	426.1 ± 0.2	0.83 ± 0.01	1.59442	459.62 (25.6 °C)	507.72 (25.6 °C)	1.84	507.72 (25.6 °C)	1.02	1.84	875			7.30E+07	7.2	
R0030	H8.8.20	ランプ給液	425.8 ± 0.4	0.81 ± 0.01	1.59280	459.64 (25.5 °C)	507.70 (25.4 °C)	1.84	489.71 (25.6 °C)	sub	1.20				60	2.28E+07	8.0
R0031	H8.8.27	ランプ給液	426.3 ± 0.2	0.77 ± 0.01	1.59462	459.15 (25.3 °C)	507.13 (25.3 °C)	1.84	500.32 (25.4 °C)	sub	1.61				60	2.55E+07	8.5
R0032	H8.9.5	ランプ給液	426.4 ± 0.5	0.77 ± 0.01	1.59422	459.35 (25.4 °C)	507.49 (25.3 °C)	1.84	494.66 (25.5 °C)	sub	1.40				60	1.14E+07	4.0
R0033	H8.11.6	ハルス引抜	417.0 ± 0.3	0.81 ± 0.01	1.58863	469.40 (26.3 °C)	521.81 (26.4 °C)	1.89	490.27 (26.4 °C)	sub	0.81				5.50E+05	4.0	
R0034	H8.11.12	定出力	406.1 ± 0.2	0.78 ± 0.01	1.58676	482.11 (26.1 °C)									8.60E-01	0.0	
R0035	H8.11.19	ハルス引抜	405.5 ± 0.4	0.78 ± 0.01	1.56633	483.61 (25.1 °C)	540.63 (25.1 °C)	1.89	540.63 (25.1 °C)	1.02	1.89				3.25E+08	7.0	
R0036	H8.11.26	ハルス引抜	406.9 ± 0.4	0.77 ± 0.01	1.56885	482.06 (25.7 °C)	538.63 (25.7 °C)	1.90	488.74 (25.8 °C)	sub	0.25				1.80E+04	2.8	
R0037	H8.12.3	定出力	408.5 ± 0.1	0.77 ± 0.01	1.56837	479.24 (25.4 °C)	534.09 (25.3 °C)	1.87							1.00E+00	0.0	
R0038	H8.12.4	定出力	408.5 ± 0.1	0.77 ± 0.01	1.56837	479.99 (25.5 °C)									1.94E+02	0.1	
R0039	H9.4.22	定出力	420.4 ± 0.3	0.78 ± 0.01	1.56837	463.74 (25.6 °C)	545.14 (25.6 °C)	2.82							3.08E+00	0.0	
R0040	H9.4.22	定出力	420.4 ± 0.3	0.78 ± 0.01	1.58718	545.79 (26.1 °C)									3.28E-02	0.0	
R0041	H9.4.23	定出力	420.4 ± 0.3	0.78 ± 0.01	1.58718	463.84 (25.9 °C)									3.82E-02	0.0	
R0042	H9.4.23	定出力	420.4 ± 0.3	0.78 ± 0.01	1.58718	463.92 (26.2 °C)									3.82E-02	0.0	
R0043	H9.4.23	定出力	420.4 ± 0.3	0.78 ± 0.01	1.58718	463.89 (26.2 °C)									5.00E-03	4.2	
R0044	H9.5.9	定出力	420.4 ± 0.3	0.78 ± 0.01	1.58718	463.81 (25.8 °C)									5.40E-01	0.0	
R0045	H9.5.9	定出力	420.2 ± 0.3	0.79 ± 0.01	1.58700	464.03 (26.2 °C)									4.09E-02	0.0	

*1:密度分析時の温度は25°C

*2:燃料温度は本体系温度計の値

*3:sub=未臨界状態を表す

*4:ランプ給液における反応度添加液位は給液終了時の液位

表4.2 運転データ (3/8)

RUNNo.	運転日	運転モード	定出力運転データ						過渡運転データ						出力 算出力 (MW·s)		
			臨界液位 (mm)			T _r 棒未挿入時 (燃料温度) ^{*2}			T _r 棒挿入時 (燃料温度) ^{*2}			反応度添加 液位 (mm) ^{*3}					
			ウラン 濃度 (g/J/t)	硝酸 濃度 (mol/l)	密度 (g/cc) ^{*1}	T _r 棒未挿入時 (燃料温度) ^{*2}	T _r 棒挿入時 (燃料温度) ^{*2}	反応度 値(%)	T _r 棒 挿入時 反応度 値(%)	T _r 棒 挿入時 反応度 値(%)	反応度添加 液位 (mm) ^{*3}	T _r 棒 挿入時 反応度 値(%)	初期 出力 (W) ^{*4}	添加 応 度	給液 流量 (ℓ/min)	最大 出力 (W)	
R0046	H9.5.9	定出力	420.2 ± 0.3	0.79 ± 0.01	1.58700	464.05 (26.2 °C)										3.95E-02	0.0
R0047	H9.5.12	定出力	420.2 ± 0.3	0.79 ± 0.01	1.58700	464.09 (26.1 °C)	545.71 (25.9 °C)	2.82								4.29E-02	0.0
R0048	H9.5.12	定出力	420.2 ± 0.3	0.79 ± 0.01	1.58700		546.07 (26.2 °C)									4.36E-02	0.0
R0049	H9.5.12	定出力	420.2 ± 0.3	0.79 ± 0.01	1.58700		546.01 (26.3 °C)									4.99E-02	0.0
R0050	H9.5.13	定出力	420.2 ± 0.3	0.79 ± 0.01	1.58700		545.76 (25.9 °C)									1.00E+04	4.2
R0051	H9.5.20	定出力	421.2 ± 0.5	0.80 ± 0.01	1.58763	463.57 (25.7 °C)										1.02E+00	0.0
R0052	H9.5.27	定出力	421.8 ± 0.2	0.79 ± 0.01	1.58820	463.40 (25.6 °C)	544.70 (25.6 °C)	2.82								3.55E-01	0.0
R0053	H9.5.28	定出力	421.8 ± 0.2	0.79 ± 0.01	1.58820		544.87 (25.6 °C)									1.00E+04	4.3
R0054	H9.6.3	ハルス引抜	421.5 ± 0.4	0.78 ± 0.01	1.58782	463.27 (25.6 °C)	544.56 (25.5 °C)	2.82	517.37 (25.6 °C)	sub	2.00					4.17E+08	6.2
R0055	H9.6.10	ハルス引抜	421.4 ± 0.2	0.77 ± 0.01	1.58738	462.95 (25.6 °C)	544.04 (25.6 °C)	2.82	533.03 (25.7 °C)	sub	2.50					7.67E+08	9.2
R0056	H9.6.17	ハルス引抜	421.0 ± 0.2	0.79 ± 0.01	1.58761	462.19 (25.5 °C)	542.93 (25.6 °C)	2.82	542.93 (25.6 °C)	0.98	2.82					1.02E+09	11.3
R0057	H9.6.24	定出力	421.7 ± 0.7	0.77 ± 0.01	1.58806	461.46 (25.5 °C)										5.00E+00	0.0
R0058	H9.7.8	定出力	421.7 ± 0.7	0.77 ± 0.01	1.58806	459.86 (25.5 °C)										2.68E+00	0.0
R0059	H9.7.8	定出力	421.7 ± 0.7	0.77 ± 0.01	1.58806	460.03 (25.5 °C)										1.02E-01	0.0
R0060	H9.7.15	ハルス引抜	421.6 ± 0.4	0.79 ± 0.01	1.58853	461.67 (25.4 °C)	542.03 (25.6 °C)	2.82	542.03 (25.6 °C)	0.98	2.82					1.03E+09	15.9
R0061	H9.7.29	ラジブ給液	422.1 ± 0.4	0.77 ± 0.01	1.58926	461.38 (25.7 °C)	541.54 (25.6 °C)	2.82	535.27 (25.8 °C)	1.02	2.64					2.12E+07	8.6
R0062	H9.8.5	ラジブ引抜	421.9 ± 0.5	0.77 ± 0.01	1.58946	460.73 (25.7 °C)	540.63 (25.6 °C)	2.82	540.63 (25.6 °C)	1.2	2.82	875				1.07E+08	20.0
R0063	H9.8.19	ハルス引抜	425.5 ± 0.5	0.77 ± 0.01	1.59361	456.91 (25.6 °C)	534.41 (25.5 °C)	2.80	534.41 (25.5 °C)	1.04	2.80					1.01E+09	25.5
R0064	H9.8.26	ハルス引抜	430.0 ± 0.3	0.76 ± 0.01	1.59746	453.06 (25.4 °C)	528.47 (25.5 °C)	2.80	489.96 (25.6 °C)	sub	1.50					1.21E+08	7.3
R0065	H9.10.7	定出力	428.2 ± 0.1	0.76 ± 0.01	1.59612	454.47 (25.6 °C)	530.55 (25.5 °C)	2.80								1.00E+00	0.0
R0066	H9.10.14	定出力	404.7 ± 0.1	0.75 ± 0.01	1.56493	484.91 (25.6 °C)	579.63 (25.6 °C)	2.88								1.06E+00	0.0
R0067	H9.10.16	定出力	394.7 ± 0.2	0.75 ± 0.01	1.55157	500.82 (25.6 °C)	606.56 (25.6 °C)	2.91								1.32E+00	0.0

*1:密度分析時の温度は25°C

*2:燃料温度は本体系温度計の値

*3:sub=未臨界状態を表す

*4:ランプ給液における反応度添加液位は給液終了時の液位

表4.2 運転データ (4/8)

RUNNo.	運転日	運転モード	定出力運転データ				過渡運転データ				出力				
			ウラン濃度(gU/l)	硝酸濃度(mol/l)	密度(g/cc) ^{*1}	臨界液位(mm)	Tr棒未挿入時 (燃料温度) ^{*2}	Tr棒挿入時 (燃料温度) ^{*2}	反応度添加液位(mm) ^{*3}	初期出力(N) ^{*4}	添加反応度(s)	Tr棒駆動速度(cm/min)	給液流量(l/min)	最大出力(W)	総算出力(MW·s)
R0068	H9.10.21	定出力	394.2 ± 0.2	0.77 ± 0.01	1.55118	501.20 (25.8 °C)	607.25 (25.8 °C)	2.91						2.08E+00	0.0
R0069	H9.10.28	ハルス引抜	394.3 ± 0.1	0.76 ± 0.01	1.55005	501.02 (25.8 °C)	607.13 (25.8 °C)	2.92	607.13 (25.8 °C)	1.02	2.92			1.10E+09	14.3
R0070	H9.11.5	ランプ引抜	392.9 ± 0.4	0.74 ± 0.01	1.54836	504.13 (25.7 °C)	612.40 (25.6 °C)	2.92	612.40 (25.6 °C)	1.02	2.92	600		6.89E+07	24.4
R0071	H9.11.11	ランプ給液	392.7 ± 0.2	0.75 ± 0.01	1.54776	503.37 (25.8 °C)	611.11 (25.8 °C)	2.92	603.00 (26.1 °C)	sub	2.75		40	1.03E+07	25.1
R0072	H9.11.19	ハルス引抜	393.5 ± 0.4	0.74 ± 0.01	1.55001	502.53 (25.8 °C)	609.55 (25.7 °C)	2.92	537.05 (26.0 °C)	sub	1.10			1.30E+07	11.8
R0073	H9.11.26	定出力	394.1 ± 0.2	0.73 ± 0.01	1.54978	500.17 (25.7 °C)								8.60E-01	
R0074	H9.11.26	定出力	394.1 ± 0.2	0.73 ± 0.01	1.54978	500.30 (26.1 °C)	605.44 (25.9 °C)	2.91						1.00E+00	
R0075	H9.12.2	ランプ引抜	394.1 ± 0.3	0.73 ± 0.01	1.54973	502.25 (25.8 °C)	609.16 (25.9 °C)	2.92	609.16 (25.9 °C)	0.78	2.92	300		3.00E+07	24.9
R0076	H9.12.9	ランプ給液	396.2 ± 0.4	0.74 ± 0.01	1.55305	496.26 (25.3 °C)	598.97 (25.3 °C)	2.91	587.69 (26.9 °C)	sub	2.65		20	3.74E+06	24.6
R0077	H9.12.16	ハルス引抜	397.3 ± 0.3	0.70 ± 0.01	1.55415	496.15 (25.9 °C)	598.80 (25.3 °C)	2.91	526.27 (26.1 °C)	sub	1.00			3.49E+06	5.6
R0078	H10.4.21	定出力	390.0 ± 0.2	0.70 ± 0.01	1.54527	508.65 (27.2 °C)	620.58 (27.3 °C)	2.94						1.06E+00	0.0
R0079	H10.4.21	定出力	390.0 ± 0.2	0.70 ± 0.01	1.54527	509.41 (27.8 °C)								4.56E-02	0.0
R0080	H10.4.22	定出力	389.8 ± 0.1	0.74 ± 0.01	1.54504	509.80 (28.0 °C)								4.56E-02	0.0
R0081	H10.4.22	定出力	389.8 ± 0.1	0.74 ± 0.01	1.54504	509.88 (28.2 °C)								5.30E+03	2.3
R0082	H10.5.8	定出力	389.8 ± 0.1	0.74 ± 0.01	1.54504	510.25 (28.3 °C)								7.40E-01	0.0
R0083	H10.5.8	定出力	389.7 ± 0.2	0.73 ± 0.01	1.54510	510.50 (28.6 °C)								4.80E-02	0.0
R0084	H10.5.8	定出力	389.7 ± 0.2	0.73 ± 0.01	1.54510	510.23 (28.6 °C)								5.00E-02	0.0
R0085	H10.5.11	定出力	389.7 ± 0.2	0.73 ± 0.01	1.54510	509.89 (28.2 °C)	622.29 (28.0 °C)	2.93						6.20E-01	0.0
R0086	H10.5.11	定出力	389.7 ± 0.2	0.73 ± 0.01	1.54510		622.74 (28.3 °C)							5.00E-02	0.0
R0087	H10.5.11	定出力	389.7 ± 0.2	0.73 ± 0.01	1.54510		622.23 (28.2 °C)							5.20E-02	0.0
R0088	H10.5.12	定出力	389.7 ± 0.2	0.73 ± 0.01	1.54510		619.87 (27.0 °C)							1.00E+04	5.6
							619.38 (32.2 °C)								

*1 密度分析時の温度は25°C

*2 燃料温度は本体系温度計の値

*3 sub:未臨界状態を表す

*4.ランプ給液における反応度添加液位は給液終了時の液位

表4.2 運転データ (5/8)

RUNNo.	運転日	運転モード	定出力運転データ						過渡運転データ						出力							
			ウラン濃度(gU/l)		硝酸濃度(mol/l)		密度(g/cc) ¹		臨界液立(mm)		Tr棒未挿入時 (燃料温度) ²		Tr棒挿入時 (燃料温度) ²		初期出力(W) ⁴		Tr棒駆動速度(cm/s)		最大出力(W)		積算出力(MW·s)	
			389.5 ± 0.4	0.69 ± 0.01	390.3 ± 0.3	0.71 ± 0.01	1.54581	506.13 (25.9 °C)	Tr棒未挿入時 (燃料温度) ²	Tr棒挿入時 (燃料温度) ²	反応度 値(%)	反応度添加 液位(mm) ³	初期出力(W) ⁴	Tr棒駆動速度(cm/s)	給液流量(l/min)	最大出力(W)	積算出力(MW·s)					
R0089	H10.5.18	定出力	390.3 ± 0.3	0.71 ± 0.01	1.54581	506.13 (25.9 °C)											5.00E+01	0.2				
R0090	H10.5.26	定出力	390.3 ± 0.4	0.71 ± 0.01	1.54512	505.53 (25.7 °C)	615.21 (25.7 °C)	2.93									9.80E-01	0.0				
R0091	H10.5.27	定出力	390.3 ± 0.4	0.71 ± 0.01	1.54512	505.43 (25.7 °C)											1.00E+04	4.8				
R0092	H10.6.2	ハ'ルス引抜	390.6 ± 0.4	0.69 ± 0.01	1.54565	505.30 (25.7 °C)	614.73 (25.6 °C)	2.93	614.73 (25.6 °C)	1	2.93						1.58E+09	20.2				
R0093	H10.6.9	ハ'ルス引抜	390.9 ± 0.4	0.72 ± 0.01	1.54652	504.10 (25.5 °C)	612.75 (25.5 °C)	2.93	612.75 (25.5 °C)	0.68	2.93						1.57E+09	19.9				
R0094	H10.6.16	ハ'ルス引抜	390.9 ± 0.4	0.73 ± 0.01	1.54616	502.95 (25.5 °C)	610.84 (25.5 °C)	2.93	610.84 (25.5 °C)	0.78	2.93						1.55E+09	20.1				
R0095	H10.6.30	ハ'ルス引抜	392.5 ± 0.4	0.71 ± 0.01	1.54942	502.20 (25.5 °C)	609.36 (25.6 °C)	2.92	523.71 (25.7 °C)	sub	0.71						5.29E+05	4.6				
R0096	H10.7.7	ハ'ルス引抜	391.5 ± 0.3	0.74 ± 0.01	1.54761	501.97 (25.9 °C)	608.95 (26.1 °C)	2.92	516.84 (26.1 °C)	0.96	0.50						1.81E+05	4.9				
R0097	H10.7.14	ハ'ルス引抜	391.4 ± 0.2	0.74 ± 0.01	1.54791	501.31 (25.8 °C)	607.77 (25.7 °C)	2.92	531.66 (25.9 °C)	1.01	0.98						1.76E+07	9.0				
R0098	H10.7.22	ラ'ンプ給液	391.7 ± 0.2	0.73 ± 0.01	1.54716	500.53 (25.9 °C)	606.47 (25.8 °C)	2.92	559.50 (26.1 °C)	sub	1.80						60	2.54E+07	15.3			
R0099	H10.7.28	ラ'ンプ引抜	392.1 ± 0.2	0.68 ± 0.01	1.54811	500.26 (26.0 °C)	605.92 (26.0 °C)	2.92	559.23 (25.9 °C)	sub	1.80						200	4.48E+07	14.3			
R0100	H10.8.4	ハ'ルス引抜	392.9 ± 0.3	0.66 ± 0.01	1.54934	499.76 (25.6 °C)	605.11 (25.6 °C)	2.92	508.52 (25.7 °C)	1	0.30						3.26E+04	4.6				
R0101	H10.8.18	ラ'ンプ引抜	394.3 ± 0.3	0.66 ± 0.01	1.54945	499.35 (25.5 °C)	604.43 (25.5 °C)	2.92	557.96 (25.6 °C)	1	1.80	172					1.79E+07	14.4				
R0102	H10.8.25	ハ'ルス引抜	395.6 ± 0.2	0.71 ± 0.01	1.55158	495.66 (26.1 °C)	598.27 (25.5 °C)	2.91	507.17 (26.3 °C)	1	0.40						8.58E+04	4.5				
R0103	H10.9.8	ラ'ンプ引抜	396.3 ± 0.3	0.70 ± 0.01	1.55243	494.48 (25.5 °C)	595.14 (25.5 °C)	2.88	595.14 (25.6 °C)	3.35E-04	2.88	300					7.05E+07	21.9				
R0104	H10.10.7	ハ'ルス引抜	395.3 ± 0.4	0.70 ± 0.01	1.55017	493.60 (25.4 °C)	594.77 (25.4 °C)	2.91	594.77 (25.4 °C)	1	2.91						1.50E+09	20.7				
R0105	H10.10.14	ハ'ルス引抜	399.0 ± 0.8	0.71 ± 0.01	1.55570	490.84 (25.2 °C)	590.35 (25.2 °C)	2.91	577.61 (25.2 °C)	1.02	2.61						1.11E+09	17.1				
R0106	H10.10.20	ハ'ルス引抜	399.4 ± 0.1	0.69 ± 0.01	1.55618	490.11 (25.2 °C)	598.94 (25.3 °C)	2.90	547.23 (25.4 °C)	sub	1.84						4.05E+08	9.7				
R0107	H10.10.27	ラ'ンプ引抜	388.8 ± 0.2	0.70 ± 0.01	1.54249	508.87 (25.5 °C)	622.20 (25.6 °C)	2.96	622.71 (25.6 °C)	194.3	2.97	300					2.20E+07	21.4				
R0108	H10.11.4	ラ'ンプ引抜	389.4 ± 0.7	0.69 ± 0.02	1.54310	508.56 (25.4 °C)	620.92 (25.4 °C)	2.95	620.88 (25.5 °C)	3.02E-03	2.94	875					1.93E+08	8.7				
R0109	H10.11.10	ラ'ンプ引抜	389.4 ± 0.4	0.71 ± 0.01	1.54353	508.99 (25.6 °C)	622.55 (25.7 °C)	2.96	622.95 (25.7 °C)	194.3	2.97	875					8.94E+07	11.7				
R0110	H10.11.18	ラ'ンプ引抜	390.6 ± 0.1	0.70 ± 0.01	1.54312	508.82 (25.8 °C)	621.33 (25.9 °C)	2.95	621.33 (25.9 °C)	1.02	2.95	50					3.24E+06	20.4				
R0111	H10.11.25	ラ'ンプ引抜	389.5 ± 0.4	0.69 ± 0.01	1.54374	507.36 (25.6 °C)	618.81 (25.6 °C)	2.94	618.81 (25.6 °C)	3.42E-03	2.94	50					5.37E+06	11.8				

¹:密度分析時の温度は25°C²:燃料温度は本体系温度計の値³:sub=未臨界状態を表す⁴:ランプ給液における反応度添加液位は給液終了時の液位

表4.2 運転データ (6/8)

RUNNo.	運転日	運転モード	定出力運転データ						過渡運転データ						出力							
			ウラン濃度 (gU/l)		硝酸濃度 (mol/l)		臨界液位 (mm)		Tr棒未挿入時 (燃料温度) ^{*2}		Tr棒挿入時 (燃料温度) ^{*2}		Tr棒 反応度 値(%)		反応度添加 液位(mm) ^{*3}		初期 出力 (W) ^{*4}	添加 反応 度(%)	Tr棒 駆動 速度 (cm/min)	給液 流量 (ℓ/min)	最大 出力 (W)	積算 出力 (MW·s)
			密度 (g/cc) [*]	T ₁ 棒未挿入時 (燃料温度) ^{*2}	Tr棒挿入時 (燃料温度) ^{*2}	Tr棒挿入時 (燃料温度) ^{*2}	Tr棒 反応度 値(%)	Tr棒 反応度 値(%)	Tr棒 反応度 値(%)	Tr棒 反応度 値(%)	Tr棒 反応度 値(%)	Tr棒 反応度 値(%)	Tr棒 反応度 値(%)	Tr棒 反応度 値(%)	Tr棒 反応度 値(%)	Tr棒 反応度 値(%)	Tr棒 反応度 値(%)	Tr棒 反応度 値(%)	Tr棒 反応度 値(%)	Tr棒 反応度 値(%)	Tr棒 反応度 値(%)	
R0112	H10.12.1	ランプ引抜	390.1 ± 0.6	0.70 ± 0.01	1.54407	507.37 (26.0 °C)	618.89 (26.1 °C)	2.94	618.69 (26.1 °C)	1	2.94	100							8.88E+06	18.7		
R0113	H10.12.8	ランプ引抜	391.7 ± 0.5	0.70 ± 0.01	1.54711	503.14 (25.8 °C)	611.22 (25.8 °C)	2.93	612.27 (25.9 °C)	194.3	2.95	50							2.10E+06	7.5		
R0114	H10.12.15	ランプ引抜	392.8 ± 0.5	0.70 ± 0.01	1.54732	502.63 (25.6 °C)	610.38 (25.6 °C)	2.93	610.38 (25.6 °C)	0.99	2.93	10							8.00E+05	20.0		
R0115	H10.12.22	ランプ引抜	392.9 ± 0.1	0.69 ± 0.01	1.54780	502.00 (25.5 °C)	609.27 (25.5 °C)	2.93	609.27 (25.5 °C)	0.99	2.93	6							4.40E+05	10.9		
R0116	H11.1.19	ランプ引抜	392.9 ± 0.8	0.70 ± 0.01	1.54782	499.87 (25.8 °C)	605.60 (25.8 °C)	2.92	605.60 (25.8 °C)	1.03	2.92	600							9.30E+07	19.0		
R0117	H11.1.26	定出力	394.9 ± 0.3	0.70 ± 0.01	1.55028	496.48 (25.8 °C)													1.88E+02	0.4		
R0118	H11.1.26	定出力	394.9 ± 0.3	0.70 ± 0.01	1.55028	496.88 (26.0 °C)													6.00E+03	4.5		
						512.65 (30.2 °C)																
R0119	H11.6.16	定出力	373.7 ± 0.3	0.66 ± 0.02	1.52183	537.77 (26.2 °C)	674.19 (26.2 °C)	3.00											1.00E+00	0.0		
R0120	H11.6.17	定出力	373.7 ± 0.3	0.66 ± 0.02	1.52183	538.94 (26.2 °C)													4.82E-02	0.0		
R0121	H11.6.17	定出力	373.7 ± 0.3	0.66 ± 0.02	1.52183	538.83 (26.2 °C)													4.82E-02	0.0		
R0122	H11.6.17	定出力	373.7 ± 0.3	0.66 ± 0.02	1.52183	554.93 (29.8 °C)													5.00E+03	3.7		
R0123	H11.6.21	定出力	372.7 ± 0.4	0.66 ± 0.02	1.52075	538.69 (26.2 °C)													4.56E-02	0.0		
R0124	H11.6.21	定出力	372.7 ± 0.4	0.66 ± 0.02	1.52075	538.78 (26.3 °C)													4.42E-02	0.0		
R0125	H11.6.21	定出力	372.7 ± 0.4	0.66 ± 0.02	1.52075	538.72 (26.4 °C)													4.69E-02	0.0		
R0126	H11.6.21	定出力	372.7 ± 0.4	0.66 ± 0.02	1.52075	538.80 (26.4 °C)													4.69E-02	0.0		
R0127	H11.6.22	定出力	372.7 ± 0.4	0.66 ± 0.02	1.52075	675.12 (26.1 °C)													4.82E-02	0.0		
R0128	H11.6.22	定出力	372.7 ± 0.4	0.66 ± 0.02	1.52075	675.62 (26.3 °C)													4.62E-02	0.0		
R0129	H11.6.22	定出力	372.7 ± 0.4	0.66 ± 0.02	1.52075	675.24 (26.3 °C)													4.56E-02	0.0		
R0130	H11.6.23	定出力	372.7 ± 0.4	0.66 ± 0.02	1.52075	674.60 (26.1 °C)	3.00												1.00E+04	7.5		
R0131	H11.6.29	定出力	373.9 ± 0.3	0.66 ± 0.01	1.52113	533.89 (25.9 °C)	665.26 (25.9 °C)	2.97											2.68E-01	0.0		
R0132	H11.7.6	定出力	373.4 ± 0.2	0.65 ± 0.01	1.52143	536.78 (25.9 °C)	672.12 (25.9 °C)	3.00											3.22E-01	0.0		

*1:密度分析時の温度は25°C

*2:燃料温度は本体系温度計の値

*3:su=未臨界状態を表す

*4:ランプ給液における反応度添加液位は給液終了時の液位

表4.2 運転データ (7/8)

RUNNo.	運転日	運転モード	定出力運転データ						過渡運転データ						出力											
			ウラン濃度 (gU/l)			硝酸濃度 (mol/l)			臨界液位 (mm)		Tr棒未挿入時 反応度 値(%)		Tr棒挿入時 反応度 値(%)		初期出力 (W) ^{*4}		添加反応度 (%)		Tr棒駆動速度 (cm/min)		給液流量 (ℓ/min)		最大出力 (W)		総出力 (MW·s)	
			密度 (g/cc)*1	Tr棒未挿入時 (燃料温度) ^{*2}	Tr棒挿入時 (燃料温度) ^{*2}	密度 (g/cc)*1	Tr棒未挿入時 (燃料温度) ^{*2}	Tr棒挿入時 (燃料温度) ^{*2}	反応度添加 液位(mm)*3	反応度添加 液位(mm)*3	反応度 値(%)	反応度 値(%)	初期出力 (W)	添加反応度 (%)	初期出力 (W)	添加反応度 (%)	初期出力 (W)	添加反応度 (%)	初期出力 (W)	添加反応度 (%)	初期出力 (W)	添加反応度 (%)	初期出力 (W)	添加反応度 (%)		
R0133	H11.7.7	定出力	373.4 ± 0.2	0.65 ± 0.01	1.52143	536.99	(26.0 °C)															1.00E+04	7.3			
R0134	H11.7.12	ハルス引抜	373.7 ± 0.4	0.67 ± 0.01	1.52109	536.82	(31.9 °C)	672.42	(26.0 °C)	3.00	672.42	(26.0 °C)	1	3.00								1.70E+09	21.2			
R0135	H11.7.21	ハルス引抜	373.3 ± 0.5	0.67 ± 0.01	1.52195	535.71	(26.0 °C)	670.36	(26.0 °C)	3.00	670.36	(26.0 °C)	1	3.00								1.70E+09	21.2			
R0136	H11.10.26	定出力	374.5 ± 0.3	0.67 ± 0.01	1.52195	533.84	(26.5 °C)	665.27	(26.5 °C)	2.97												3.69E-01	0.0			
R0137	H11.11.2	定出力	374.8 ± 0.3	0.65 ± 0.02	1.52141	535.74	(27.3 °C)															1.06E+00	0.0			
R0138	H11.11.2	ハルス引抜	374.8 ± 0.3	0.65 ± 0.02	1.52141	535.78	(27.4 °C)	668.97	(27.4 °C)	2.97	616.57	(27.4 °C)	sub	2.00								5.80E+08	12.0			
R0139	H11.11.8	定出力	375.0 ± 0.5	0.67 ± 0.01	1.52239	530.98	(25.1 °C)															1.04E+00	0.0			
R0140	H11.11.8	ハルス引抜	375.0 ± 0.5	0.67 ± 0.01	1.52239	531.40	(25.5 °C)	660.57	(25.4 °C)	2.96	660.57	(25.4 °C)	1.02	2.96								1.65E+09	20.6			
R0141	H11.11.15	ハルス引抜	375.5 ± 0.3	0.67 ± 0.02	1.52306	531.16	(24.8 °C)	660.42	(24.9 °C)	2.96	660.42	(24.9 °C)	1.04	2.96								1.65E+09	21.0			
R0142	H11.12.3	ハルス引抜	376.2 ± 0.4	0.65 ± 0.01	1.52318	528.29	(24.6 °C)	656.28	(24.6 °C)	2.98	656.28	(24.6 °C)	1.04	2.98								1.65E+09	20.5			
R0143	H12.1.11	ハルス引抜	375.9 ± 0.2	0.64 ± 0.01	1.52371	527.61	(24.7 °C)	655.05	(24.7 °C)	2.98	551.83	(25.0 °C)	sub	0.70								5.15E+05	4.8			
R0144	H12.1.26	定出力	376.3 ± 0.4	0.65 ± 0.01	1.52385	525.95	(24.2 °C)															3.00E+01	0.3			
R0145	H12.1.27	定出力	376.3 ± 0.4	0.65 ± 0.01	1.52385	525.81	(24.2 °C)															3.00E+01	0.3			
R0146	H12.2.1	定出力	376.2 ± 0.3	0.64 ± 0.01	1.52430	526.20	(24.3 °C)															3.08E-02	0.0			
R0147	H12.2.1	シフ引抜	376.2 ± 0.3	0.64 ± 0.01	1.52430	526.22	(24.5 °C)	652.17	(24.4 °C)	2.97	581.26	(24.5 °C)	0.94	1.50	80							5.25E+06	16.5			
R0148	H12.2.14	定出力	376.6 ± 0.4	0.64 ± 0.01	1.52471	525.38	(24.3 °C)															3.00E+04	0.4			
R0149	H12.2.17	シフ給液	375.7 ± 0.2	0.64 ± 0.01	1.52414	525.66	(24.4 °C)	651.10	(24.4 °C)	2.97	580.05	(24.6 °C)	sub	1.49							60	1.80E+07	11.3			
R0150	H12.2.22	シフ引抜	376.7 ± 0.6	0.65 ± 0.01	1.52475	524.95	(24.3 °C)	649.93	(24.4 °C)	2.97	579.63	(24.6 °C)	0.98	1.50	600							5.80E+07	9.5			
R0151	H12.2.28	シフ引抜	376.9 ± 0.3	0.64 ± 0.01	1.52503	524.71	(24.4 °C)	649.31	(24.3 °C)	2.97	649.31	(24.3 °C)	1.1	2.97	260							3.25E+07	17.2			
R0152	H12.4.4	シフ引抜	376.1 ± 0.3	0.63 ± 0.01	1.52460	526.52	(24.6 °C)	652.77	(24.6 °C)	2.97	652.77	(24.6 °C)	1	2.97	285							3.25E+07	17.6			
R0153	H12.4.11	シフ引抜	377.9 ± 0.3	0.62 ± 0.01	1.52395	526.42	(24.9 °C)	652.86	(25.0 °C)	2.98	652.86	(25.0 °C)	1.02	2.98	50							3.20E+06	21.3			
R0154	H12.4.18	シフ引抜	377.4 ± 0.7	0.63 ± 0.01	1.52435	525.54	(24.9 °C)	651.01	(24.9 °C)	2.97	651.01	(24.9 °C)	1.04	2.97	10							6.90E+05	16.9			

*1 密度分析時の温度は25°C

*2 燃料温度は本体系温度計の値

*3 sub=未臨界状態を表す

*4. ランプ給液における反応度添加液位は給液終了時の液位

表4.2 運転データ (8/8)

RUNNo.	運転日	運転モード	定出力運転データ						過渡運転データ						出力	
			ウラン濃度 (g/J/l)	硝酸濃度 (mol/l)	密度 (g/cc)*	臨界液位 (mm)		Tr棒未挿入時 (燃料温度)**	Tr棒挿入時 (燃料温度)**	Tr棒反応度 値(%)	初期出力 (W)**	添加応 反度(%)	Tr棒駆動 速度 (cm/min)	給液 流量 (ℓ/min)		
						Tr棒未挿入時 (燃料温度)**	反応度添加 液位 (mm)*3									
R0155	H12.4.25	ラップ引抜	377.0 ± 0.4	0.63 ± 0.01	1.52463	525.83 (25.3 °C)	651.80 (25.4 °C)	2.98	651.80 (25.4 °C)	1	2.98	875	1.38E+08	19.9		
R0156	H12.5.11	ハルス引抜	377.5 ± 0.1	0.64 ± 0.01	1.52476	526.17 (26.1 °C)	652.33 (26.2 °C)	2.98	581.29 (26.2 °C)	sub	1.50			1.71E+08	9.6	
R0157	H12.5.17	ハルス引抜	378.4 ± 0.9	0.62 ± 0.01	1.52532	524.75 (26.5 °C)	649.74 (26.5 °C)	2.97	649.74 (26.5 °C)	1.04	2.97			1.59E+09	22.3	
R0158	H12.5.23	ハルス引抜	380.1 ± 0.3	0.62 ± 0.01	1.52630	524.36 (27.0 °C)	649.04 (27.1 °C)	2.97	614.51 (27.1 °C)	sub	2.30			8.30E+08	15.5	
R0159	H12.6.7	ラップ給液	379.4 ± 0.4	0.6 ± 0.02	1.52649	524.50 (26.1 °C)	649.46 (26.2 °C)	2.98	540.90 (26.4 °C)	sub	0.49			1.26E+05	5.1	
R0160	H12.6.13	ラップ給液	379.5 ± 0.8	0.6 ± 0.01	1.52672	524.21 (26.3 °C)	648.84 (26.3 °C)	2.97	541.08 (26.6 °C)	sub	0.51			60	1.22E+05	5.4
R0161	H12.6.20	ラップ給液	380.4 ± 0.4	0.61 ± 0.01	1.52766	522.89 (26.1 °C)	646.25 (26.2 °C)	2.97	550.90 (26.4 °C)	sub	0.82			60	7.70E+05	8.4
R0162	H12.6.27	定出力	381.2 ± 0.4	0.6 ± 0.01	1.52876	520.59 (26.1 °C)									1.00E+02	0.5
R0163	H12.7.4	ラップ給液	379.8 ± 0.4	0.61 ± 0.01	1.52901	520.96 (26.3 °C)	642.96 (26.3 °C)	2.97	564.51 (26.5 °C)	sub	1.25			60	1.56E+07	13.2
R0164	H12.7.11	ラップ給液	382.3 ± 0.3	0.62 ± 0.01	1.53097	516.90 (26.1 °C)	635.65 (26.2 °C)	2.96	569.85 (26.4 °C)	sub	1.51			60	1.91E+07	16.3
R0165	H12.7.18	定出力	385.1 ± 0.2	0.61 ± 0.01	1.53396	511.37 (26.1 °C)									9.80E+00	0.0
R0166	H12.7.25	ハルス引抜	384.9 ± 0.1	0.61 ± 0.01	1.53445	512.58 (26.4 °C)	627.80 (26.4 °C)	2.95	563.73 (26.5 °C)	sub	1.50				1.62E+08	16.1
R0167	H12.8.2	ラップ給液	387.5 ± 0.2	0.62 ± 0.01	1.53845	505.71 (26.0 °C)	615.90 (26.1 °C)	2.94	601.69 (26.1 °C)	sub	2.64			60	1.68E+07	26.5
R0168	H12.8.8	定出力	388.2 ± 0.2	0.61 ± 0.01	1.53882	504.92 (26.2 °C)									9.80E-01	0.0
R0169	H12.8.22	ラップ給液	387.8 ± 0.3	0.61 ± 0.01	1.53841	505.88 (26.1 °C)	616.11 (26.1 °C)	2.94	599.69 (26.2 °C)	sub	2.59			60	2.10E+07	25.0
R0170	H12.8.29	定出力	387.9 ± 0.1	0.61 ± 0.01	1.53839	504.39 (26.0 °C)									7.80E+00	0.0
R0171	H12.10.11	定出力	388.0 ± 0.4	0.62 ± 0.01	1.53897	512.32 (26.0 °C)	628.90 (26.0 °C)	2.98							9.80E-01	0.0
R0172	H12.10.17	ハルス引抜	388.0 ± 0.5	0.63 ± 0.01	1.53885	512.38 (25.7 °C)	628.77 (25.7 °C)	2.97	559.53 (25.8 °C)	sub	1.39				1.05E+08	6.5
R0173	H12.10.24	定出力	388.0 ± 0.3	0.62 ± 0.01	1.53880	510.92 (25.0 °C)									1.00E+00	0.0
R0174	H12.10.31	ハルス引抜	388.4 ± 0.8	0.60 ± 0.02	1.53878	511.07 (25.1 °C)	626.48 (25.1 °C)	2.97	527.36 (25.1 °C)	sub	0.52				1.86E+05	5.6
R0175	H12.11.7	ラップ引抜	388.4 ± 0.8	0.65 ± 0.02	1.53878	510.63 (25.6 °C)	625.85 (25.6 °C)	2.98	625.92 (25.6 °C)	1.14E-03	2.98	875			1.86E+05	19.2
R0176	H12.11.28	ハルス引抜	388.7 ± 0.8	0.61 ± 0.02	1.53878	509.70 (25.1 °C)	624.27 (25.2 °C)	2.97	525.20 (25.3 °C)	sub	0.50				1.86E+05	3.5

*1密度分析時の温度は25°C

*2燃料温度は本体系温度計の値

*3sub=未臨界状態を表す

*4.ランプ給液における反応度添加液位は給液終了時の液位

4.1 臨界液位

体系に中性子源が無い状態において、運転系線型出力系の出力指示値が一定になったときを臨界として臨界液位を測定する。臨界液位の測定は触針式液位計（精度±0.2mm）で行う。ウラン濃度と臨界液位の関係を図4.1に示す。TRACYではTr棒未挿入時の体系とTr棒挿入時の体系があるため、2通りの臨界液位が測定される。臨界液位は概ねウラン濃度により決定され、ウラン濃度の減少と共に臨界液位は上昇する。

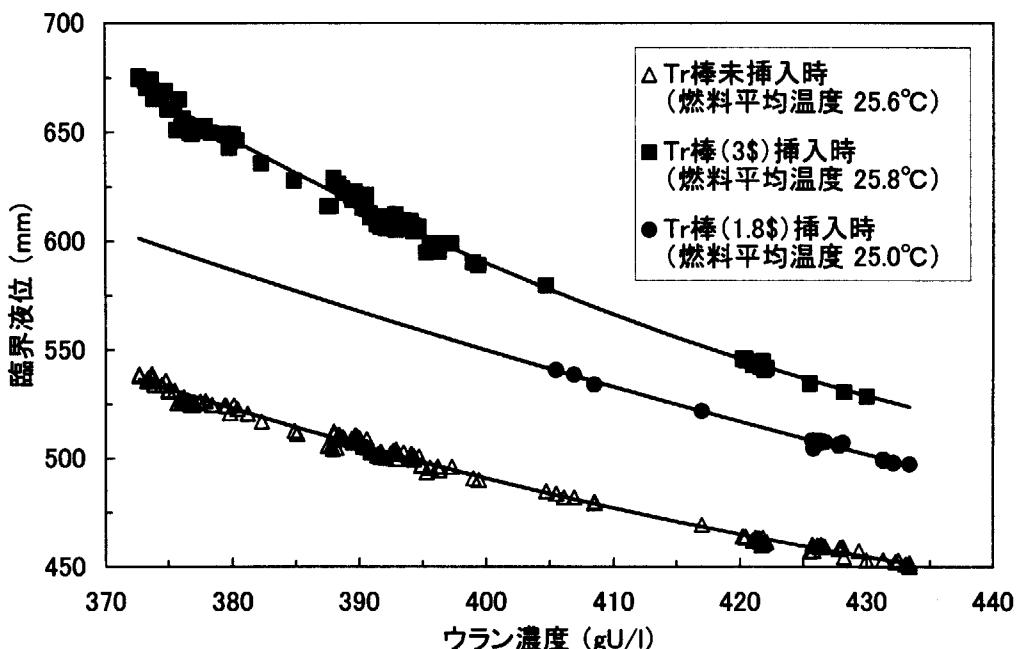


図4.1 ウラン濃度と臨界液位

4.2 Tr棒の反応度価値

4.2.1 Tr棒反応度価値の測定

Tr棒の反応度価値はTr棒の有無による臨界液位の差から算出する。各液位における液位反応度 $d\rho/dH$ (¢/mm) は次式で与えられる。ここでC及びλは1.8\$Tr棒の反応度価値評価用に臨界液位と液位反応度の関係をフィッティングして求めたものである。

$$\frac{d\rho}{dh} = \frac{C}{(H + \lambda)^3} \quad (C = 7.671 \times 10^8 \text{ (¢/mm}^2\text{)}, \lambda = 102 \text{ (mm)})$$

Tr棒未挿入時、挿入時の臨界液位をそれぞれ H_1 、 H_2 とすると Tr棒の反応度価値 $\rho_{Tr}(\$)$ は次式で表される。

$$\rho_{Tr} = \int_{H_1}^{H_2} \frac{d\rho}{dh} dh = \frac{C}{2} \left(\frac{1}{(H_1 + \lambda)^2} - \frac{1}{(H_2 + \lambda)^2} \right)$$

過渡運転時の添加反応度 ρ_{ex} についても同様に初期液位を H_i とすると

$$\rho_{ex} = \int_{H_i}^{H_f} \frac{d\rho}{dh} dh = \frac{C}{2} \left(\frac{1}{(H_i + \lambda)^2} - \frac{1}{(H_f + \lambda)^2} \right)$$

となる。

臨界液位と液位反応度の関係を図4.2に示す。1.8\$Tr棒において求めたC及び λ は、3\$Tr棒を用いた時の高い臨界液位(>550mm)においても適用できることを確認した。

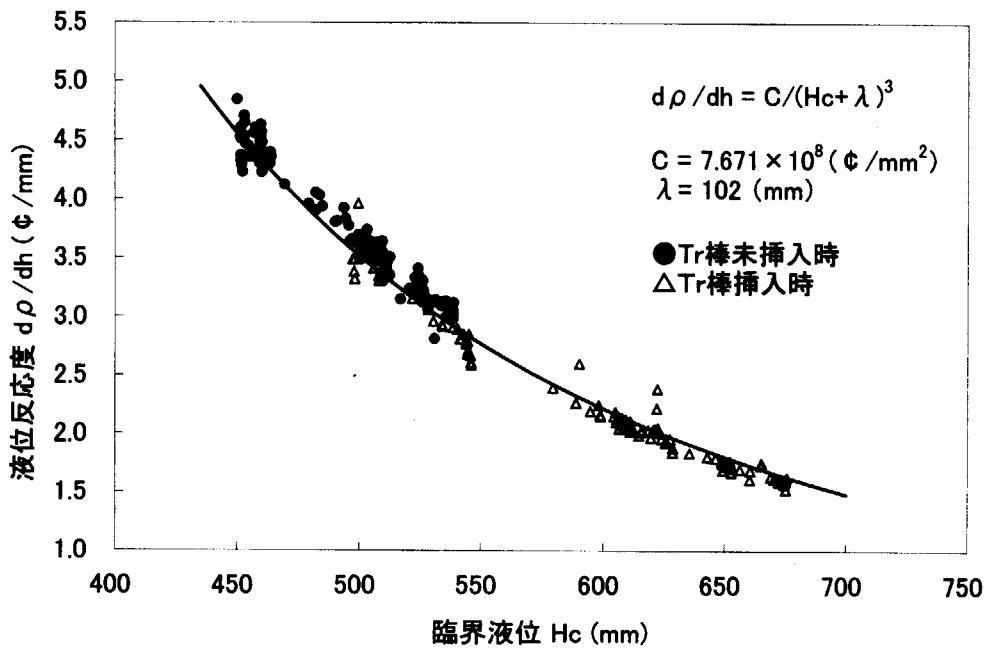


図4.2 臨界液位と液位反応度

4.2.2 Tr棒位置による反応度効果

Tr棒の反応度価値を中性子源増倍法及びパルス中性子法により求めた^[4]。

(1) 中性子源増倍法による測定^{[5],[6]}

臨界液位 H_c (mm)と液位反応度 $d\rho/dh$ (\$/mm)を測定する。燃料を少し排液して未臨界状態とし、中性子源を挿入する。未臨界度は排液後の液位 H で決まり、中性子計数率 N は未臨界度に応じた一定値となる。このときの液位 H (mm)と計数率 N (cps)を測定すると、未臨界度は $d\rho/dh \cdot (H_c - H)$ で表されるので反応度と計数率の積 S (\$·cps)は、 $S = N \cdot d\rho/dh \cdot (H_c - H)$ で表される定数となる。液位を一定に保ったままTr棒の位置を変えて計数率 N を測定すると、Tr棒の反応度価値 ρ (\$)は $\rho = S/N$ で求められる。未臨界度が大きくなると、中性子束分布が歪むためにこの式は適用できなくなる。このため、計算によりこの歪みを補正する必要がある。ここではMVPコード^[7]（核データライブラリ：JENDL3.2^[8]）を用いた計算により補正を行った。

(2) パルス中性子法による測定^{[5],[6]}

Tr棒未挿入の未臨界状態において、即発中性子減衰定数 α をパルス中性子法により測定する。液位を変えることにより未臨界度を変えて測定を行い、得られた結果を未臨界度0、すなわち臨界まで外挿することで、Tr棒未挿入時の臨界液位における即発中性子減衰定数 α_c が求められる。Tr棒の位置を変えて α を求めると、Tr棒の反応度価値は $\rho = \alpha / \alpha_c - 1$ で求められる。

図4.3に測定結果を示す。中性子源増倍法とパルス中性子法による測定結果はほぼ一致した。また、この測定結果のフィッティングカーブをTr棒の位置について微分することによりTr棒位

置による微分反応度を求めた。測定時の臨界液位は約 460mm であり Tr 棒の中性子吸収材の下端が炉心中心部を移動するときに最も Tr 棒の微分反応度効果が大きくなることを確認した。

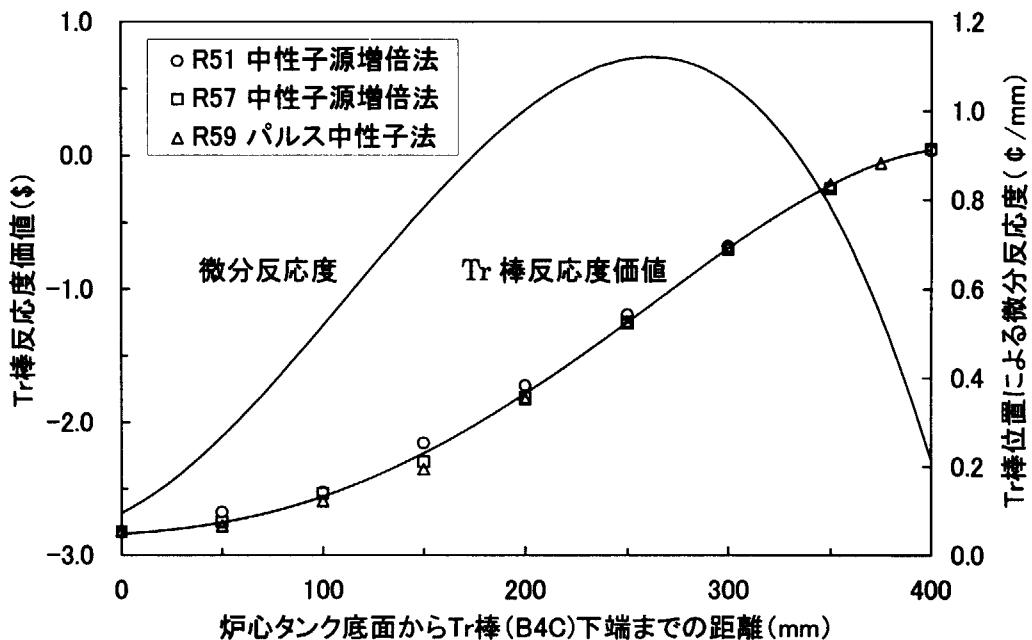


図 4.3 Tr 棒の位置による反応度価値及び微分反応度の測定結果

4.3 核計装の出力較正

3 章にも述べたように運転の前後には貯槽から溶液燃料をサンプリングして分析を行う。分析では運転前、運転後それぞれの燃料に含まれる FP 核種の放射能強度を測定し、運転によりどのくらいの FP が生成したかを知ることができるので、FP の生成量と U-235 の核分裂収率から核分裂数がわかり、積算出力を求めることができる。この FP 分析による積算出力と核計装で測定される積算出力が一致するように核計装のゲイン調整を行うことで核計装の出力較正を行う。

4.3.1 積算出力評価式

表 4.3 に出力較正において着目した FP 核種を示す。La-140 は Ba-140 の娘核種であるが、測定時間内には放射平衡に達しないため、Ba-140、La-140 の崩壊定数を用いた微分方程式を解いて Ba-140 の放射能に変換することで評価した。

表 4.3 TRACY の出力較正に用いる FP 核種^{[9],[10]}

項目	Ce-143	Ba-140	Zr-95	Ru-103	La-140	Mo-99
半減期 (d)	1.38	12.75	64.02	39.26	1.68	2.75
崩壊定数	5.813E-6	6.291E-7	1.253E-7	2.043E-7	4.780E-6	2.917E-6
核分裂収率	0.0594	0.0629	0.0650	0.0303	0.0629	0.0611

積分出力の評価式を以下に示す。

(1) ダンプ槽貯留燃料中の放射能の評価

$$A_j = \frac{B_j}{0.5} \times V_j \times 1000$$

$$V_j = 0.2566h_j - 40.66 \quad (h > 280)$$

A_j : 時刻 j におけるダンプ槽貯留燃料中の放射能 [Bq]

B_j : 時刻 j における FP 分析結果 [Bq/0.5cc]

V_j : 時刻 j におけるダンプ槽ⅢA 貯留燃料の体積 [ℓ]

h_j : 時刻 j におけるダンプ槽ⅢA の液位指示値 [mm]

(2) 運転により生成した放射能の評価

$$C_1 = A'_{j+1} - A'_j$$

$$= A_{j+1} \cdot \exp(-\lambda \cdot t_a) - A_j \cdot \exp(-\lambda \cdot t_b)$$

C_1 : 運転終了時の正味の放射能生成量 [Bq]

A'_j : 運転終了時のバックグラウンド放射能 [Bq]

A'_{j+1} : 運転終了時の放射能 [Bq]

A_j : 運転前の FP 分析時 (時刻 j) の放射能 [Bq]

A_{j+1} : 運転後の FP 分析時 (時刻 j+1) の放射能 [Bq]

t_b : 運転前の FP 分析 (時刻 j) から運転終了までの時間 [s]

t_a : 運転終了から運転後の FP 分析 (時刻 j+1) までの時間 [s]

λ : FP の崩壊定数 [s^{-1}]

(3) FP 分析結果に基づく積算出力評価

$$IP_n = \frac{C_n \cdot E}{\lambda \cdot Y}$$

IP_n : FP 分析結果に基づく積算出力 [W·h]

E : ^{235}U の 1 核分裂当たりの放出熱エネルギー ($= 8.89 \times 10^{-15}$) [W·h/fission]

λ : FP の崩壊定数 [s^{-1}]

Y : FP の核分裂収率 [1/fission]

(4) La-140 の放射能評価 (Ba-140 の放射能への変換)

時間 t における Ba-140, La-140 それぞれの放射能は

$$A_2 = \frac{\lambda_1}{\lambda_2 - \lambda_1} A_{10} (\exp(-\lambda_1 \cdot t) - \exp(-\lambda_2 \cdot t)) + A_{20} \exp(-\lambda_2 \cdot t)$$

A_2 : 時間 t における La の放射能 [Bq]

λ_1 : Ba-140 の崩壊定数 [s^{-1}]

λ_2 : La-140 の崩壊定数 [s^{-1}]

A_{10} : $t=0$ における Ba の放射能 [Bq]

A_{20} : $t=0$ における La-140 の放射能 [Bq]

$t=t_1$ における La-140 の放射能 A_{2t1} は

$$A_{2t1} = \frac{\lambda_1}{\lambda_2 - \lambda_1} A_{10} (\exp(-\lambda_1 \cdot t_1) - \exp(-\lambda_2 \cdot t_1)) + A_{20} \exp(-\lambda_2 \cdot t_1)$$

$t=t_2$ における La-140 の放射能 A_{2t2} は

$$A_{2t2} = \frac{\lambda_1}{\lambda_2 - \lambda_1} A_{10} (\exp(-\lambda_1 \cdot t_2) - \exp(-\lambda_2 \cdot t_2)) + A_{20} \exp(-\lambda_2 \cdot t_2)$$

$$\frac{\lambda_1}{\lambda_2 - \lambda_1} = a$$

$$\exp(-\lambda_2 \cdot t_1) = b$$

$$\exp(-\lambda_2 \cdot t_2) = c$$

$$\exp(-\lambda_1 \cdot t_1) - \exp(-\lambda_2 \cdot t_1) = d$$

$$\exp(-\lambda_1 \cdot t_2) - \exp(-\lambda_2 \cdot t_2) = e$$

として簡略化すると

$$A_{10} = \frac{\left(\frac{A_{2t2}}{c} - \frac{A_{2t1}}{b} \right)}{\left(\frac{ae}{c} - \frac{ad}{b} \right)}$$

したがって $t=t_1$ 、 $t=t_2$ 時の La-140 の放射能から $t=0$ における Ba-140 の放射能を求めることができる。

4.3.2 積算出力評価結果

代表的な運転状況において、FP 分析により求めた積算出力を表 4.4 に示す。尚、放射能強度の測定誤差やダンプ槽における燃料体積の誤差などを考慮した積算出力の誤差は 5~10%程度である。定出力運転におけるそれぞれの核種の積算出力は平均値に対して 8%以内に収まっており、Zr-95 を除いた場合には 2%以内で一致する。Zr-95 は半減期が長いため、定出力運転のように積算出力が小さいケースでは十分な放射能強度が得られず、誤差が大きくなる傾向にある。過渡出力運転時には、Ba-140/La-140 を除いた核種については平均値に対して 6%以内で一致しているが、Ba-140/La-140 による評価結果が他の核種の平均値に対して 20~35%程度低くなることが分かった。この原因として Ba-140、La-140 の生成過程に存在する半減期約 13.6s の放射性ガス Xe-140（半減期約 13.6s、収率 3.8%）が過渡運転時に気相に移行することが考えられる。Mo-99 や Ce-143 の生成過程にも Kr、Xe、I などの放射性ガスが存在するが、収率が小さく (1×10^{-9} ~ 0.04%)、半減期も短い (0.1 ~ 1s) ことから影響が少ないと思われる。過渡出力運転時には短時間のうちに放射線分解ガスが発生して気相に移行するが、その際に Xe-140 が放射線分解ガスに同伴して気相部へ放出されていると考えられる。それに対して、定出力運転時には放射線分解ガスの発生や気相への移行が無いために Xe-140 は溶液内に閉じ込められ、気相へ放出されないものと思われる。

これらの傾向を踏まえて、定出力運転時においては Zr 以外の核種、過渡出力運転時には Ba-140、La-140 を除く核種の平均値をとって積算出力の真値としている。

表 4.4 FP 分析による積算出力評価結果

RunNo.	運転状況（最大出力）	各着目核種による積分出力 (MW·s)					
		Ce143	Ba140	Zr95	Ru103	La140	Mo99
43	定出力運転 (5kW)	4.03	4.04	3.67	4.11	3.98	4.05
53	定出力運転 (10kW)	4.28	4.15	3.89	4.24	4.13	4.25
56	パルス引抜 2.8\$ (1020MW)	16.8	12.0	17.3	17.6	11.2	17.2
61	ランプ給液 2.6\$ (21MW)	17.8	14.3	16.2	17.0	14.1	17.7
62	ランプ引抜 2.8\$ (107MW)	20.2	17.3	20.0	20.5	16.5	20.8

4.4 過渡運転時の出力波形

図 4.4 に過渡運転時の出力波形の一例を示す。過渡運転時には出力が急激に上昇して燃料温度の上昇や放射線分解ガスの生成が起こる。この結果、中性子の漏れ量の増加やドップラー効果による共鳴吸収の増加により出力は急激に低下する（初期バースト）が、ガスが溶液中から抜けると出力は再び上昇する。出力の上昇と下降を何度も繰り返したのち（出力振動）、添加した反応度が温度の上昇による負の反応度と平衡して臨界となり出力はほぼ一定（プラトー）となる。3つの運転モードにおける第1パルス出力波形の比較を図 4.5 に示す。図中の各波形は出力上昇の開始時刻を基準としたものである。図に示すようにピーク出力やパルスの半値幅、出力振動の様子は運転条件により異なっている。（各運転の詳細は付録の図参照）

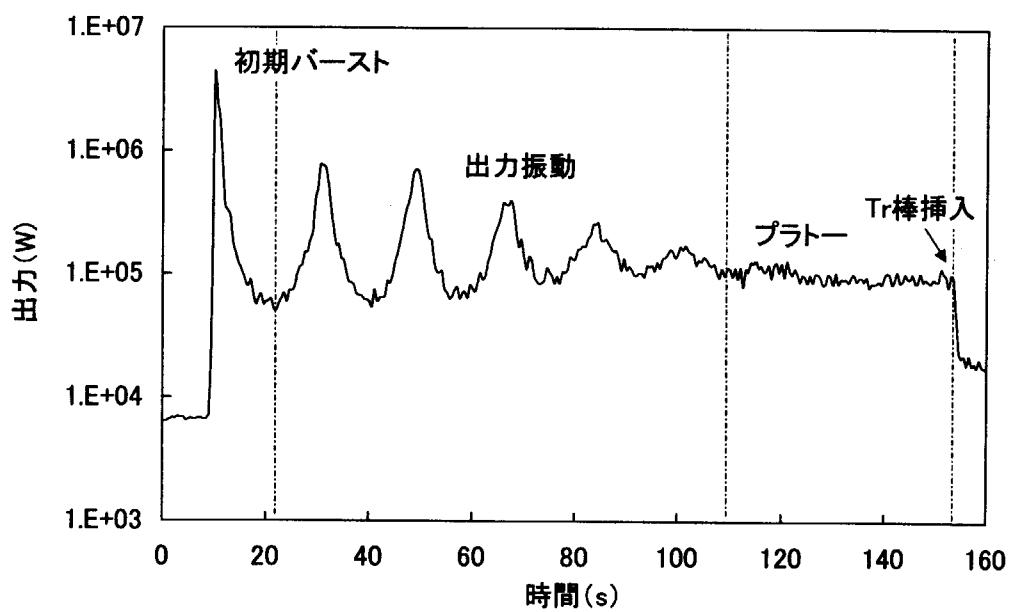


図 4.4 過渡運転時の出力波形 (R76 : ランプ給液 2.65\$, 20ℓ/min)

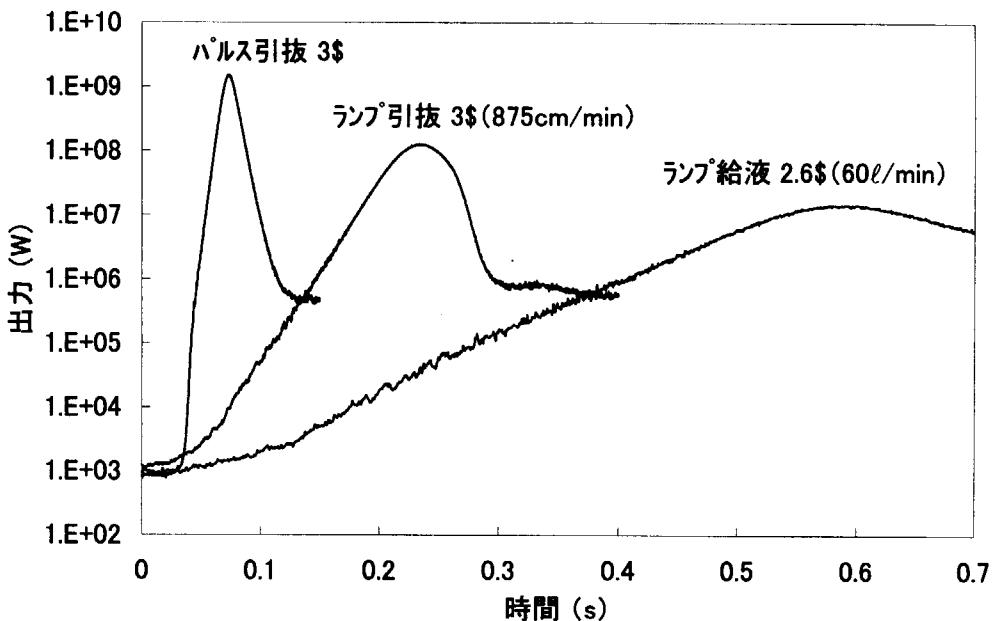


図 4.5 第 1 パルス出力波形の比較

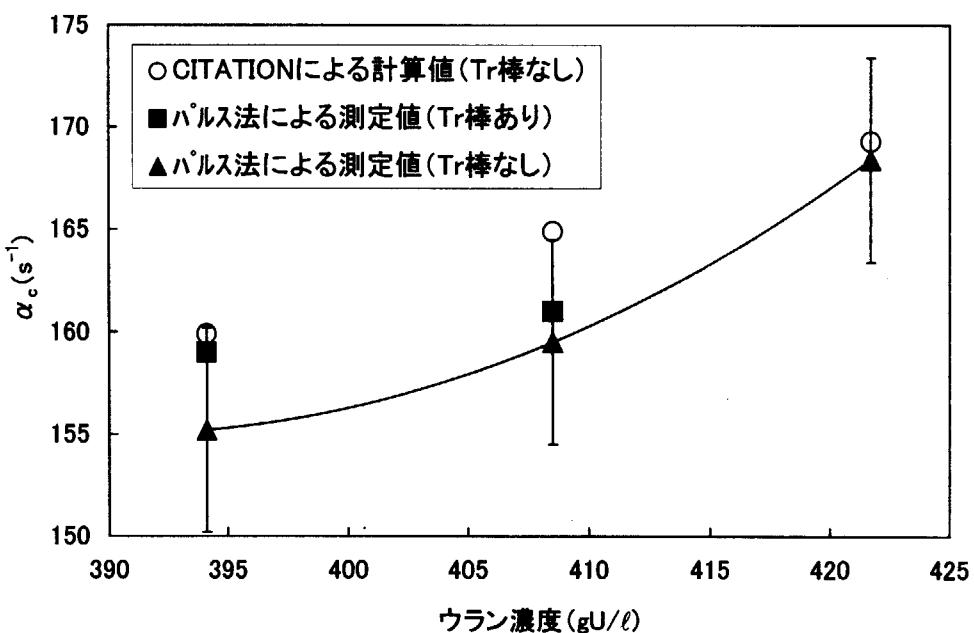
4.5 パルス引抜時における安定逆炉周期 ω の測定^[11]

安定逆炉周期 ω (s^{-1}) は過渡臨界事象を理解するための有用なパラメータの 1 つである。1\$を超える反応度をステップ状に添加した場合、ピーク出力 N_p (W)、第 1 ピークまでの放出エネルギー E_p (J) は Nordheim-Fuchs モデル^[12]により $N_p \propto \omega^2$ 、 $E_p \propto \omega$ の関係にある。

4.5.1 即発中性子減衰定数 α_c の測定

安定逆炉周期 ω はステップ状の添加反応度を ρ (\$), 即発中性子減衰定数を α_c (s^{-1}) すると $\omega = (\rho - 1) \alpha_c$ の関係にあることから、 α_c は ω を評価する上で重要なパラメータである。

測定では燃料液位を変えることにより未臨界度をいくつか設定し、パルス中性子法で α を求めた。この未臨界度に対する α の測定結果を未臨界度 0 まで外挿して臨界時の α_c を求めた。ウラン濃度と α_c の関係を図 4.6 に示す。測定値を SRAC95^[13] コードシステム内蔵の CITATION^[14] コードによる計算値（中性子エネルギー：17 群、核データライブラリ：JENDL3.2）と比較したところ、両者は誤差の範囲内で一致した。 α_c は遅発中性子割合を β 、即発中性子寿命を ℓ とすると $\alpha_c = \beta / \ell$ で表される。 α_c はウラン濃度の上昇に伴って増加するが、これは臨界液位の低下による中性子の漏れ量の増加や、燃料に吸収される中性子の増加により即発中性子寿命が短くなることによると考えられる。

図 4.6 ウラン濃度と α_c

4.5.2 逆炉周期 ω の測定

パルス中性子法で求めた α_c と CITATION により求めた α_c を $\omega = (\rho - 1)\alpha_c$ の関係式に用いてそれぞれの ω を算出する。ここで用いる α_c は Tr 棒が無い体系における値である。

また、1\$を超える反応度をステップ状に添加（パルス引抜）したときの核計装（過渡対数出力系）による炉周期 T の測定値を用いて $\omega = 1/T$ (s⁻¹) の関係式より ω を求めた。

ステップ状の添加反応度と逆炉周期の関係を図 4.7 に示す。パルス中性子法及び CITATION により求めた α_c を用いて算出した逆炉周期と核計装による測定値はほぼ誤差の範囲内で一致した。

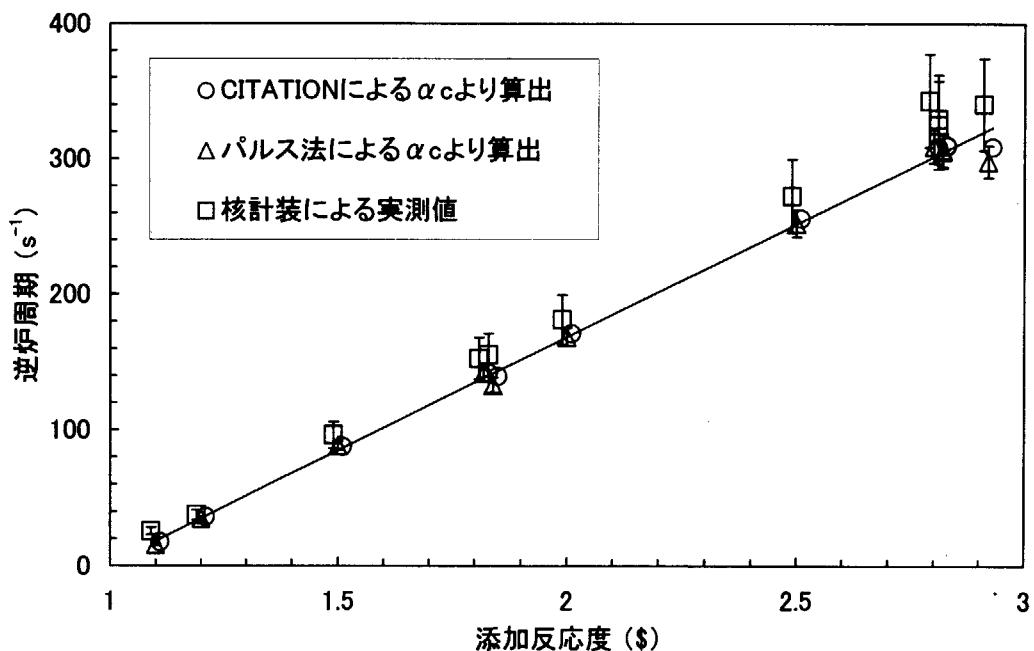


図 4.7 ステップ状添加反応度と逆炉周期

4.6 ピーク出力及び積算出力の評価

ピーク出力 N_p 及び第 1 パルスピークまでの積算出力 E_p について、次式に示す Nordheim-Fuchs モデルによる計算値と実測値の比較を行った。

$$N_p = -C_p \cdot d \cdot \ell \cdot V \cdot \omega^2 \cdot (2\alpha_t \cdot W)^{-1}$$

$$E_p = -C_p \cdot d \cdot \ell \cdot V \cdot \omega \cdot (\alpha_t \cdot W)^{-1}$$

C_p : 比熱 ($J \cdot kg^{-1} \cdot ^\circ C^{-1} \cdot m^{-3}$) [2.5×10^3]

d : 密度 ($kg \cdot m^{-3}$) [1.6×10^3]

ℓ : 即発中性子寿命 (s) [4.3×10^{-5}]

V : 炉心の体積 (m^3) [0.1]

α_t : 温度反応度係数 ($\Delta k/k \cdot ^\circ C^{-1}$) [-3.6×10^{-4}]

[] 内は TRACY の解析に使用している値^{[15][16]}である。

逆炉周期 ω とピーク出力、第 1 パルスピークまでの積算出力の関係を図 4.8 及び図 4.9 に示す。ピーク出力、積算出力共に ω が大きくなるに従って計算値と実測値の差が大きくなるが、この要因はボイドの発生によると考えられる。Nordheim-Fuchs モデルは温度反応度効果を考慮しているが、放射線分解ガスの発生に伴うボイド反応度効果は考慮されていない。また、核計装検出器の応答特性が影響している可能性もあり、出力についてはさらに詳細な評価を進めているところである。

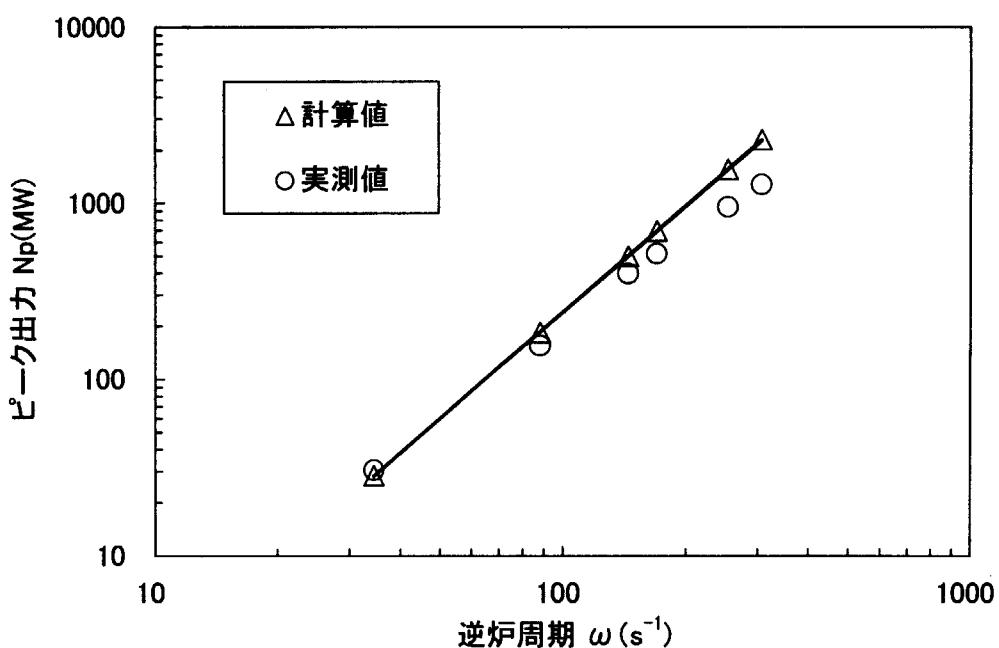


図 4.8 逆炉周期とピーク出力

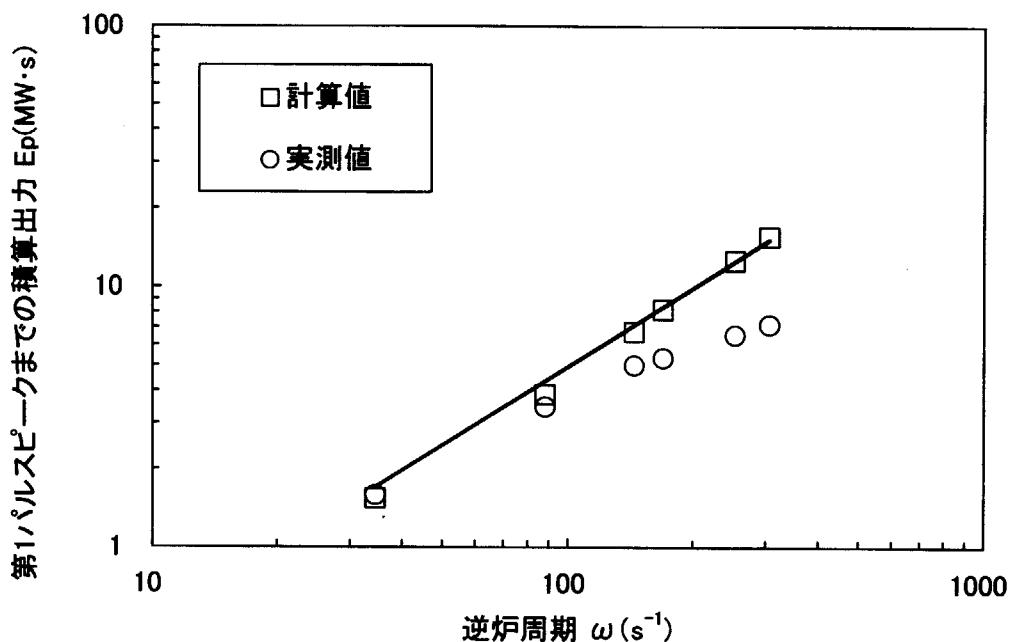


図 4.9 逆炉周期と第 1 パルスピークまでの積算出力

4.7 反応度添加率と出力

4.7.1 反応度添加率とピーク出力

図 4.10 にランプ給液及びランプ引抜時の平均反応度添加率とピーク出力の関係を示す。ここで述べる平均反応度添加率とは添加反応度を添加時間で除したものであり、添加時間はランプ給液においては臨界液位 (Tr 棒無し) を超えてから初期設定液位に達するまでの時間、ランプ引抜においては Tr 棒が初期設定液位から完全に抜けきるまでの時間としている。

実際には 4.2 節に述べたようにランプ給液時には燃料液位による液位反応度の違い (4.2.1 項) があり、ランプ引抜時には Tr 棒の位置 (4.2.2 項) によって反応度の効果が異なる。よって反応度添加率は時間とともに変化することになるが、ここでは平均の反応度添加率を使って整理した。

反応度添加率とピーク出力は比例関係にあるが、過渡運転開始前の初期出力が高い程ピーク出力は低くなる傾向にある。これは初期出力が高い場合、温度などによる負の反応度フィードバックが早い段階で現れるためであると考えられる。

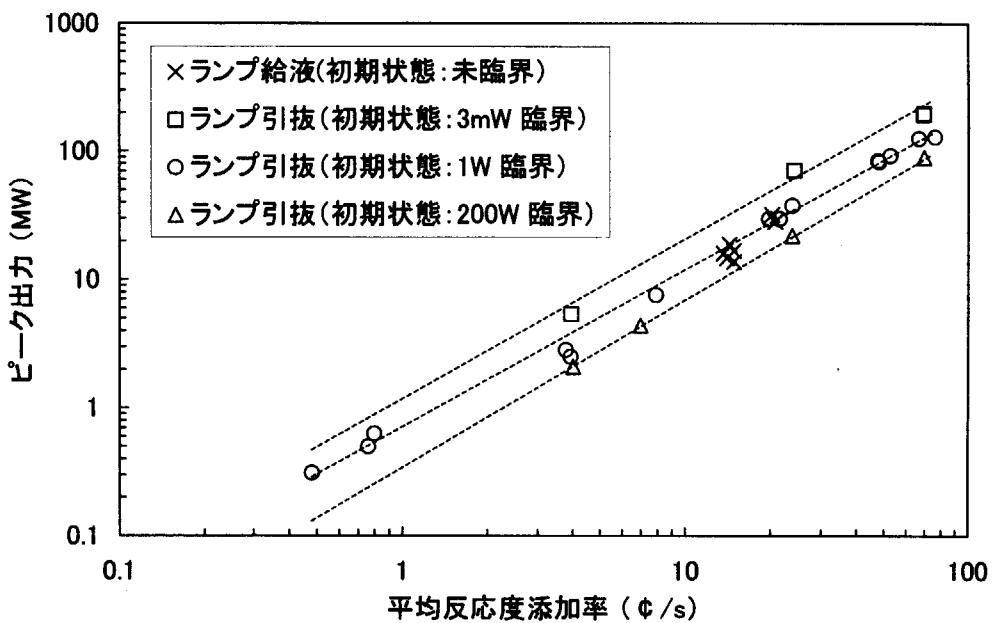


図 4.10 平均反応度添加率とピーク出力

4.7.2 反応度添加率と核分裂密度

平均反応度添加率と第 1 パルスの核分裂密度の関係を図 4.11 に示す。反応度添加率は 4.7.1 項同様、平均反応度添加率を用いた。核分裂密度は第 1 パルス終了までの核分裂数を過渡運転開始前の燃料体積で除したものである。TRACY のこれまでの実験条件では約 1700 ¢/s 以下の範囲において反応度の添加量や添加方法、未臨界度等に依らず約 $1.44 \times 10^{15} (\text{fission}/\ell)$ となった。

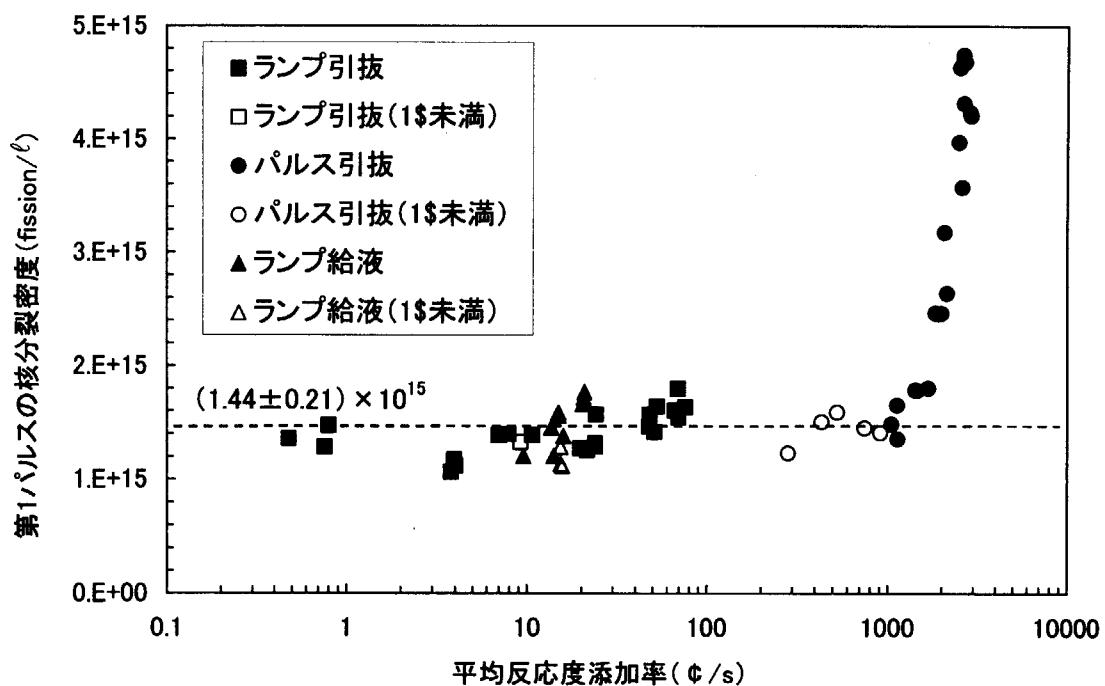


図 4.11 平均反応度添加率と第 1 パルスの核分裂密度

5. まとめ

TRACY では、1995 年から 2000 年末までに反射体無しの体系において定出力運転 95 回、過渡出力運転 81 回、(パルス引抜き 41 回、ランプ引抜き 25 回、ランプ給液 15 回) 計 176 回の運転を行った。本報告書はそれらの TRACY の運転記録についてまとめたものである。

溶液燃料の管理を行う中でウラン濃度、硝酸濃度の経時変化データが得られた。詳細は調査中であるが、放射線の照射と燃料温度の上昇によるものと思われる硝酸濃度の減少傾向が見られた。

TRACY では添加反応度 3\$までの実験が許可されており、1995 年から 1996 年度は 1.8\$の反応度価値を有する Tr 棒を用いて実験を行い、1997 年度からは 3\$の Tr 棒を製作・設置して実験を行った。1.8\$の Tr 棒の反応度価値を求める際には臨界液位と液位反応度の関係から求めたフィッティング式を用いたが、このフィッティング式は 3\$の Tr 棒に対しても適用できることを確認した。

過渡出力運転においては反応度の添加方法、添加量、添加速度、初期出力等を主なパラメータとして扱い、出力（中性子束）、温度、圧力等のデータを収集した。

FP 分析による積算出力の算出では、過渡出力運転時に Ba-140/La-140 が低く評価される結果となった。これは Ba-140/La-140 が生成する過程に存在する希ガス Xe-140 が気相に移行することによると考えられる。このような傾向は定出力運転時には見られず、過渡臨界特有の現象である。

逆炉周期 ω でピーク出力及び積算出力を評価したところ、 ω の値が大きくなるに従い、Nordheim-Fuchs モデルによる評価値と実験による測定値との差が大きくなる傾向があった。

また、平均の反応度添加率を用いてピーク出力や核分裂密度を整理すると、反応度添加率とピーク出力は比例関係を示し、初期出力が高いほどピーク出力が低くなることがわかった。さらにこれまでに TRACY で行われた実験条件においては、平均反応度添加率 1700 f/s までの範囲において核分裂密度がほぼ一定の値 ($1.44 \times 10^{15} \text{ MJ/l}$) をとることが分かるなど、反応度添加率や初期出力、逆炉周期が出力と相関を持つことが明らかになった。

その他、炉心燃料温度を直接測定する実験系温度計の追加、炉心タンク内をリアルタイムで監視できる可視化装置や γ 線測定装置等の製作・設置など、機器の追加を含め様々な角度から過渡臨界時のデータ取得、事象解明に取り組んできた。

2001 年度以降は引き続き様々な条件における運転を実施して、データの信頼性向上と新たな知見の探求を行う。

謝辞

本報告を作成するにあたり、種々の助言を頂いた安全試験部長鈴木康文氏に深く感謝致します。臨界安全研究室の中島健氏には臨界安全研究分野における広い知見から様々な助言を頂くと共に、本報告の閲読をして頂きました。TRACY の運転、点検等においては、東京ニュークリアサービス㈱の七字勇氏、根本憲司氏、高倉耕祐氏、市村正秀氏に様々な協力を頂きました。また、データの測定、計測システムの構築等においては千代田メンテナンスの二上和弘氏より協力を頂きました。最後に TRACY の運転を支援していただいている安全試験部 NUCEF 管理課、同技術第 2 課、同技術第 3 課、技術部施設第 3 課、保健物理部施設放射線管理第 2 課の皆様、TRACY 原子炉主任技術者である臨界安全研究室の外池幸太郎氏に厚くお礼申し上げます。

参考文献

- [1] H.YANAGISAWA et al., "Experiments on Transient Behavior of a Low-Enriched Uranyl Nitrate Solution System with TRACY to Study Hypothetical Criticality Accidents in Reprocessing Plants," Proc. Int. Conf. Nuclear Criticality Safety (ICNC'99), Versailles, France, September 20-24,1999, Vol. II , p.900, Institut de Protection et de Sûreté Nucléaire (1999)
- [2] 小川 和彦 他, 私信「溶液状 10%濃縮ウラン燃料を用いた過渡臨界実験装置 (TRACY) の特性試験 (I)」(1997)
- [3] 曽野 浩樹 他, “平成 7 年における定常臨界実験装置 STACY の運転記録－600 φ 円筒炉心・10%濃縮ウラン硝酸水溶液－”, JAERI-Tech 97-005 (1997)
- [4] 大野 秋男, 他, “TRACY 調整トランジエント棒反応度値の測定”, 日本原子力学会 1997 年秋の大会 予稿集, F36 (1997)
- [5] 伏見 康治 (編), “原子炉”, 共立出版株式会社 (1972)
- [6] 溝尾 宣辰, 私信「大きな負の反応度の測定に関する研究」(1978)
- [7] 森 貴正, 中川 正幸, “MVP/GMVP 連続エネルギー法及び多群法に基づく汎用中性子・光子輸送計算モンテカルロコード”, JAERI-Data/Code 94-007 (1994)
- [8] T.NAKAGAWA et al., “Japanese Evaluated Nuclear Data Library Version 3 Revision-2: JENDL-3.2,” J.Nucl.Sci.Technol.,32,12,1259 (1995)
- [9] Firestone R.B., et al., “Table of Isotopes (8th edition)”, vol.1 (A=1-150) Jone Wiley & Sons, Inc., New York (1996)
- [10] K.TASAKA et al., “JDNC Nuclear Data Library of Fission Products -Second Version-” JAERI 1320 (1990)
- [11] 會澤 栄寿 他, “TRACY における逆炉周期 ω の評価”, 日本原子力学会 1998 年春の年会 予稿集, G28 (1998)
- [12] D.L.HETRICK, “Dynamics of Nuclear Reactors”, The University of Chicago Press, Chicago (1971)
- [13] 奥村 啓介 他, “SRAC95;汎用核計算コードシステム”, JAERI-Data/Code 96-015 (1996)
- [14] Fowler, T.B., et al., “Nuclear Reactor Analysis Code: CITATION,” ORNL-TM-2496, (1969)
- [15] K.NAKAJIMA et al., “Experimental Study on Criticality Accidents using the TRACY”, Proc. of Physor '96, Ibaraki, Japan, Vol.4, p. L-83 (1996)
- [16] K.OGAWA et al., “Measurement of the Power Profile During Nuclear Excursions Initiated by Various Reactivity Additions Using TRACY,” Proc. Int. Conf. Nuclear Criticality Safety (ICNC'99), Versailles, France, September 20-24,1999,Vol. II , p.1277, Institut de Protection et de Sûreté Nucléaire (1999)

付録

表 A1 に過渡出力運転時にデータロガーで収集した Tr 棒の引抜及び落下時刻と給液ポンプの起動及び停止時刻を示す。時刻はデータ収集開始を 0 としたものである。また、中性子束、圧力、温度等の波形を図 A1 から A81 に示す。表 A1 と図 A1～A81 の時刻は同期したものである。

表 A1 における Tr 棒引抜開始時刻とは Tr 棒が炉心タンク底面（下限位置）を離れた時刻、Tr 引抜終了時刻とは Tr 棒が 1100mm の位置（上端位置）に到達した時刻を示す。同様に Tr 棒落下開始時刻は Tr 棒が 1100mm の位置（上端位置）を離れた時刻、Tr 棒落下終了時刻とは Tr 棒が炉心タンク底面（下限位置）に到達した時刻を指す。

パルス引抜及びランプ引抜時には引抜前に Tr 棒の位置を調整することで臨界調整をするケースがあるため、引抜直前の Tr 棒の位置を引抜前 Tr 棒位置として示した。

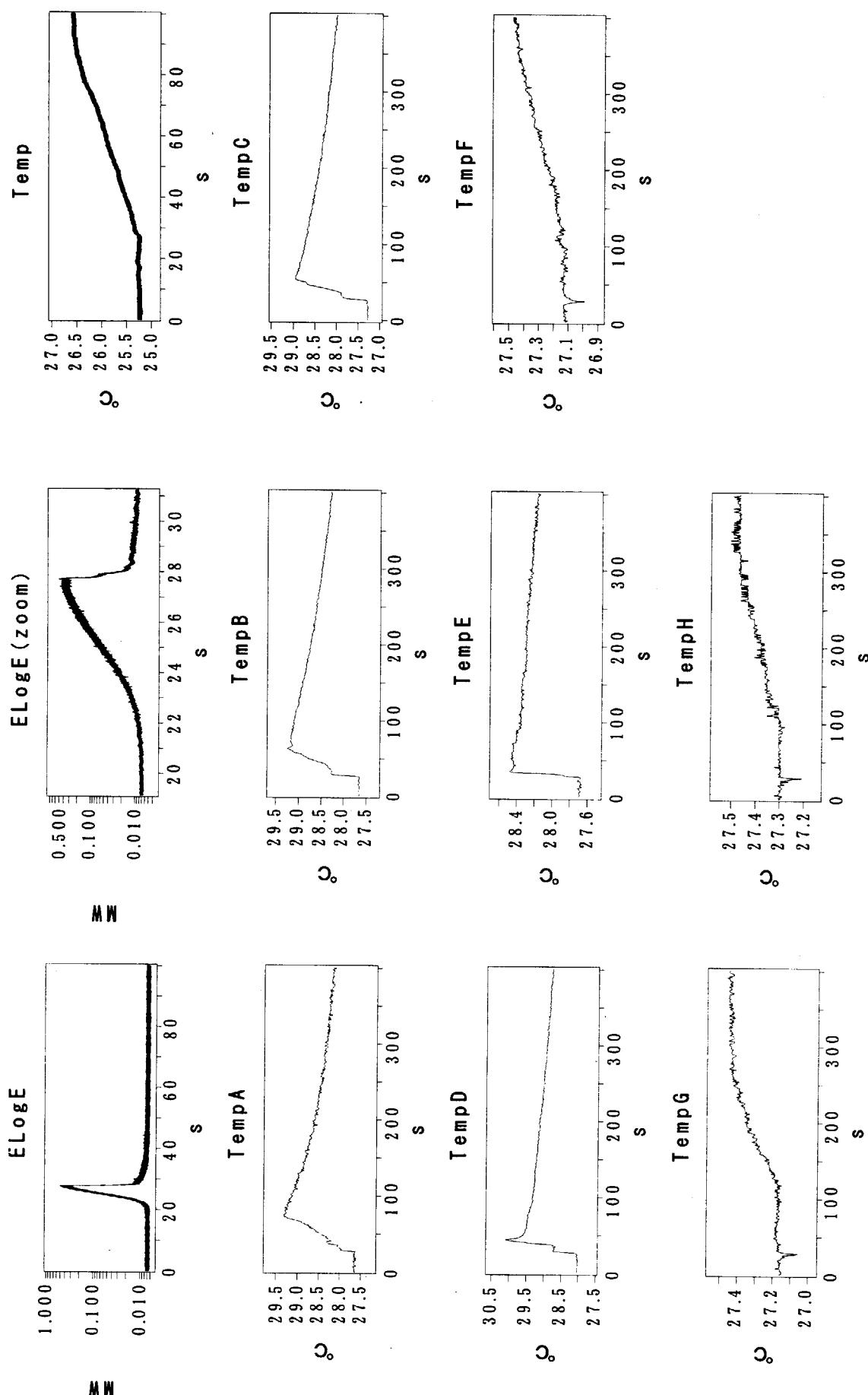
表 A1. Tr 棒の引抜及び落下時刻と給液ポンプの起動及び停止時刻 (1/2)

Run No.	付録図番号	Tr棒引抜開始時刻 (s)	Tr棒引抜終了時刻 (s)	Tr棒引抜開始位置 (mm)	給液ポンプ起動時刻 (s)	給液ポンプ停止時刻 (s)	給液流量增加開始時刻 (s)	給液流量減少終了時刻 (s)	Tr棒落下開始時刻 (s)
24	A1	-	-	0	-	-	-	-	-
25	A2	-	-	0	-	-	-	-	-
26	A3	-	-	0	-	-	-	-	-
28	A4	8.0868	8.2623	0	-	-	-	-	19.7129
29	A5	15.6569	22.6182	0	-	-	-	-	67.707
30	A6	-	-	-	13.7	39.9	-	-	-
31	A7	-	-	-	21.6	43.7	-	-	-
32	A8	-	-	-	30.3	50.7	-	-	61.8122
33	A9	7.8922	8.0677	0	-	-	-	-	56.5534
35	A10	3.7805	3.956	0	-	-	-	-	-
36	A11	16.9095	17.0828	0	-	-	-	-	-
54	A12	8.3086	8.4996	0	-	-	-	-	22.5529
55	A13	8.5608	8.7521	0	-	-	-	-	28.0099
56	A14	11.6639	11.8561	0	-	-	-	-	51.3247
60	A15	8.2152	8.4038	0	-	-	-	-	19.6107
61	A16	-	-	-	6.7149	34.304	-	-	-
62	A17	12.3496	19.3396	0	-	-	-	-	-
63	A18	16.3112	16.503	0	-	-	-	-	129.411
64	A19	15.578	15.7712	0	-	-	-	-	29.146
69	A20	10.3536	10.544	0	-	-	-	-	18.4852
70	A21	9.6732	19.8626	0	-	-	-	-	115.027
71	A22	-	-	-	12.3105	70.3275	-	-	177.993
72	A23	11.1425	11.3325	0	-	-	-	-	18.4852
75	A24	5.595	25.9755	0	-	-	-	-	123.136
76	A25	-	-	-	4.25	115.076	-	-	223.746
77	A26	7.6935	7.8845	0	-	-	-	-	31.421
92	A27	2.8296	3.0196	0	-	-	-	-	13.3186
93	A28	2.142	2.3318	0	-	-	-	-	7.7006
94	A29	2.894	3.0844	0	-	-	-	-	10.103
95	A30	1.3288	1.5186	0	-	-	-	-	60.3348
96	A31	-	2.5545	361.7	-	-	-	-	151.77
97	A32	-	2.5776	307.4	-	-	-	-	95.6446
98	A33	-	-	-	5.3975	37.1075	-	-	164.143
99	A34	2.8345	33.382	0	-	-	-	-	132.728

表 A1. Tr 棒の引抜及び落下時刻と給液ポンプの起動及び停止時刻 (2/2)

(データ収集開始時

Run No.	付録図番号	Tr棒引抜開始時刻 (s)	Tr棒引抜終了時刻 (s)	Tr棒引抜開始位置 (mm)	給液ポンプ起動時刻 (s)	給液ポンプ停止時刻 (s)	給液流量增加開始時刻 (s)	給液流量減少終了時刻 (s)	Tr棒落下開始時刻 (s)
100	A35	-	-	381.7	-	-	-	-	557.71
101	A36	-	27.629	252.2	-	-	-	-	121.42
102	A37	-	1.932	367.7	-	-	-	-	255.431
103	A38	3.186	23.5565	0	-	-	-	-	112.32
104	A39	2.329	2.5107	0	-	-	-	-	17.5531
105	A40	-	3.8536	157.5	-	-	-	-	19.1591
106	A41	0.7103	0.9025	0	-	-	-	-	13.9545
107	A42	2.8825	23.241	0	-	-	-	-	94.4695
108	A43	0.732	7.7146	0	-	-	-	-	9.834
109	A44	1.549	8.5282	0	-	-	-	-	25.8104
110	A45	11.2985	-	0	-	-	-	-	-
111	A46	12.7524	-	0	-	-	-	-	-
112	A47	7.7004	68.7408	0	-	-	-	-	70.9568
113	A48	12.825	-	0	-	-	-	-	-
114	A49	48.927	-	0	-	-	-	-	-
115	A50	93.888	-	0	-	-	-	-	-
116	A51	3.3338	13.518	0	-	-	-	-	43.1692
134	A52	6.0564	-	0	-	-	-	-	6.6731
135	A53	7.6423	-	0	-	-	-	-	8.3724
138	A54	2.2829	-	0	-	-	-	-	30.9846
140	A55	2.4367	-	0	-	-	-	-	12.1968
141	A56	2.2593	2.4572	0	-	-	-	-	14.711
142	A57	2.4153	2.6126	0	-	-	-	-	15.5792
143	A58	1.625	1.8236	0	-	-	-	-	15.5792
147	A59	-	56.4598	294.7	-	-	-	-	-
149	A60	-	-	-	5.6765	42.8465	-	-	145.284
150	A61	-	10.554	293.6	-	-	-	-	69.302
151	A62	5.649	28.895	0	-	-	-	-	56.151
152	A63	6.248	29.487	0	-	-	-	-	55.75
153	A64	14.487	-	0	-	-	-	-	-
154	A65	58.402	-	0	-	-	-	-	-
155	A66	4.428	11.481	0	-	-	-	-	45.876
156	A67	3.6256	3.8226	0	-	-	-	-	51.3368
157	A68	3.5996	-	0	-	-	-	-	9.122
158	A69	3.3346	3.5324	0	-	-	-	-	17.0538
159	A70	-	-	-	-	-	4.4	41.78	-
160	A71	-	-	-	-	-	4.31	41.38	-
161	A72	-	-	-	-	-	1.9	41.32	-
163	A73	-	-	-	2.97	36.575	3.9	45.8	-
164	A74	-	-	-	3.38	38.148	3.9	45.9	-
166	A75	6.15	-	0	-	-	-	-	-
167	A76	-	-	-	4.36	45.84	5.65	55.15	-
169	A77	-	-	-	3.72	53.78	-	-	-
172	A78	3.3564	-	0	-	-	-	-	4.557
174	A79	3.2051	3.4039	0	-	-	-	-	-
175	A80	4.4566	11.3589	0	-	-	-	-	61.7138
176	A81	3.808	-	0	-	-	-	-	163.33



図A1 過渡出力運転データ履歴 (R24 パルス引抜 0.8\$)

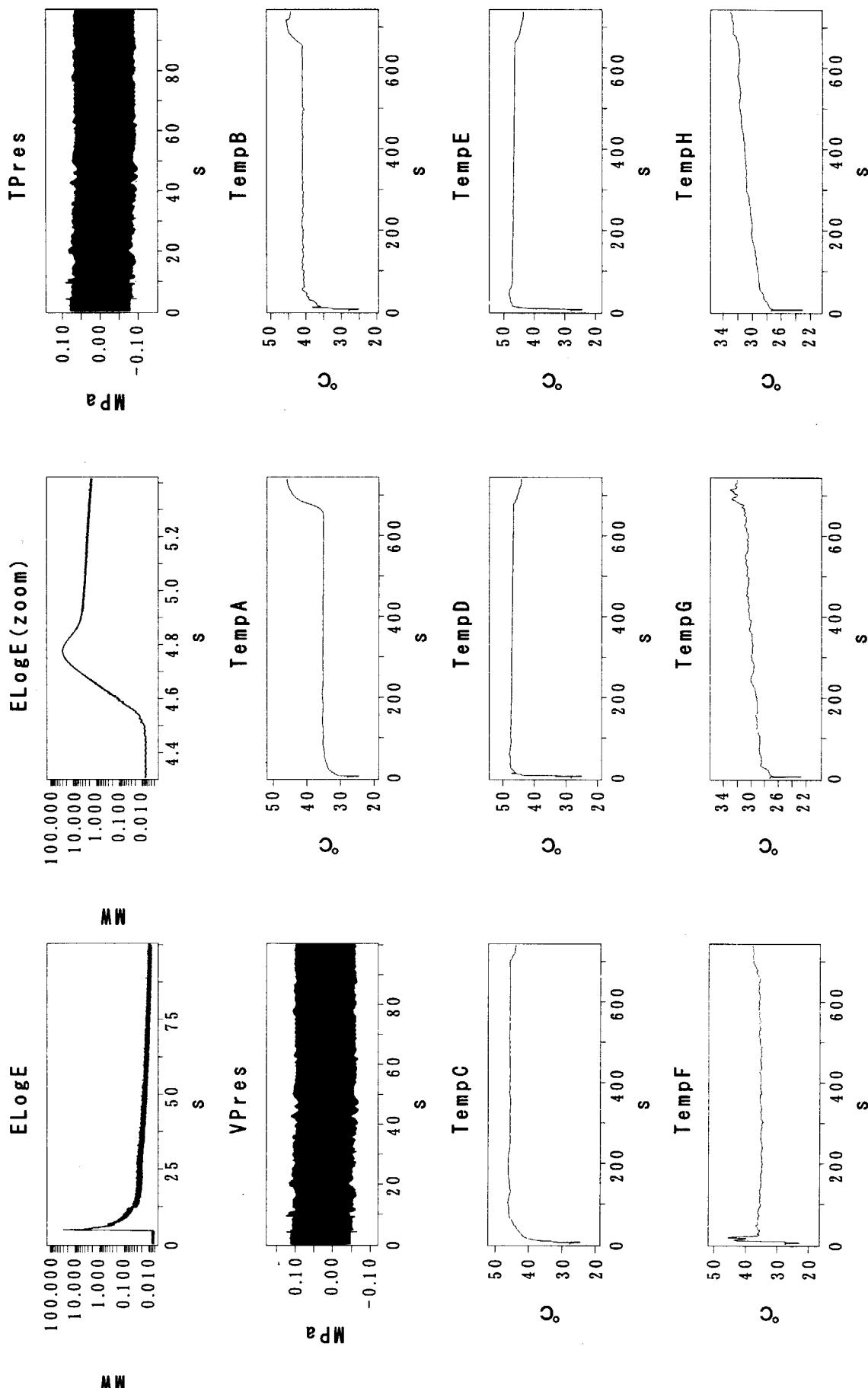


図 A2 過渡出力データ履歴 (R25 パルス引抜 1.20\$)

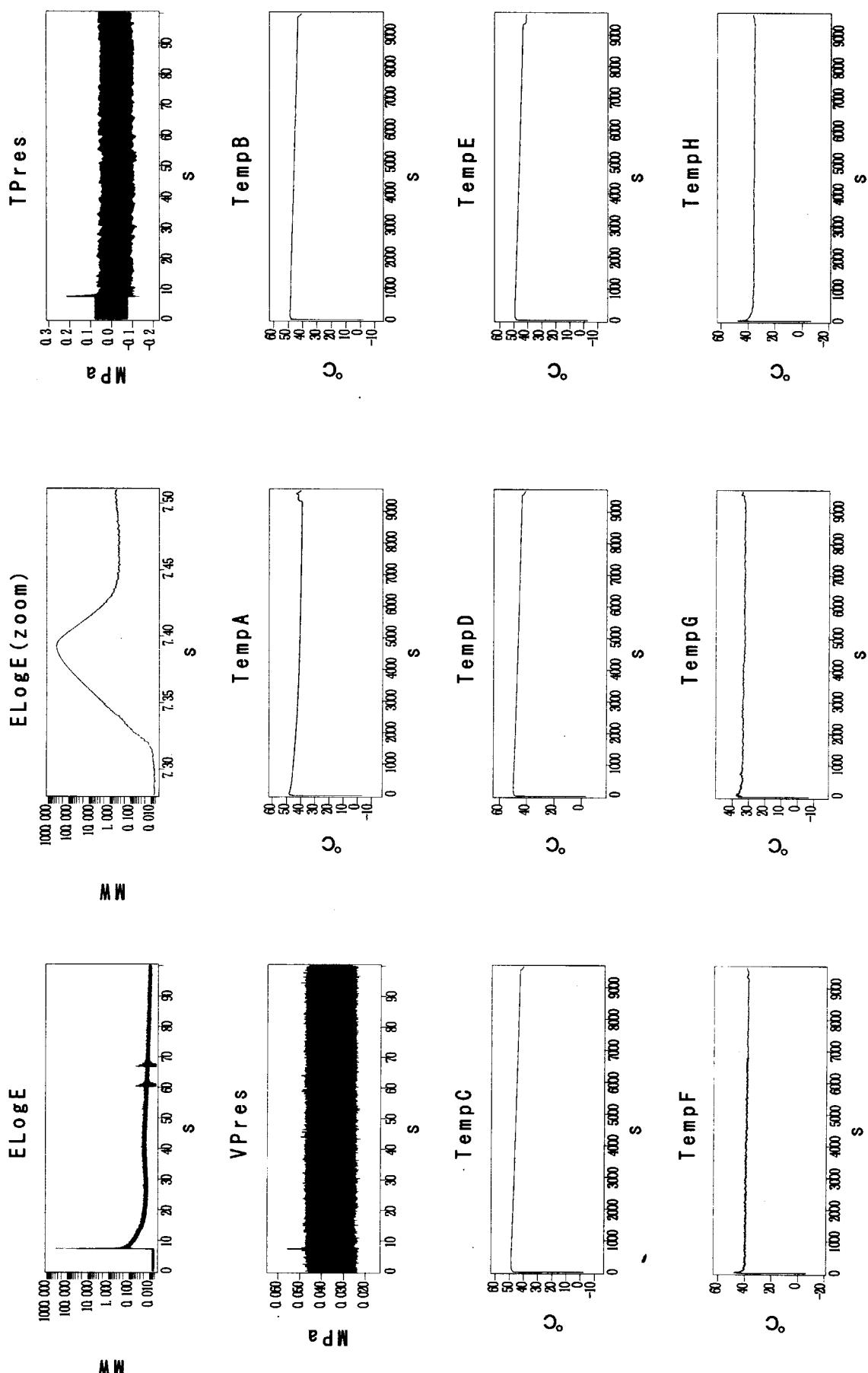
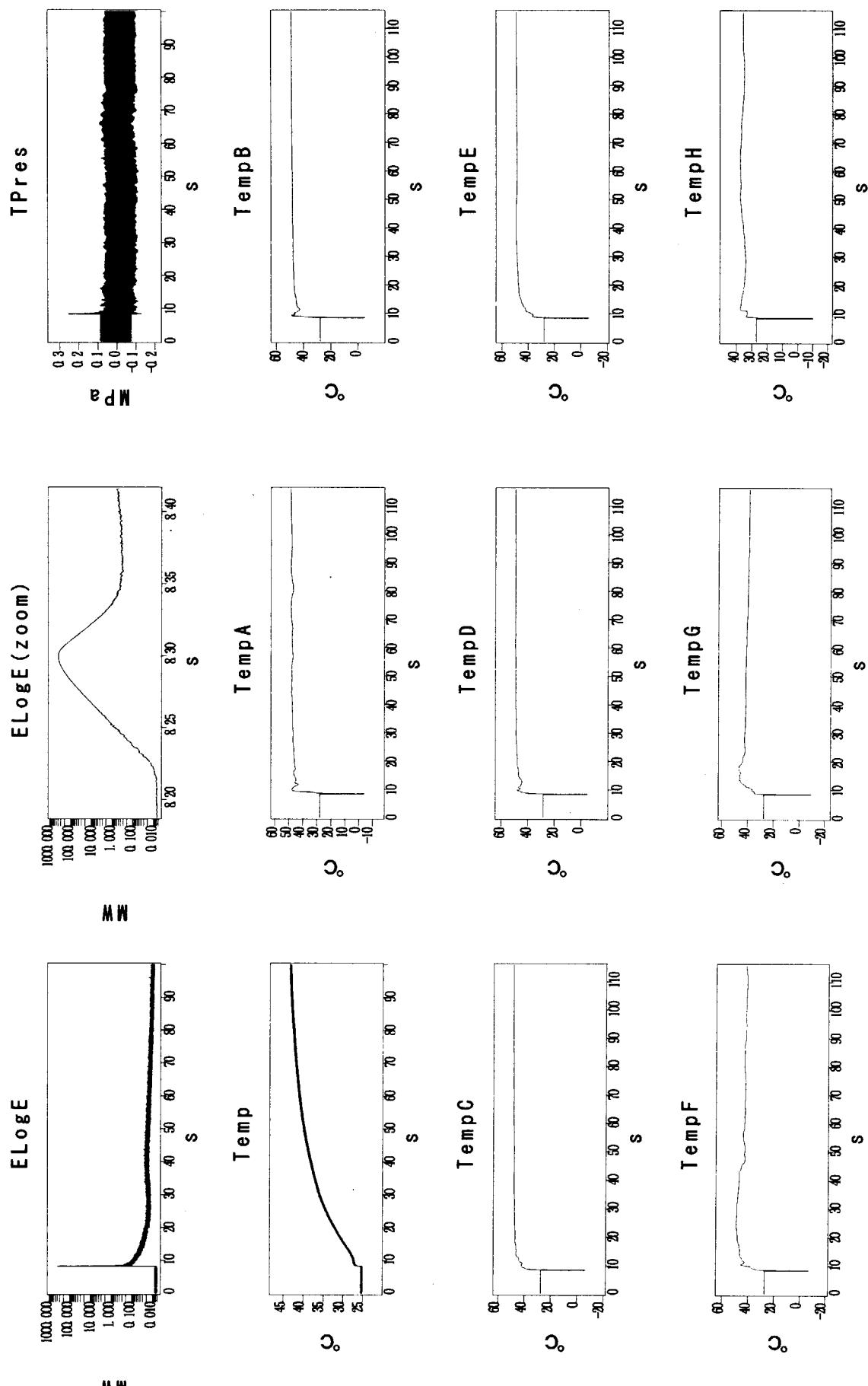


図 A3 過渡出力運動データ履歴 (R26 ハルス引抜 1.80\$)



図A4 過渡出力運転データ履歴 (R28 パルス引抜 1.80\$)

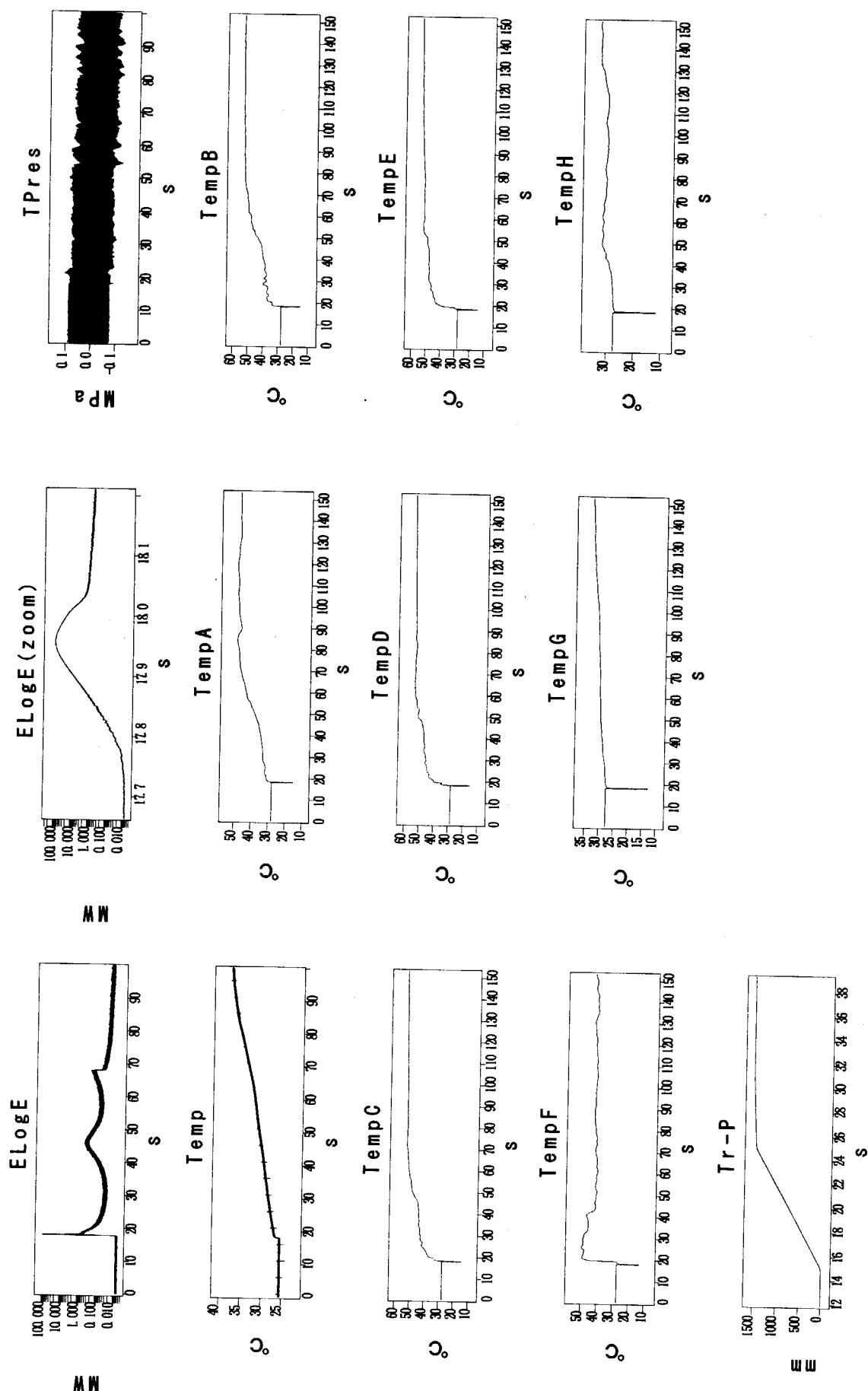


図 A5 過渡出力運転データ履歴 (R29 ランプ引抜 1.84\$ 875cm/min)

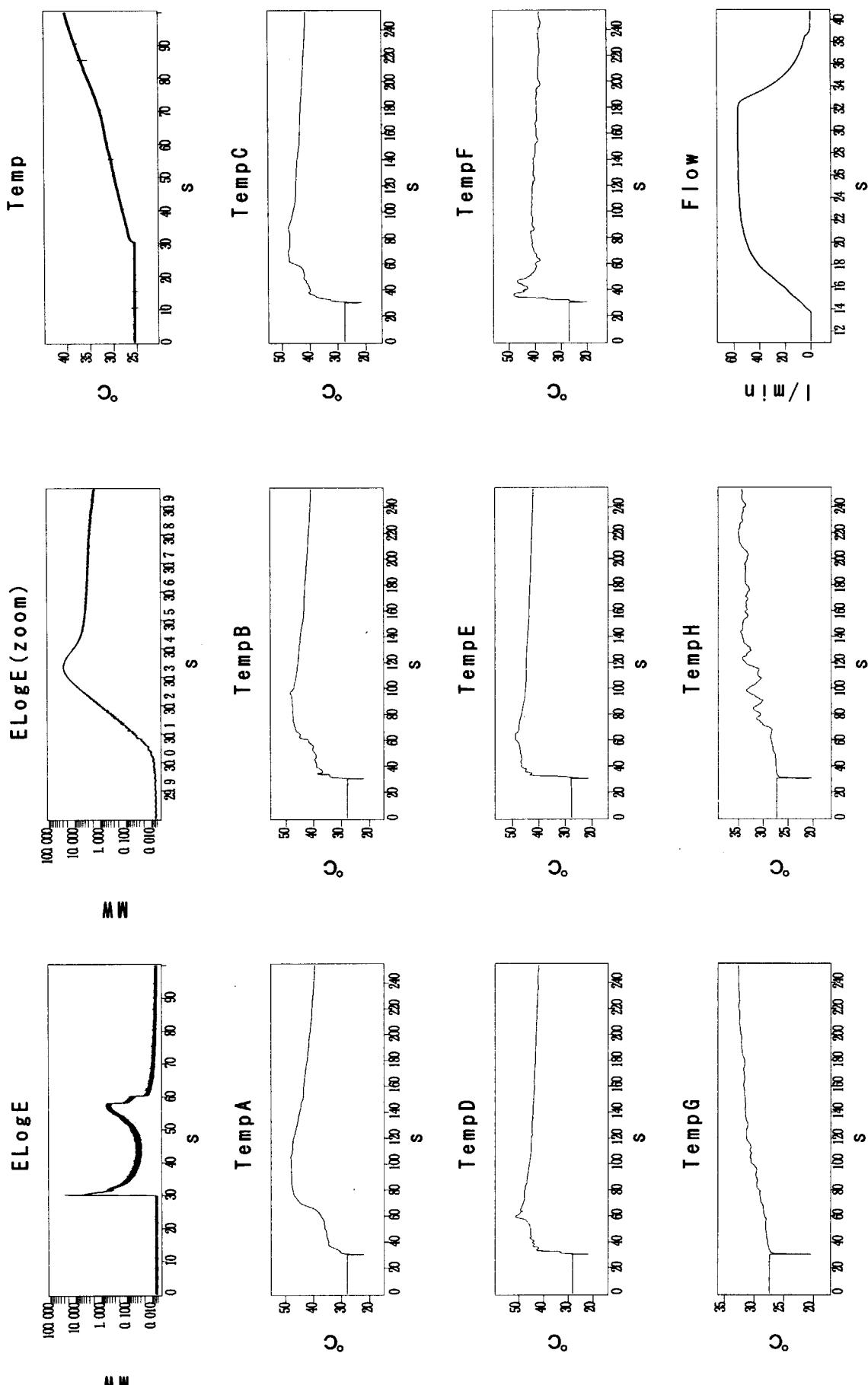
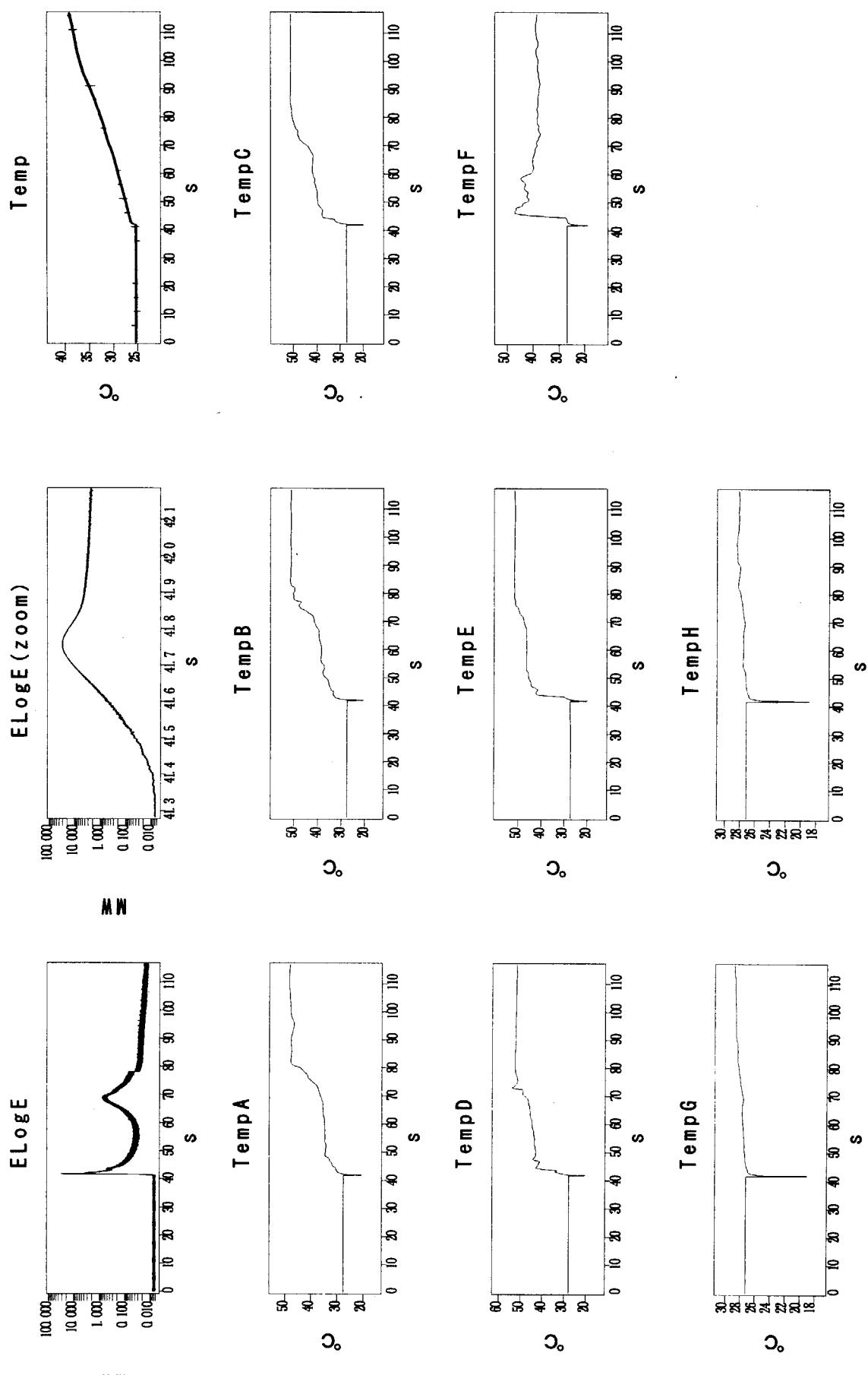


図 A6 過渡出力運転データ履歴 (R30 ランプ給液 1.20\$ 60ℓ/min)



図A7 過渡出力運転データ履歴 (R31 ランプ給液 1.61\$ 60ℓ/min)

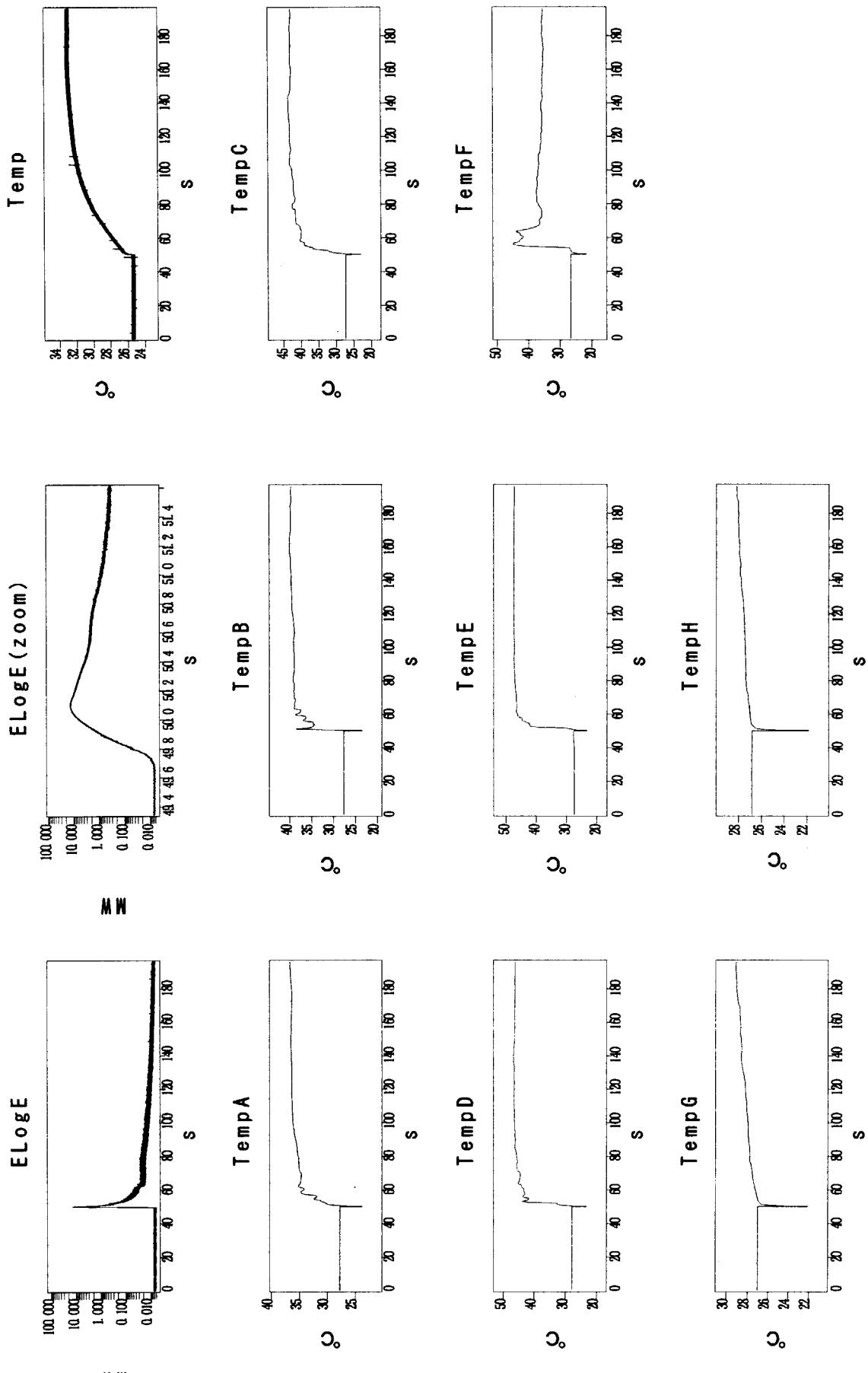
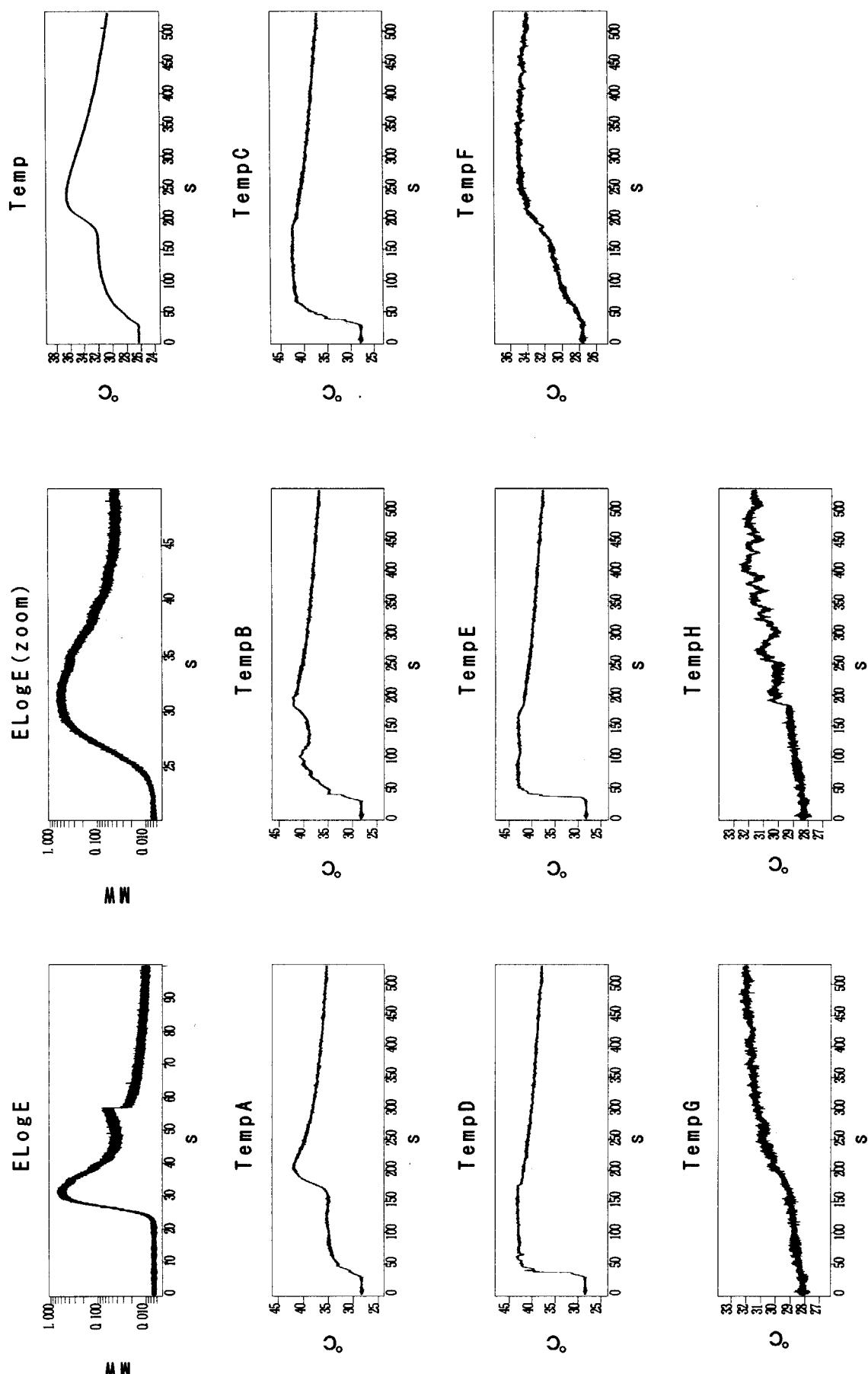
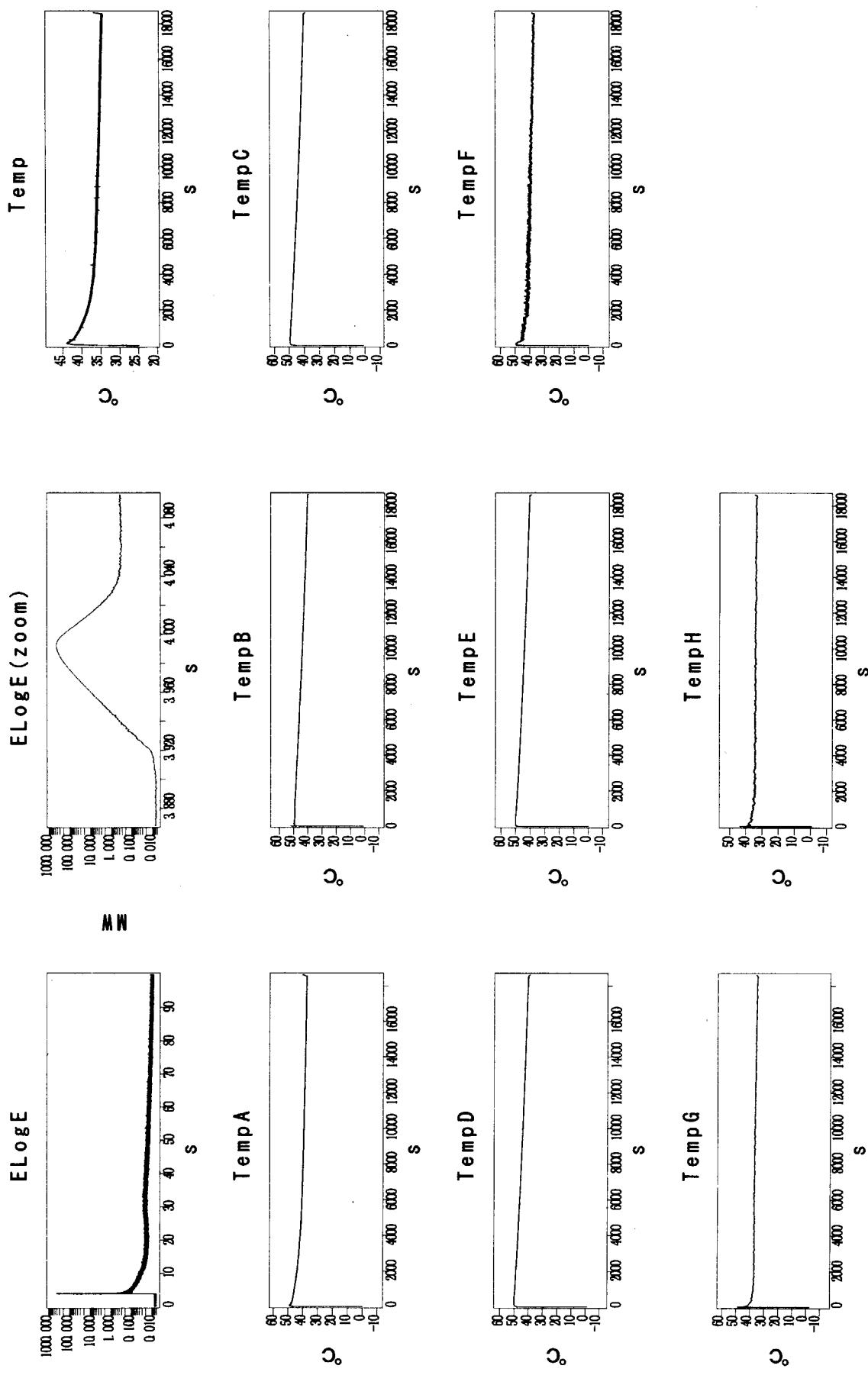


図 A8 過渡出力運動データ履歴 (R32 ランプ給液 1.40\$ 60%/min)



図A9 過渡出力運転データ履歴 (R33 パレス引抜 0.8%)



図A10 過渡出力運転データ履歴 (R35 パルス引抜 1.89\$)

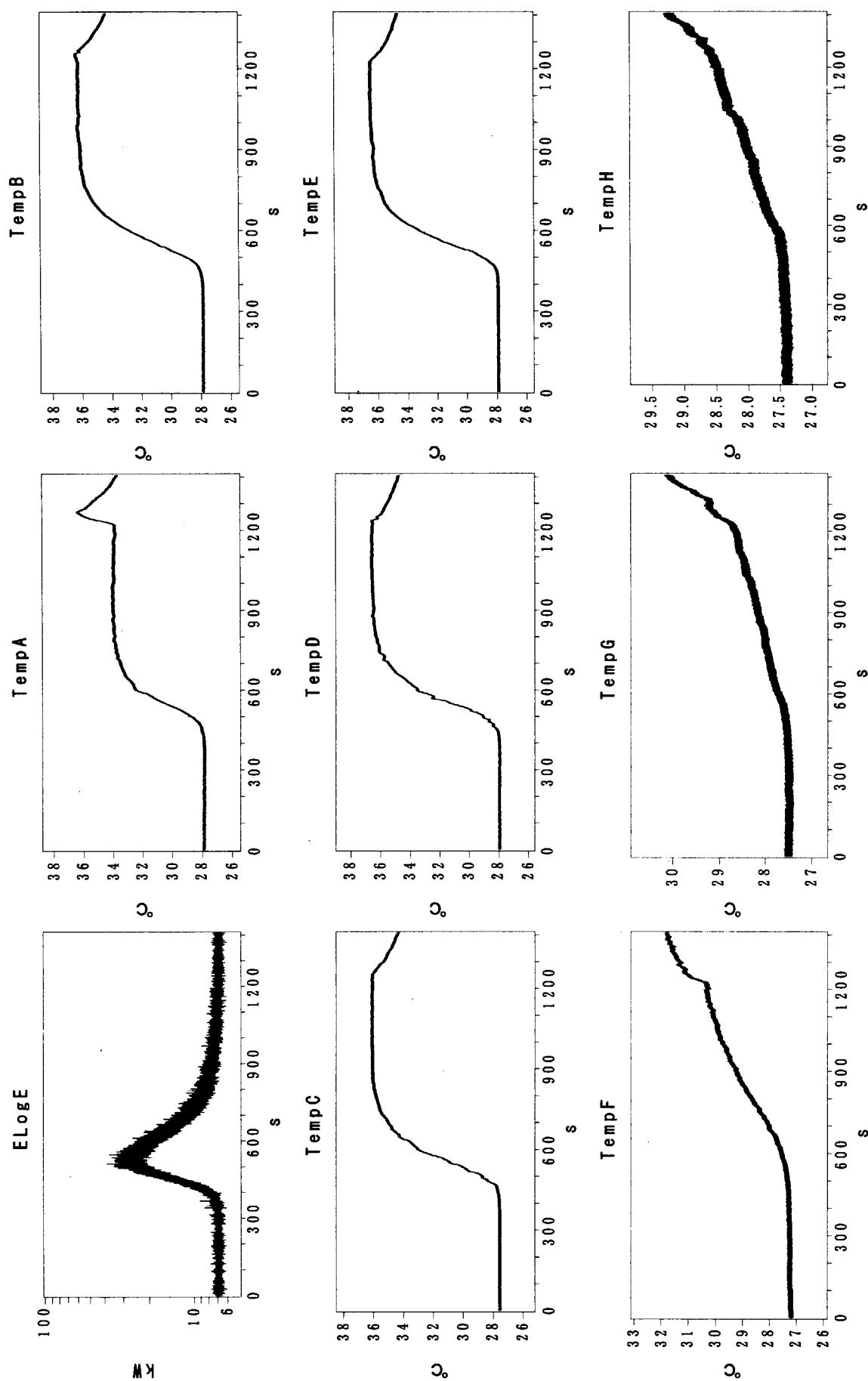


図 A11 過渡出力運転データ履歴 (R36 パレス引抜 0.25S)

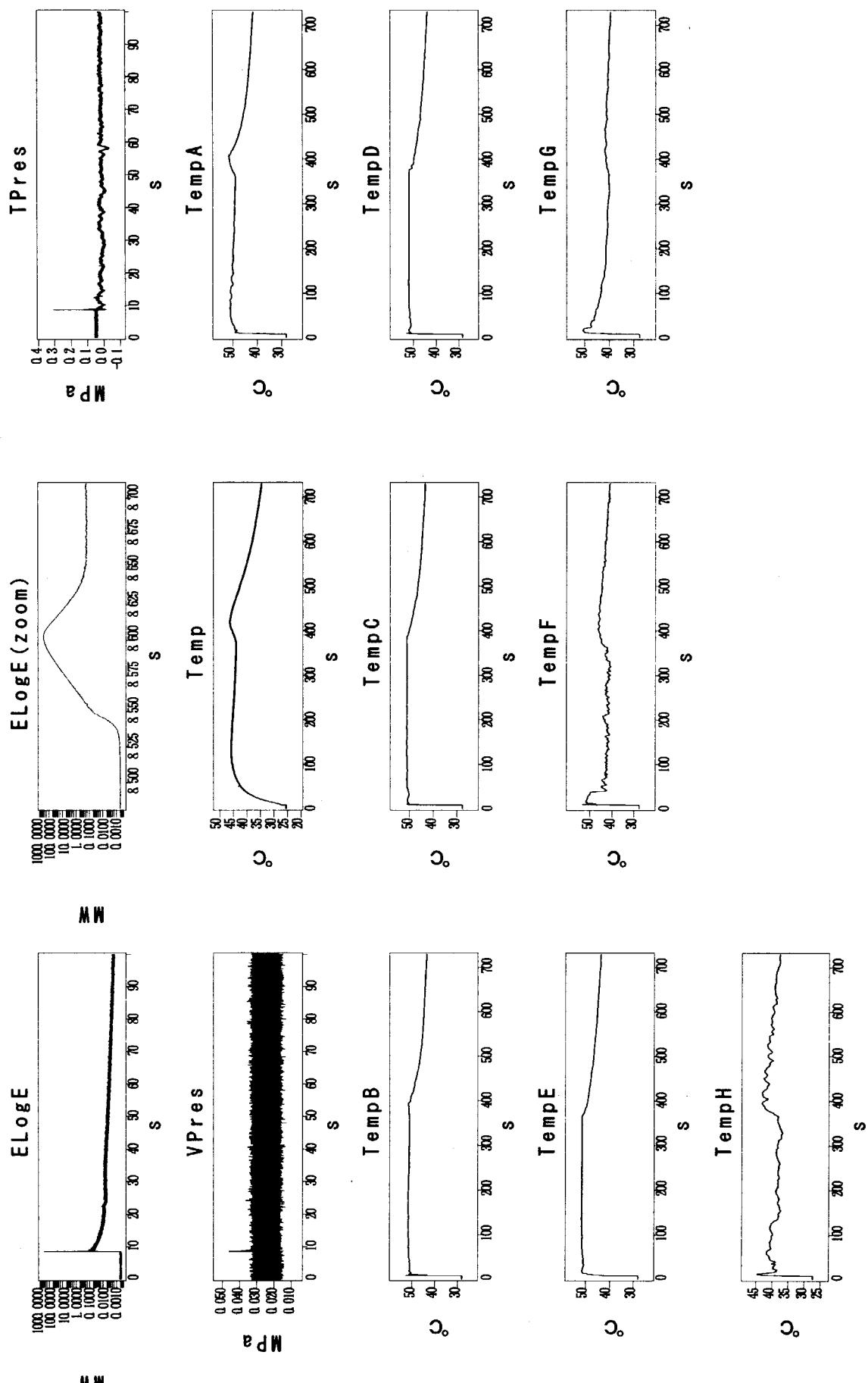


図 A12 過渡出力運転データ履歴 (R54 パルス引抜 2.00\$)

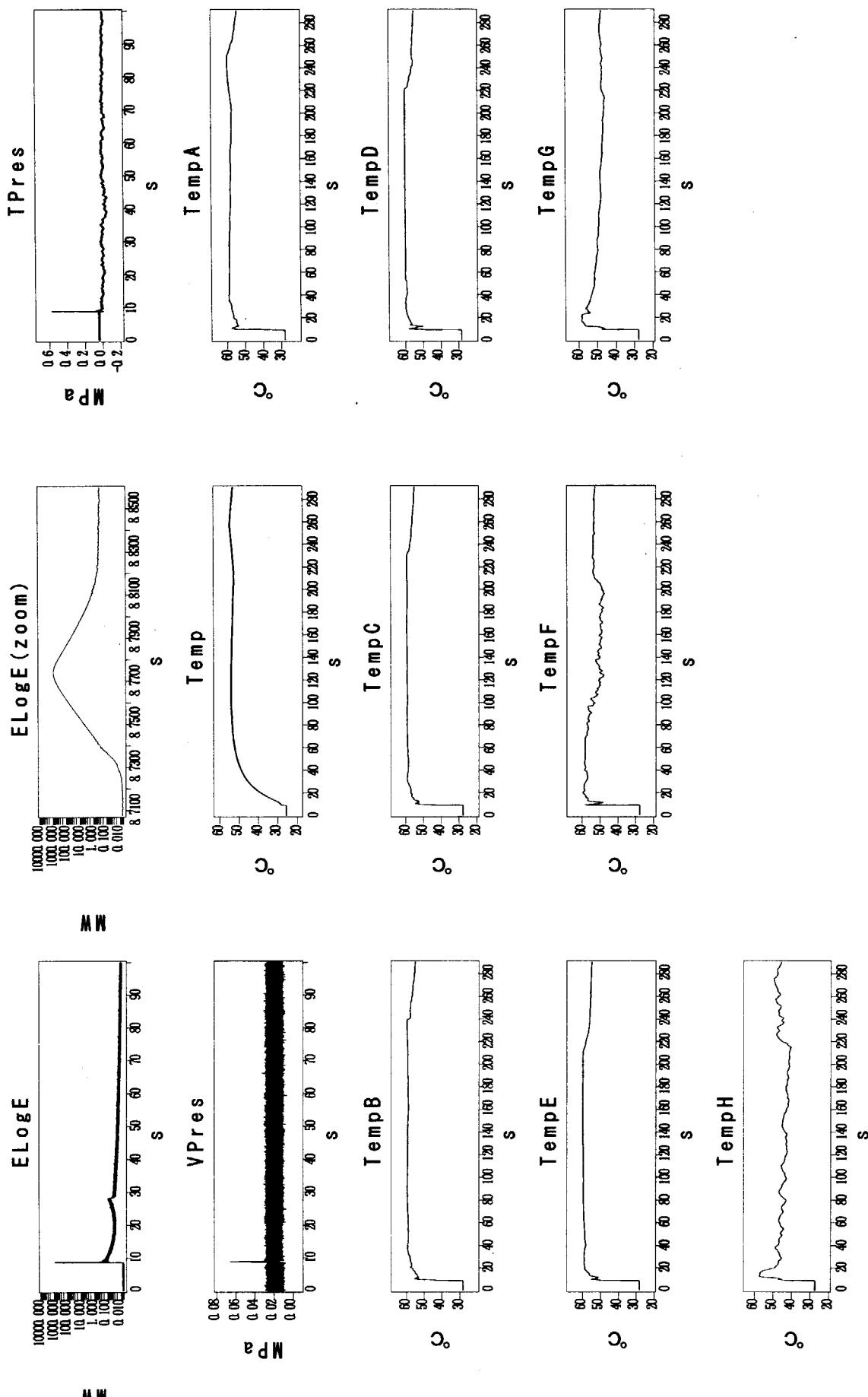
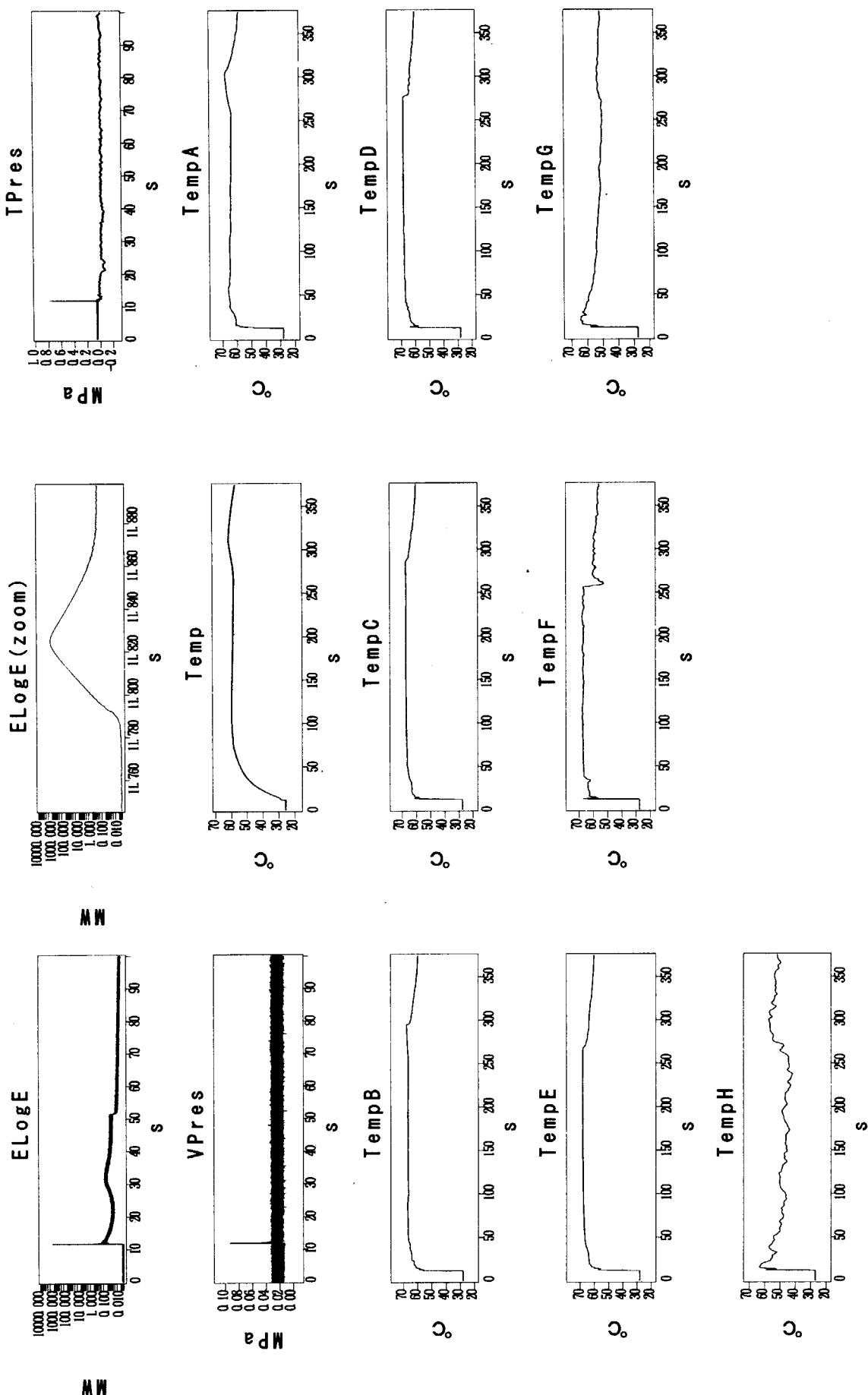


図 A13 過渡出力運転データ履歴 (R55 ナルス引抜 2.50\$)



図A14 過渡出力運転データ履歴 (R56 バルス引抜 2.82\$)

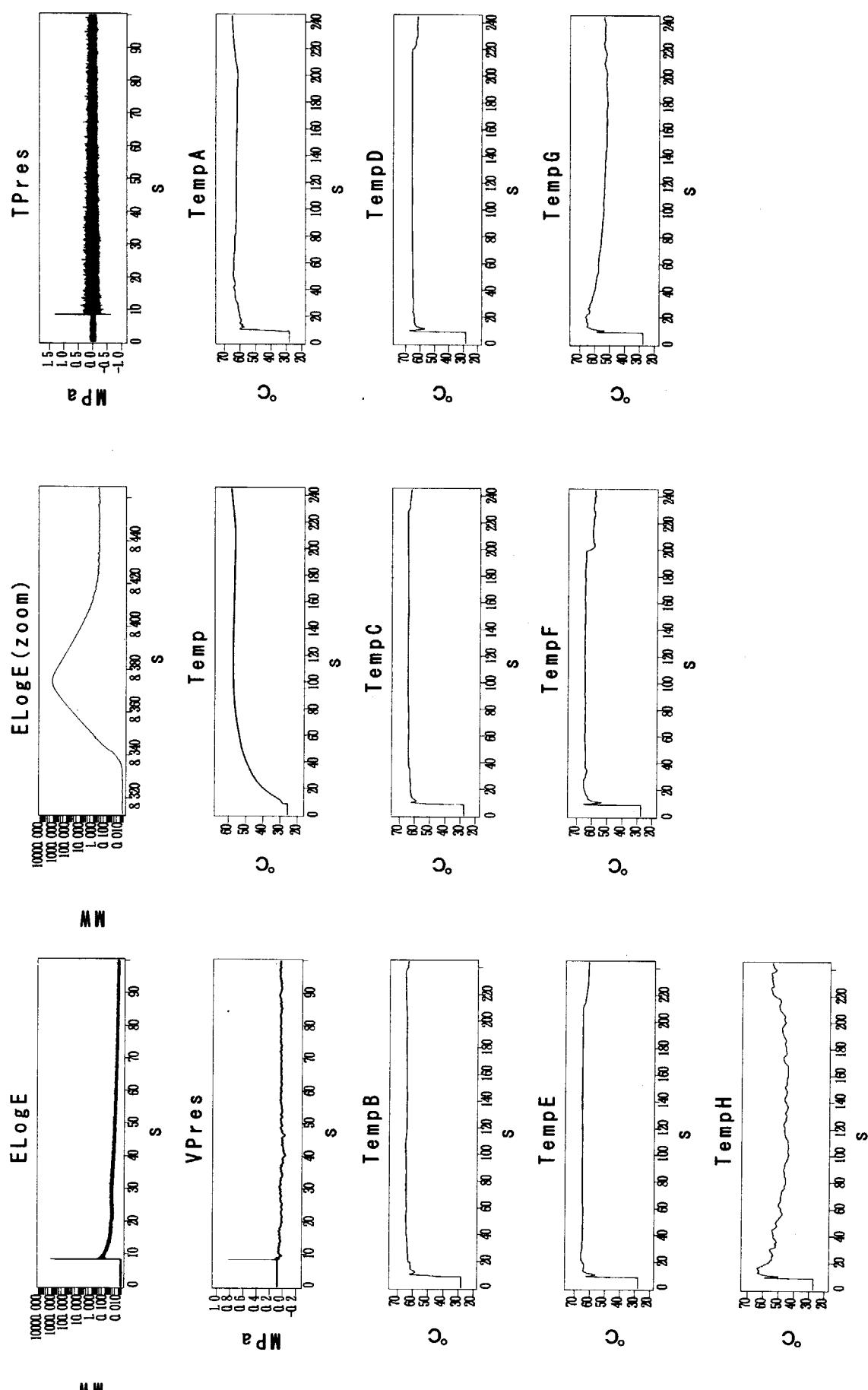


図 A15 過渡出力運転データ履歴 (R60 パレス引抜 2.82\$)

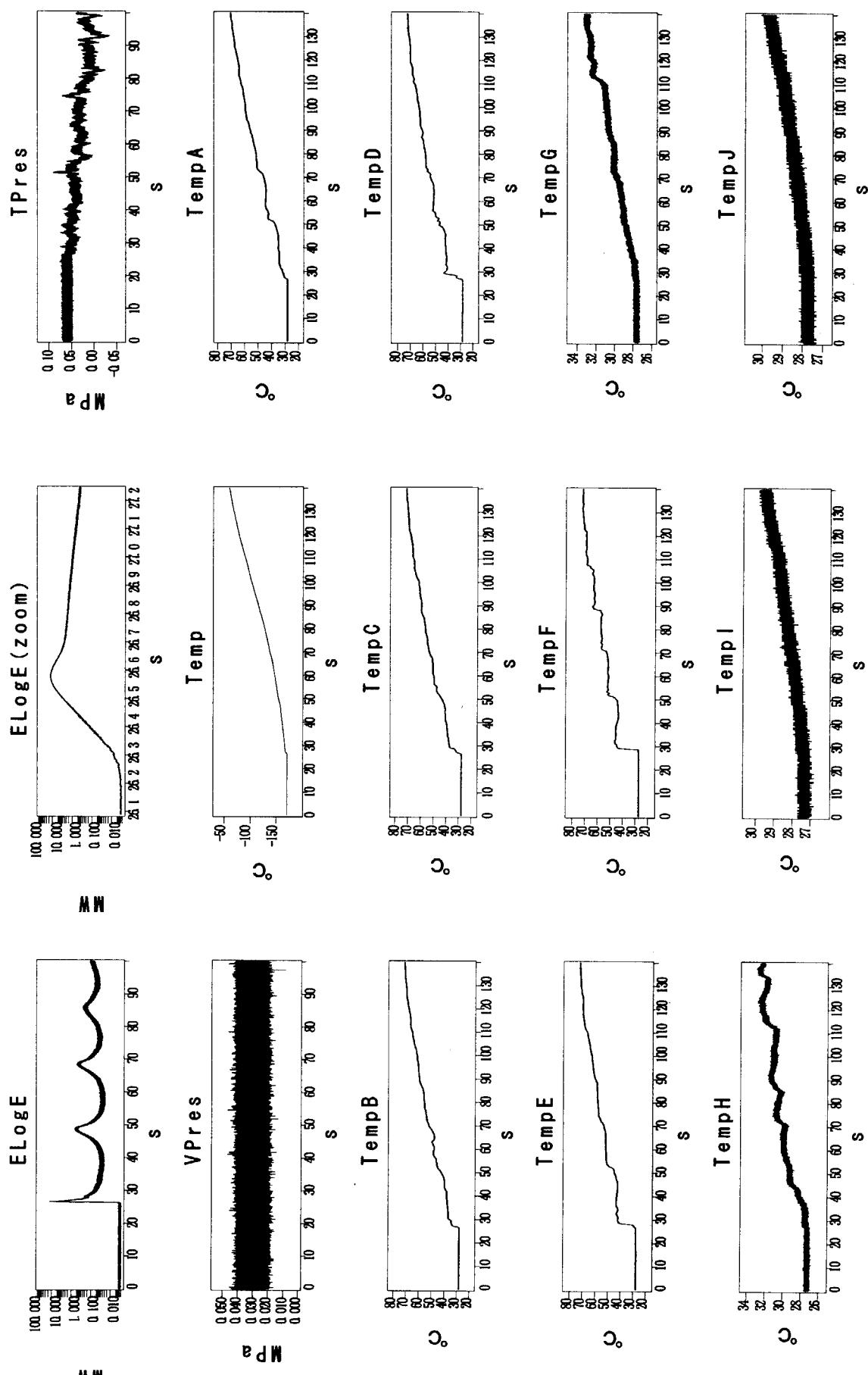


図 A16 過渡出力運転データ履歴 (R61 ランプ給流 2.64S 60/min)

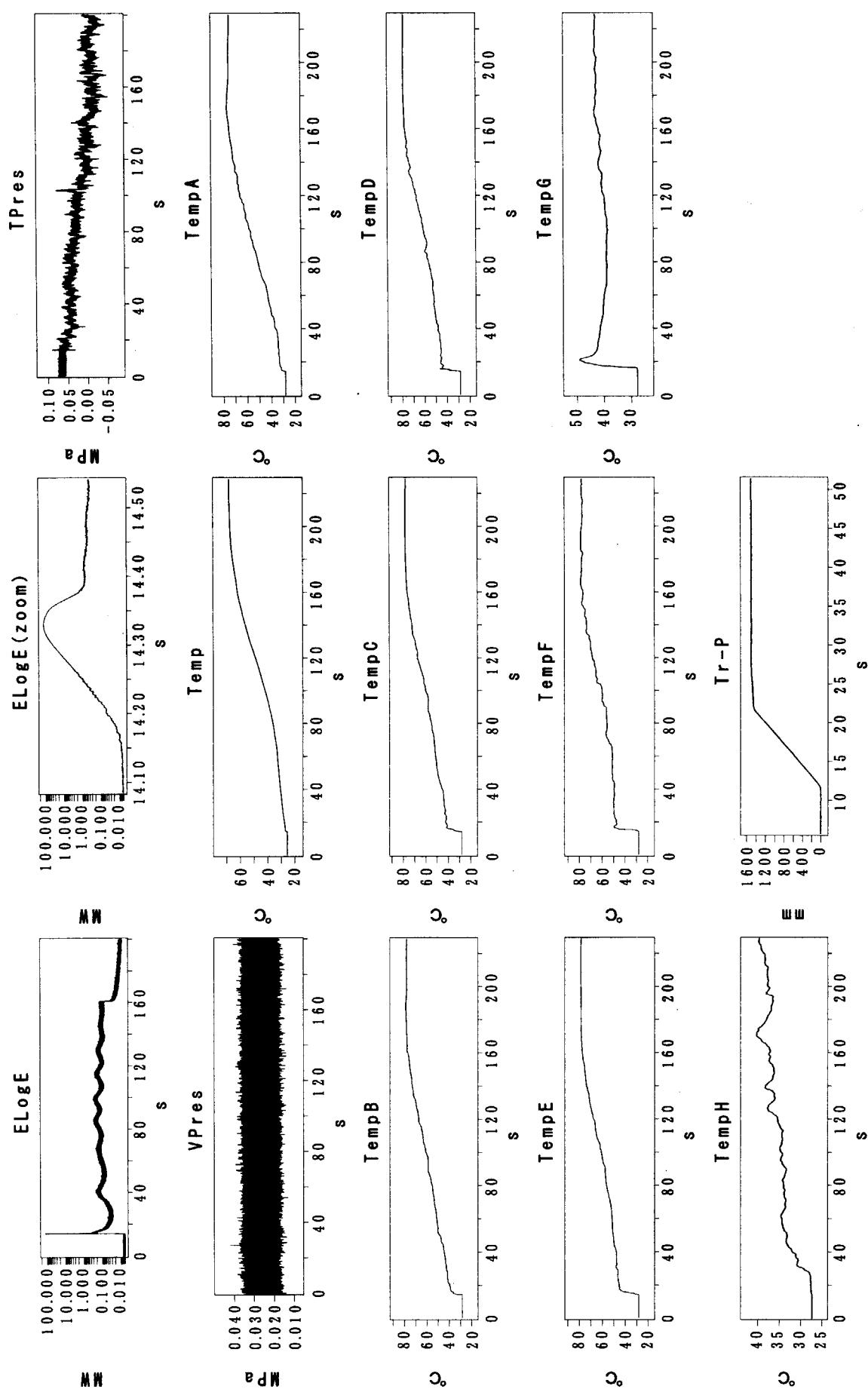
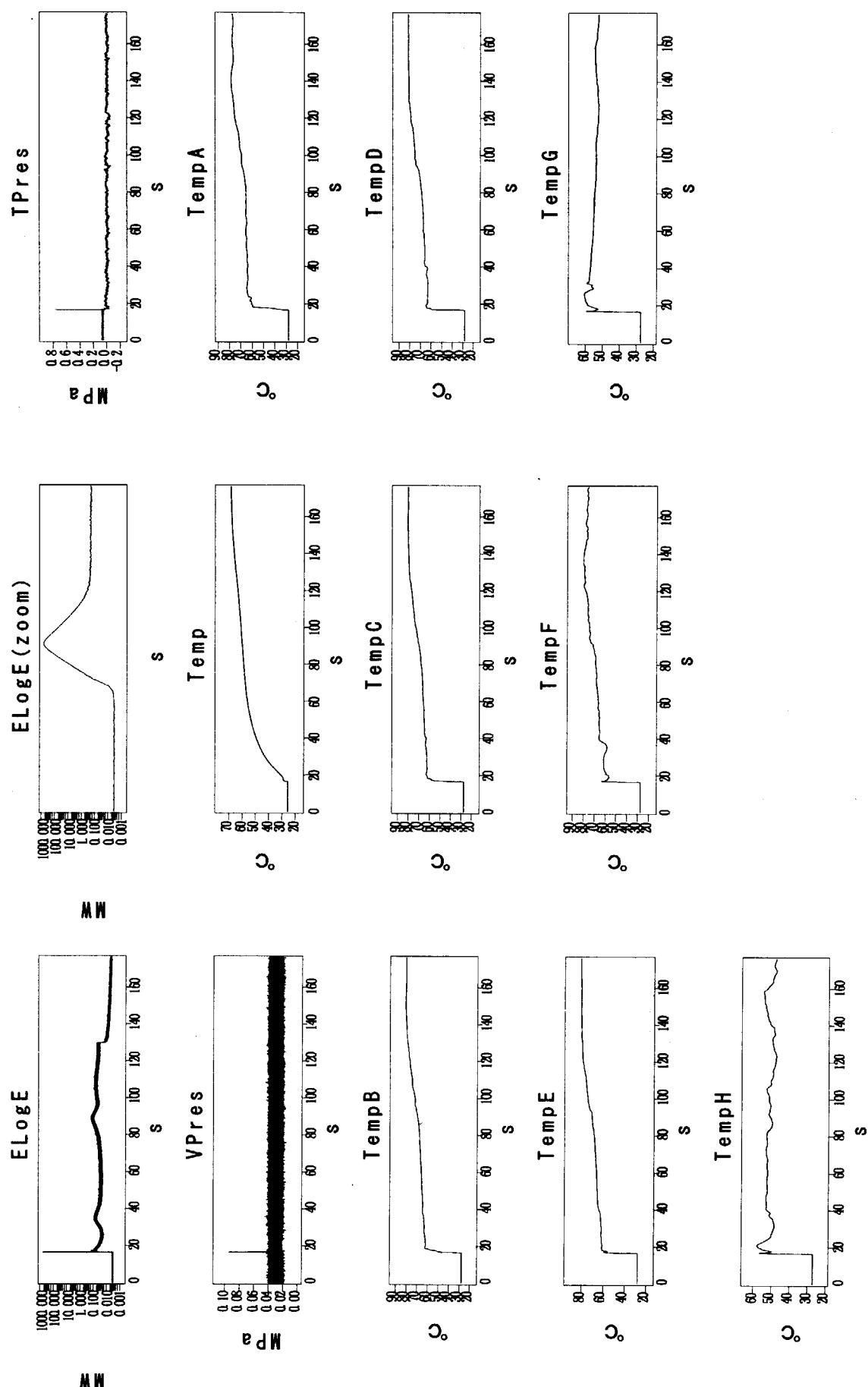


図 A17 過渡出力が運転データ履歴 (R62 パルス引抜 2.82S)



図A18 過渡出力運転データ履歴 (R63 パルス引抜 2.80\$)

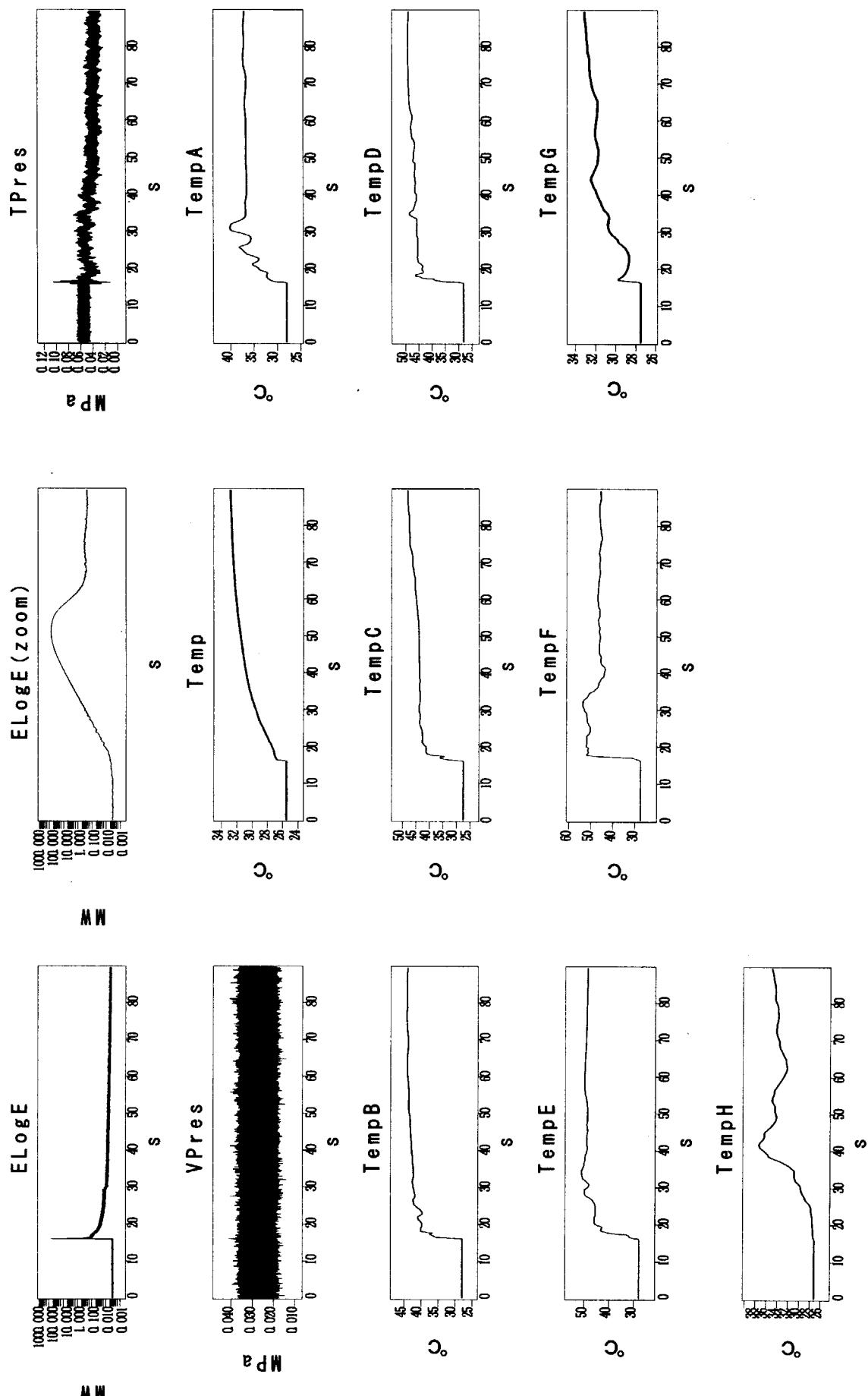


図 A19 過渡出力運転データ履歴 (R64 パレスス引抜 1.50S)

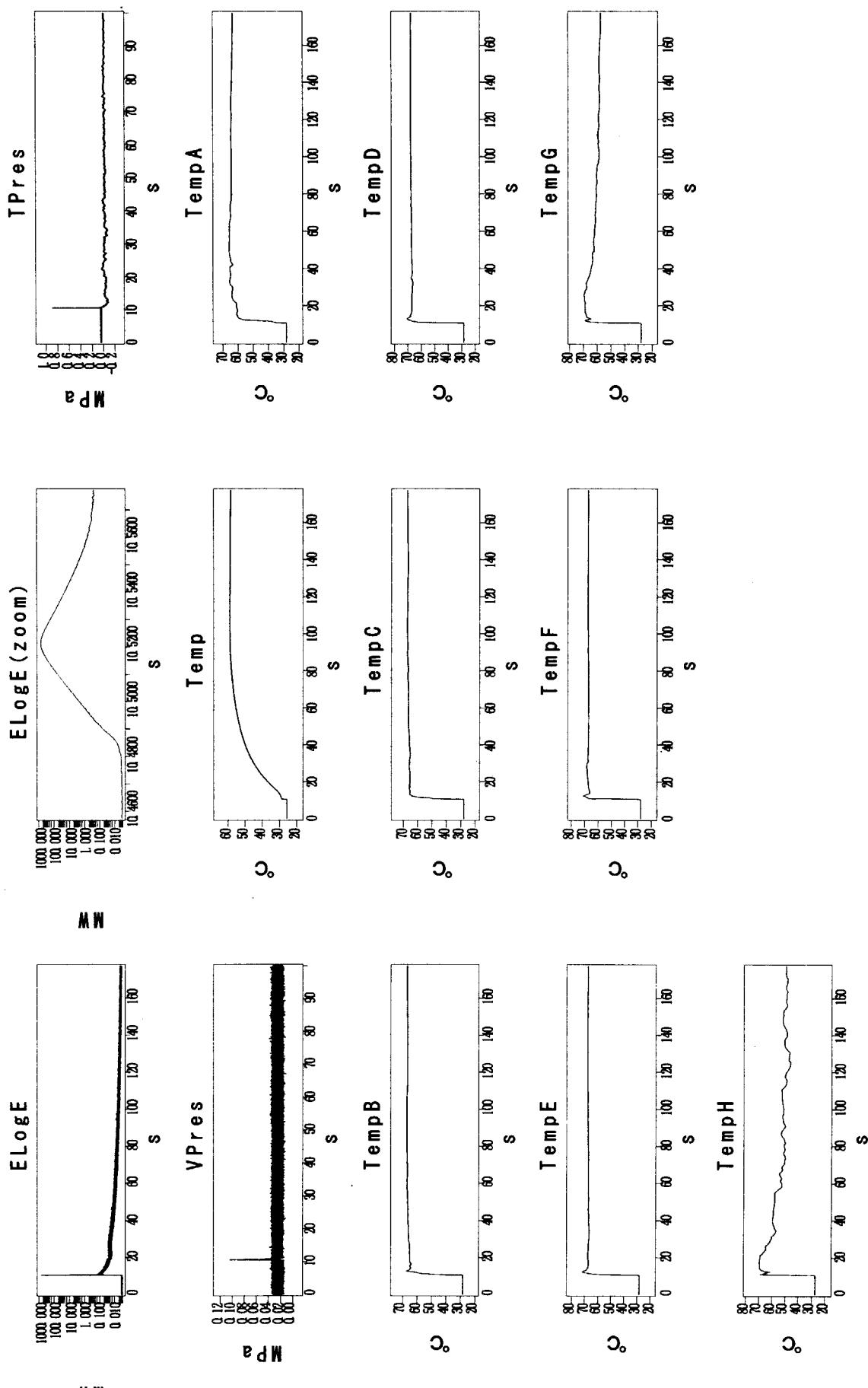
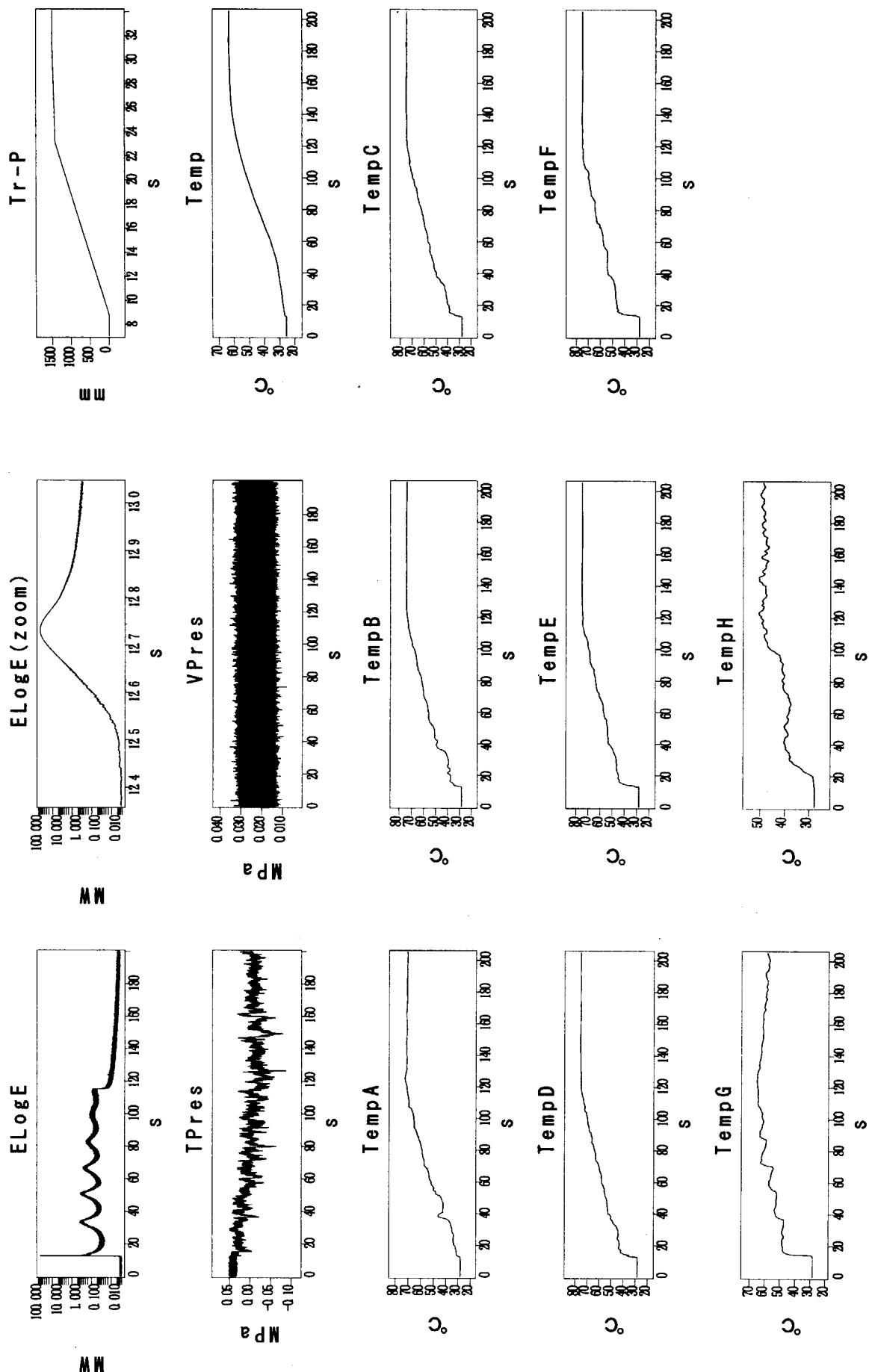


図 A20 過渡出力運転データ履歴 (R69 パルス引抜 2.92S)



図A21 過渡出力運転データ履歴 (R70 ランプ引抜 2.92S 600cm/min)

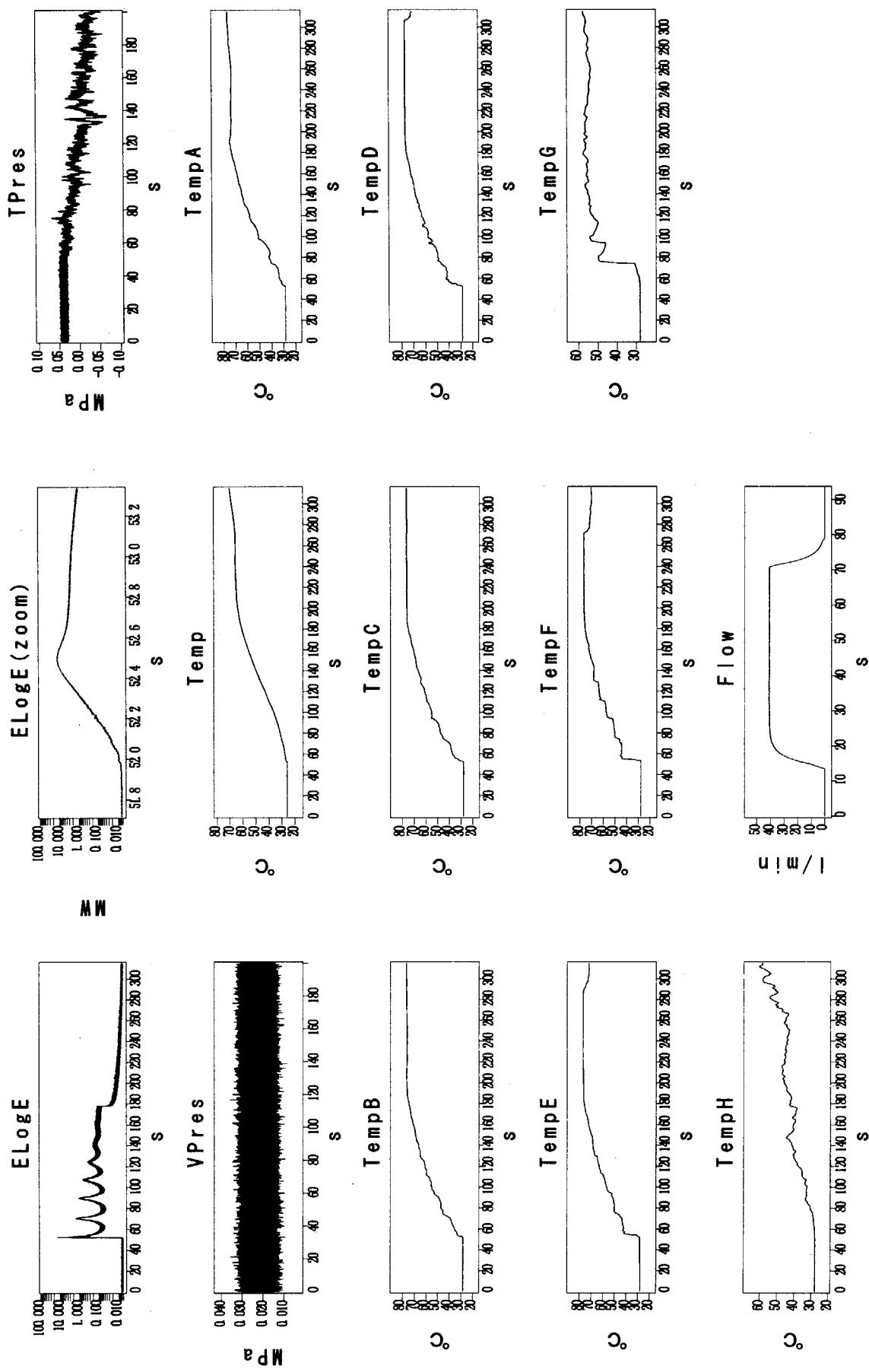


図 A22 過渡出力が重転データ履歴 (R71 ランプ給液 2.75\$ 60/l/min)

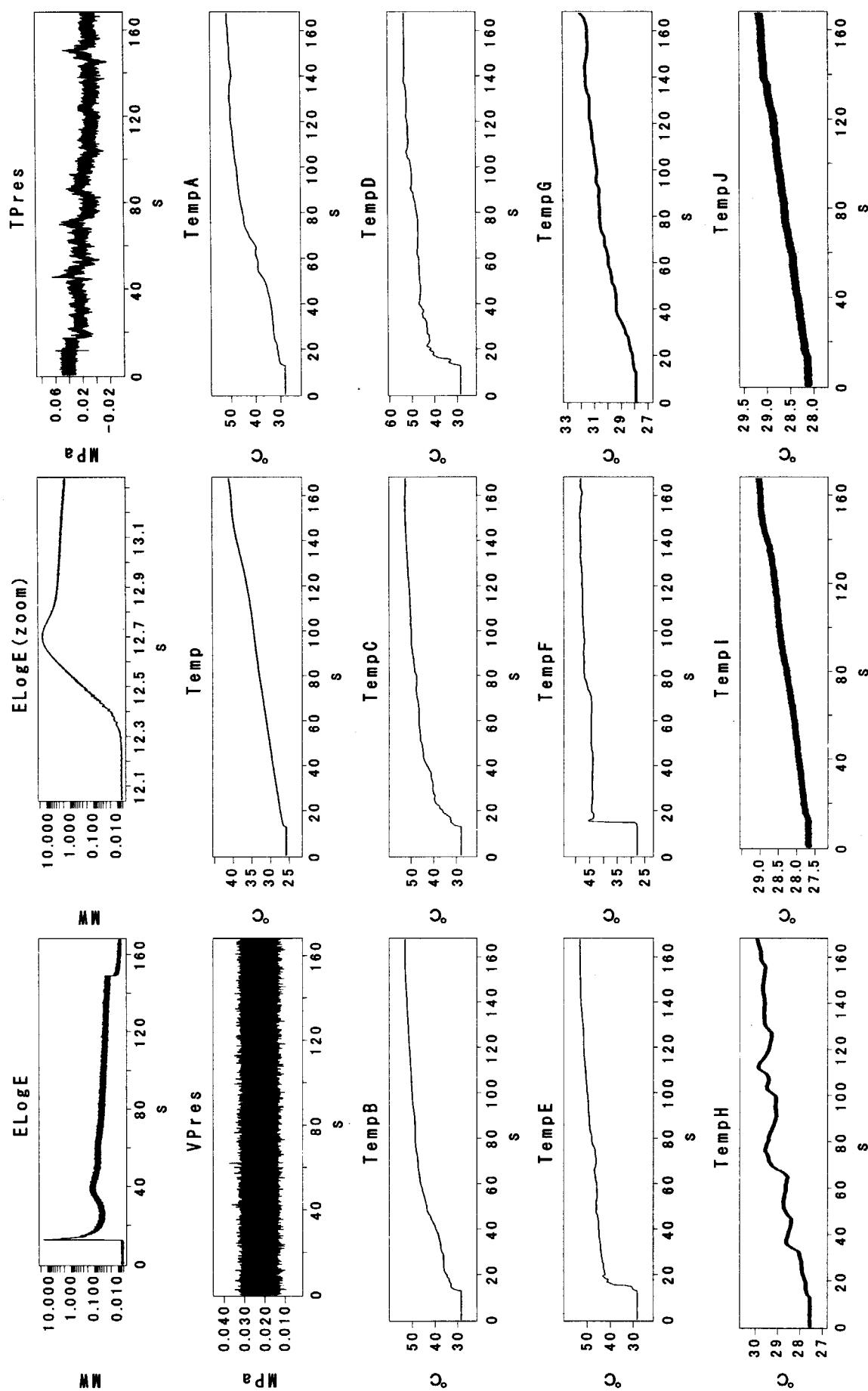


図 A23 過渡出力運転データ履歴 (R72 パレス引抜 2.92S)

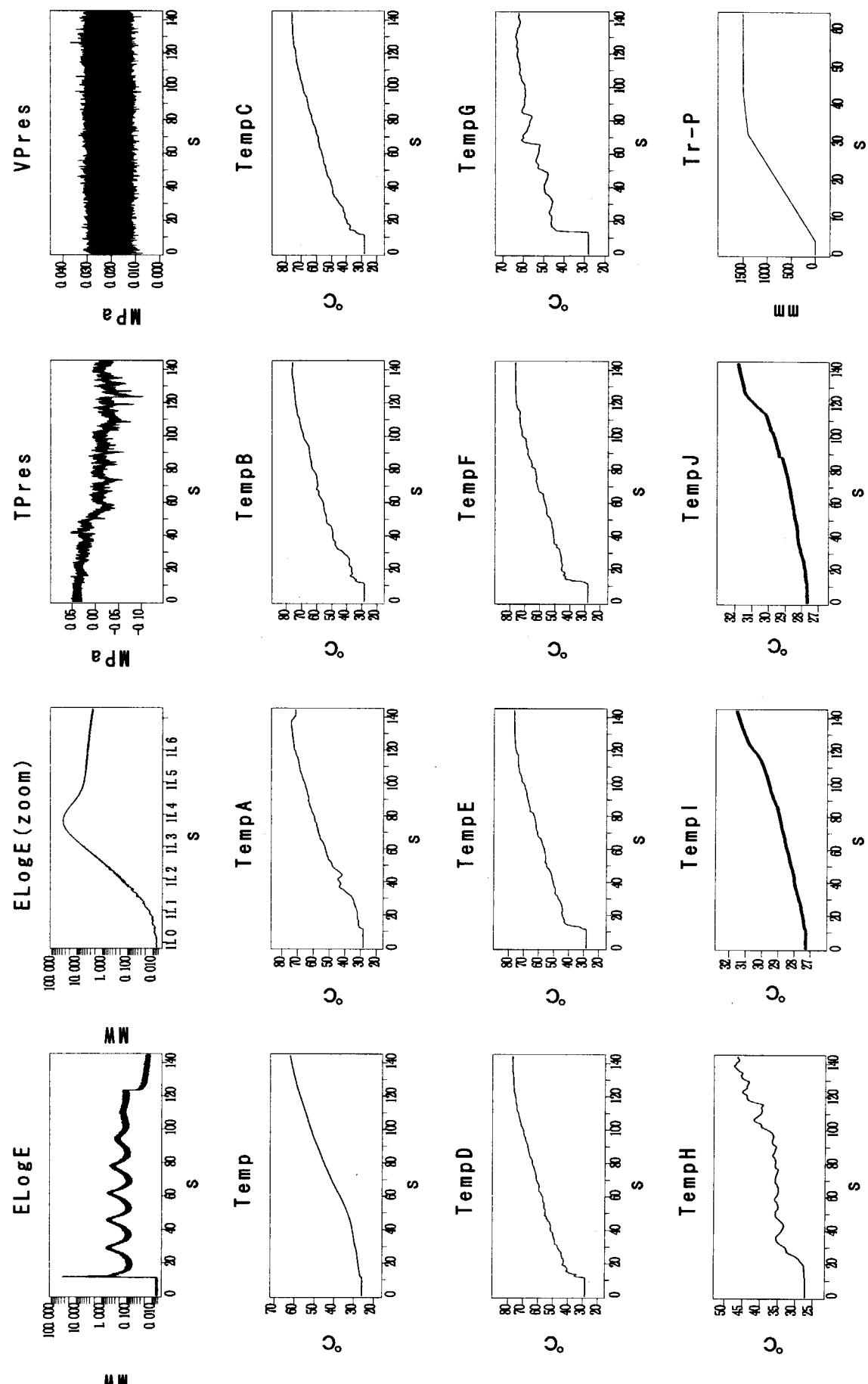


図 A24 過渡出力運転データ履歴 (R75 パルス引抜 2.92\$ 300cm/min)

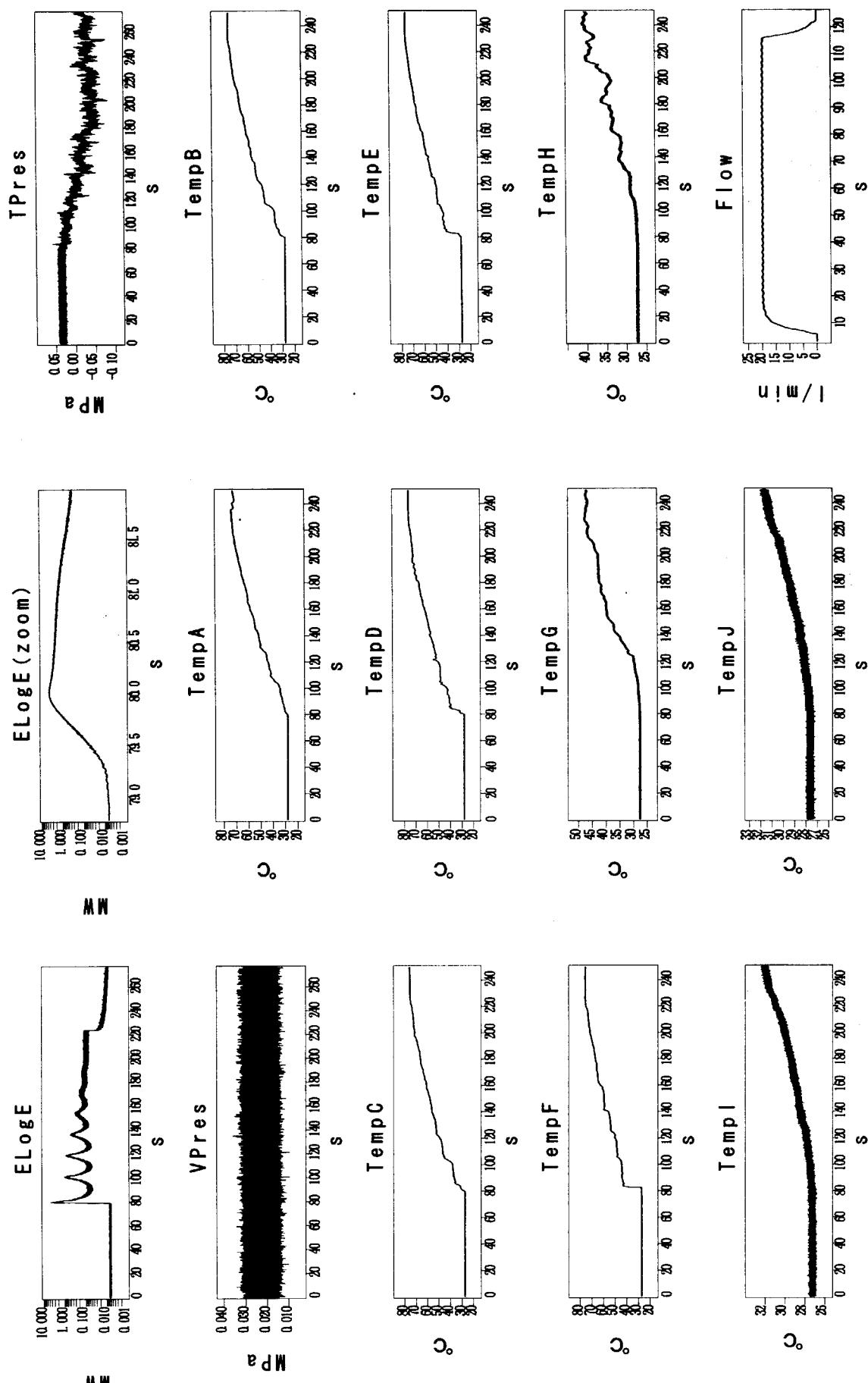
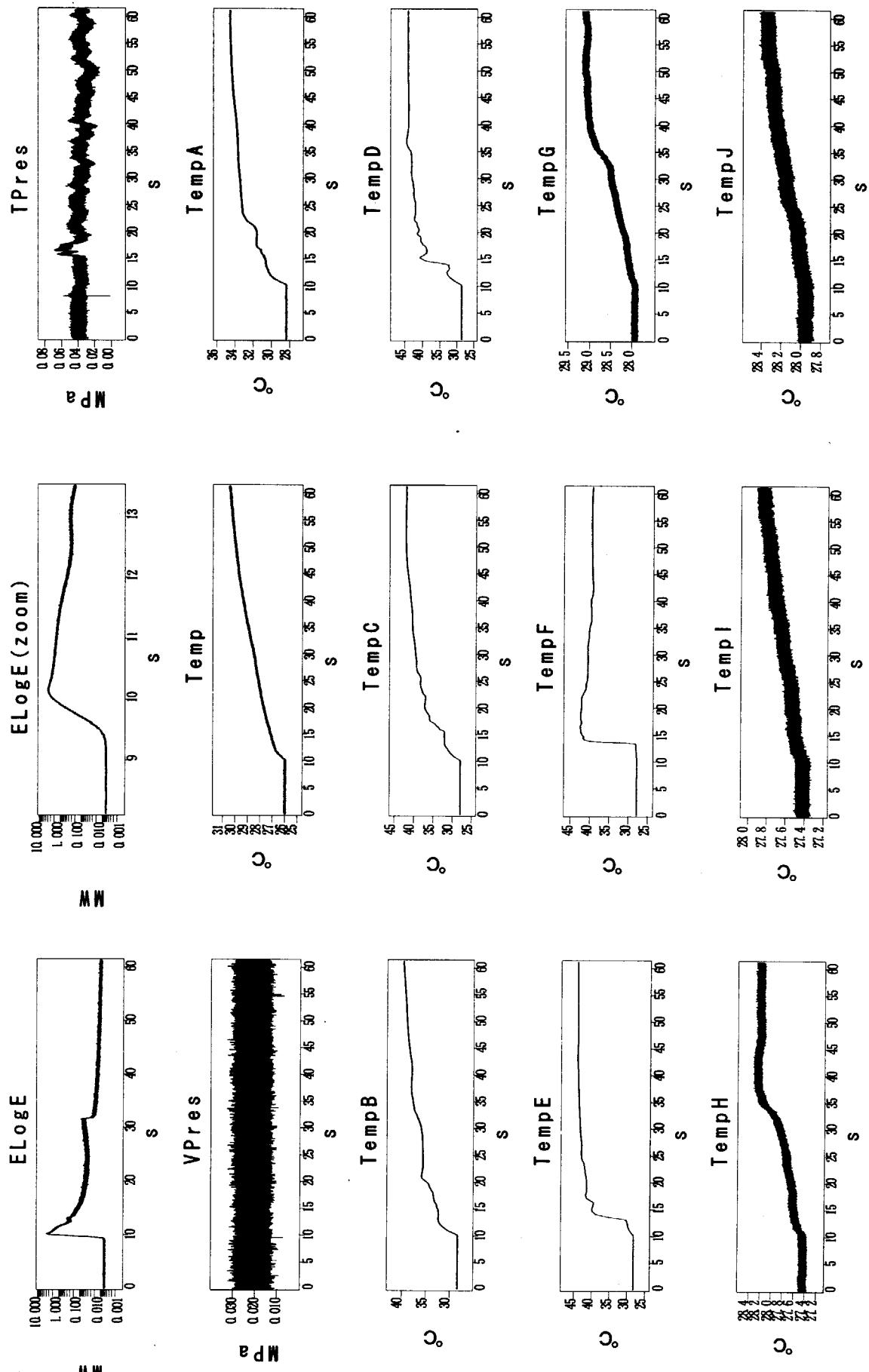


図 A25 過渡出力運転データ履歴 (R76 ランプ給液 2.65\$ 60ℓ/min)



図A26 過渡出力運転データ履歴 (R77 パルス引抜 1.000\$)

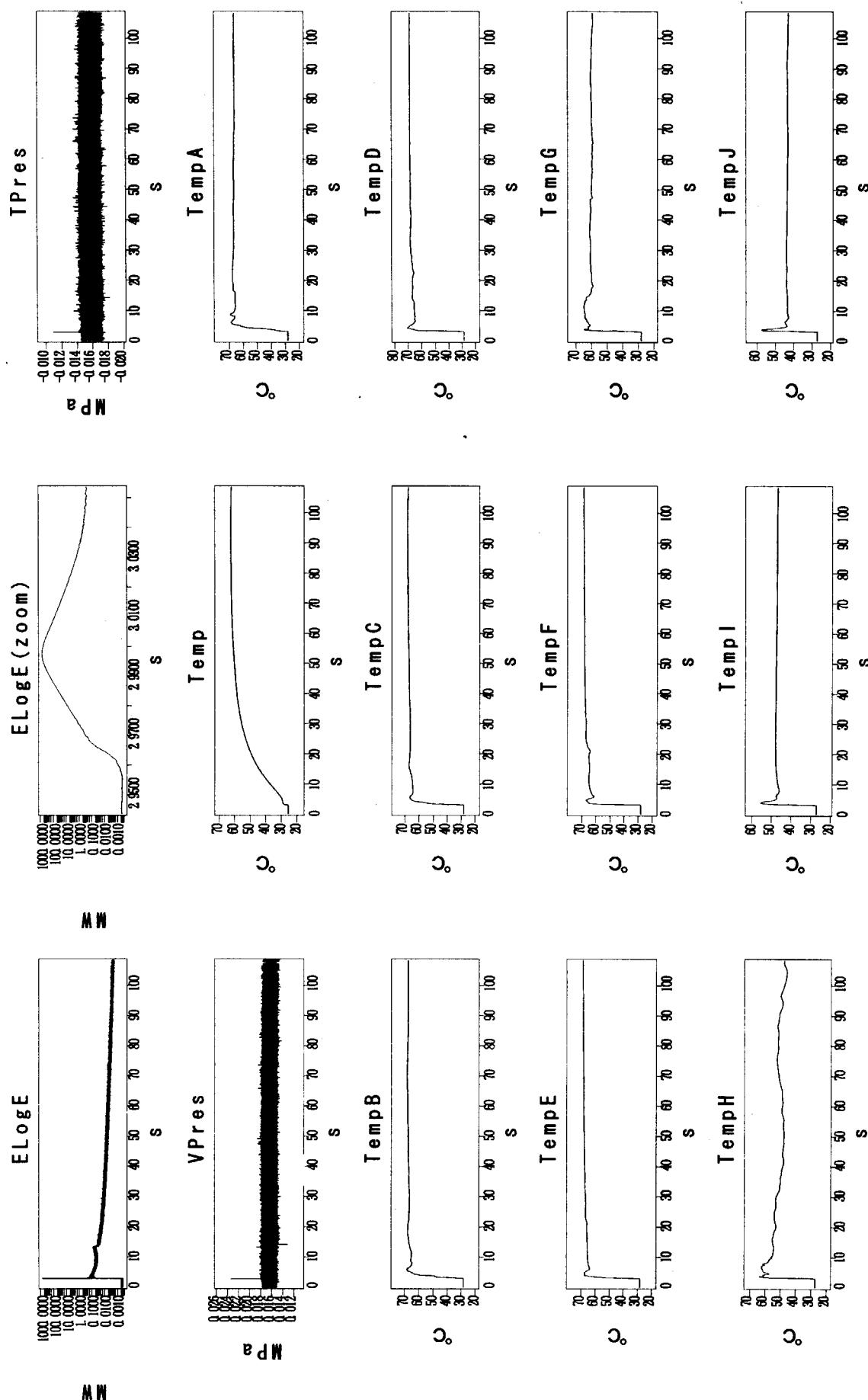


図 A27 過渡出力運転データ履歴 (R92 バルス引抜 2.93\$)

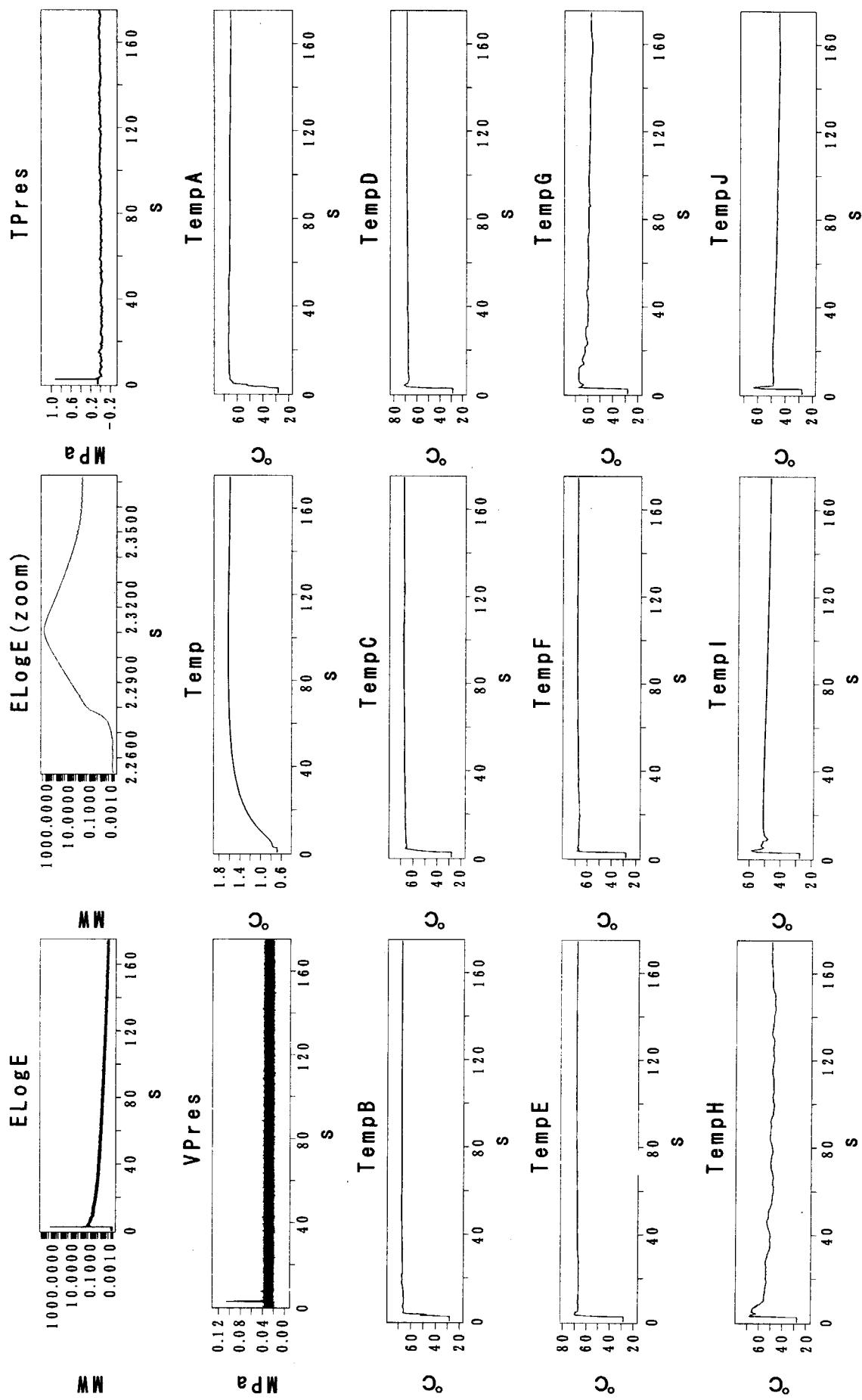


図 A28 過渡出力運転データ履歴 (R93 パレス引抜 0.70\$)

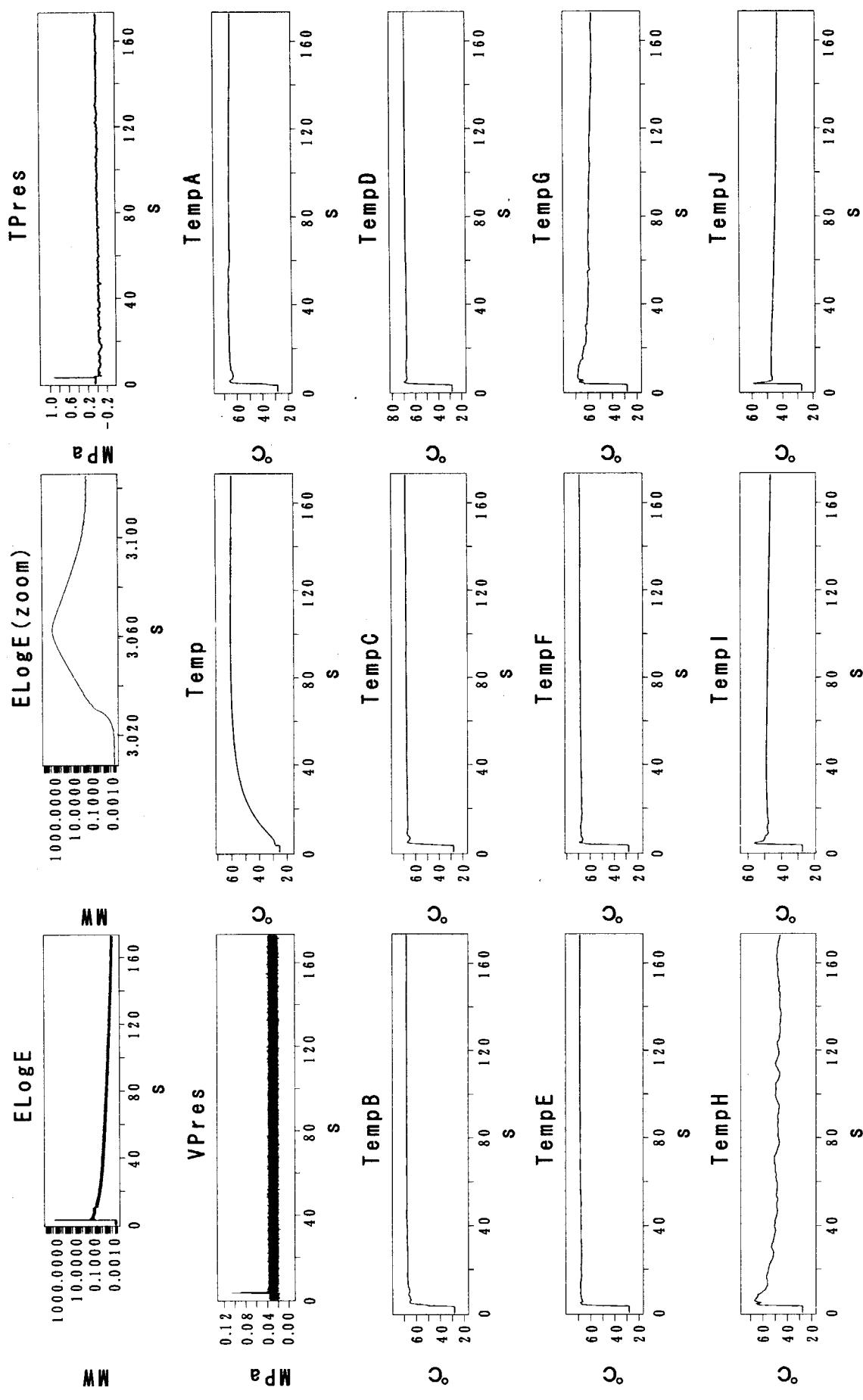


図 A29 過渡出力運転データ履歴 (R94 パラス引抜 2.93\$)

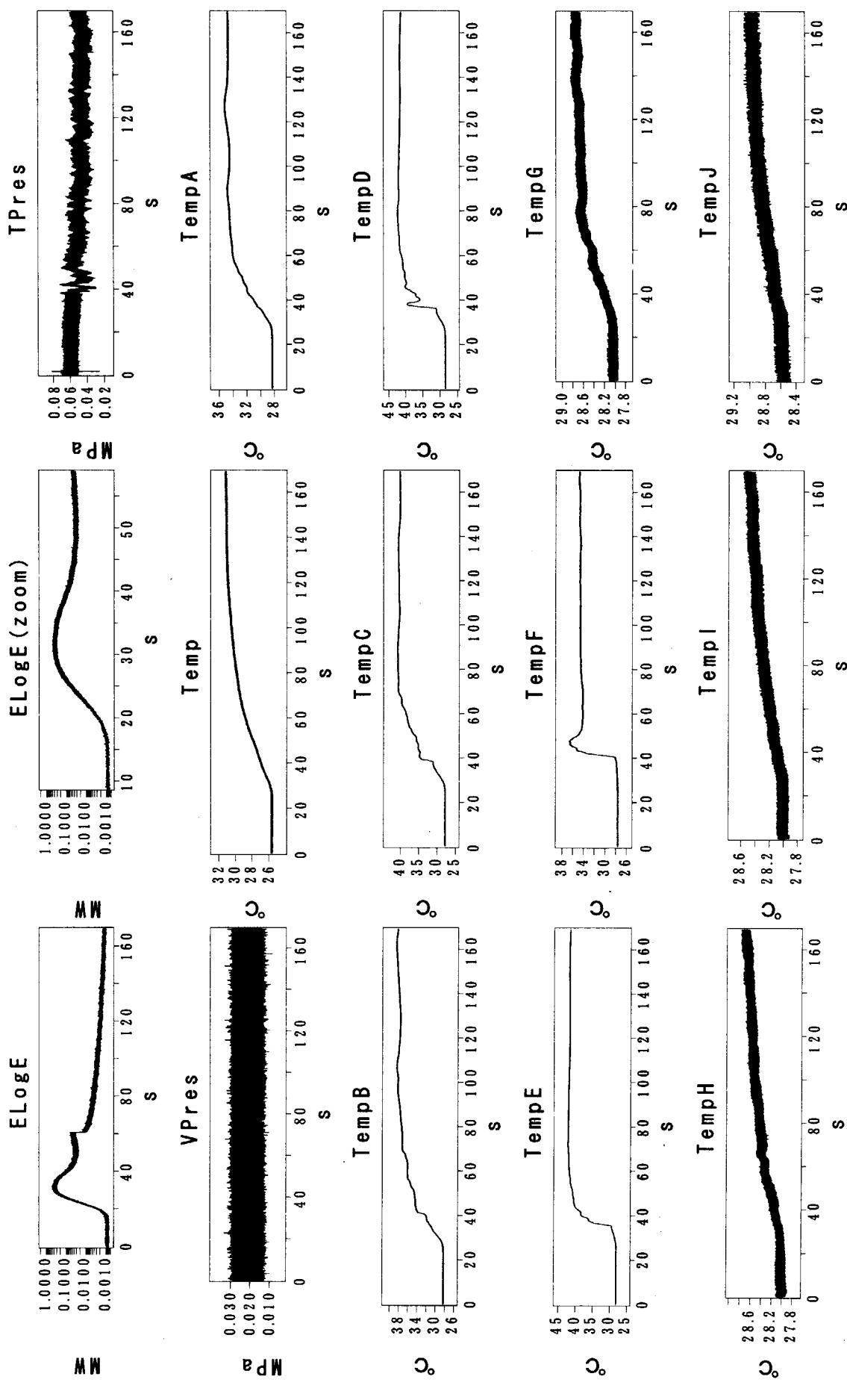


図 A30 過渡出力運転データ履歴 (R95 パレス引抜 0.70\$)

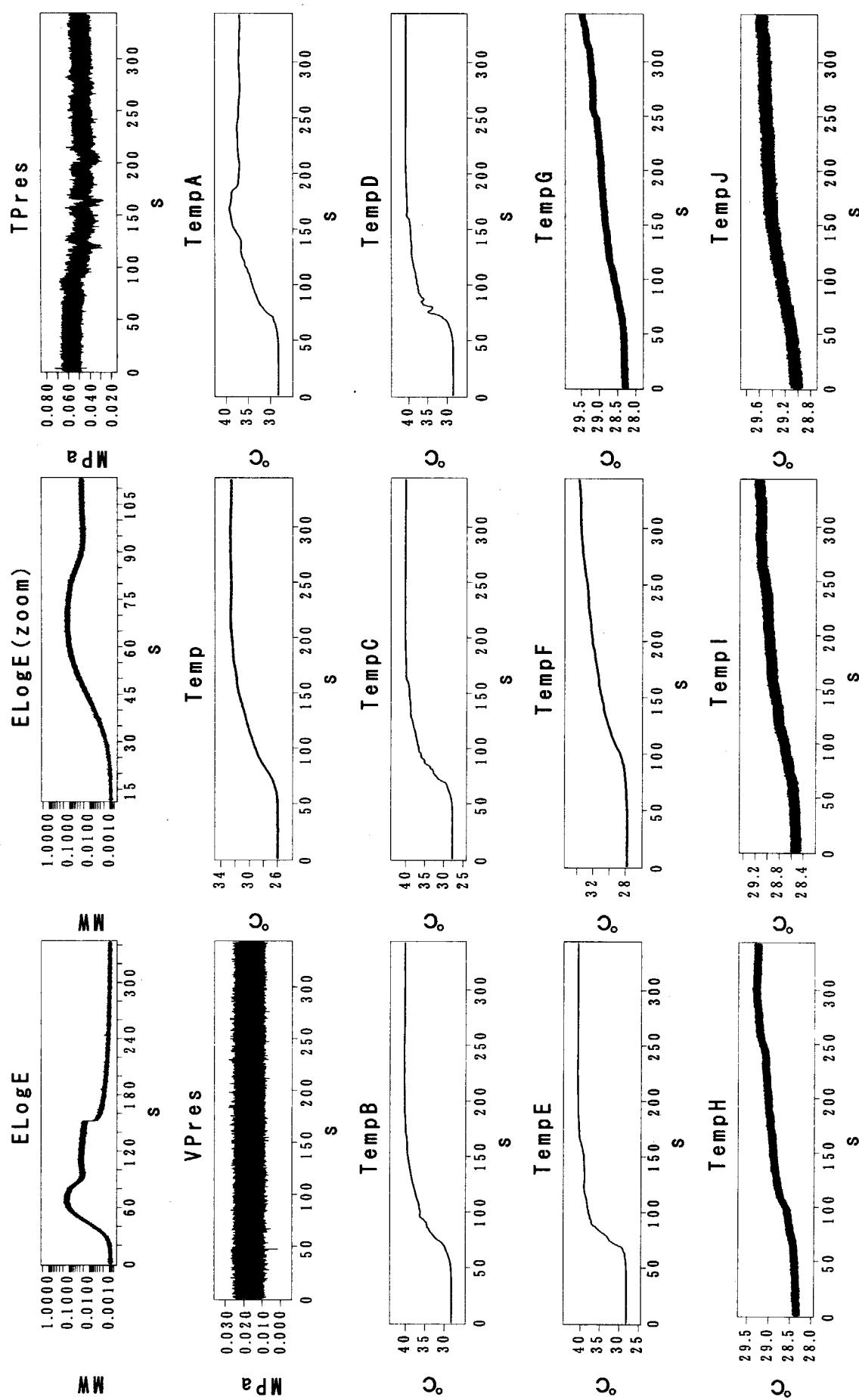


図 A31 過渡出力運転データ履歴 (R96 パルス引抜 0.50%)

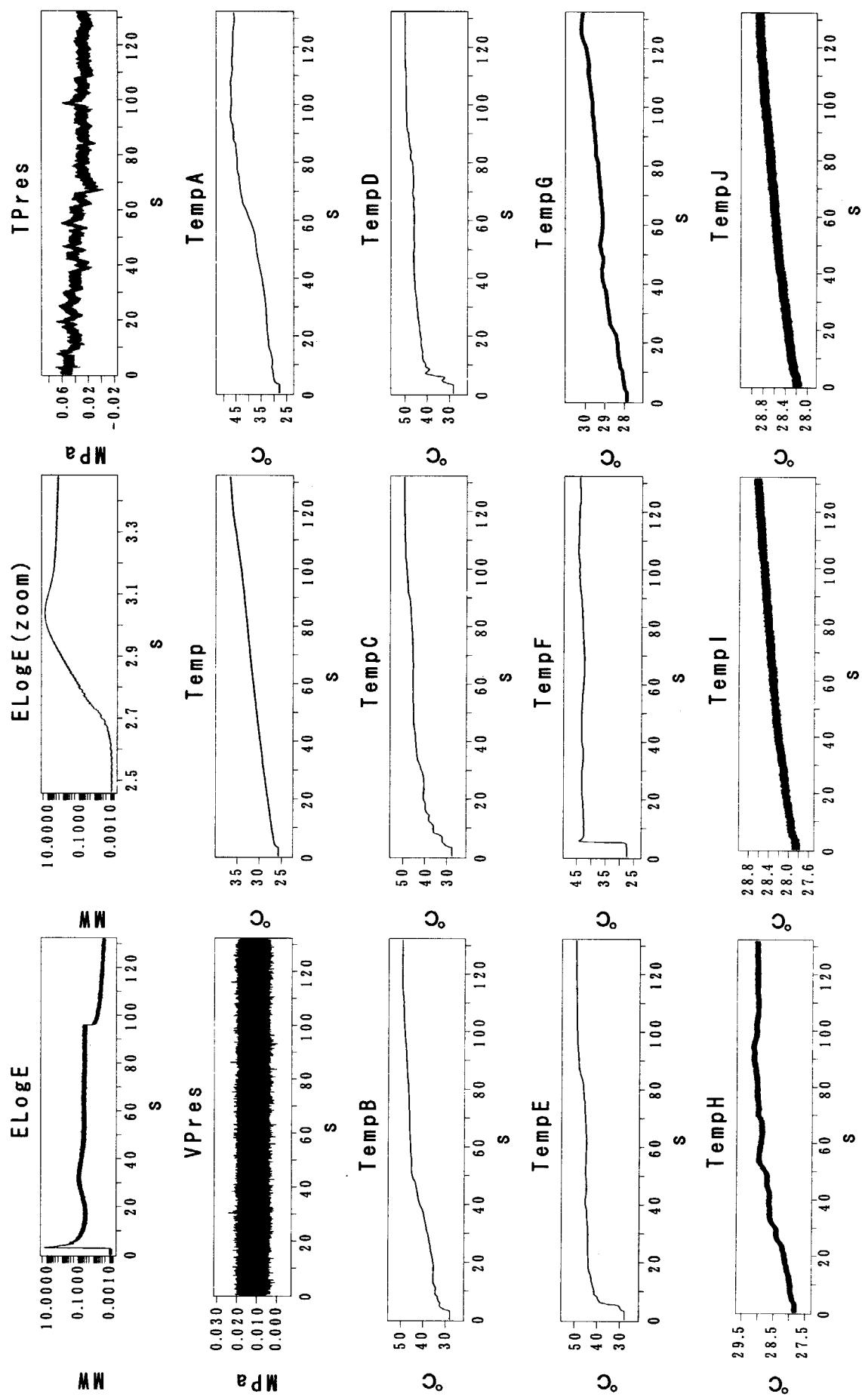


図 A32 過渡出力運転データ履歴 (R97 パルス引抜 0.98\$)

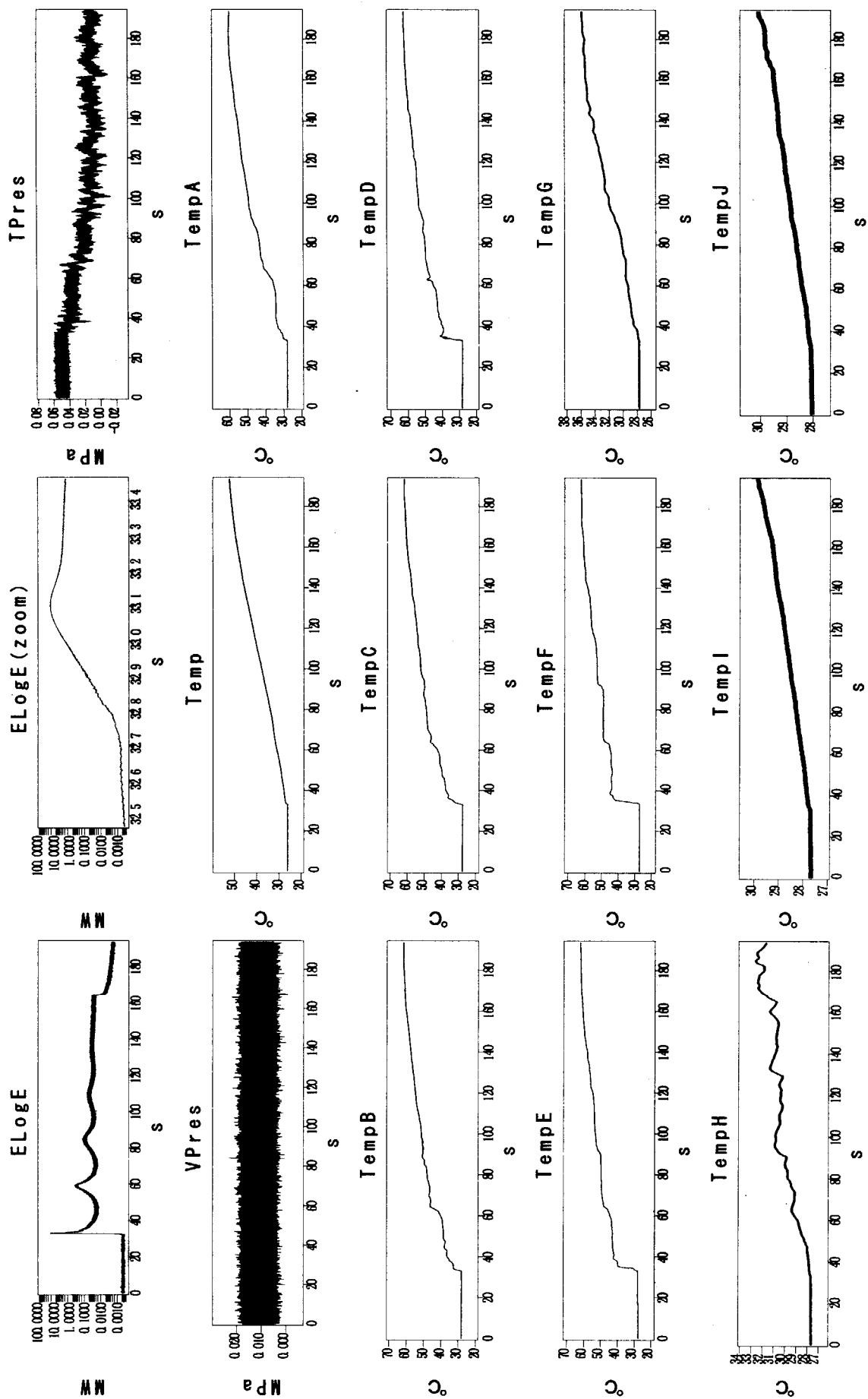


図 A33 過渡出力運転データ履歴 (R98 ランプ給液 1.80S 60ℓ/min)

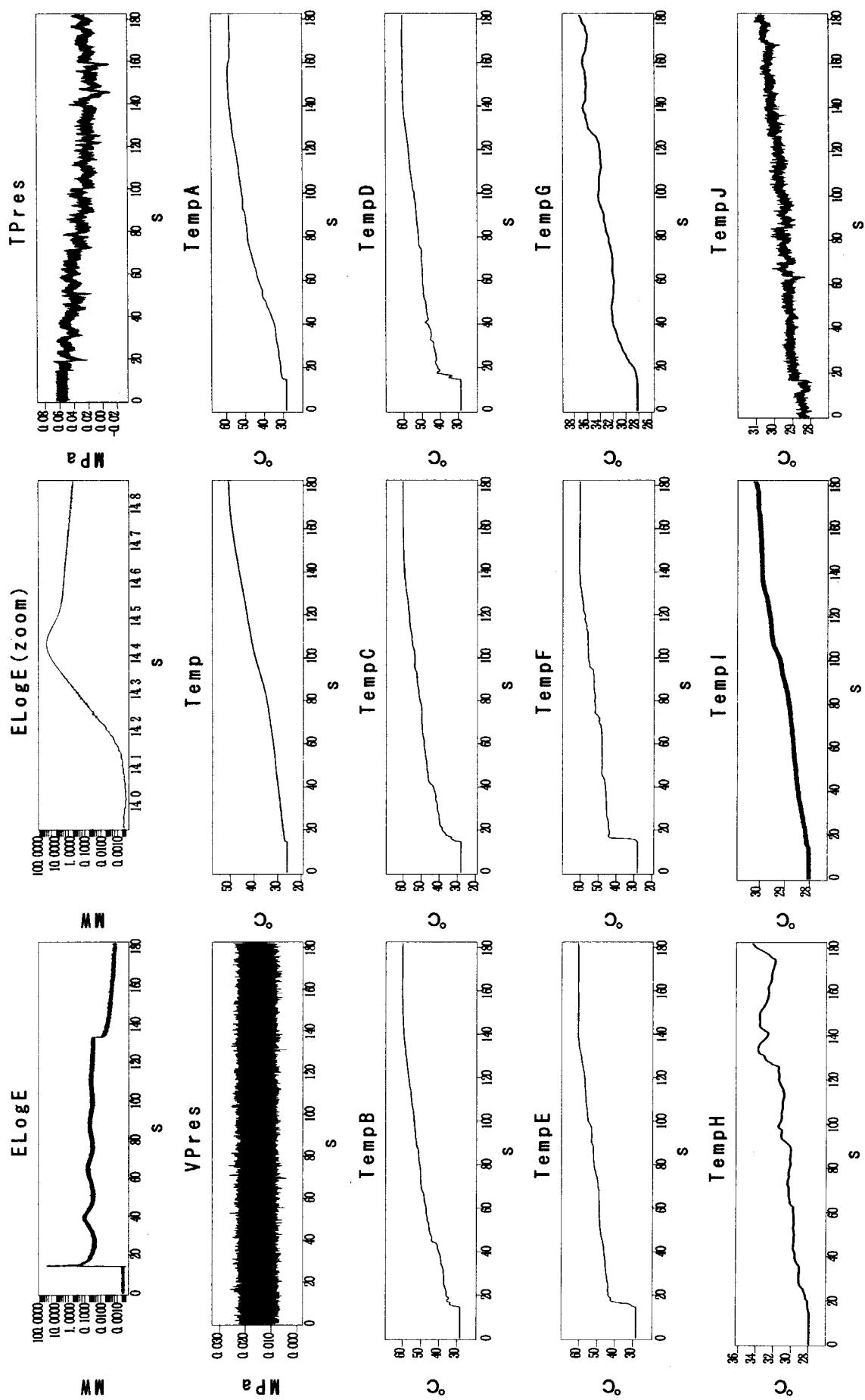


図 A34 過渡出力運転データ履歴 (R99 パレス引抜 1.80\$)

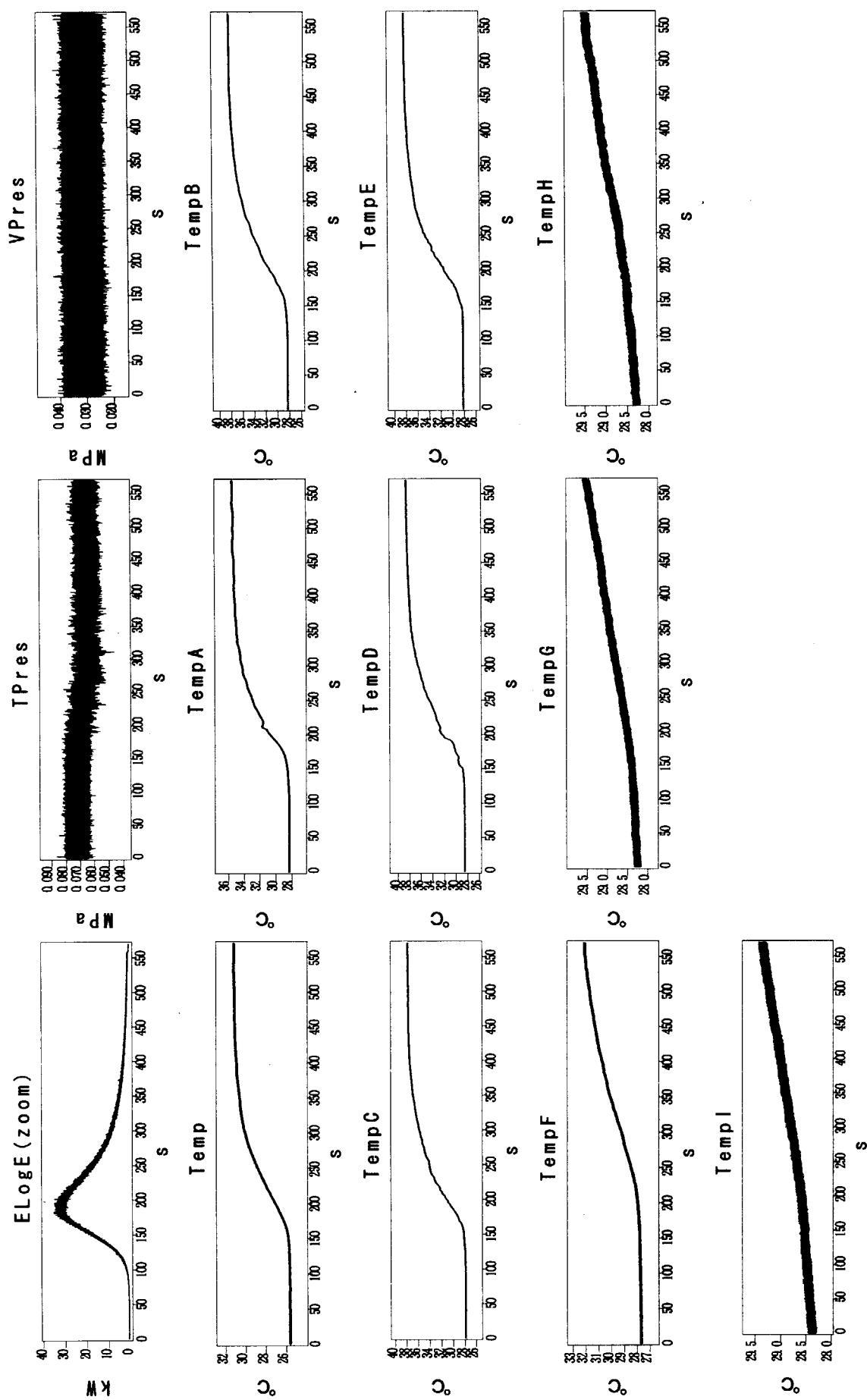
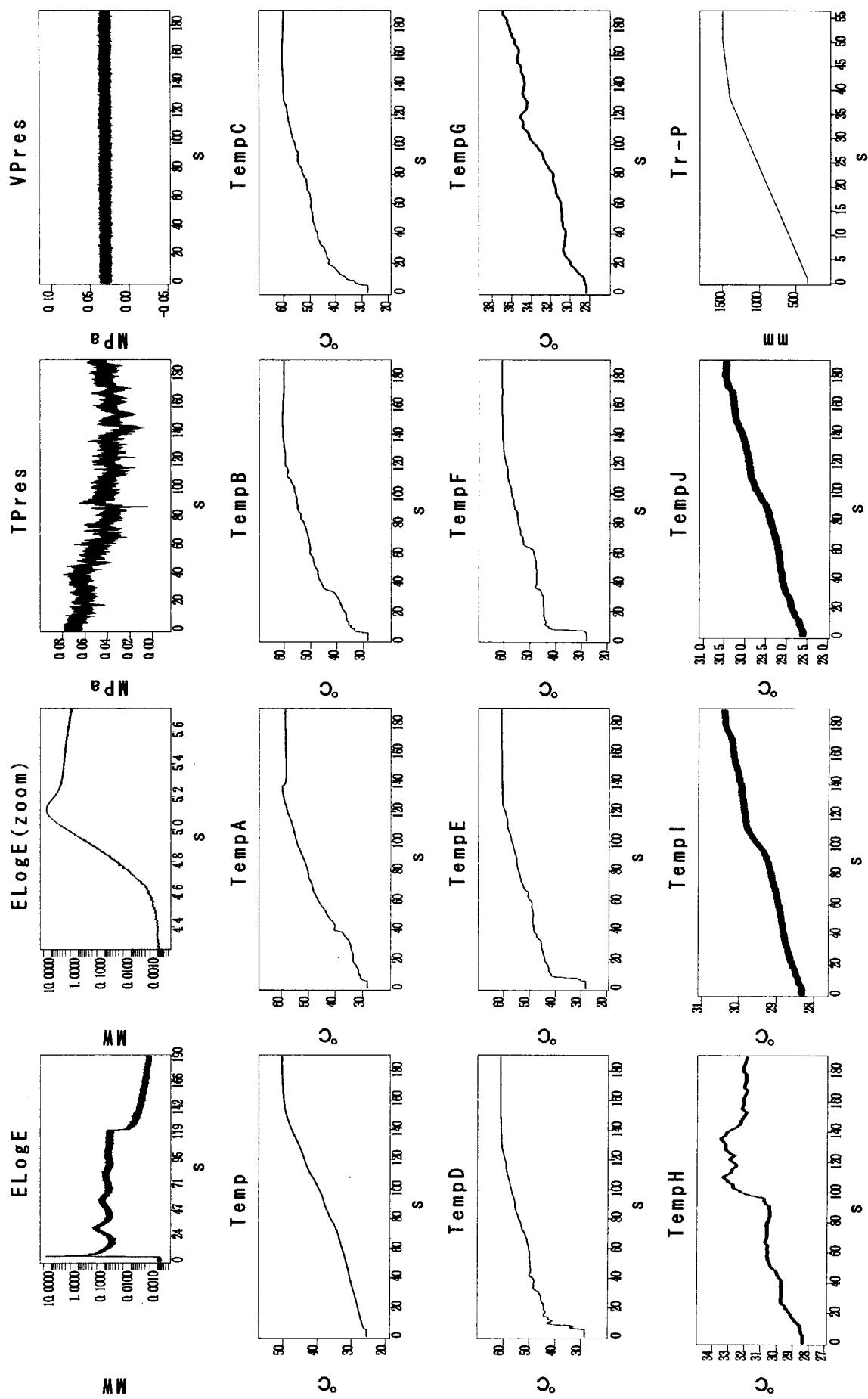


図 A35 過渡出力運転データ履歴 (R100 パルス引抜 0.30S)



図A36 過渡出力運転データ履歴 (R101 ランプ引抜 1.80S 172cm/min)

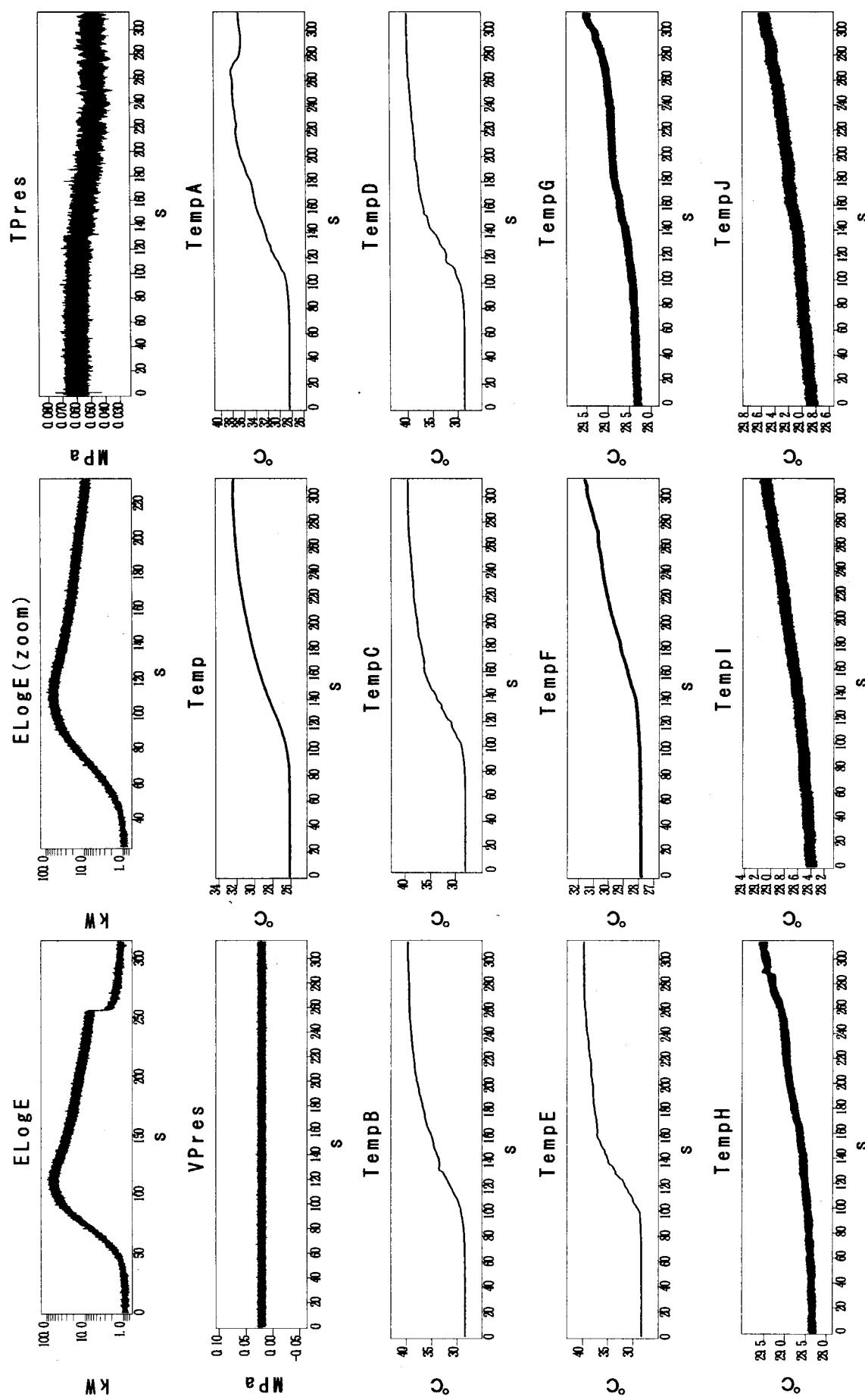
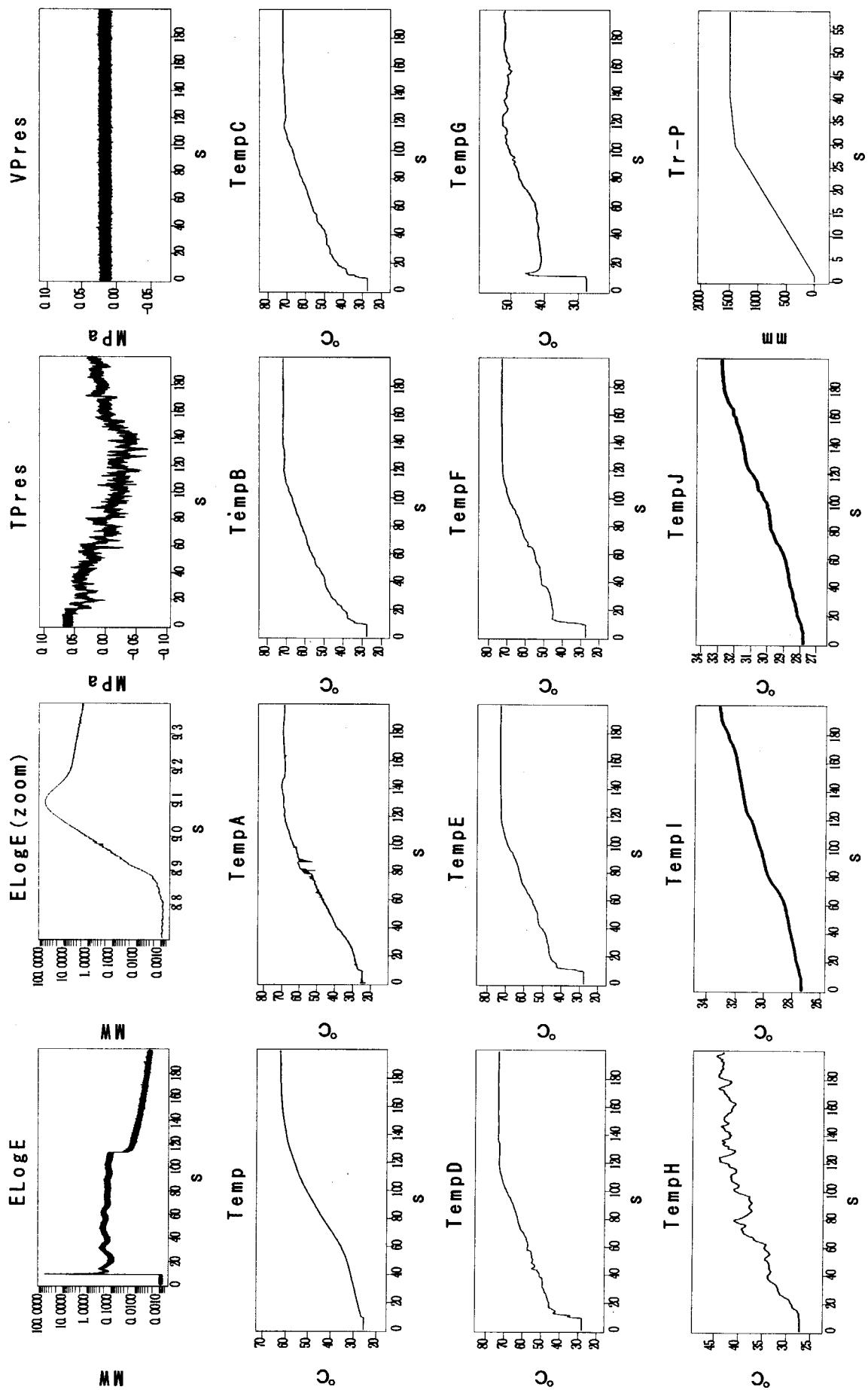


図 A37 過渡出力運動データ履歴 (R102 パルス引抜 0.40\$)



図A38 過渡出力運動データ履歴 (R103 ランプ引抜 2.88\$ 300cm/min)

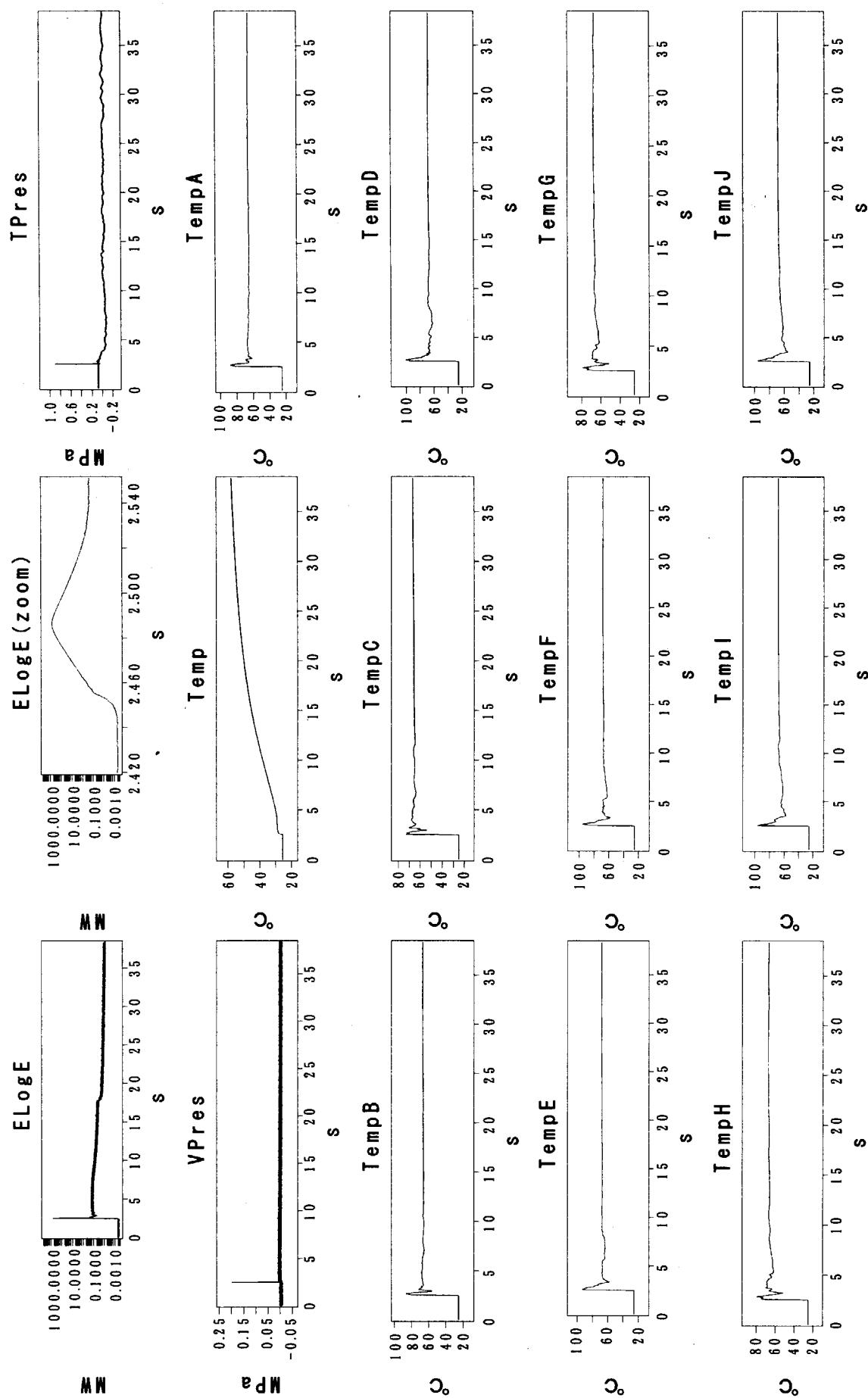


図 A39 過渡出力運転データ履歴 (R104 パルス引抜 2.91\$)

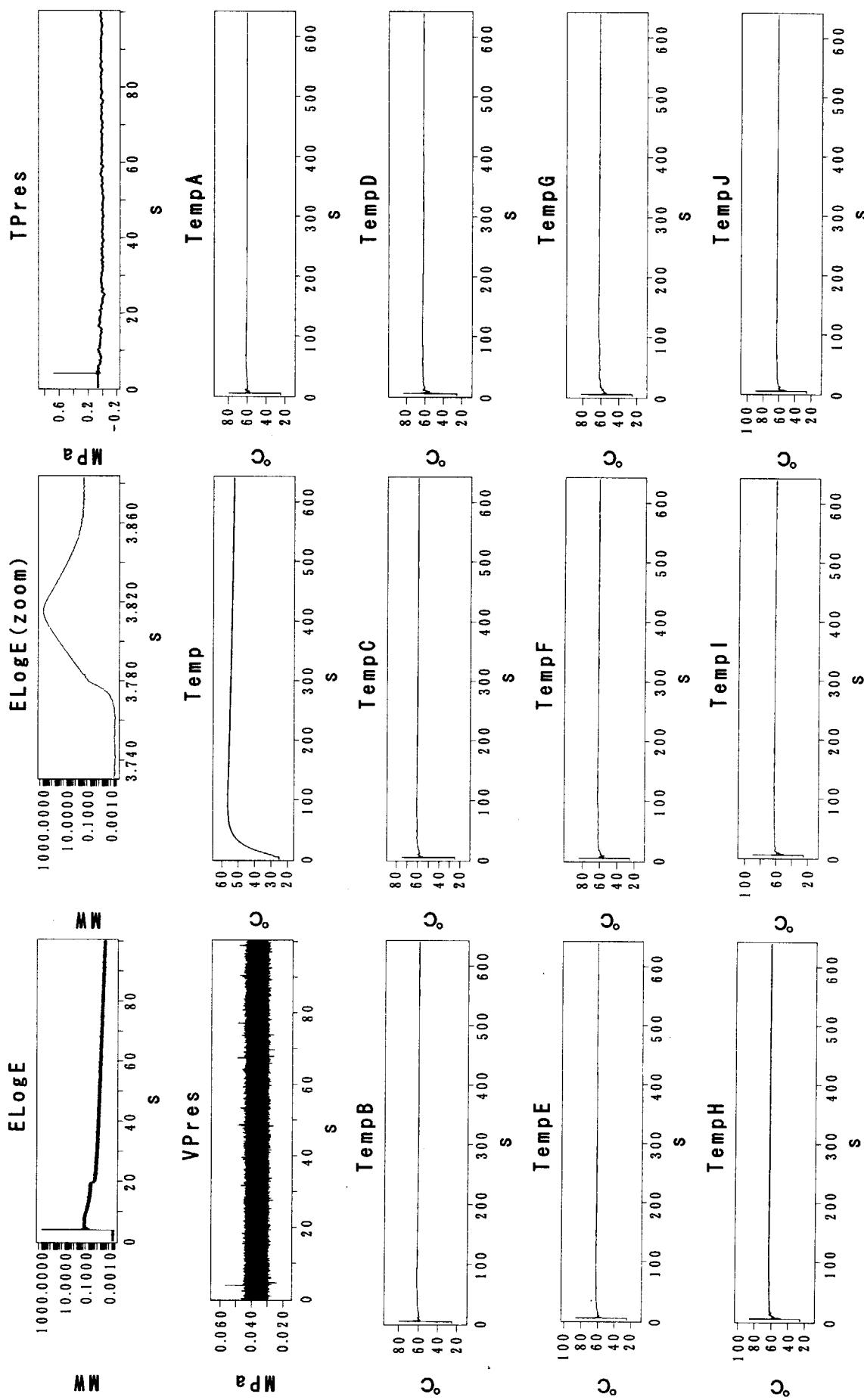


図 A40 過渡出力運転データ履歴 (R105 パレス引抜 2.61\$)

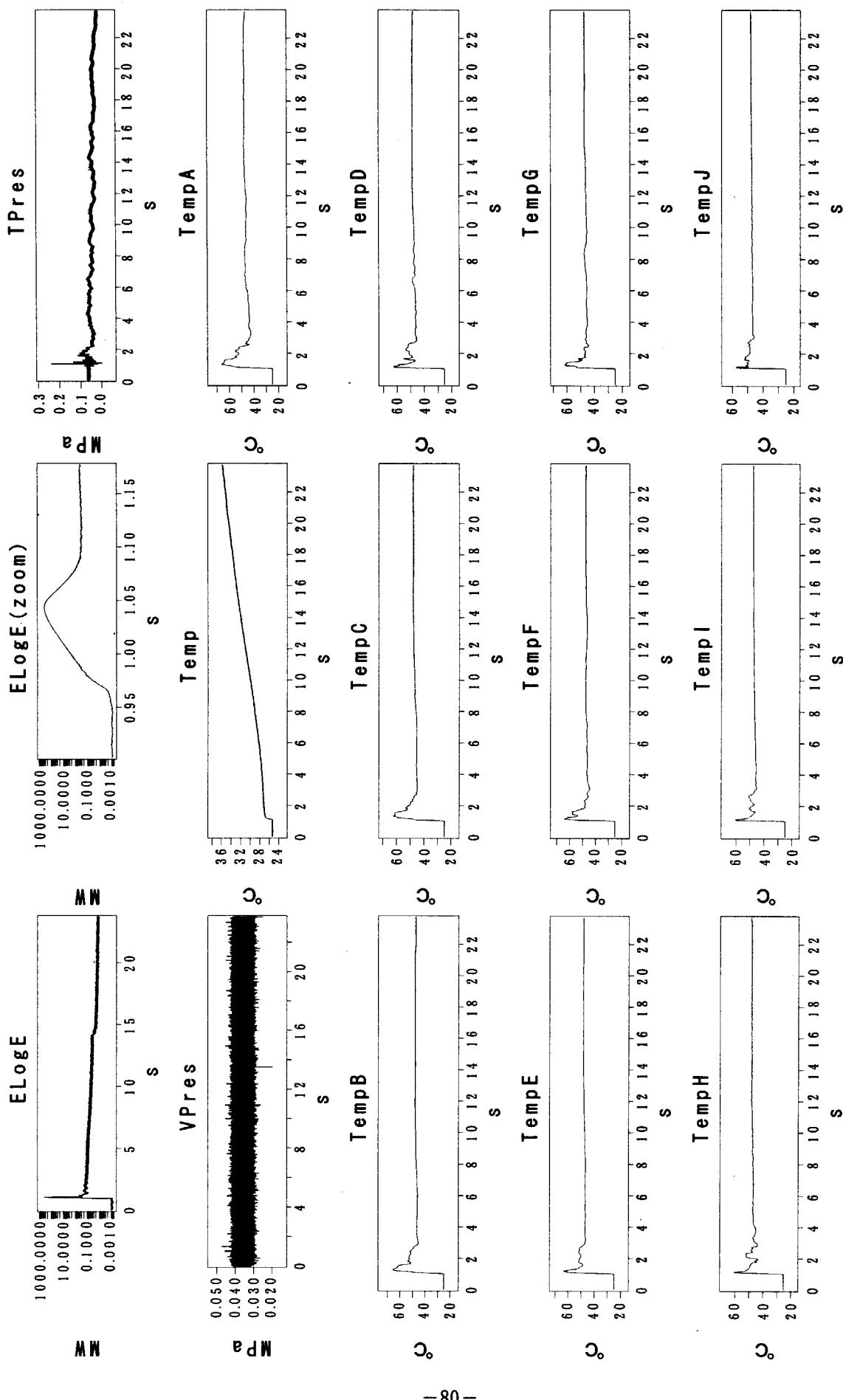


図 A41 過渡出力運転データ履歴 (R106 ナルス引抜 1.84\$)

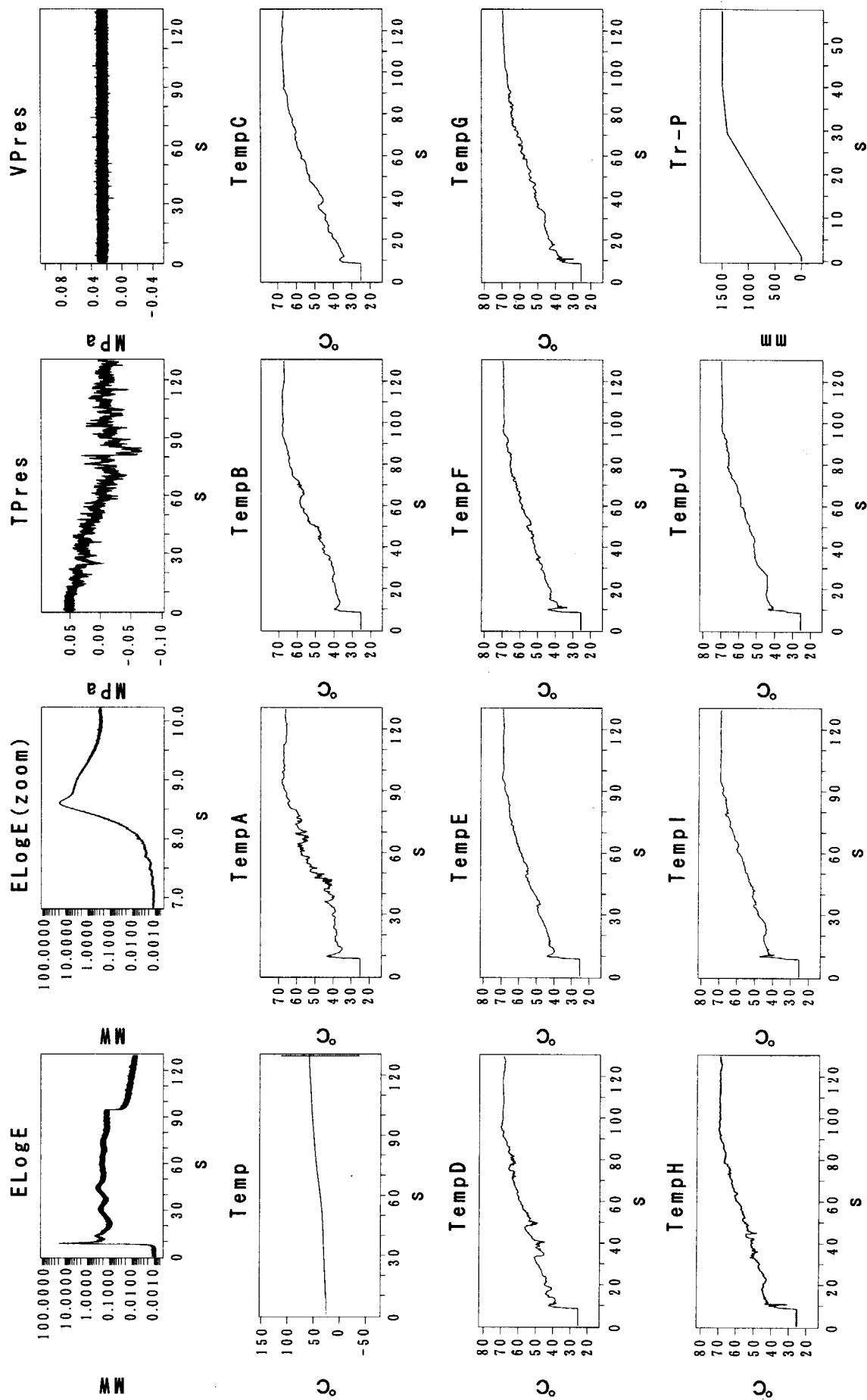
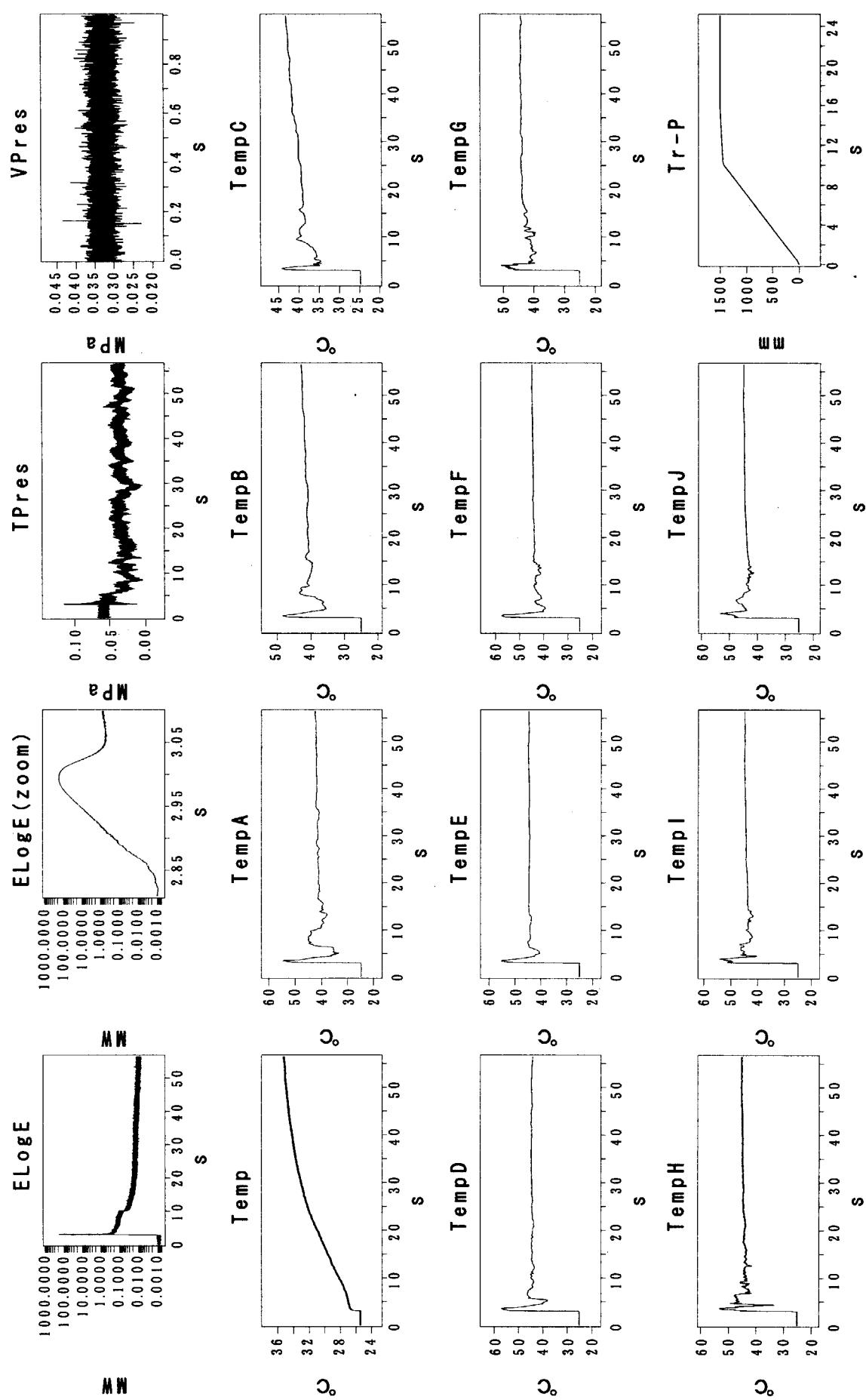
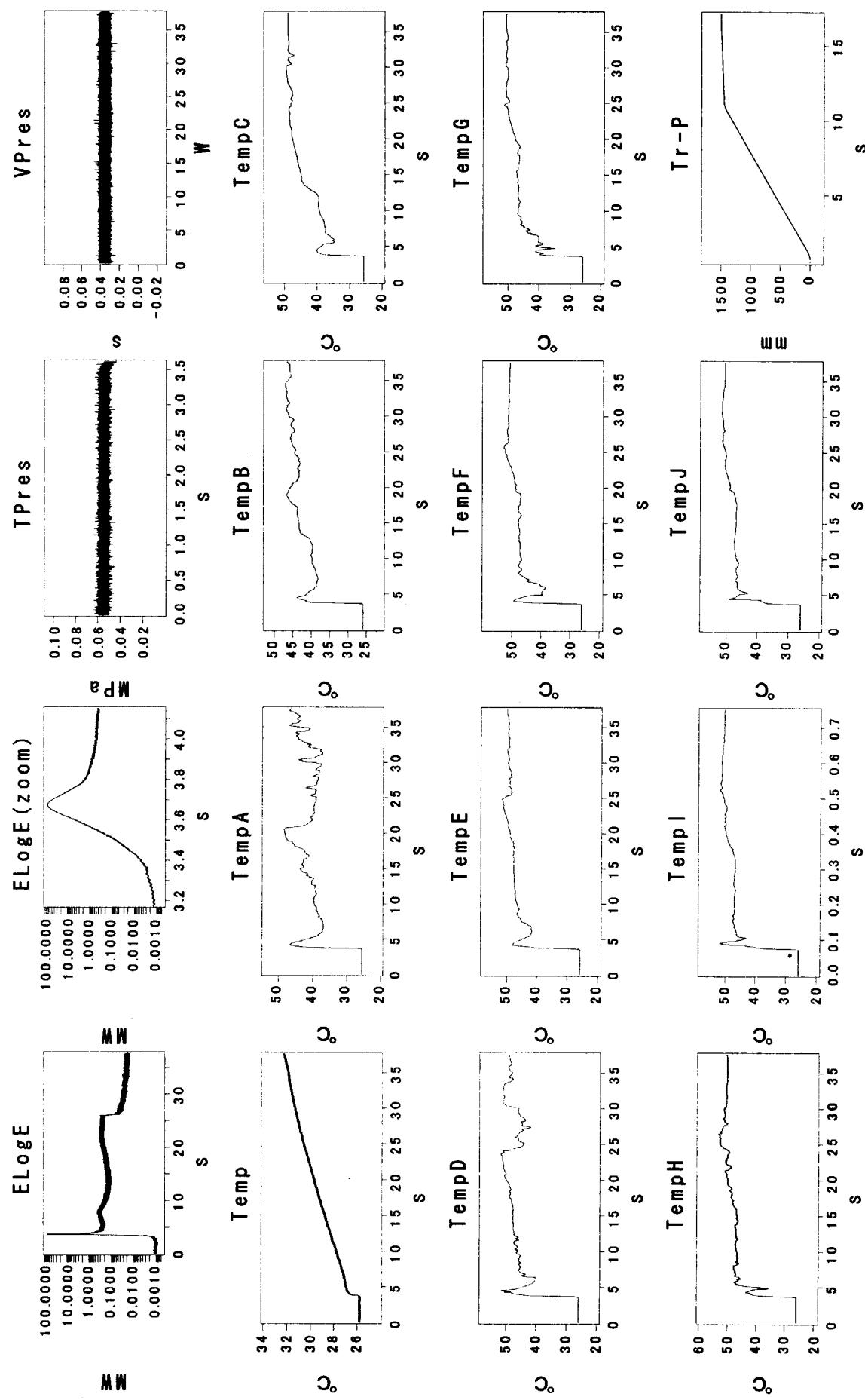


図 A42 過渡出力運転データ履歴 (R107 ランプ引抜 2.97\$ 300cm/min)



図A43 過渡出力運転データ履歴 (R108 ランプ引抜 2.94\$ 875cm/min)



図A44 過渡出力運転データ履歴 (R109 ランプ引抜 2.97\$ 875cm/min)

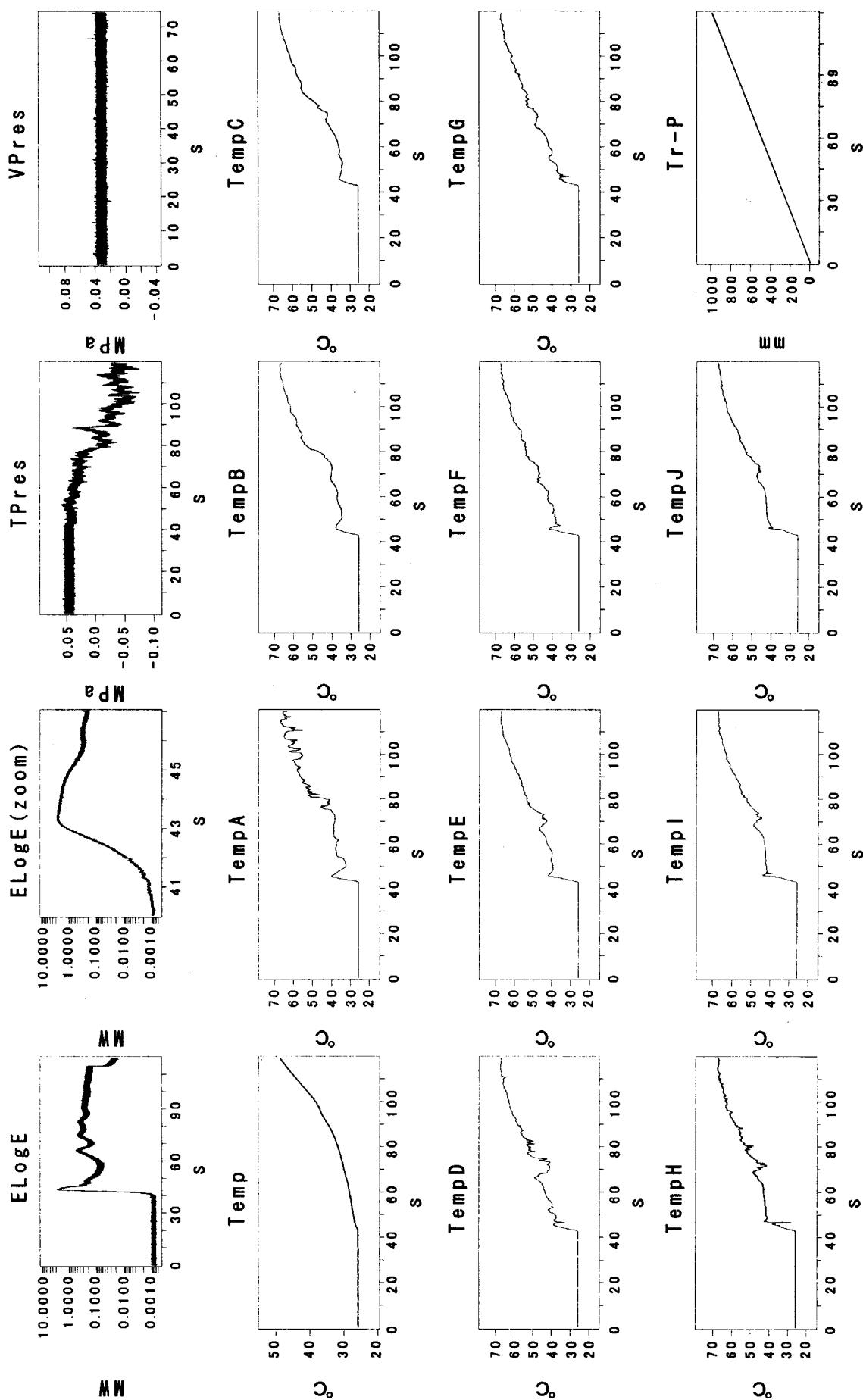


図 A45 過渡出力運転データ履歴 (R110 ランプ引抜 2.95\$ 50cm/min)

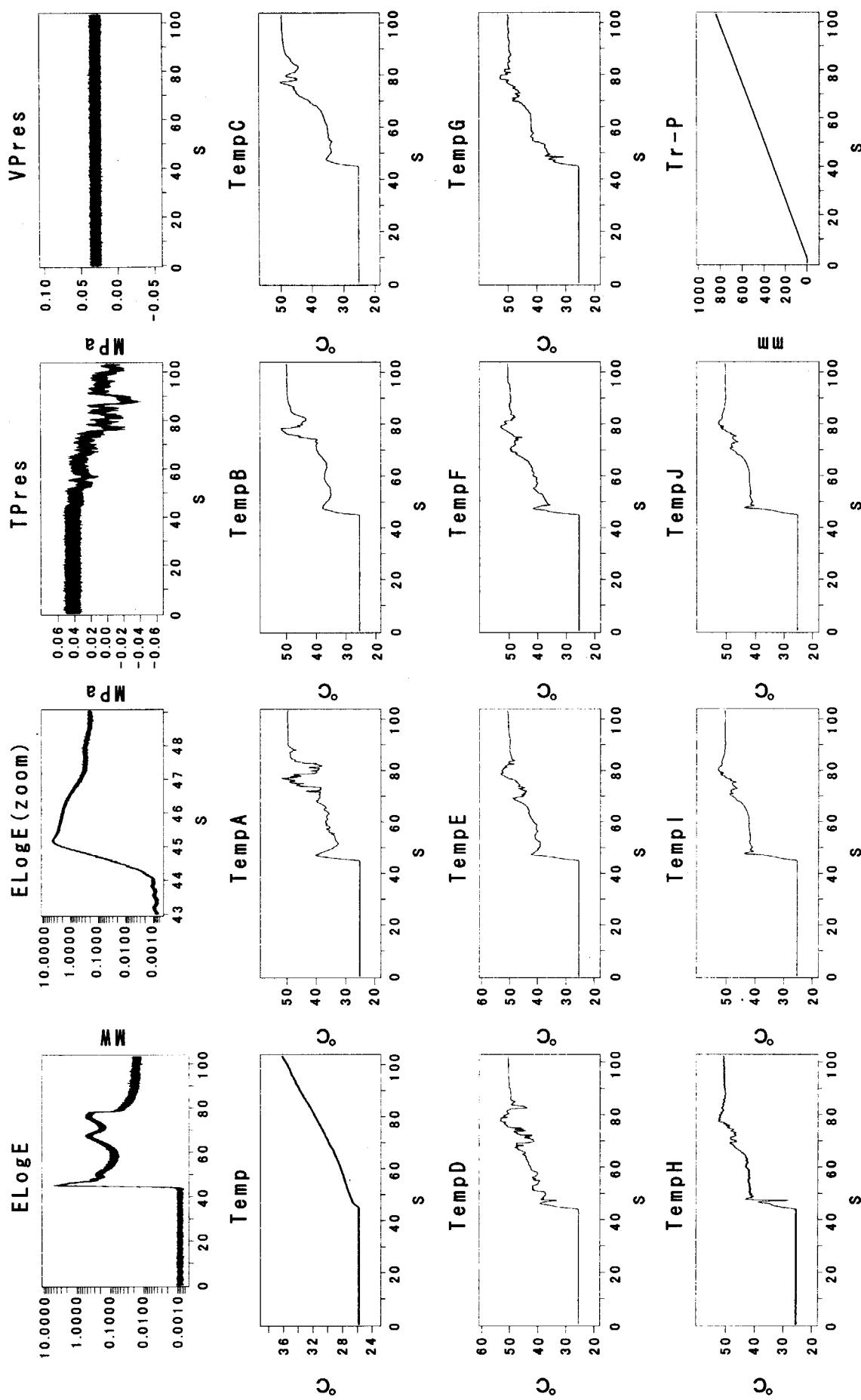


図 A46 過渡出力が重伝データ履歴 (R111 ランプ引抜 2.94\$ 50cm/min)

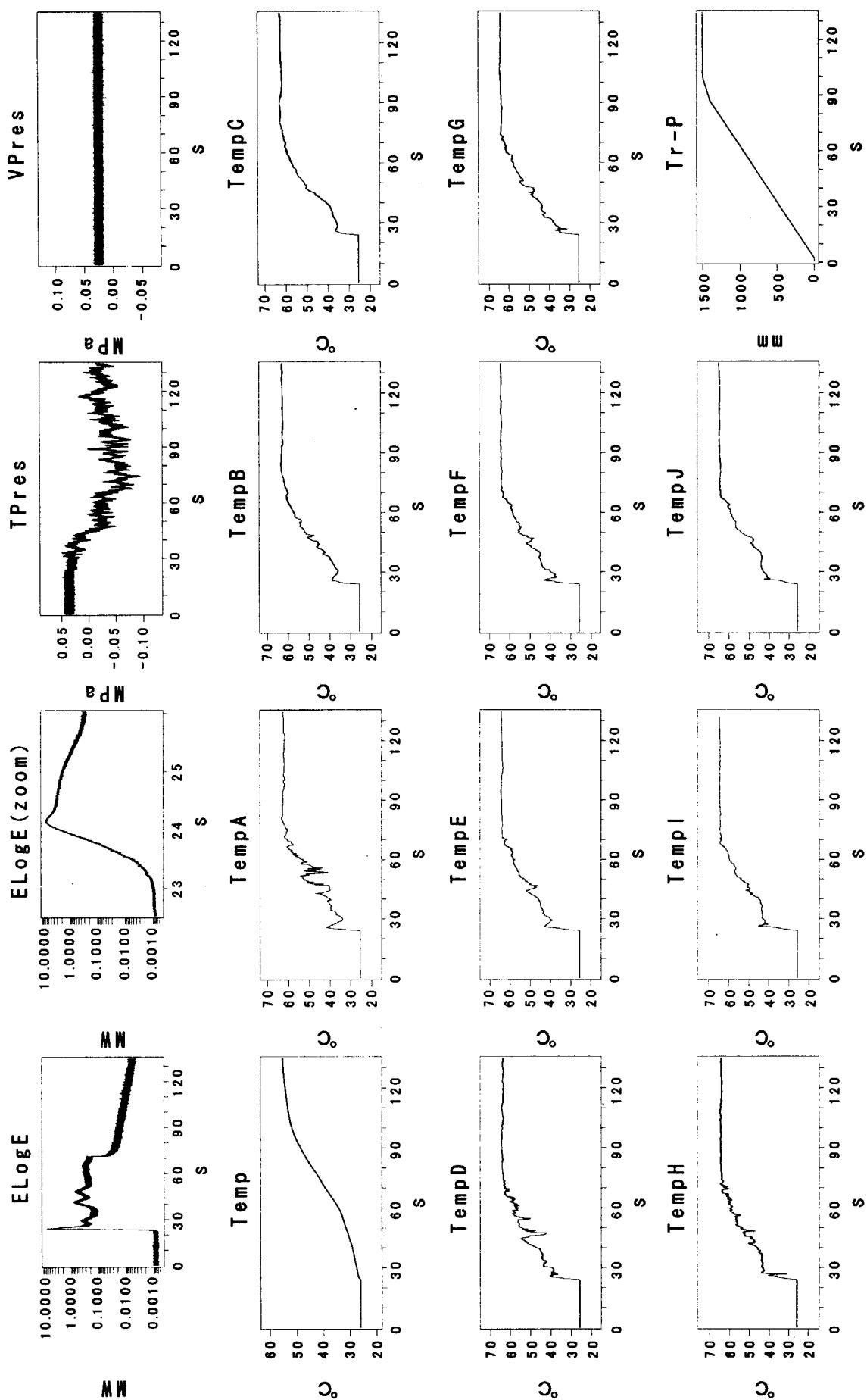


図 A47 過渡出力運転データ履歴 (R112 ランプ引抜 2.94\$ 100cm/min)

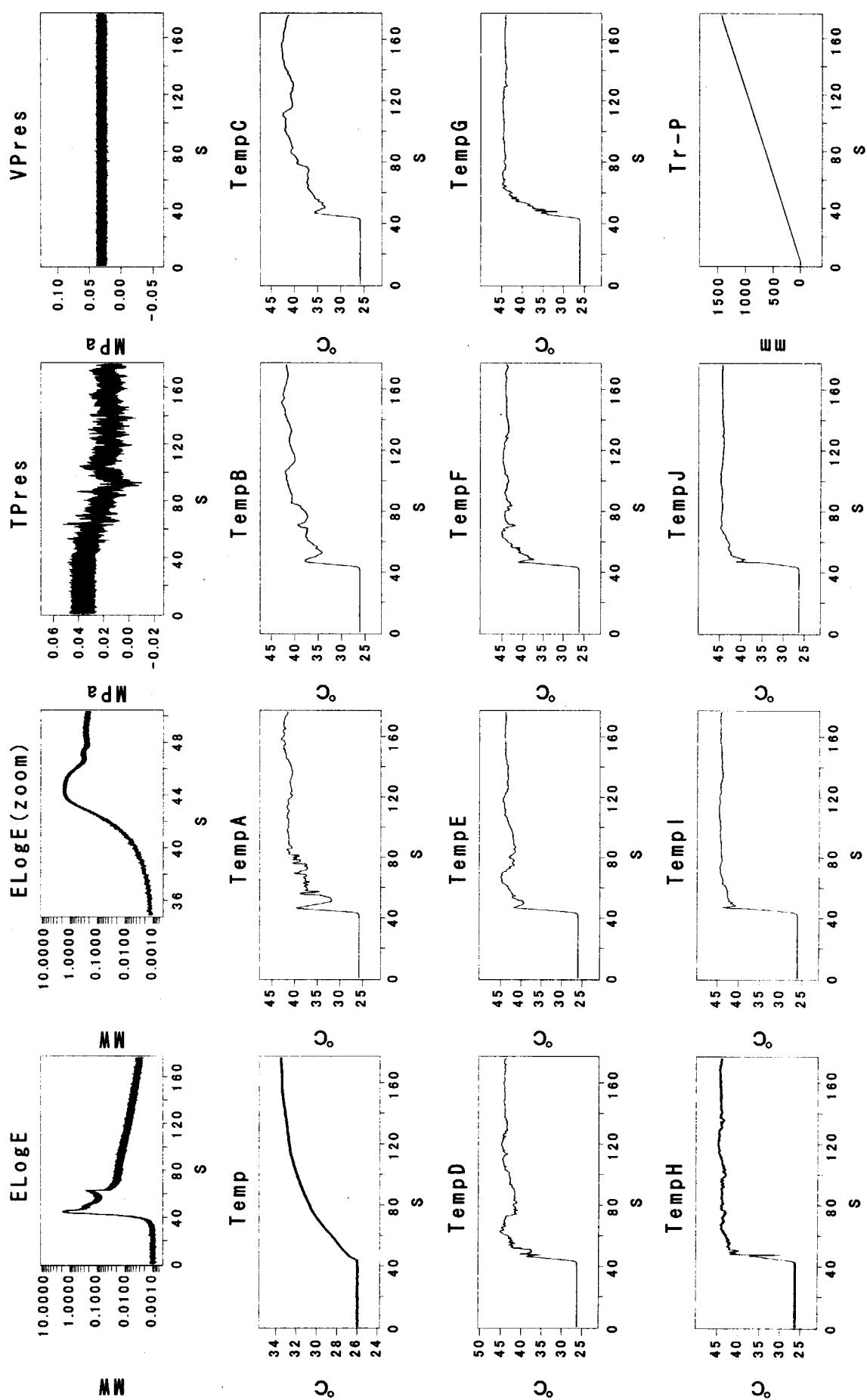


図 A48 過渡出力運転データ履歴 (R113 ランプ引抜 2.95S 50cm/min)

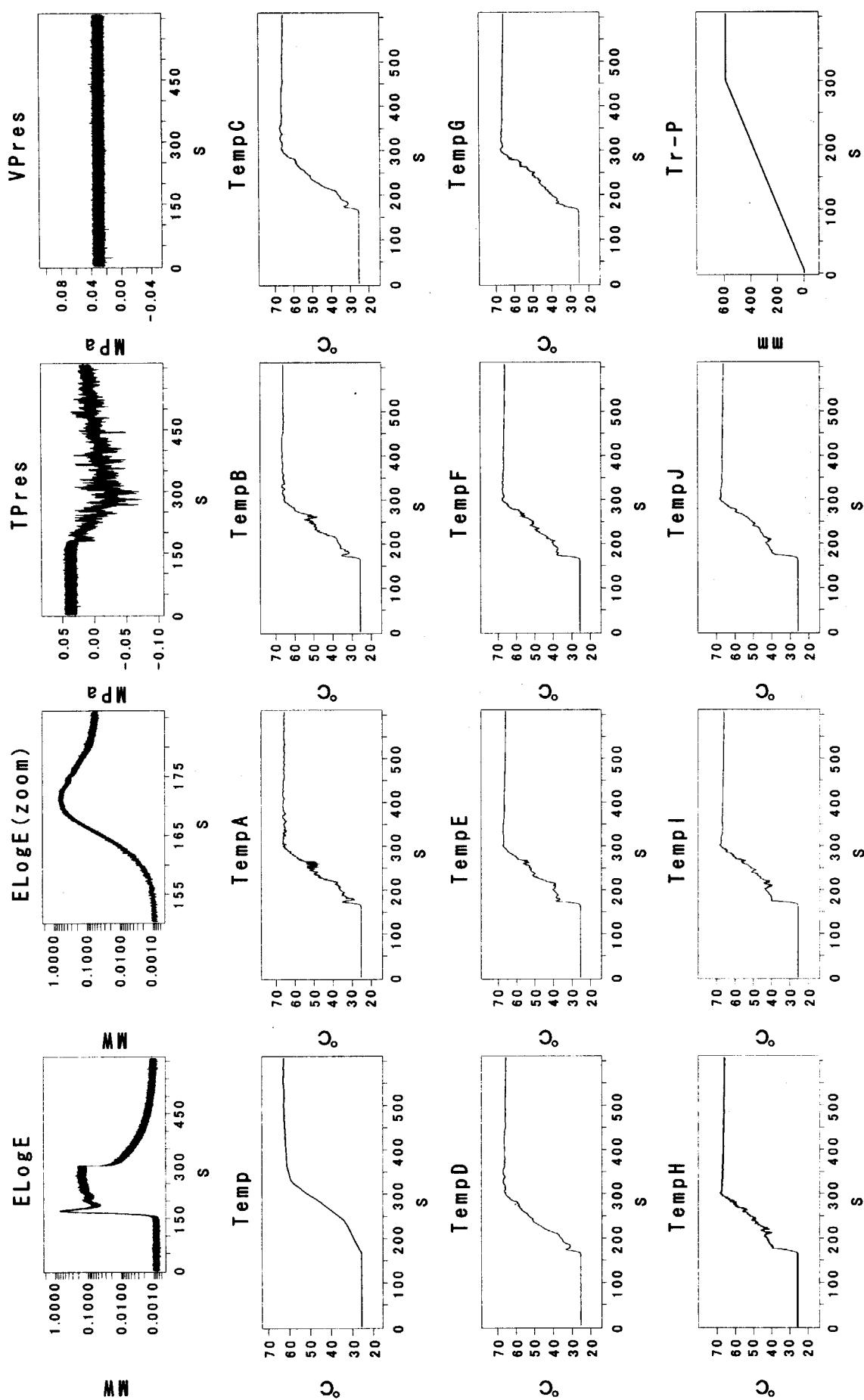


図 A49 過渡出力運転データ履歴 (R114 ランプ引抜 2.93\$ 10cm/min)

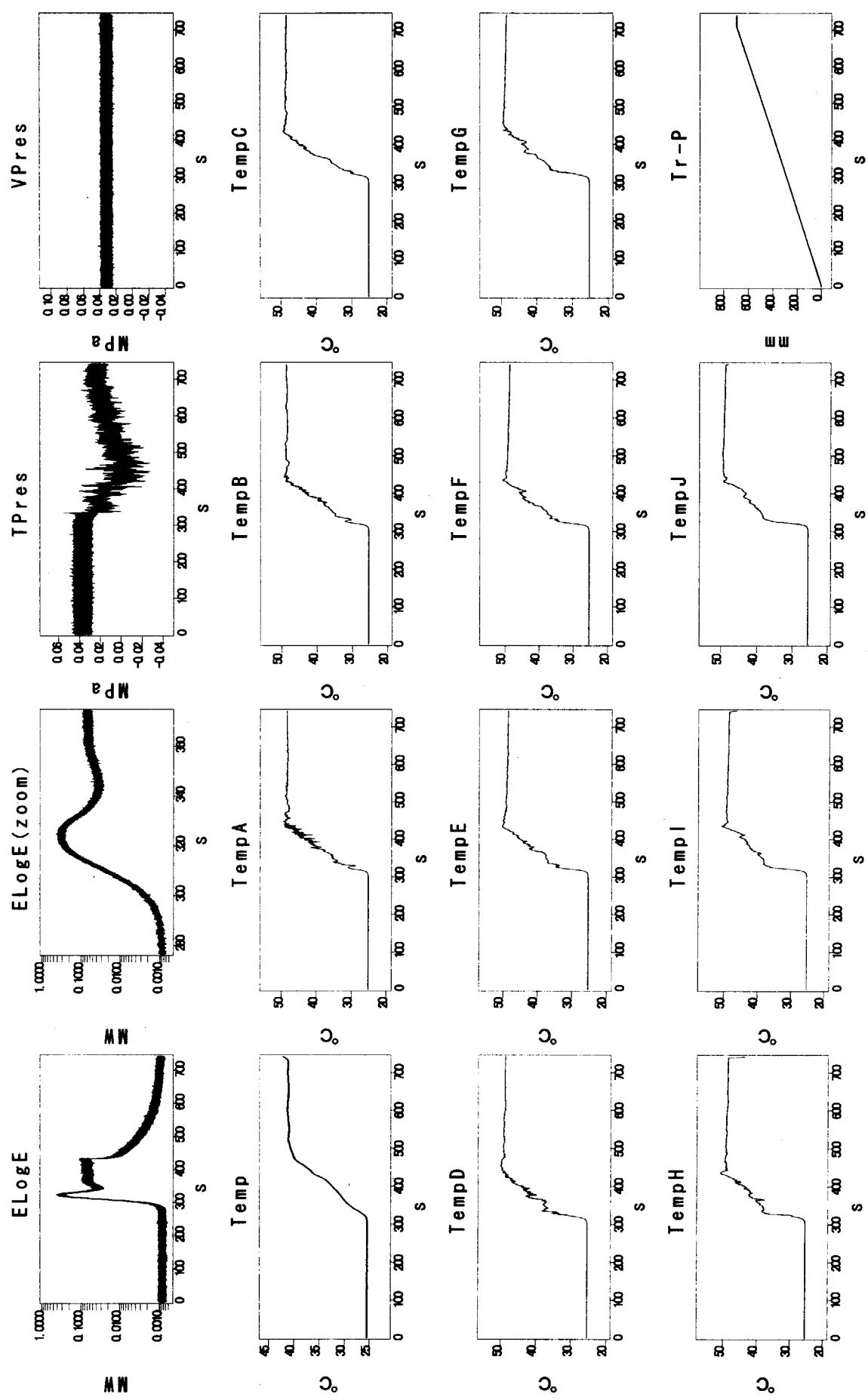


図 A50 過渡出力運転データ履歴 (R115 ランプ引抜 2.93\$ 6cm/min)

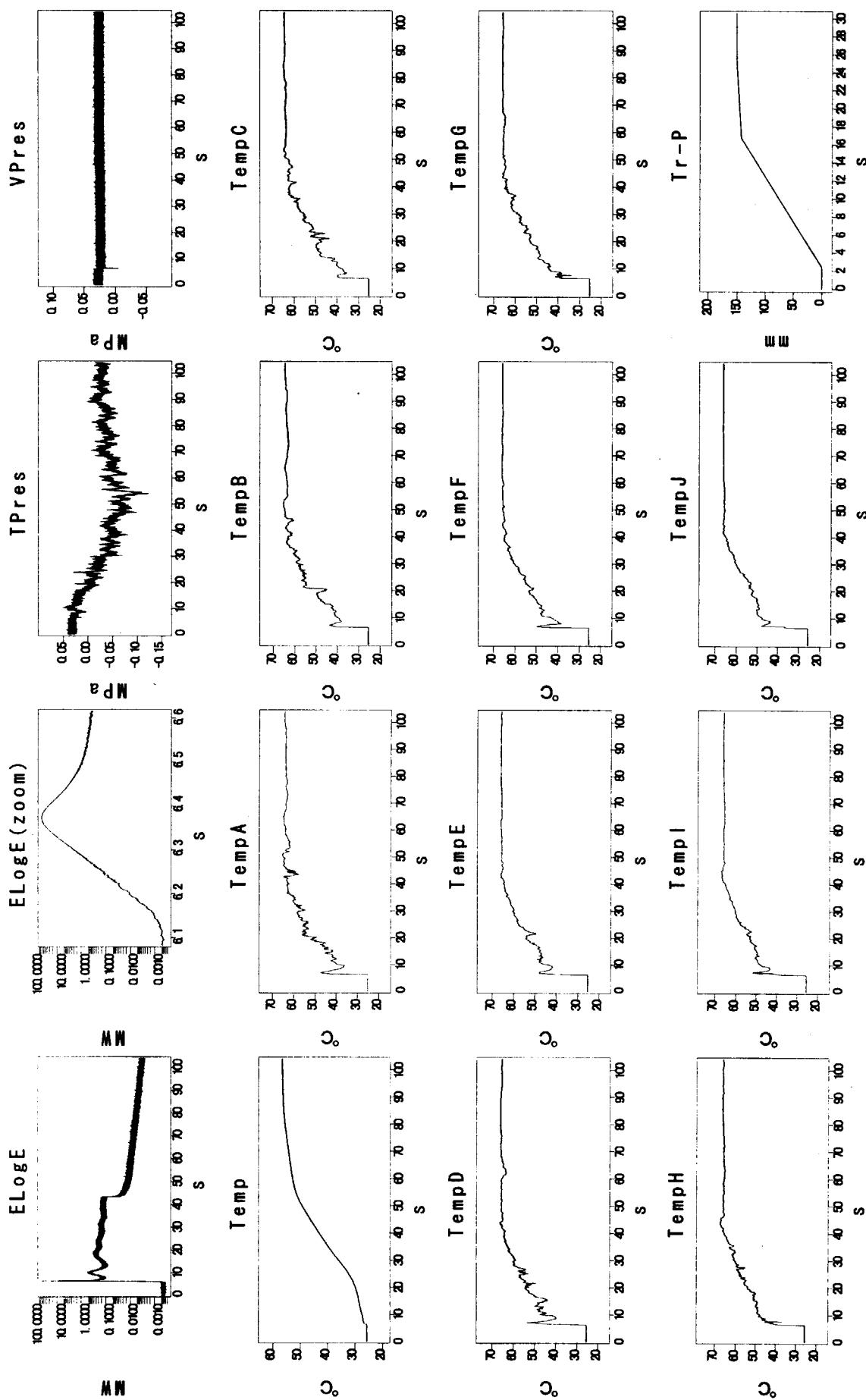


図 A51 過渡出力運転データ履歴 (R116 ランプ引抜 2.92S 600cm/min)

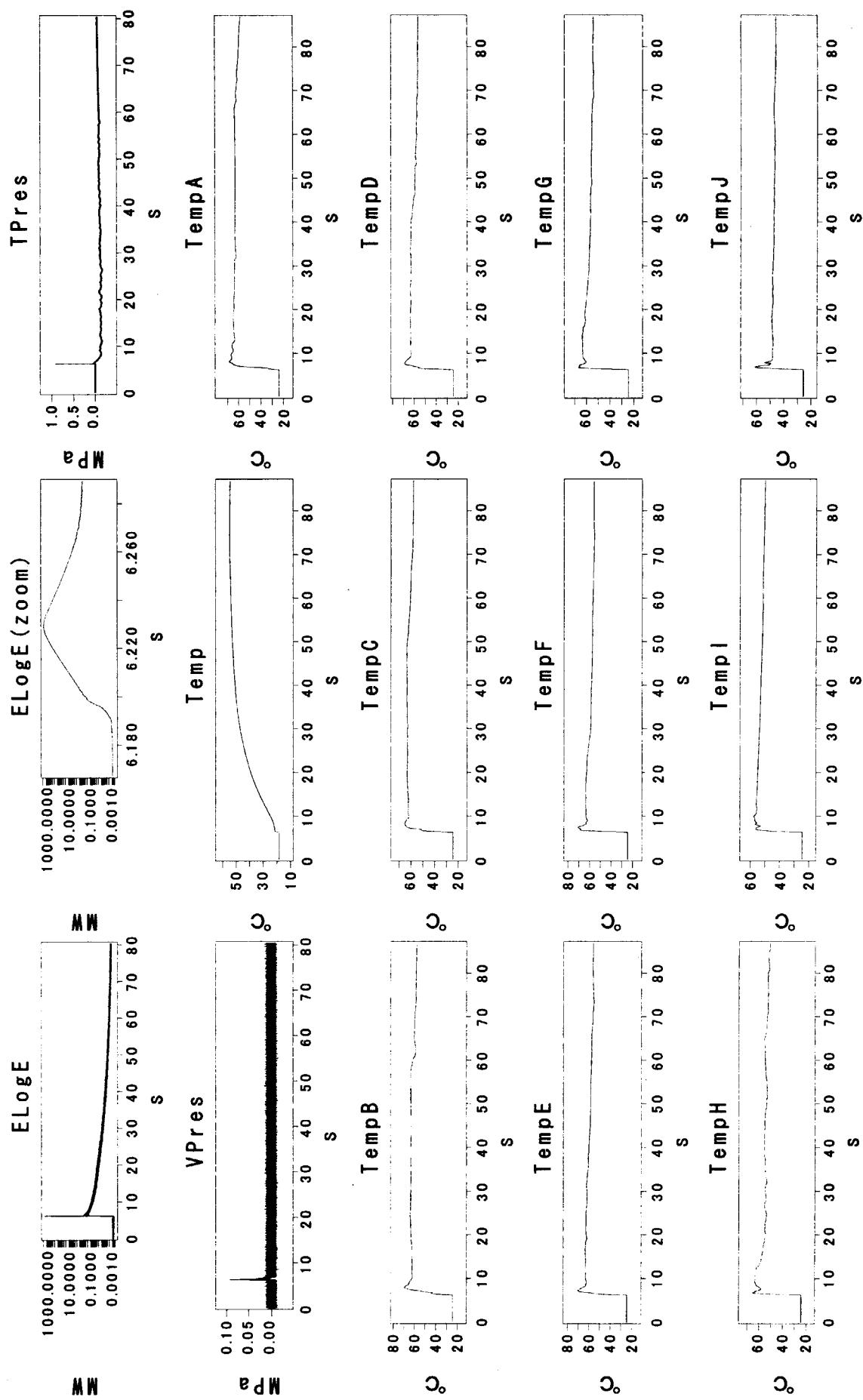


図 A52 满度出力運転データ履歴 (R134 パレス引抜 3.00\$)

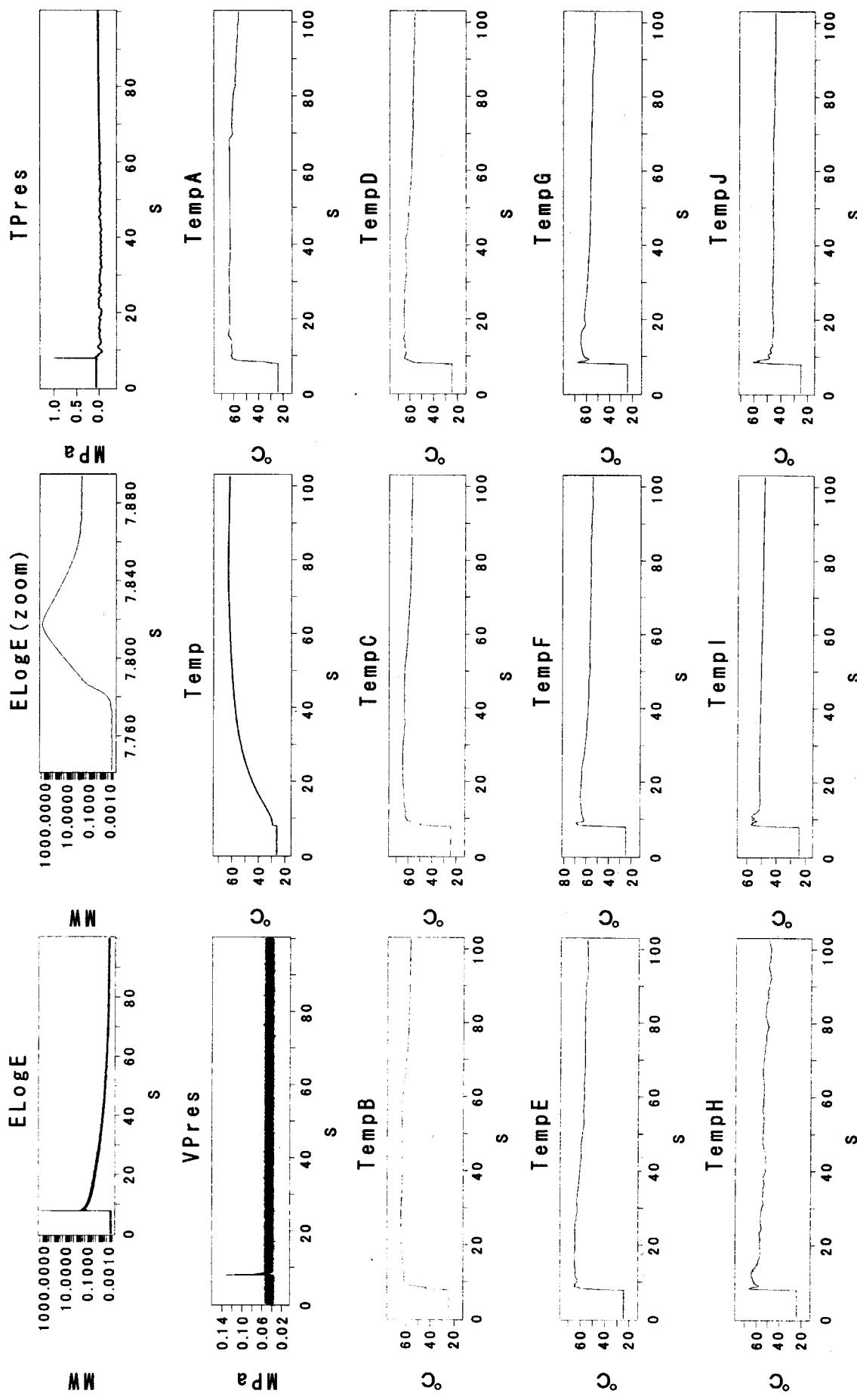


図 A53 過渡出力運動データ履歴 (R135 パルス引抜 3.00\$)

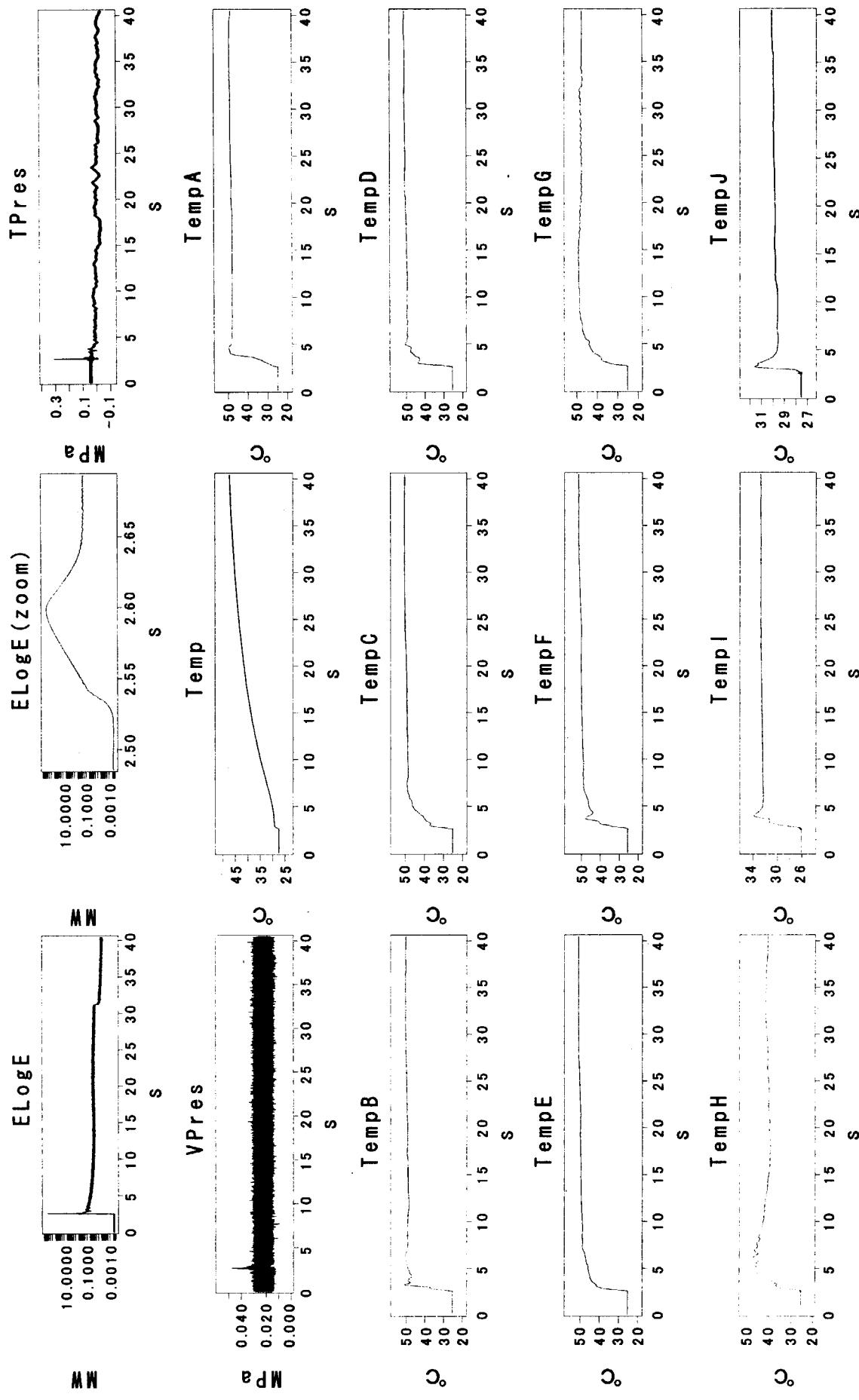


図 A54 過渡出力運転データ履歴 (R138 パレス引抜 3.00\$)

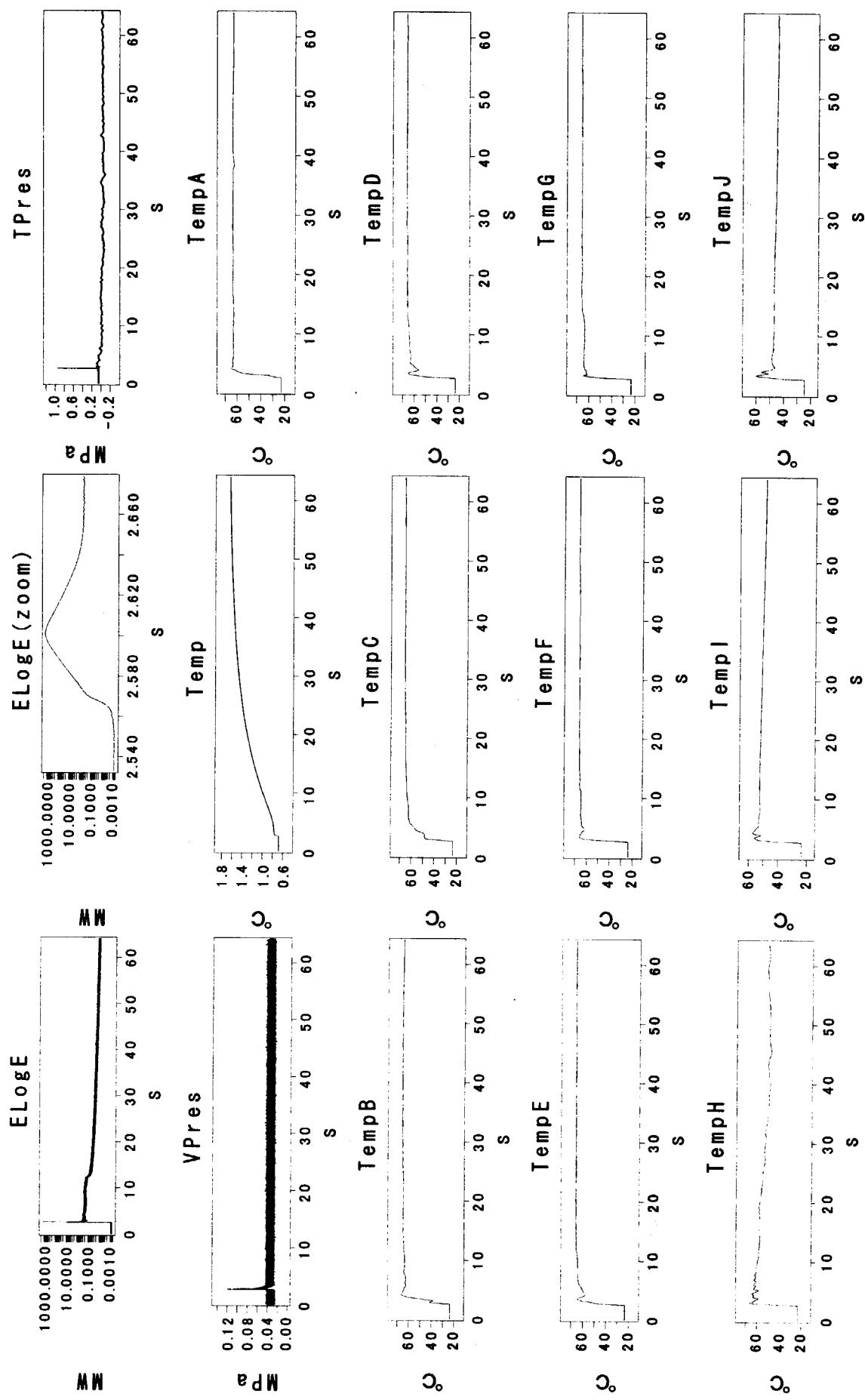


図 A55 過渡出力運転データ履歴 (R140 パレス引抜 2.96S)

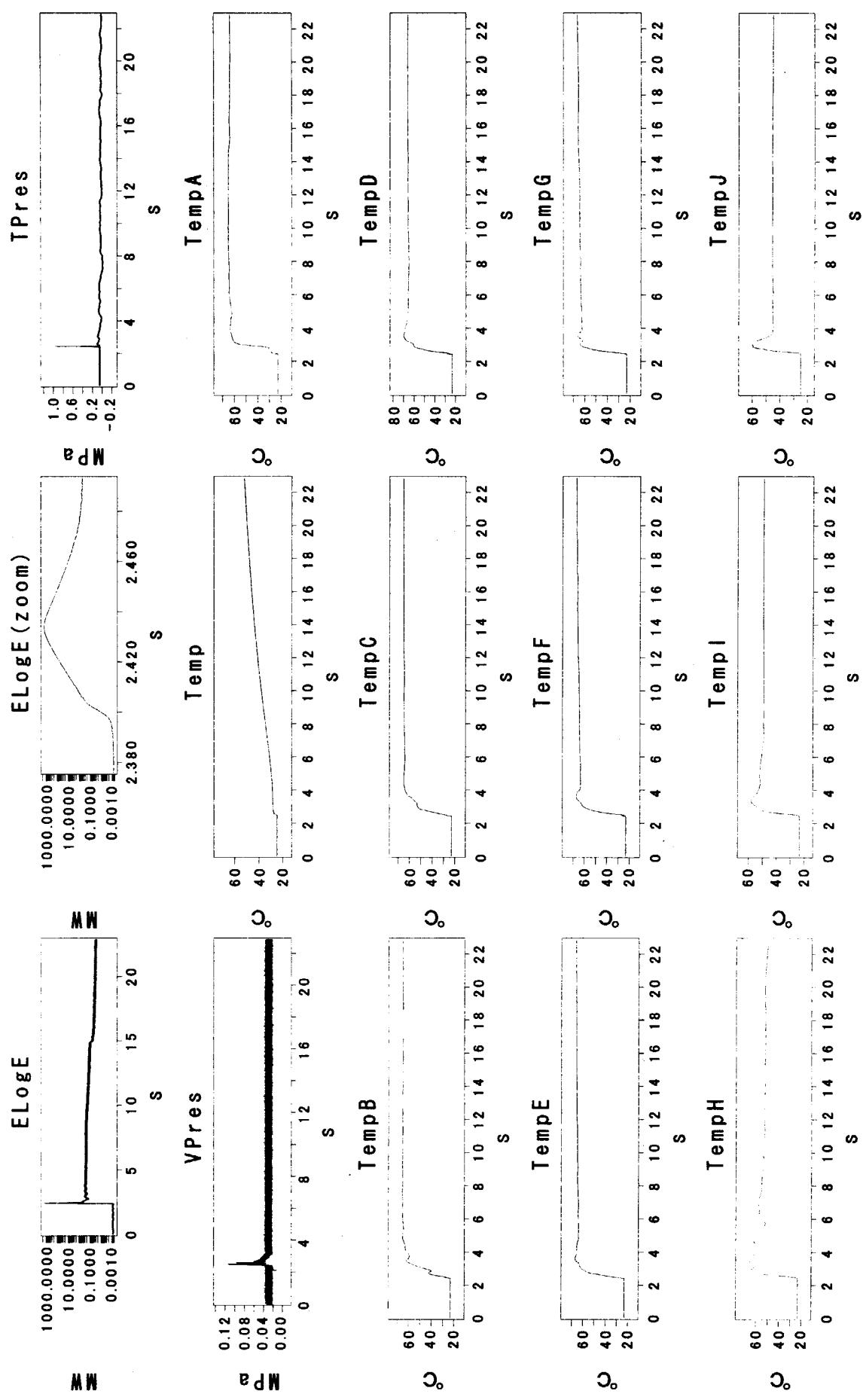


図 A56 過渡出力運転データ履歴 (R141 パレス引抜 2.96S)

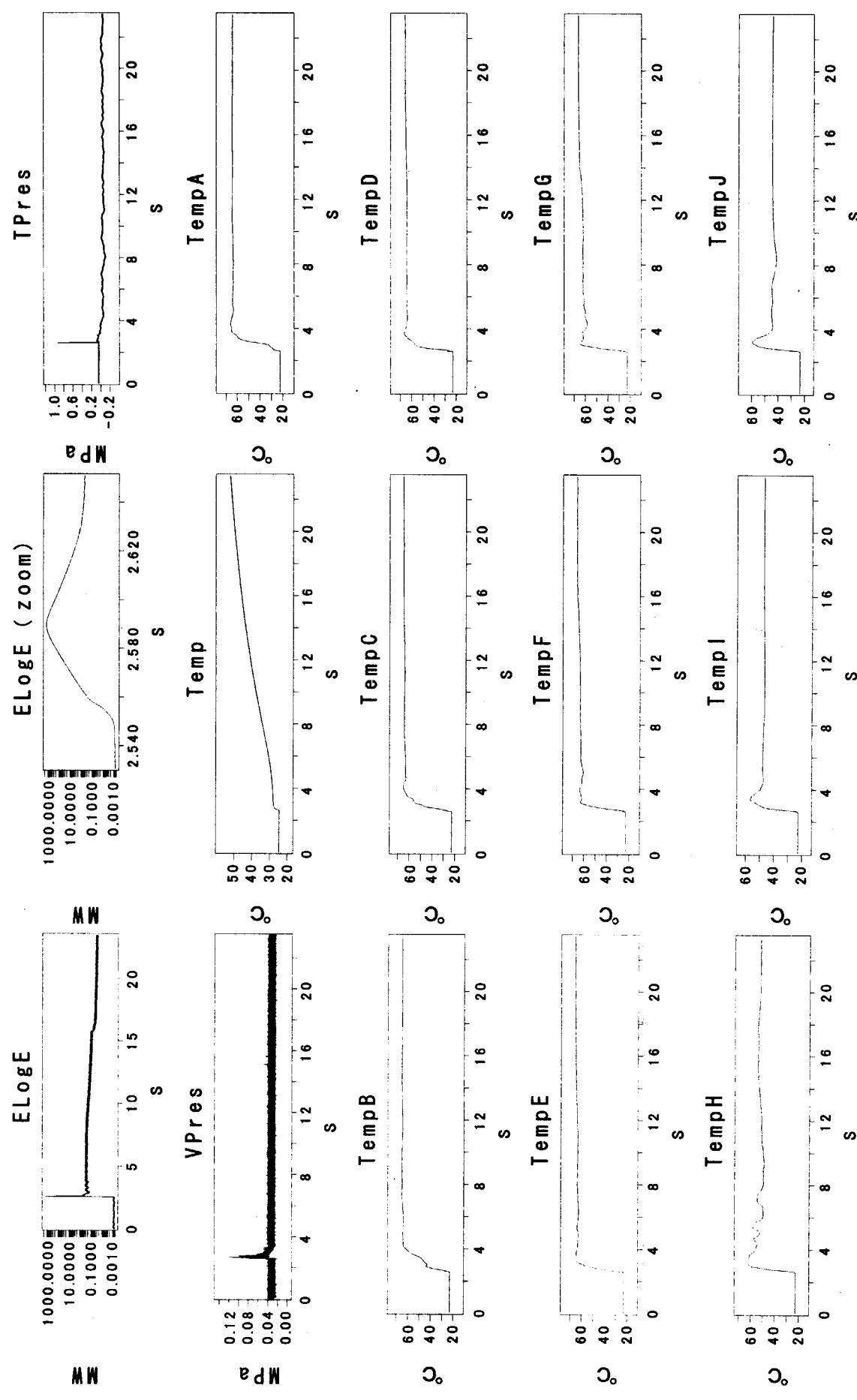


図 A57 過渡出力運転データ履歴 (R142 パレス引抜 2.98\$)

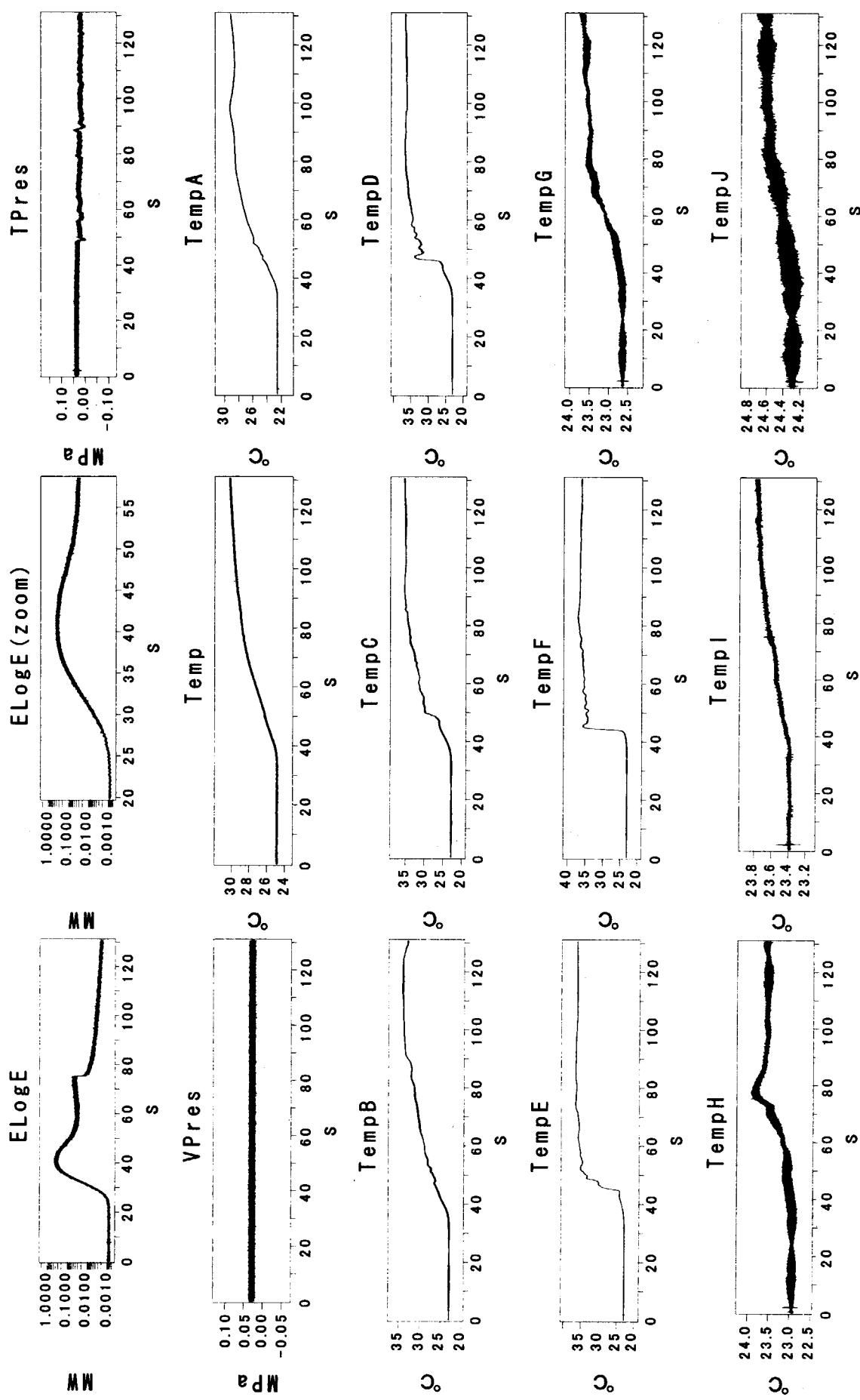


図 A58 過渡出力測定データ履歴 (R143 パレス引抜 2.96\$)

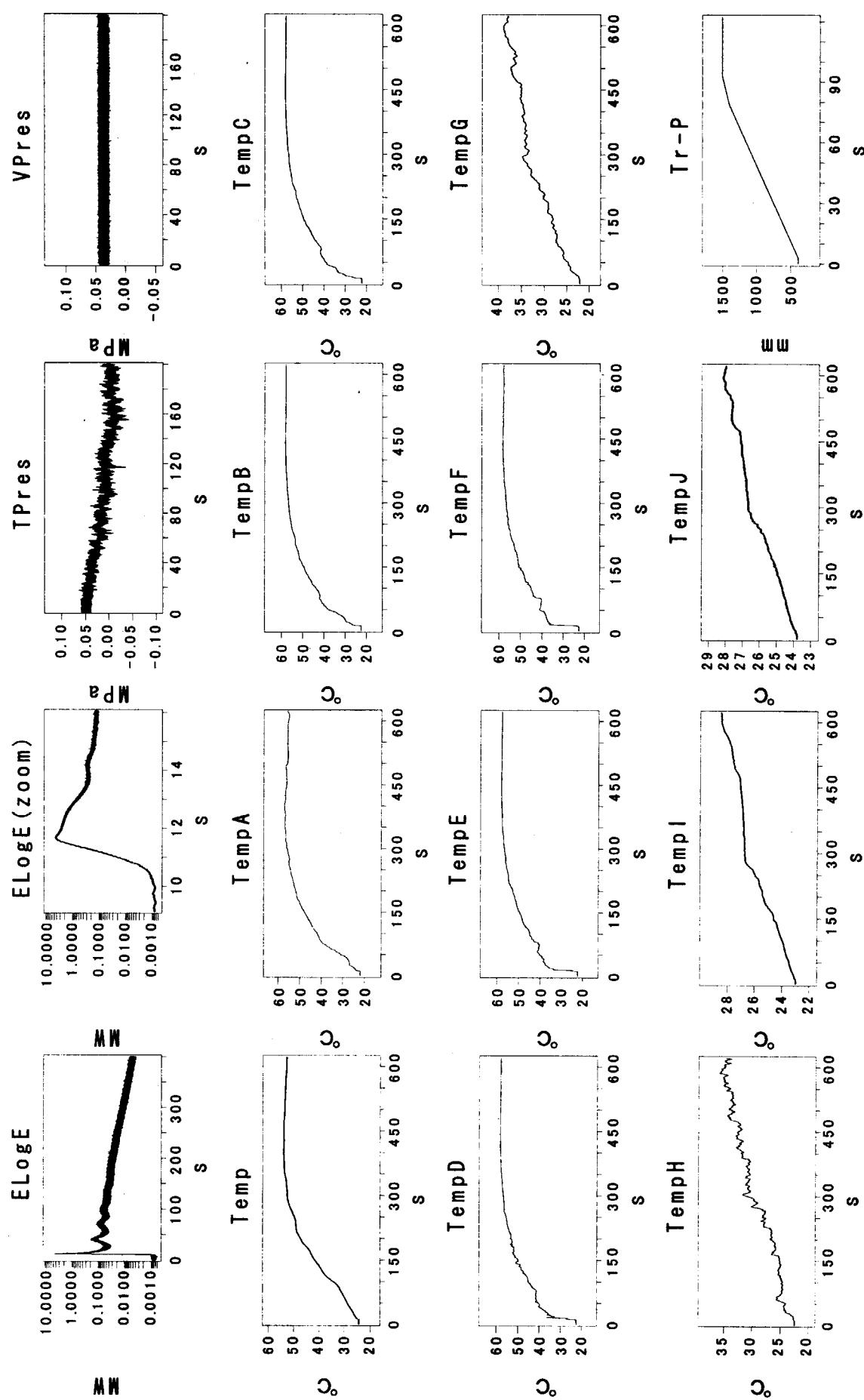


図 A59 過渡出力運転データ履歴 (R147 ランプ引抜 1.50\$ 80cm/min)

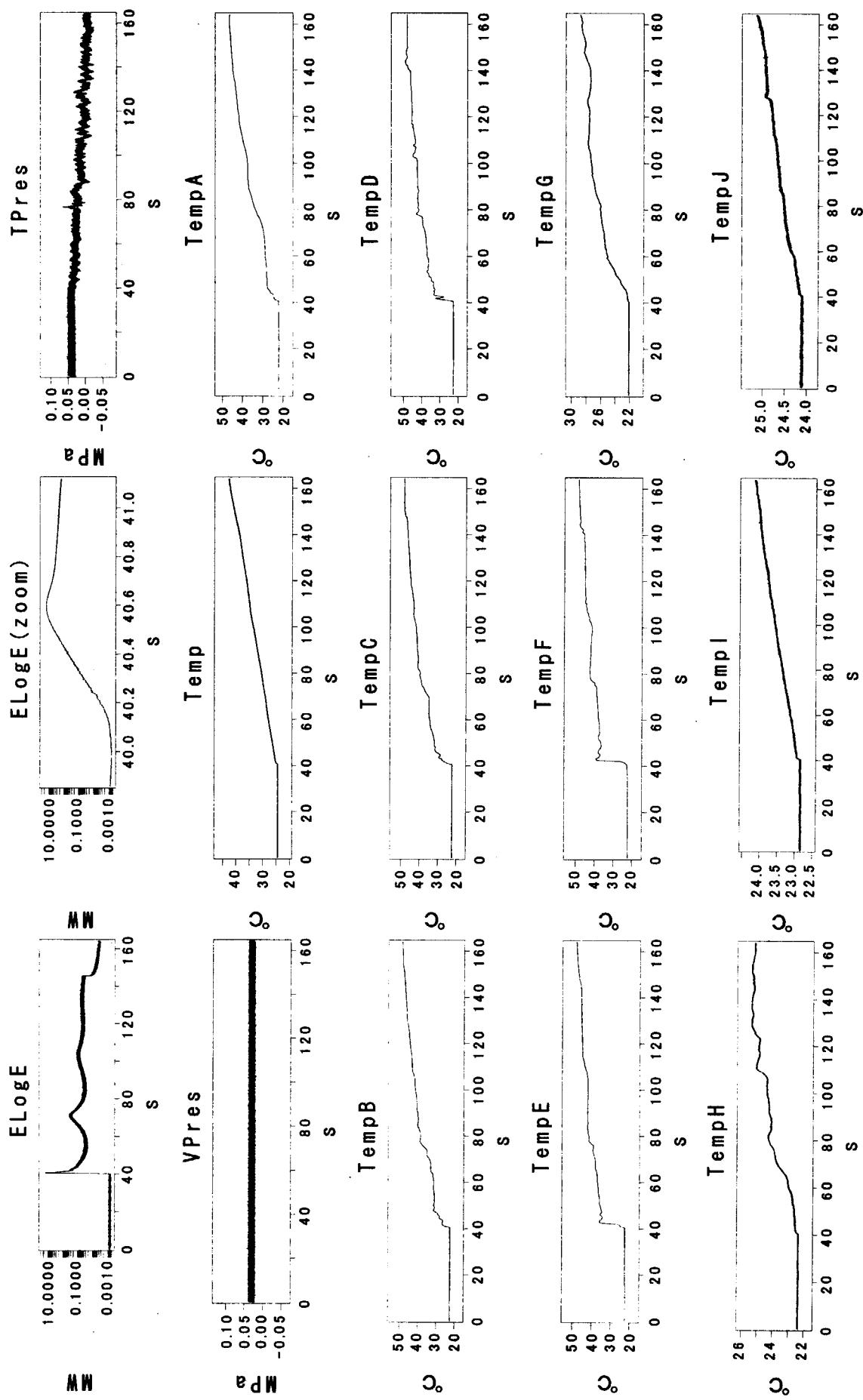


図 A60 過渡出力運転データ履歴 (R149 ランプ給液 1.49S 60ℓ/min)

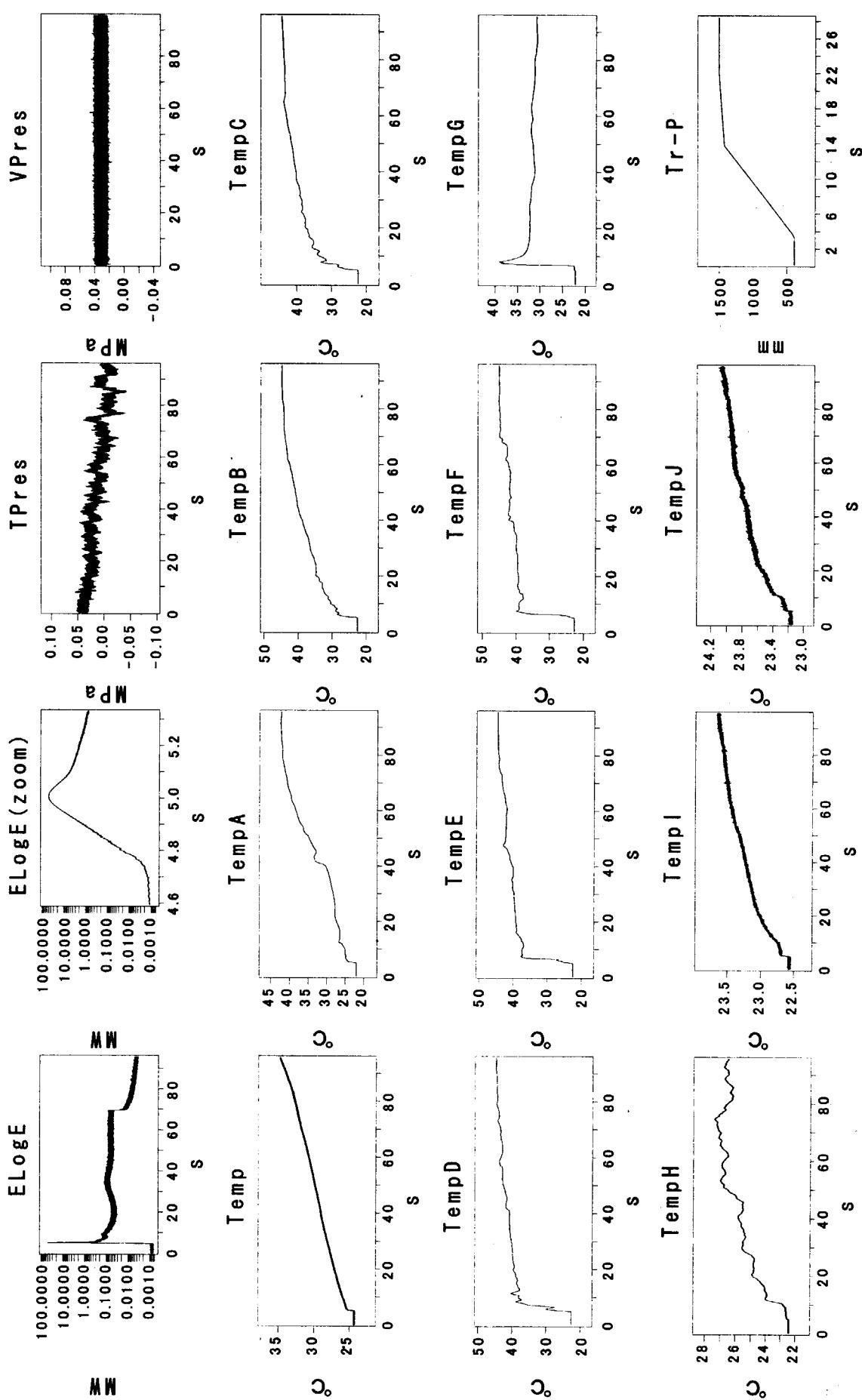


図 A61 過渡出力運動データ履歴 (R150 ランプ引抜 1.50\$ 600cm/min)

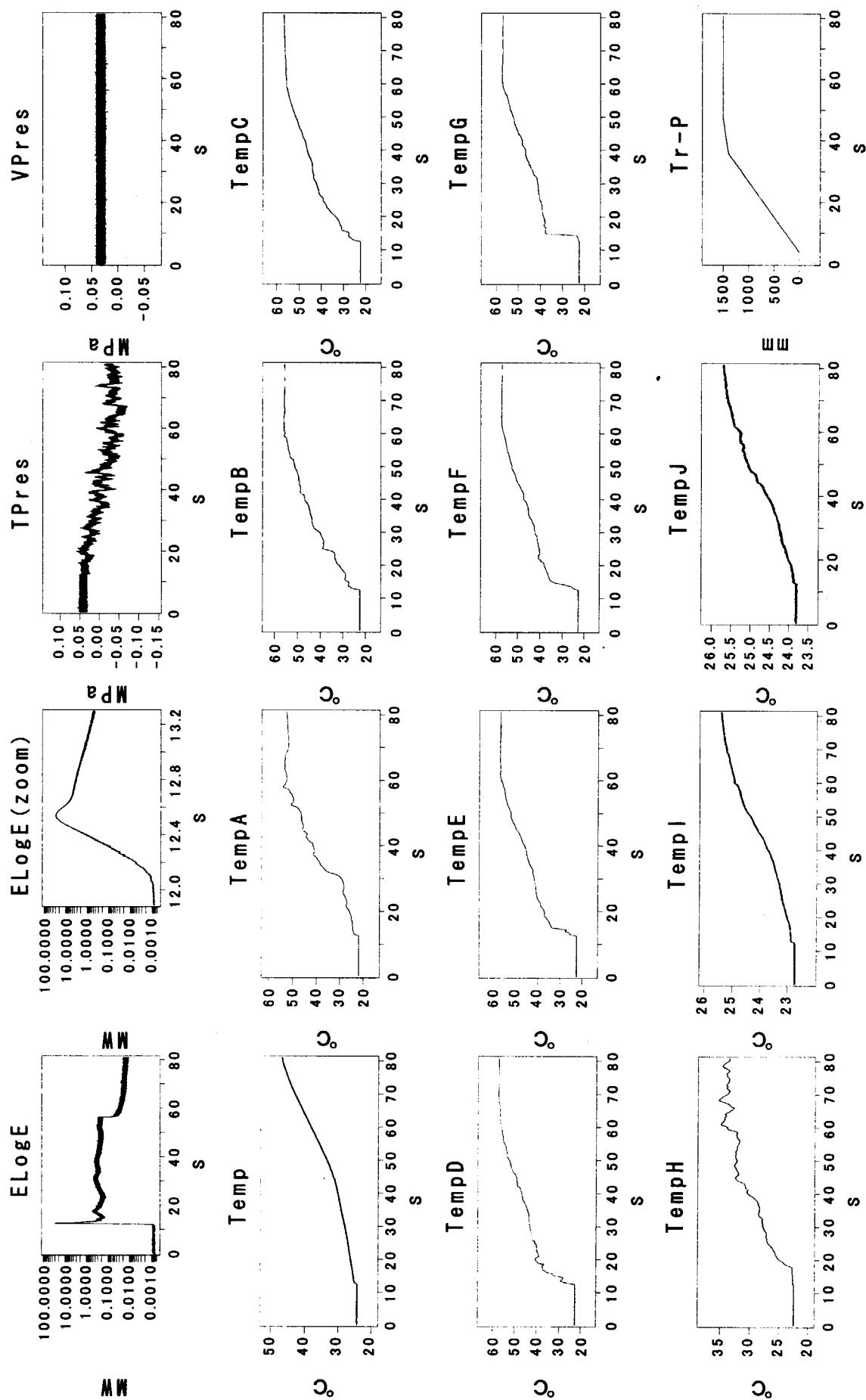


図 A62 過渡出力が重複データ履歴 (R151 ランプ引抜 2.97\$ 260cm/min)

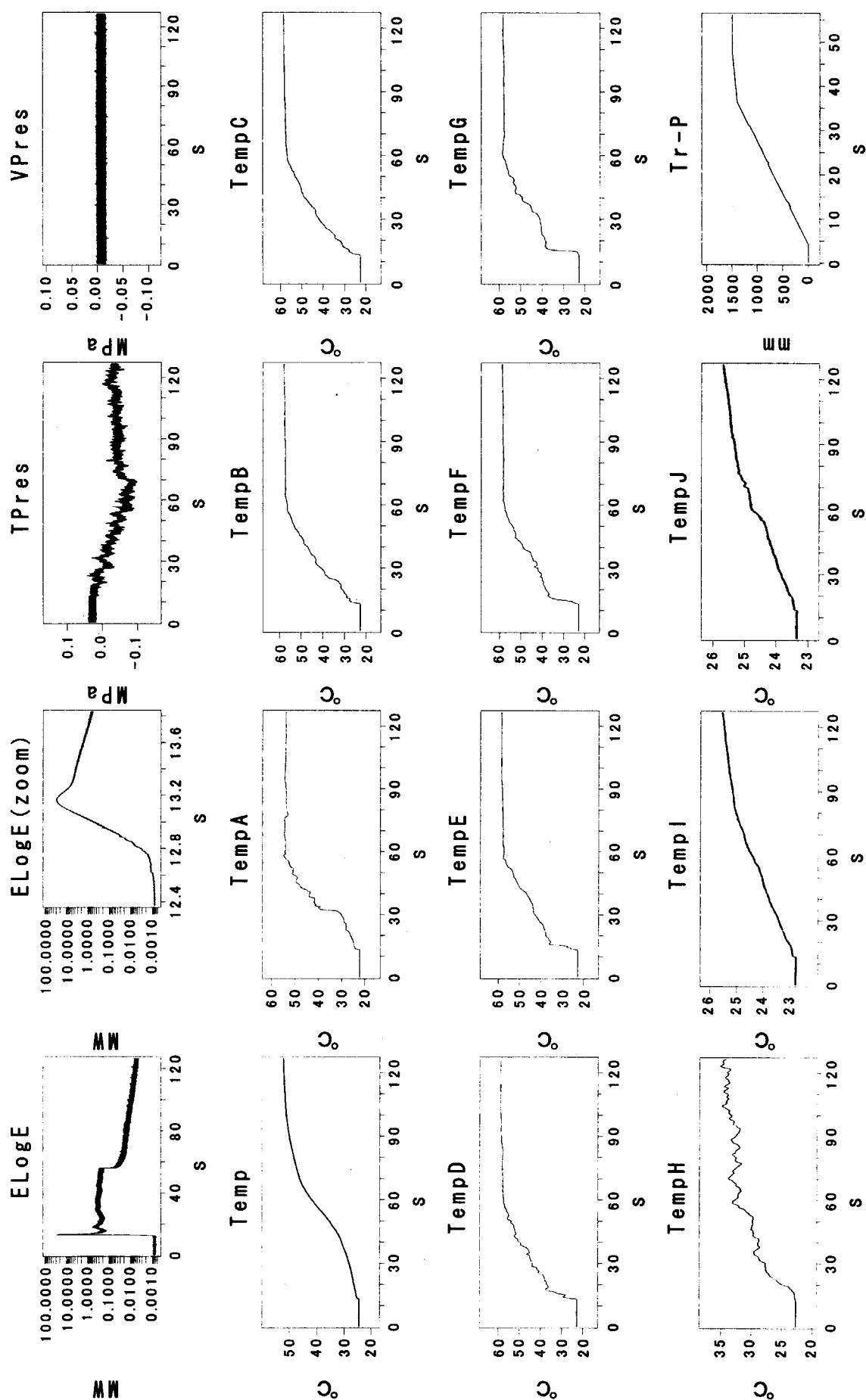


図 A63 過渡出力運転データ履歴 (R152 ランプ引抜 2.97\$ 285cm/min)

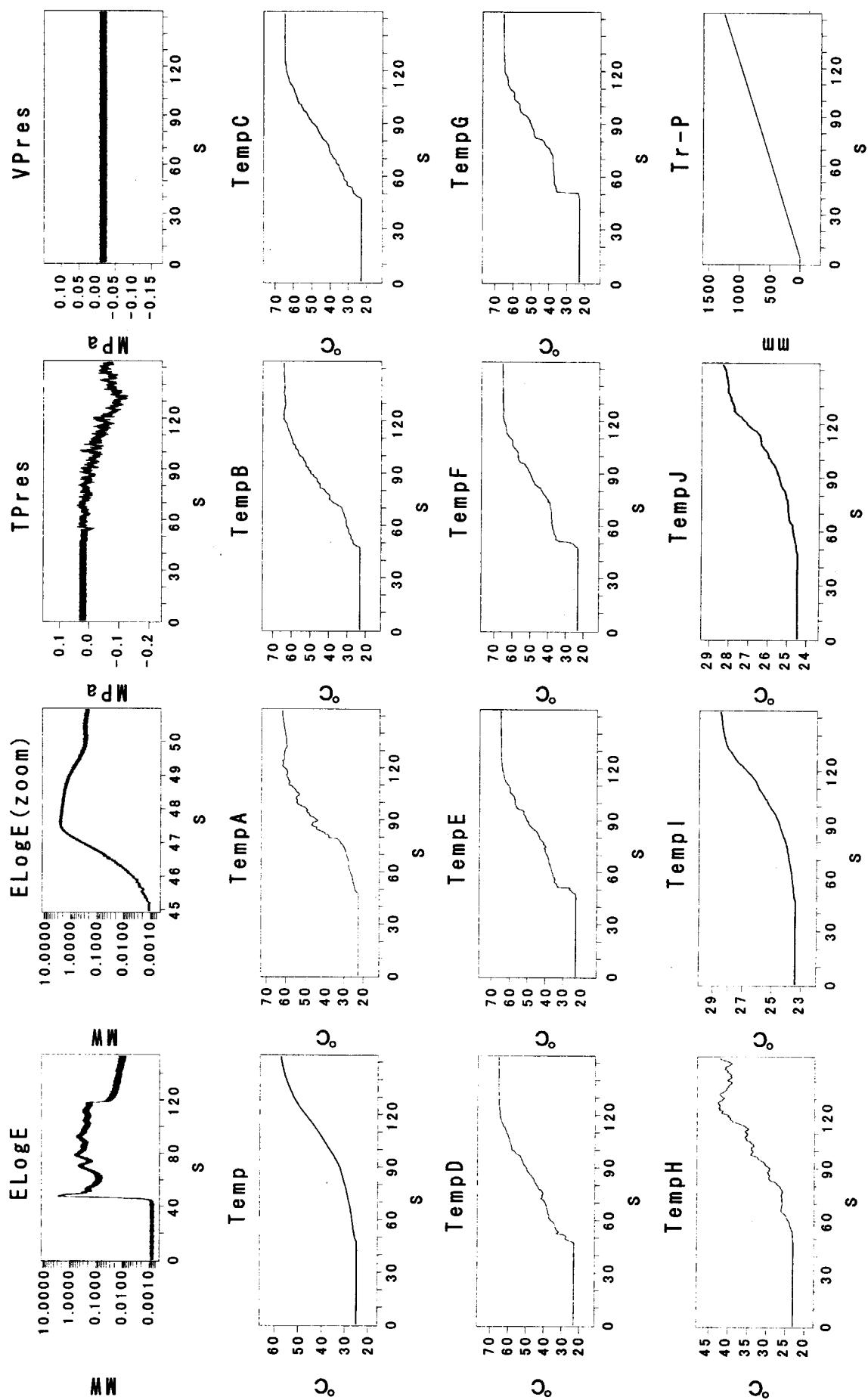


図 A64 過渡出力運転データ履歴 (R153 ランプ引抜 2.98\$ 50cm/min)

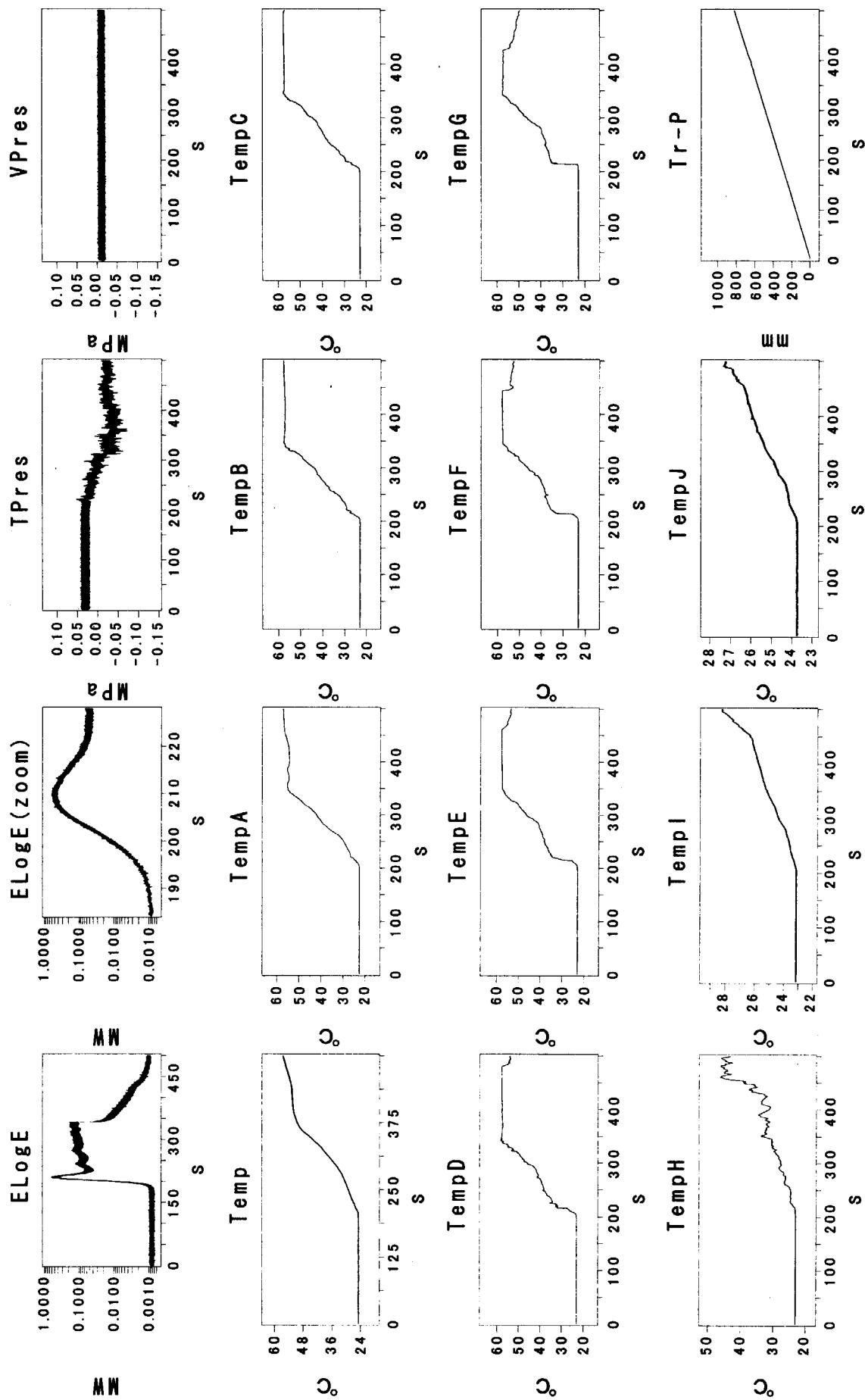


図 A65 過渡出力運転データ履歴 (R154 ランプ引抜 2.97S 10cm/min)

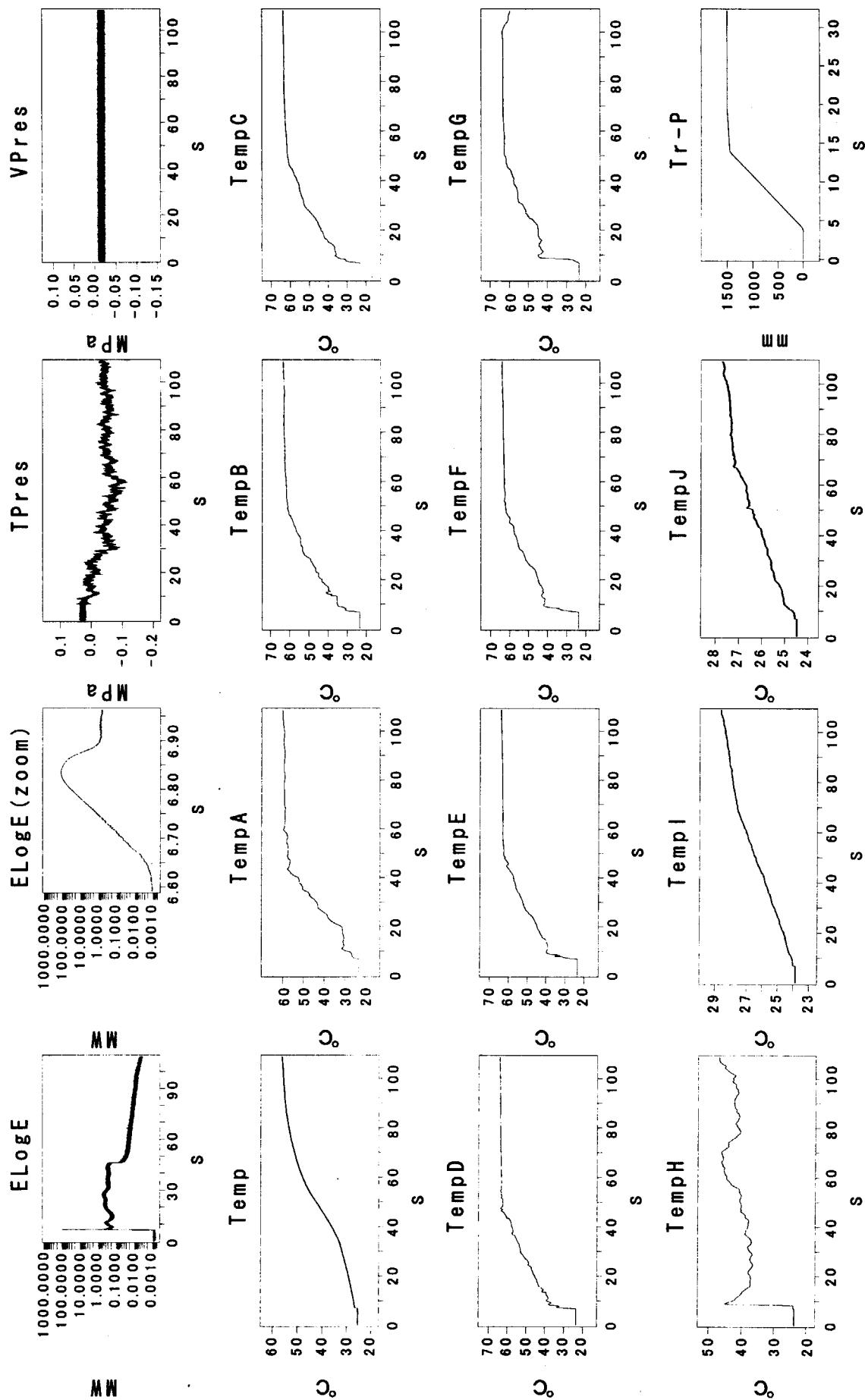


図 A66 過渡出力運動データ履歴 (R155 ランプ引抜 2.98\$ 875cm/min)

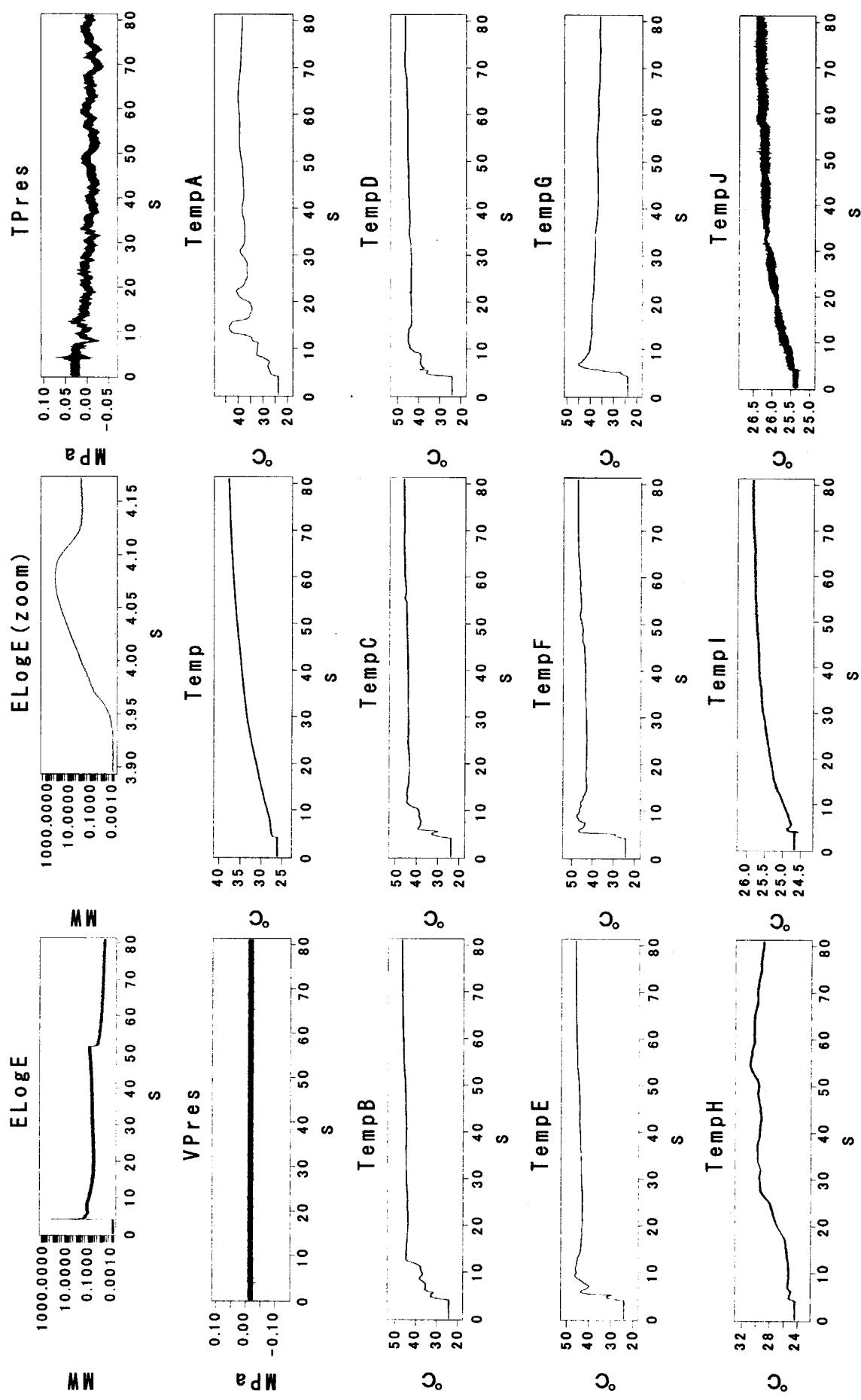


図 A67 過渡出力運転データ履歴 (R156 パルス引抜 1.50\$)

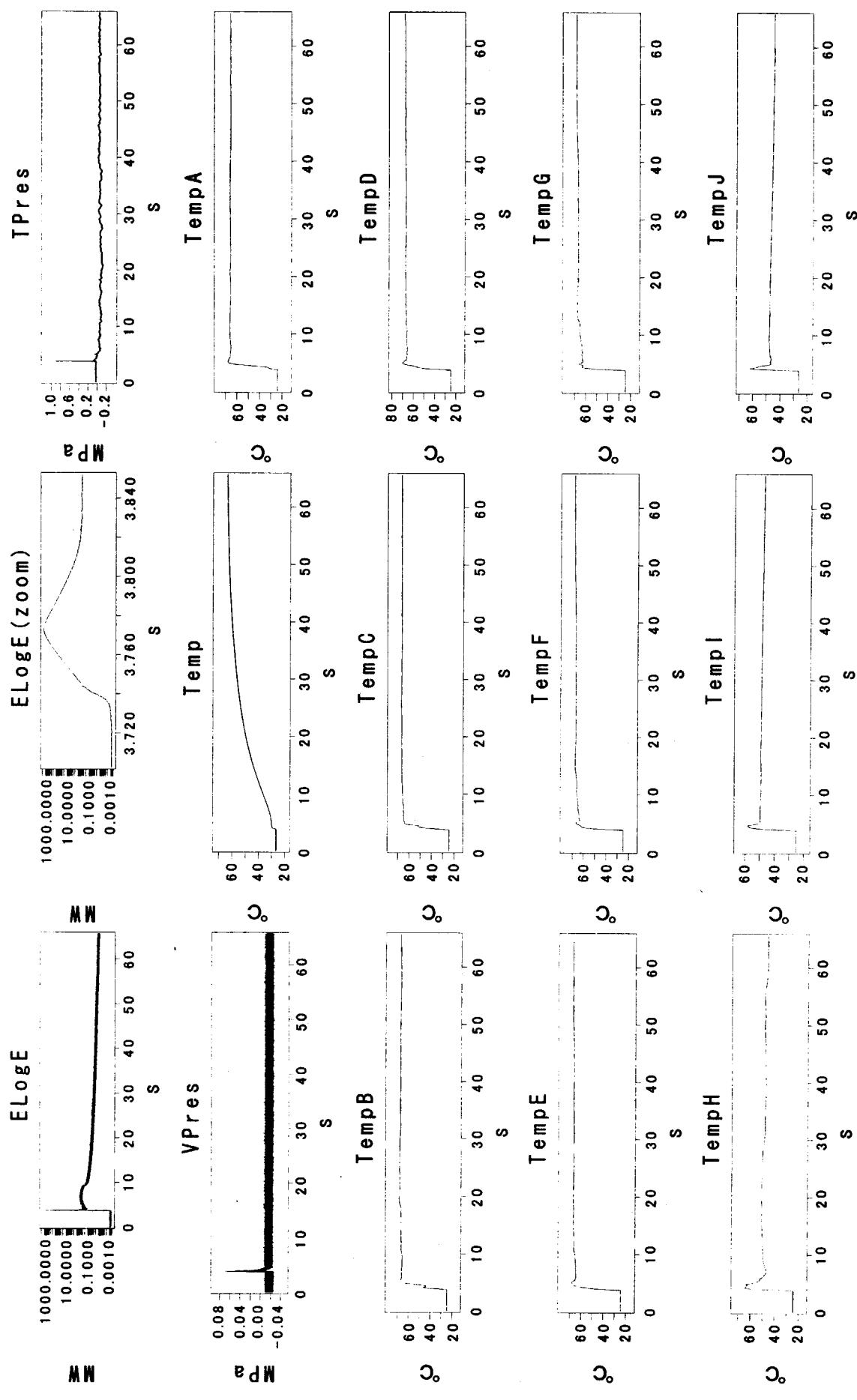


図 A68 過渡出力運転データ履歴 (R157 パルス引抜 2.97\$)

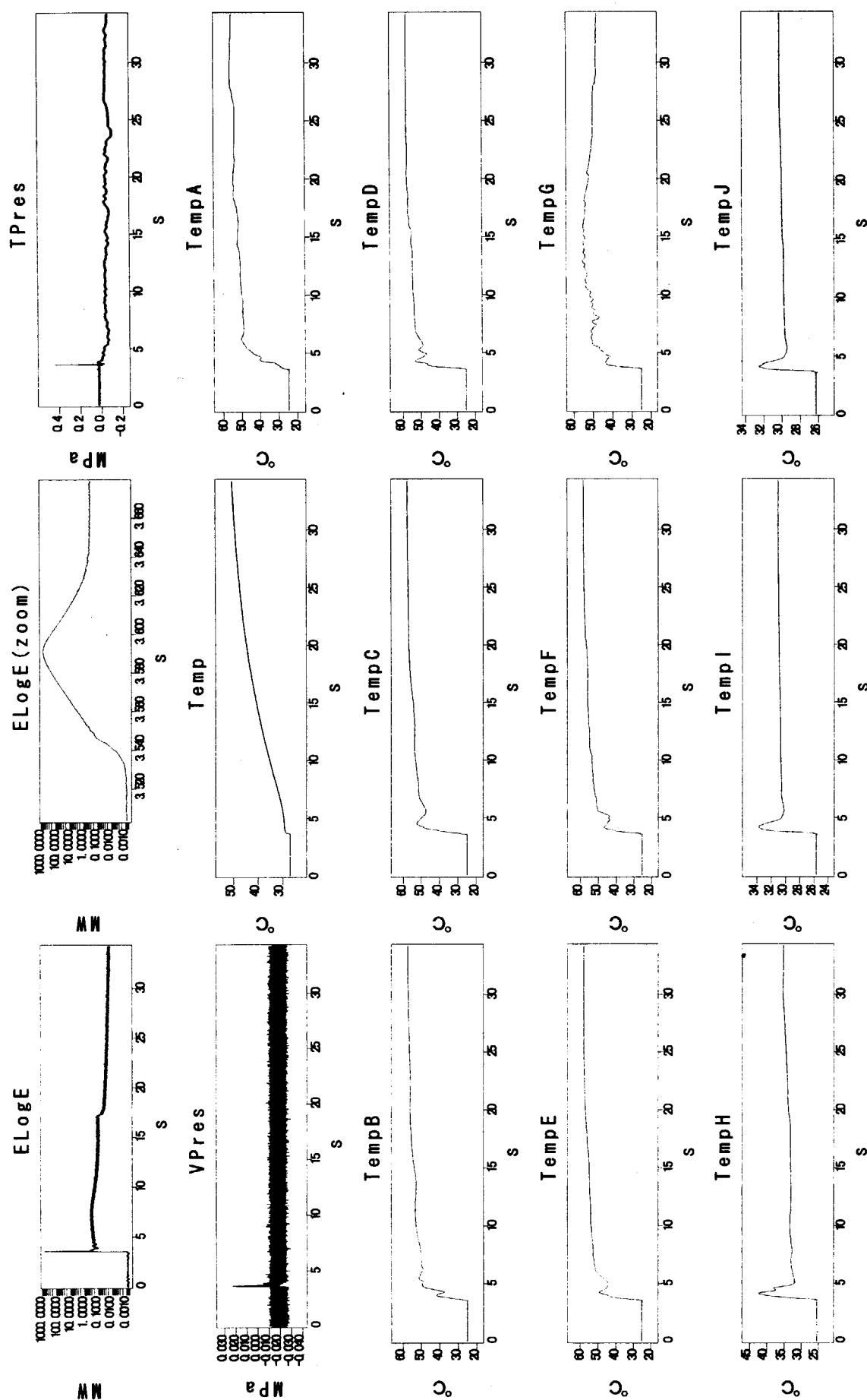


図 A69 過渡出力運転データ履歴 (R158 パルス引抜 2.30S)

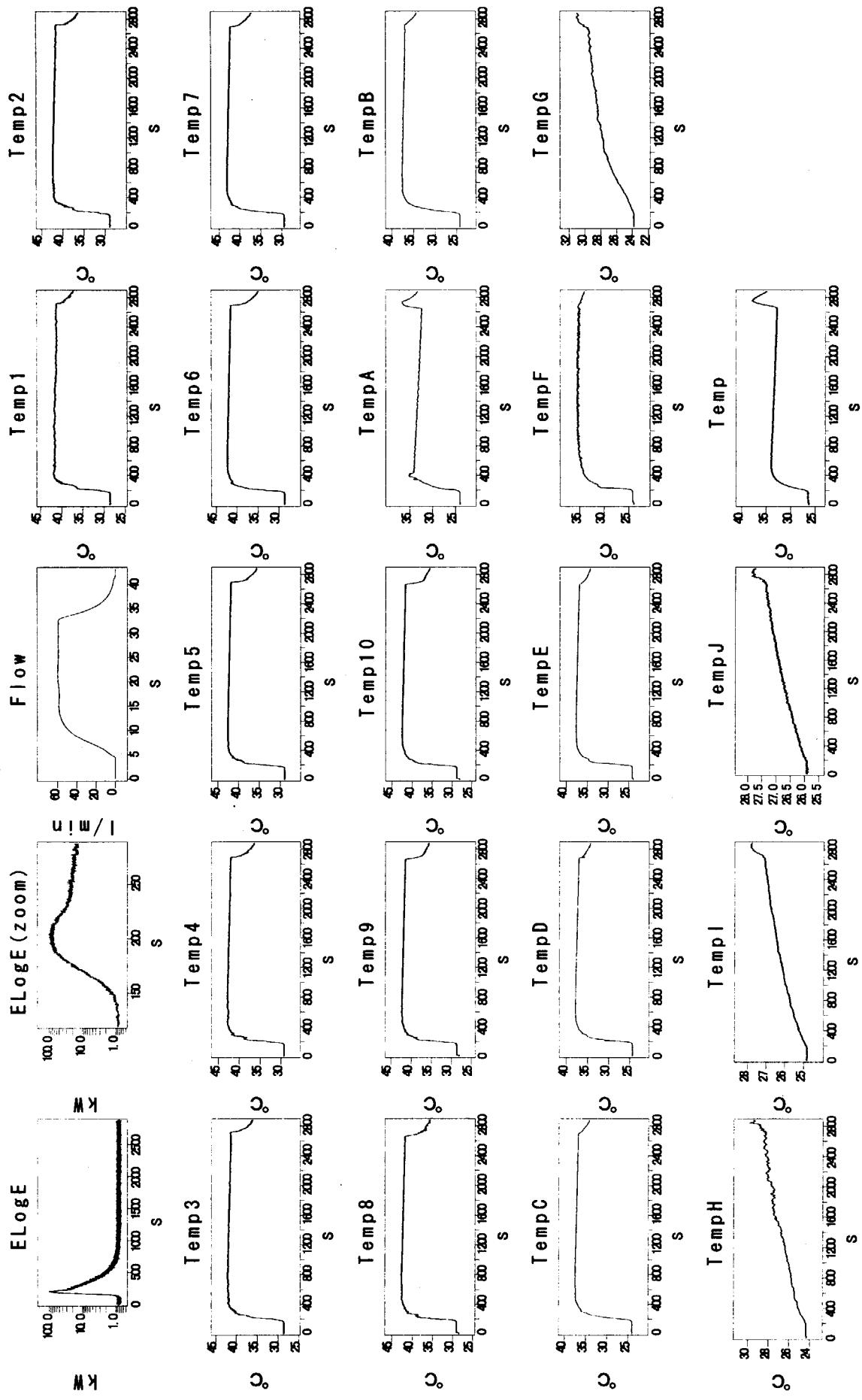


図 A70 過渡出力運転データ履歴 (R159 ランプ給液 0.49\$ 60/min)

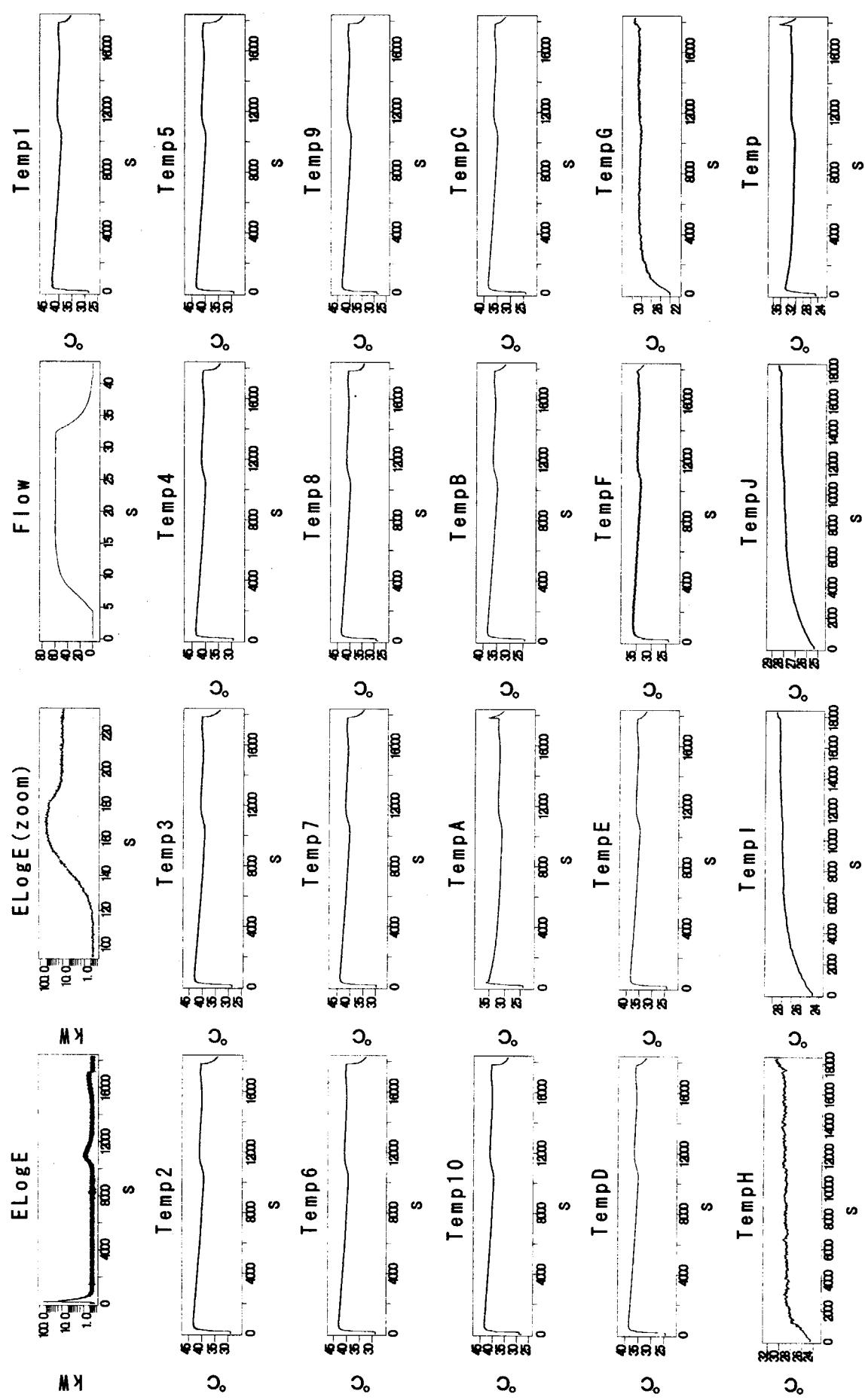


図 A71 過渡出力運動データ履歴 (R160 ランプ給液 0.51\$ 60ℓ/min)

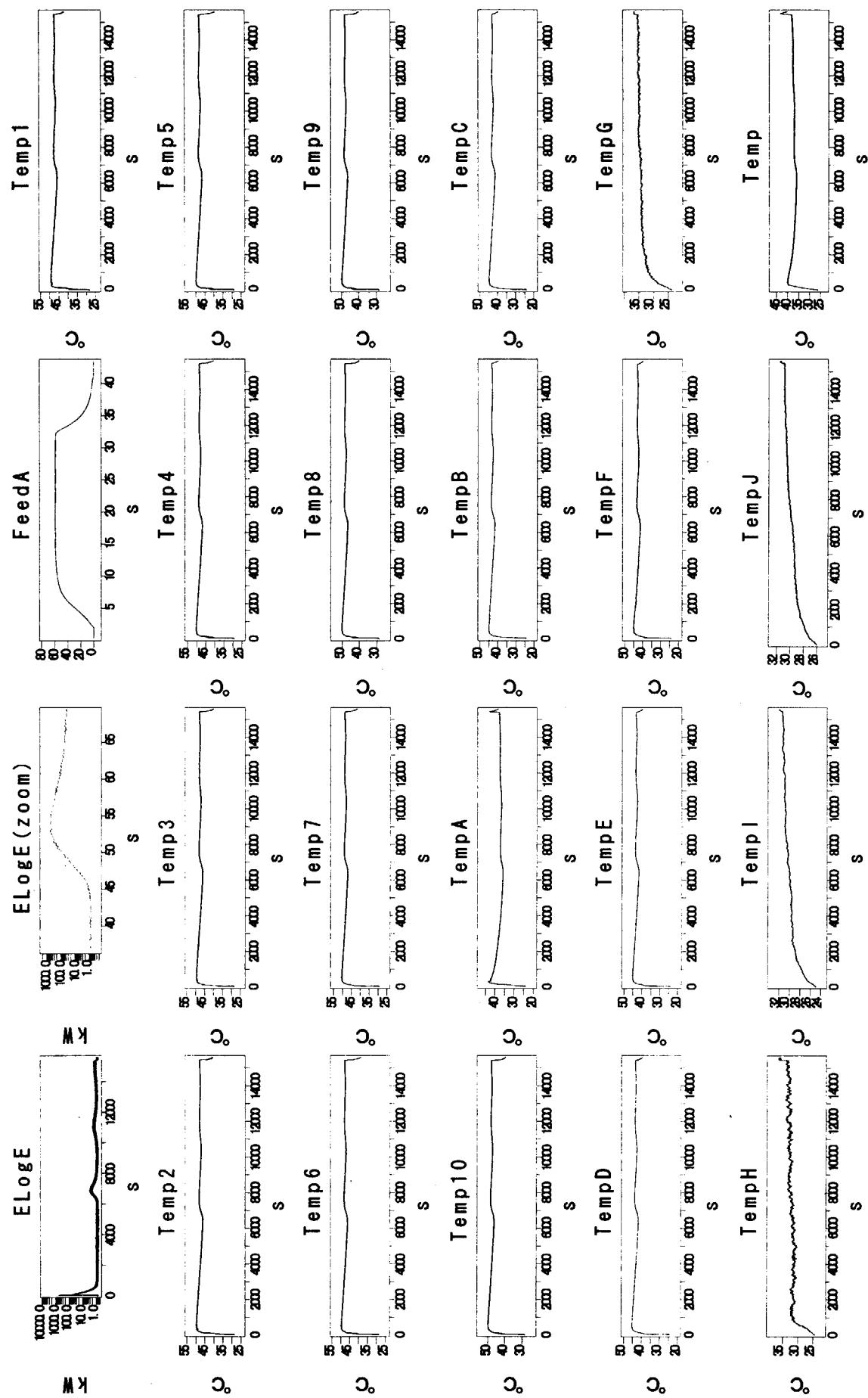


図 A72 過渡出力運転データ履歴 (R161 ランプ溶液 0.82S 60ℓ/min)

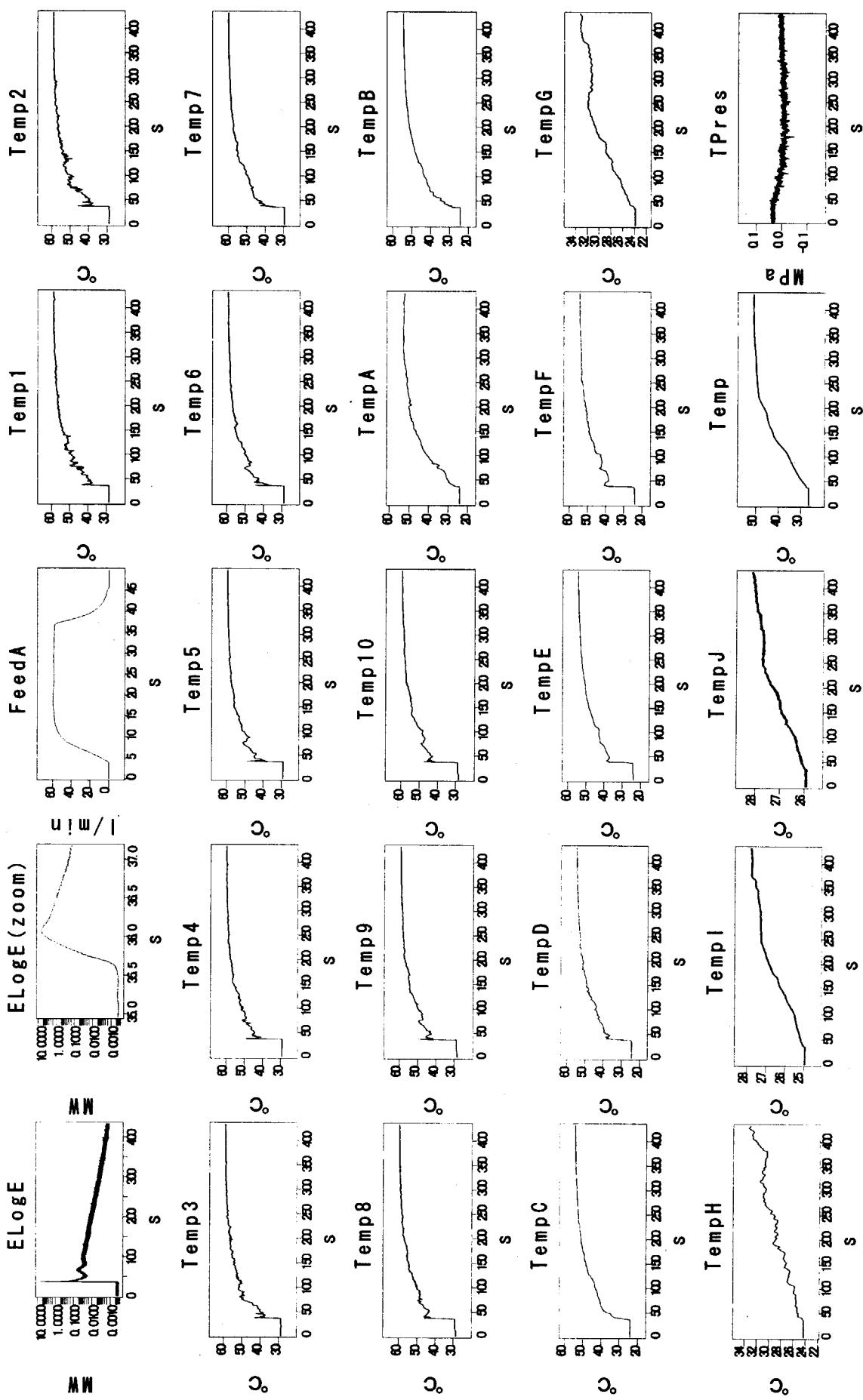


図 A73 過渡出力運転データ履歴 (R163 ランプ給液 125\$ 60ℓ/min)

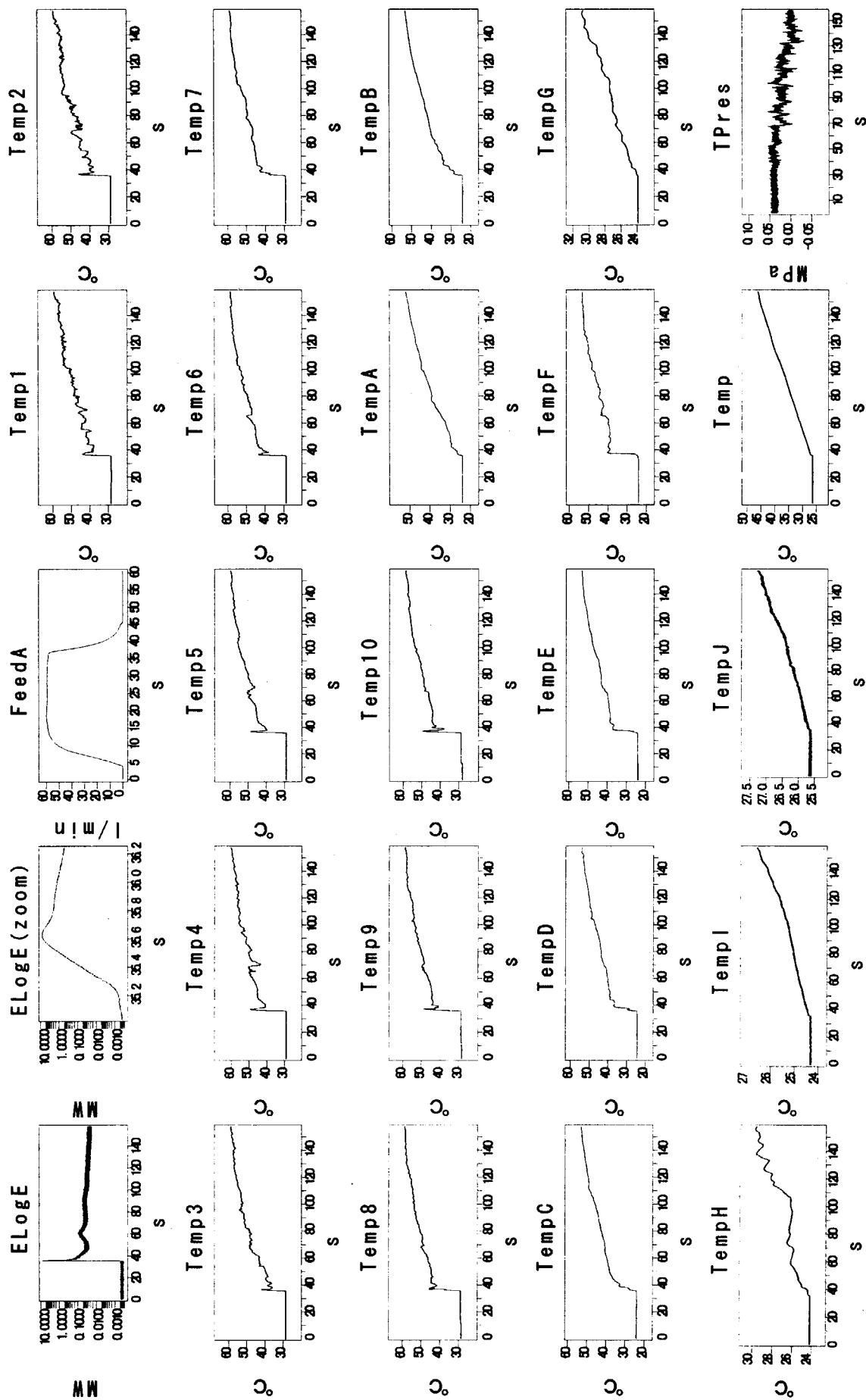


図 A74 過渡出力運転データ履歴 (R164 ランプ給液 1.51\$ 60/min)

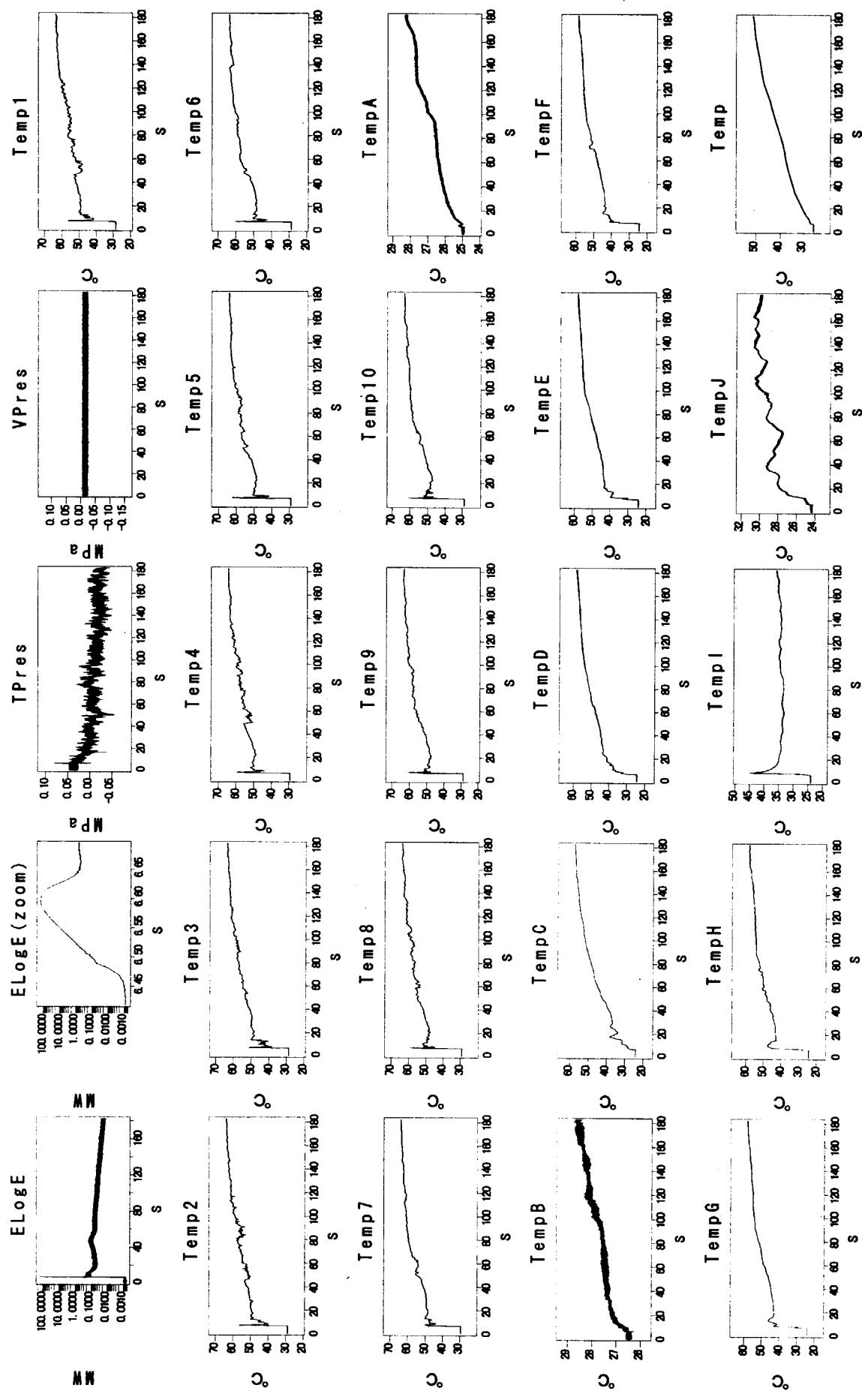


図 A75 過渡出力運転データ履歴 (R166 ハルス引抜 1.50\$)

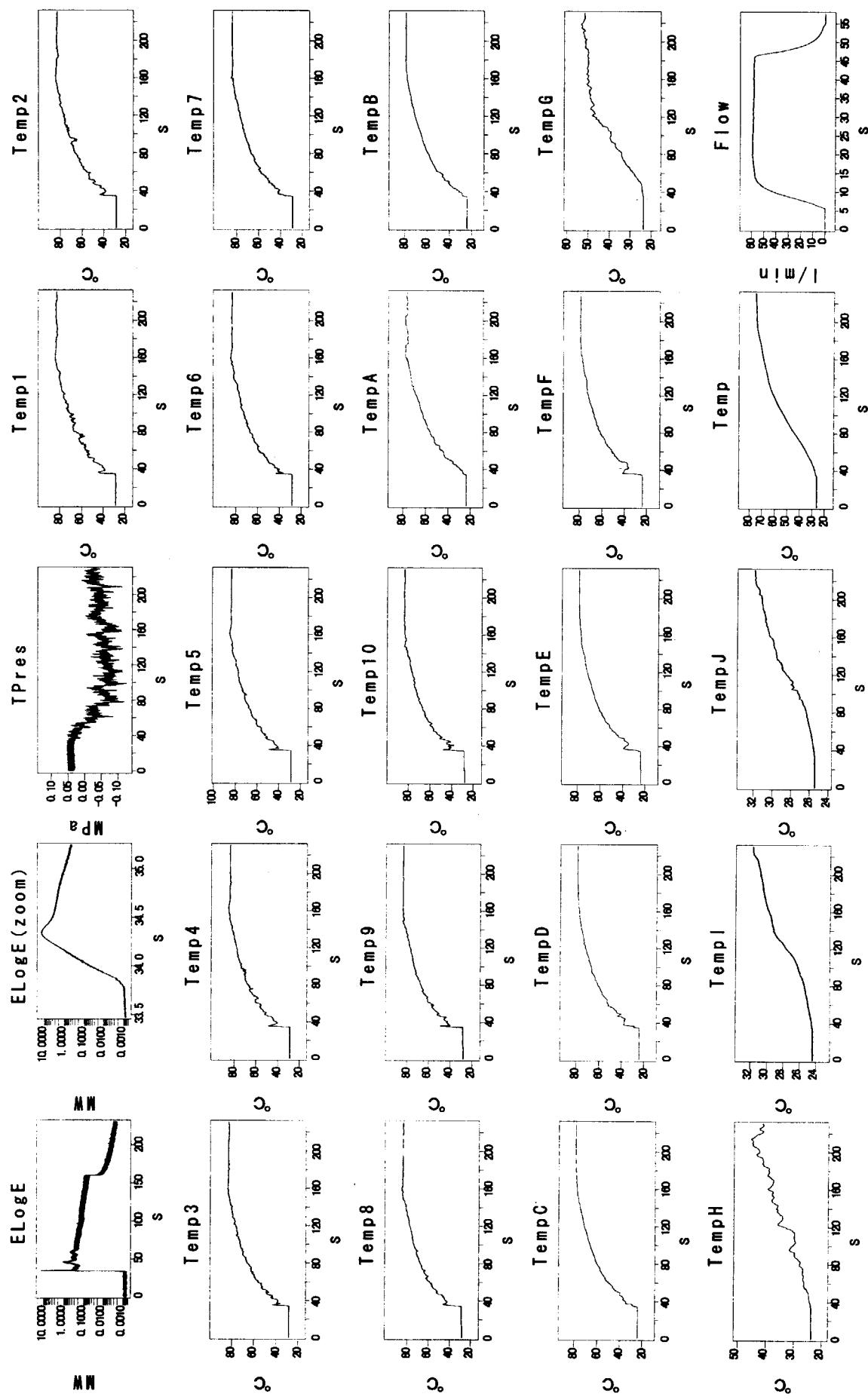


図 A76 過渡出力運転データ履歴 (R167 ランプ給液 2.64S 60l/min)

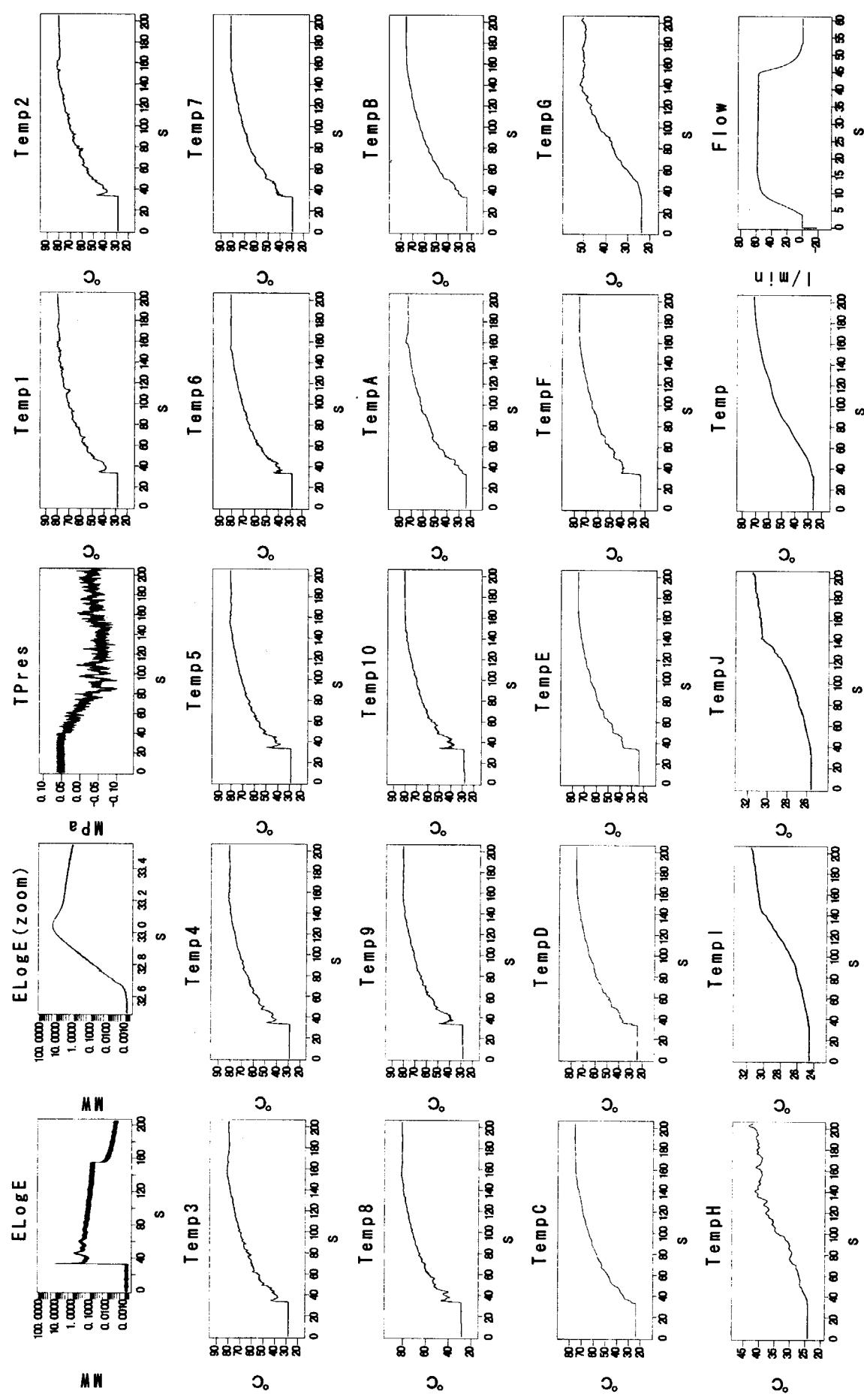


図 A77 過渡出力運転データ履歴 (R169 ランプ給液 2.59S 60ℓ/min)

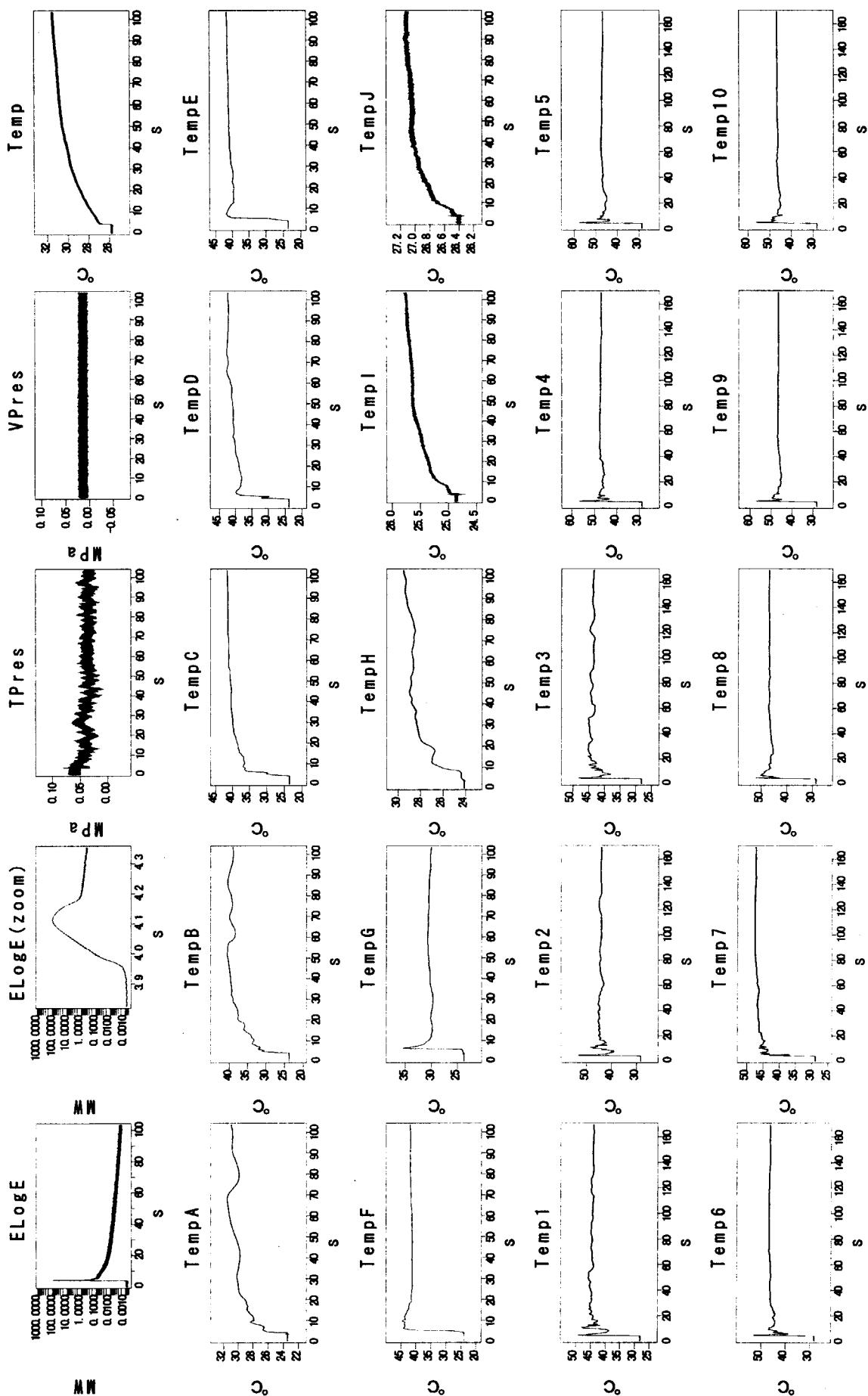


図 A78 過渡出力運転データ履歴 (R172 パレス引抜 1.39\$)

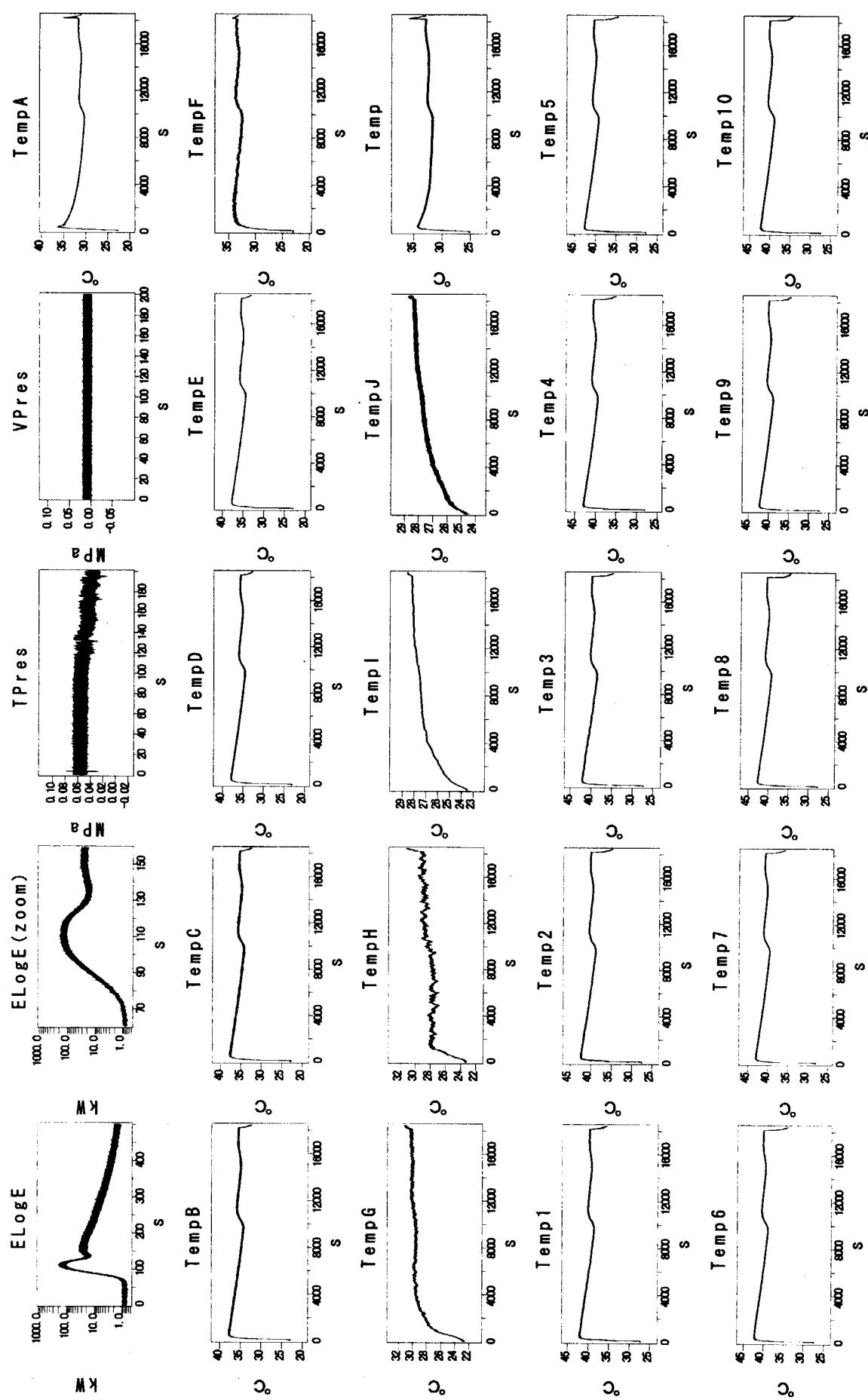


図 A79 過渡出力運転データ履歴 (R174 ハルス引抜 0.52\$)

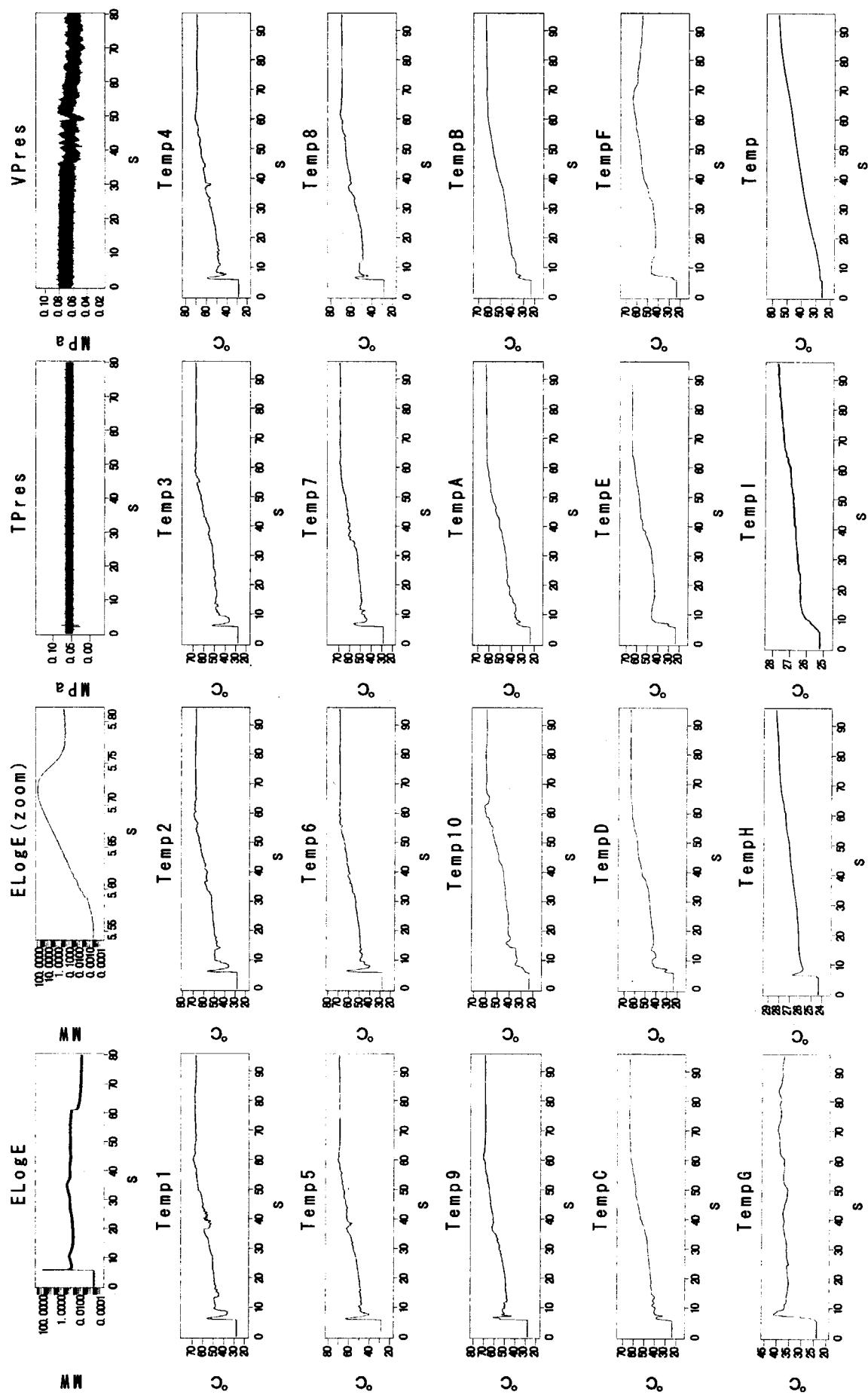


図 A80 過渡出力運転データ履歴 (R175 ランプ引抜 2.98S 875cm/min)

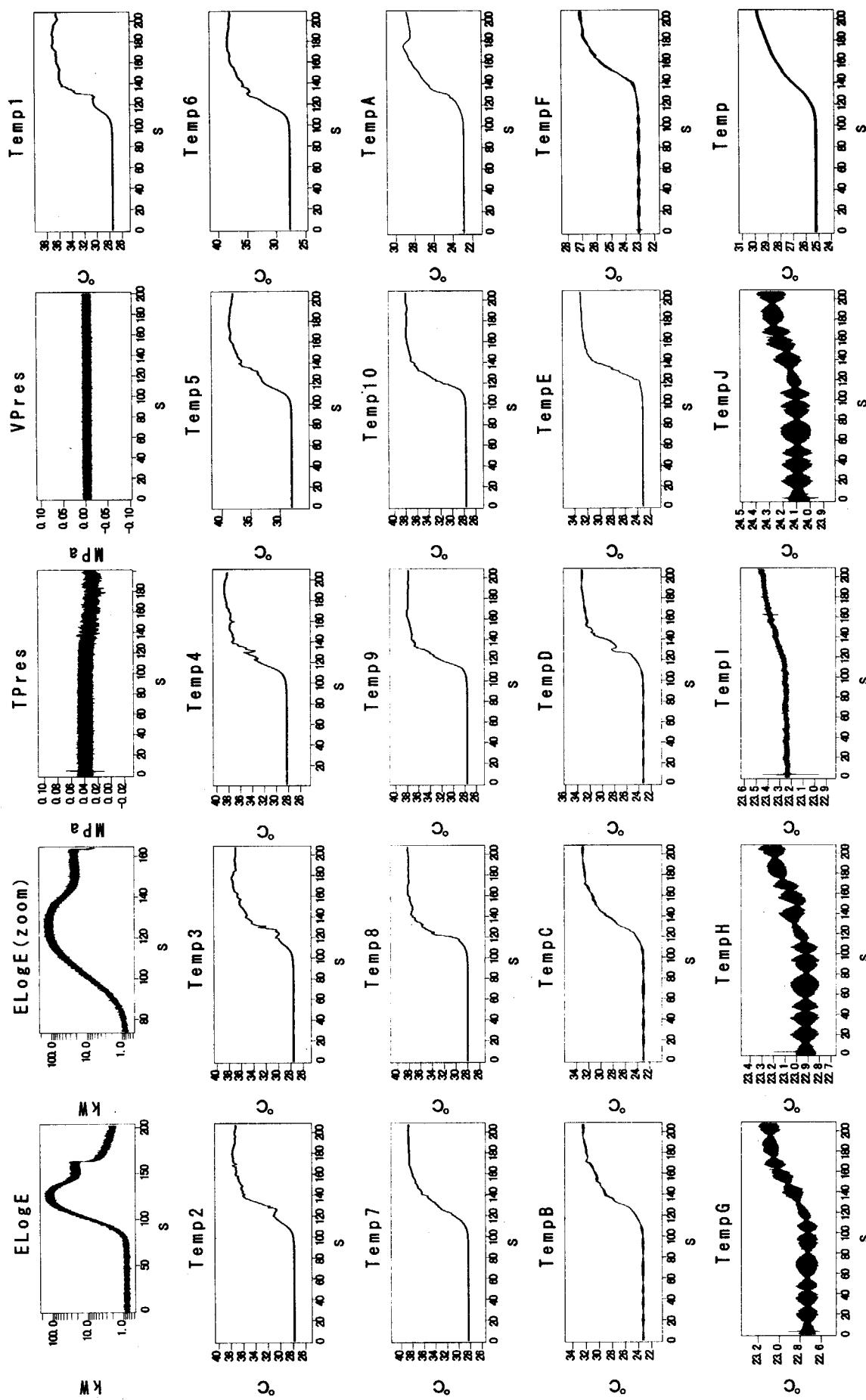


図 A81 過渡出力運転データ履歴 (R176 パレス引抜 0.50S)

国際単位系(SI)と換算表

表1 SI基本単位および補助単位

量	名称	記号
長さ	メートル	m
質量	キログラム	kg
時間	秒	s
電流	アンペア	A
熱力学温度	ケルビン	K
物質量	モル	mol
光强度	カンデラ	cd
平面角	ラジアン	rad
立体角	ステラジアン	sr

表3 固有の名称をもつSI組立単位

量	名称	記号	他のSI単位による表現
周波数	ヘルツ	Hz	s^{-1}
圧力、応力	ニュートン	N	$m \cdot kg/s^2$
エネルギー、仕事、熱量	パスカル	Pa	N/m^2
工率、放射束	ジュール	J	$N \cdot m$
電気量、電荷	ワット	W	J/s
電位、電圧、起電力	クーロン	C	$A \cdot s$
静電容量	ボルト	V	W/A
電気抵抗	ファラード	F	C/V
コンダクタンス	オーム	Ω	V/A
磁束	ジーメンス	S	A/V
磁束密度	ウェーバ	Wb	$V \cdot s$
インダクタンス	テスラ	T	Wb/m^2
セルシウス温度	ヘンリー	H	Wb/A
光束度	セルシウス度	$^{\circ}C$	
照度	ルーメン	lm	$cd \cdot sr$
放射能	ルクス	lx	lm/m^2
吸収線量	ベクレル	Bq	s^{-1}
線量等量	グレイ	Gy	J/kg
	シーベルト	Sv	J/kg

表2 SIと併用される単位

名称	記号
分、時、日	min, h, d
度、分、秒	°, ', "
リットル	l, L
ト	t
電子ボルト	eV
原子質量単位	u

$$1 \text{ eV} = 1.60218 \times 10^{-19} \text{ J}$$

$$1 \text{ u} = 1.66054 \times 10^{-27} \text{ kg}$$

表5 SI接頭語

倍数	接頭語	記号
10^{18}	エクサ	E
10^{15}	ペタ	P
10^{12}	テラ	T
10^9	ギガ	G
10^6	メガ	M
10^3	キロ	k
10^2	ヘクト	h
10^1	デカ	da
10^{-1}	デシ	d
10^{-2}	センチ	c
10^{-3}	ミリ	m
10^{-6}	マイクロ	μ
10^{-9}	ナノ	n
10^{-12}	ピコ	p
10^{-15}	フェムト	f
10^{-18}	アト	a

(注)

- 表1~5は「国際単位系」第5版、国際度量衡局1985年刊行による。ただし、1eVおよび1uの値はCODATAの1986年推奨値によった。
- 表4には海里、ノット、アール、ヘクタールも含まれているが日常の単位なのでここでは省略した。
- barは、JISでは流体の圧力を表す場合に限り表2のカテゴリーに分類されている。
- ECC関係理事会指令ではbar、barnおよび「血圧の単位」mmHgを表2のカテゴリーに入れている。

表4 SIと共に暫定的に維持される単位

名称	記号
オングストローム	Å
バーン	b
バール	bar
ガル	Gal
キュリ	Ci
レントゲン	R
ラド	rad
レム	rem

$$1 \text{ Å} = 0.1 \text{ nm} = 10^{-10} \text{ m}$$

$$1 \text{ b} = 100 \text{ fm}^2 = 10^{-28} \text{ m}^2$$

$$1 \text{ bar} = 0.1 \text{ MPa} = 10^5 \text{ Pa}$$

$$1 \text{ Gal} = 1 \text{ cm/s}^2 = 10^{-2} \text{ m/s}^2$$

$$1 \text{ Ci} = 3.7 \times 10^{10} \text{ Bq}$$

$$1 \text{ R} = 2.58 \times 10^{-4} \text{ C/kg}$$

$$1 \text{ rad} = 1 \text{ cGy} = 10^{-2} \text{ Gy}$$

$$1 \text{ rem} = 1 \text{ cSv} = 10^{-2} \text{ Sv}$$

換算表

力	N($=10^5 \text{ dyn}$)	kgf	lbf
	1	0.101972	0.224809
9.80665	1	2.20462	
4.44822	0.453592	1	

$$\text{粘度 } 1 \text{ Pa} \cdot \text{s} (\text{N} \cdot \text{s}/\text{m}^2) = 10 \text{ P(ボアズ)} (\text{g}/(\text{cm} \cdot \text{s}))$$

$$\text{動粘度 } 1 \text{ m}^2/\text{s} = 10^4 \text{ St(ストークス)} (\text{cm}^2/\text{s})$$

圧力	MPa($=10 \text{ bar}$)	kgf/cm ²	atm	mmHg(Torr)	lbf/in ² (psi)
力	1	10.1972	9.86923	7.50062×10^3	145.038
0.0980665	1	0.967841	735.559	14.2233	
0.101325	1.03323	1	760	14.6959	
1.33322 $\times 10^{-4}$	1.35951 $\times 10^{-3}$	1.31579×10^{-3}	1	1.93368×10^{-2}	
6.89476 $\times 10^{-3}$	7.03070 $\times 10^{-2}$	6.80460 $\times 10^{-2}$	51.7149	1	

エネルギー・仕事・熱量	J($=10^7 \text{ erg}$)	kgf·m	kW·h	cal(計量法)	Btu	ft·lbf	eV	1 cal = 4.18605 J (計量法)	
	1	0.101972	2.77778 $\times 10^{-7}$	0.238889	9.47813 $\times 10^{-4}$	0.737562	6.24150 $\times 10^{18}$	$= 4.184 \text{ J (熱化学)}$	
9.80665	1	2.72407 $\times 10^{-6}$	2.34270	9.29487 $\times 10^{-3}$	7.23301	6.12082 $\times 10^{19}$		$= 4.1855 \text{ J (15}^{\circ}\text{C)}$	
3.6 $\times 10^6$	3.67098 $\times 10^5$	1	8.59999 $\times 10^5$	3412.13	2.65522 $\times 10^6$	2.24694 $\times 10^{25}$		$= 4.1868 \text{ J (国際蒸気表)}$	
4.18605	0.426858	1.16279 $\times 10^{-6}$	1	3.96759 $\times 10^{-3}$	3.08747	2.61272 $\times 10^{19}$		仕事率 1 PS(仏馬力)	
1055.06	107.586	2.93072 $\times 10^{-4}$	252.042	1	778.172	6.58515 $\times 10^{21}$		$= 75 \text{ kgf} \cdot \text{m/s}$	
1.35582	0.138255	3.76616 $\times 10^{-7}$	0.323890	1.28506 $\times 10^{-3}$	1	8.46233 $\times 10^{18}$		$= 735.499 \text{ W}$	
1.60218 $\times 10^{-19}$	1.63377 $\times 10^{-20}$	4.45050 $\times 10^{-26}$	3.82743 $\times 10^{-20}$	1.51857 $\times 10^{-22}$	1.18171 $\times 10^{-19}$	1			

放射能	Bq	Ci
	1	2.70270 $\times 10^{-11}$
3.7 $\times 10^{10}$	1	

吸収線量	Gy	rad
	1	100
0.01	1	

照射線量	C/kg	R
	1	3876
2.58 $\times 10^{-4}$	1	

線量当量	Sv	rem
	1	100
0.01	1	

(86年12月26日現在)

TRACY G 開拓記録

R100

古紙配合率100%再生紙を使用しています